埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第111集

# 幡羅遺跡VI

一実務官衙域の調査(3)・実務官衙域周辺の調査 一

2010.3

深谷市教育委員会

第111集

# 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 播 遺 跡

実務官衙域の調査(3)・ 実務官衙域周辺の調査 一

2010.3

深谷市教育委員会



第19次調査区



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況



第95号竪穴建物跡出土人面線刻土製品



第30・31次調査区遠景



第30・31次調査区全景



第62~65号建物跡



第62号建物跡 P 12



第62号建物跡P5

幡羅遺跡(幡羅郡役所跡)からは、大規模な掘立柱建物跡や礎石建物跡、掘立柱塀跡などが多数確認され、郡役所を構成する建物群として注目されています。しかし、その他にも、居住施設や調理施設とされる竪穴建物跡が多数確認され、多くの遺物が出土しています。中には特殊な遺物もあり、全国的にも珍しい、竃神を表したものと思われる人面線刻土製品が出土し、脚光を浴びています。そうした竪穴建物のあり方を検討することは、古代郡役所の実態を探る上で重要なことと思われ、幡羅遺跡はそうした成果も充分に蓄積された遺跡と言えます。

大化の改新以降、様々な改革が行なわれ、約半世紀をかけて日本という国家が整えられていきます。幡羅遺跡はそうした時代の中で形成され、200年以上という非常に長期間にわたり幡羅郡の中心であり続けました。こうした地域史の中でも中核となる遺跡が、ほとんど無傷で残っている例は全国的に見ても稀であり、地域で誇れるものです。そのため、深谷市教育委員会では、幡羅遺跡範囲内容確認調査を行ない、この貴重な遺跡を末永く保存していく所存です。

今回の調査報告書は、郡役所の実務的な機能を持っていたと思われる区域の調査成果の一部と、その周辺部の調査成果についてまとめたものです。この成果を広く市民の皆様にご紹介することで、日本の歴史の中に息づく地域の歴史や文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

最後に、地権者の方々をはじめとして、発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成22年3月

深谷市教育委員会 教育長職務代理者 教育次長 石田文雄

### 例 言

- 1. 本書は、埼玉県深谷市東方に所在する幡羅遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査は、重要遺跡の範囲内容確認調査であり、国庫補助金、県費補助金の交付を受け、深谷市教育委員会が実施した。
- 3. 調査にあたっては、文化庁文化財部記念物課、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、 幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会の指導を受けた。
- 4. 今回報告するのは、平成  $17 \sim 20$  年度に行った、第  $13 \cdot 19 \cdot 23 \sim 27 \cdot 30 \cdot 31$  次調査についてである。第  $19 \cdot 31$  次調査については、『幡羅遺跡IV』で報告した掘立柱建物跡・掘立柱塀跡以外のものについて今回報告する。各調査区の地権者・地番・面積・調査担当者・調査期間は第 1 表の通りである。
- 5. 発掘調査及び出土遺物の整理、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。
- 6. 墨書土器については、高島英之氏のご教示を頂いた。
- 7. 遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所、中央航業株式会社に委託した。
- 8. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
- 9. 本遺跡における概要は一部公表されているが、本書をもって正報告とする。
- 10. 発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

#### 文化庁 埼玉県生涯学習文化財課

出浦 崇 浅野晴樹 新井 端 荒井秀規 板橋正幸 出縄康行 赤熊浩一 今井 宏 井上尚明 江口 桂 大橋泰夫 大谷 徹 河合英夫 書上元博 金子正之 神谷佳明 川口武彦 川原秀夫 木戸春夫 木下 良 木本雅康 小林 高 小宮 豪 栗岡真理子 河野喜映 小宮俊久 齋藤直美 齋藤欣延 酒井清治 坂井秀弥 坂爪久純 坂本 彰 坂本和俊 酒寄雅志 佐藤康二 佐藤 信 寺社下博 篠原英政 末木啓介 菅谷浩之 鈴木靖民 須田 勉 田尾誠敏 高島英之 高橋一夫 竹野谷俊夫 田中広明 田中弘志 辻 史郎 富田和夫 中島広顕 中島 宏 中村太一 禰宜田佳男 根本 靖 原 京子 坂野和信 平野 修 昼間孝志 深谷 昇 藤木海 前澤和之 松田 哲 水口由紀子 宮瀧交二 松本太郎 村木志伸 村田晃一 室伏 徹 山路直充 吉野 健 山中敏史 渡辺 一 (敬称略)

### 凡 例

- 1. 図面中の方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。
- 2. 遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りで表現した。また、釉のかかる範囲や赤彩部分については、適宜スクリーントーンで表した。
- 3. 遺物観察表の記載は、以下の通りである。
  - ・計測値の単位は cm である。
  - ・器径、器高で()を付したものは推定値である。
  - ・種別は土師器をH、須恵器をS、ロクロ土師器をR、灰釉陶器をKとした。
  - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。 A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩 G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
- 4. 遺構の略号は、次の通りである。

建物跡···SB、塀跡···SA、竪穴建物跡···SJ、溝···SD、土坑···SK、特殊土坑···SX

- 5. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。
- 6. 土層説明中の色調については、『新版標準土色帖』によった。

年度	調査区	調査期間	地権者	地 番	調査面積	調査通知	担当	当者
平成17	第13次	H17.4.14	江原 丑蔵	東方字辻3077	50 m²	H17.4.8付深教生発第29号	知久	裕昭
平成18	第19次	H18.4.11~8.18	栗田 満朗 野村川武一俊 富田 俊 モー川とし子	東方字辻3031、 3034、3035、 3038、3039、 3083	4,000m²	H18.4.13付深教生発第43号	知久	裕昭
	第23次	H19.7.11~9.26	平川とし子	東方字辻3083	280 m²	H19.7.3付深教生発第402号	知久	裕昭
-	第24次	H19.7.9~9.26	田島 幹夫	東方字辻3085-4	180 m²	H19.7.9付深教生発第378号	知久	裕昭
	第25次	H19.9.11~9.26	杉田 良一	東方字辻3085-6	50 m²	H19.7.13付深教生発第402号	知久	裕昭
1 /9420	第26次	H19.7.17~ 9.26	進藤 健	東方字辻3108	500 m²	H19.7.3付深教生発第402号	知久	裕昭
	第27次	H19.8.7~9.26	田村 一夫 関根加代子	東方字辻3079-1、 -2、-3	1,000 m²	H19.8.8付深教生発第473号	知久	裕昭
	第30次	H20.4.14~5.28	田村 東五	東方字辻3029	600 m²	H20.4.14付深教生発第1号	知久	裕昭
平成20	第31次	H20.4.23~5.30	野村 いせ 蛭川武一郎	東方字辻3034、 3035	600 m²	H20.4.23付深教生発第99号	知久	裕昭

第1表 調査区一覧表

### 発掘調査の組織

発掘調査・整理作業(平成17~21年度)

教育長 青木 秀夫 (平成17年度)

猪野 幸男 (平成18~21年度)

教育長職務代理者 石田 文雄 (平成21年度)

教育次長 古川 国康(平成17・18年度)

石田 文雄 (平成19~21年度)

次 長 大澤 芳正 (平成17年度)

中村 信雄 (平成18~20年度)

島崎 保(平成21年度)

事務局 深谷市教育委員会生涯学習課 課 長 山口 清(平成17年度)

澤出 晃越 (平成17~21年度)

主幹兼課長補佐 澤出 晃越 (平成17年度)

武井 茂 (平成18·19年度)

課長補佐 原 常博(平成17年度)

猪野塚 昇(平成17年度)

萩原 昭一(平成17年度)

大谷 住雄 (平成18·19年度)

吉場 厚仁 (平成20·21年度)

文化財保護係長 青木 克尚 (平成17年度)

古池 晋禄 (平成18・19年度)

鳥羽 政之(平成20年度)

村松 篤 (平成21年度)

主 查 高村 敏則 (平成18・19年度)

鳥羽 政之(平成19年度)

森下昌市郎 (平成19·20年度)

宮本 直樹 (平成20・21年度)

主 任 畦元 直大(平成17・18年度)

荻野 直美 (平成17~21年度)

知久 裕昭(平成17~21年度)

幾島 審 (平成20·21年度)

主事補 幾島 審(平成19年度)

飯島 峻輔 (平成21年度)

臨時職員 永井 智教(平成17·18年度)

吉野 智貴 (平成18年度)

栗原貴世実(平成18~20年度)

#### 調査参加者

阿部ルリ子 伊藤 昌 江原佳与子 大澤 大美 大島 周子 小野寺和子 久米 紀子 小沼 和子 倉上多美子 栗原貴世実 齋藤 舞 島崎 祐子 砂田伊久子 関口由美子 高田 秀子 滝田 悦子 田代さち子 田中香代子 富田もえみ 根岸 紀次 浜野 光子 除村 敦子 横山 明美 丸山 和枝 棟安 祥子 吉野九の枝 吉野真由美

## 目 次

序	
例言	<b>=</b>
凡包	列
発捷	屈調査の組織
T	発掘調査の:

2 d 10 d d T T 1 2 d d d d d d d d d d d d d d d d d d	
Ⅰ 発掘調査の経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査方法	1
3 調査の経過	1
Ⅱ 遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	4
Ⅲ 実務官衙域の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
1 第19・31次調査区	21
a 概要······	21
b 竪穴建物跡	
c 特殊土坑······	91
d 土坑······	
e 溝······	102
2 第30次調査区	119
a 概要·····	119
b 建物跡······	119
c 竪穴建物跡	
d 特殊土坑	125
e 土坑······	129
f 溝·······	129
IV 実務官衙域周辺の調査	138
1 第13次調査区	138
2 第23次調査区	138
3 第24次調査区	138
4 第25次調査区	141
5 第26次調査区	141
6 第27次調査区	151
V 調査のまとめ	155
付編 第47号建物跡出土白色物の自然科学分析	163
報告書抄録	

# 挿 図 目 次

第2図 埼玉県の地形図3 第42図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(2)…	. 49
	10
第3図 幡羅遺跡周辺の遺跡5  第43図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物と	出土
第4図 幡羅遺跡周辺の地籍図6      状況(1)	. 50
第5図 幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡 7 第44図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物と	出土.
第6図 幡羅遺跡全体測量図8 状況 (2)	· 51
第7図 第19・23・30・31次調査区全体測量図 … 9 第45図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物と	出土
第8図 第19・23・31次調査区全体測量図 (1)10 状況 (3)	· 52
第9図 第19・23・31次調査区全体測量図 (2)11 第46図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第10図 第19・23・31次調査区全体測量図 (3)12 (1)	· 53
第11図 第19・23・31次調査区全体測量図(4)13 第47図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第12図 第19・23・31次調査区全体測量図 (5)14 (2)	• 54
第13図 第19・23・31次調査区全体測量図(6)15 第48図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第14図 第19・23・31次調査区全体測量図 (7)16 (3)	. 55
第15図 第19・23・31次調査区全体測量図(8)17 第49図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第16図 第19・23・31次調査区全体測量図 (9)18 (4)	· 56
第17図 第19・23・31次調査区全体測量図 (10)19 第50図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第18図 第19・23・31次調査区全体測量図 (11) 20 (5)	· 57
第19図 第79・80号竪穴建物跡22 第51図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第20図 第79・80号竪穴建物跡遺物出土状況 23 (6)	· 58
第21図 第79号竪穴建物跡出土遺物(1)24 第52図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第22図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (2) 25 (7)	. 59
第23図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (3)26 第53図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第24図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (4) 27 (8)	. 60
第25図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (5)28 第54図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第26図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (6)29 (9)	61
第27図 第81・82・85号竪穴建物跡出土遺物32  第55図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第28図 第86号竪穴建物跡	· 62
第29図 第86号竪穴建物跡出土遺物34 第56図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第30図 第87号竪穴建物跡	· 63
第31図 第87号竪穴建物跡遺物出土状況36 第57図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第32図 第87号竪穴建物跡出土遺物 (1) 37 (12)	· 64
第33図 第87号竪穴建物跡出土遺物(2)38 第58図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第34図 第87号竪穴建物跡出土遺物 (3) 39 (13)	· 65
第35図 第87号竪穴建物跡出土遺物 (4)40 第59図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第36図 第88号竪穴建物跡出土遺物42 (14)	. 66
第37図 第90号竪穴建物跡43 第60図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第38図 第90号竪穴建物跡出土遺物44 (15)	· 67
第39図 第92号竪穴建物跡46 第61図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土道	貴物
第 $40$ 図 第 $92\sim94\cdot100$ 号竪穴建物跡出土遺物 $\cdots47$ (16) $\cdots$	· 68

第62図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第93図	第30次調查区全体測量図	120
	(17)69	第94図	第62・64・65号建物跡	121
第63図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第95図	第62号建物跡土層断面	122
	(18)70	第96図	第63号建物跡	123
第64図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第97図	第62・64号建物跡出土遺物	123
	(19)71	第98図	第173号竪穴建物跡	124
第65図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第99図	第171·173号竪穴建物跡出土遺物·······	124
	(20)72	第100図	第33・34号特殊土坑	125
第66図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第101図	特殊土坑・土坑出土遺物	126
	(21)73	第102図	第769号土坑出土遺物	127
第67図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第103図	第38号溝、第31号特殊土坑	128
	(22)74	第104図	第38・39号溝出土遺物	130
第68図	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第105図	第72号溝 (1)	131
	(23)75	第106図	第72号溝(2)、第32号特殊土坑	132
第69図	第174・176・180・181号竪穴建物跡出土遺物	第107図	第72号溝 (3)、第73号溝	133
	90	第108図	第72号溝出土遺物 (1)	134
第70図	第8号特殊土坑92	第109図	第72号溝出土遺物 (2)	135
第71図	第17号特殊土坑93	第110図	第30次調査区出土遺物	137
第72図	第7・9~13・15号特殊土坑出土遺物 …95	第111図	第13・23 ~ 27次調査区 (1)	139
第73図	第16・17号特殊土坑出土遺物96	第112図	第13・23 ~ 27次調査区 (2)	140
第74図	第18 ~ 22号特殊土坑出土遺物 97	第113図	第13次調査区	141
第75図	第544・556・559・561号土坑出土遺物… 100	第114図	第24・25次調査区	142
第76図	第8号溝出土遺物 101	第115図	第26次調査区	143
第77図	第38号溝 103	第116図	第27次調査区	144
第78図	第38号溝出土遺物 (1) 104	第117図	第13次調査区出土遺物	144
第79図	第38号溝出土遺物 (2) 105	第118図	第23次調査区出土遺物	144
第80図	第39号溝 106	第119図	第24次調査区出土遺物	145
第81図	第39・45号溝 107	第120図	第25次調査区出土遺物	146
第82図	第39号溝出土遺物 108	第121図	第26次調査区出土遺物 (1)	147
第83図	第40号溝 109	第122図	第26次調査区出土遺物 (2)	148
第84図	第40号溝出土遺物 (1) 110	第123図	第27次調査区出土遺物	149
第85図	第40号溝出土遺物 (2) 111	第124図	金属製品集成	153
第86図	第40号溝出土遺物 (3) 112	第125図	SJ95・SX23出土土器の器種組成と領	を高
第87図	第41号溝 114		分布	155
第88図	第41号溝出土遺物 115	第126図	SB47と付属施設の造営計画	157
第89図	第42号溝出土遺物 116	第127図	実務官衙域の主軸方位	158
第90図	第46号溝116	第128図	館の変遷 (1)	160
第91図	第19次調查B区出土遺物······ 117	第129図	館の変遷 (2)	161
第92図	第19次調査C・D・E区出土遺物 119			

### 表目次

第1表	調査区一覧表	第26表	第174・176・180号竪穴建物跡出土遺物観察
第2表	第79号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)…29		表90
第3表	第79号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)…30	第27表	第181号竪穴建物跡出土遺物観察表 91
第4表	第79号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)…31	第28表	特殊土坑出土遺物観察表(1) 95
第5表	第81 · 82 · 85号竪穴建物跡出土遺物観察表 … 32	第29表	特殊土坑出土遺物観察表 (2)97
第6表	第86号竪穴建物跡出土遺物観察表 34	第30表	特殊土坑出土遺物観察表 (3) 98
第7表	第87号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) 41	第31表	特殊土坑出土遺物観察表 (4) 99
第8表	第87号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) 42	第32表	土坑出土遺物観察表 (1) 100
第9表	第88号竪穴建物跡出土遺物観察表42	第33表	土坑出土遺物観察表 (2) 101
第10表	第90号竪穴建物跡出土遺物観察表 45	第34表	第8号溝出土遺物観察表101
第11表	第92~94・100号竪穴建物跡出土遺物観察表	第35表	第38号溝出土遺物観察表(1) 103
	······ 47	第36表	第38号溝出土遺物観察表(2) 105
第12表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第37表	第38号溝出土遺物観察表 (3) 106
	観察表 (1)76	第38表	第39号溝出土遺物観察表(1) 106
第13表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第39表	第39号溝出土遺物観察表 (2) 107
	観察表 (2)77	第40表	第39号溝出土遺物観察表 (3) 108
第14表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第41表	第40号溝出土遺物観察表(1) 112
	観察表 (3)78	第42表	第40号溝出土遺物観察表(2) 113
第15表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第43表	第41号溝出土遺物観察表 115
	観察表 (4)79	第44表	第42号溝出土遺物観察表 116
第16表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第45表	第19次調查B区出土遺物観察表 118
	観察表 (5)80	第46表	第19次調查C·D·E区出土遺物観察表… 118
第17表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第47表	第62·64号建物跡出土遺物観察表 123
	観察表 (6)81	第48表	第171·173号竪穴建物跡出土遺物観察表… 125
第18表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第49表	特殊土坑・土坑出土遺物観察表 127
	観察表 (7)82	第50表	第38号溝出土遺物観察表 133
第19表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第51表	第39号溝出土遺物観察表135
	観察表 (8)83	第52表	第72号溝出土遺物観察表(1) 135
第20表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第53表	第72号溝出土遺物観察表(2) 136
	観察表 (9)84	第54表	第30次調査区出土遺物観察表 136
第21表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第55表	第13次調查区出土遺物観察表 … 144
	観察表 (10)85	第56表	第23次調査区出土遺物観察表 145
第22表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第57表	第24次調査区出土遺物観察表(1) 145
	観察表(11)86	第58表	第24次調査区出土遺物観察表 (2) 146
第23表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第59表	第25次調查区出土遺物観察表 146
	観察表 (12)87	第60表	第26次調査区出土遺物観察表 (1) 148
第24表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第61表	第26次調查区出土遺物観察表 (2) 149
	観察表 (13)88	第62表	第27次調查区出土遺物観察表 … 150
第25表	第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物	第63表	金属製品一覧表 154
	観察表 (14)89		

### 図版目次

- 巻頭図版1 第19次調査区 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑
- 巻頭図版2 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況 第95号竪穴建物跡出土人面線刻土製品
- 巻頭図版 3 第30·31次調査区遠景 第30·31次調査区全景
- 巻頭図版 4 第62 ~ 65号建物跡 第62号建物跡 P12 第62号建物跡 P5
- 図版 1 第19次調查A区 第19次調查B区 第79·80号竪穴建物跡
- 図版 2 第86号竪穴建物跡、第559号土坑 第559号土坑遺物出土状況 第87号竪穴建物跡
- 図版 3 第87号竪穴建物跡炉 1 第87号竪穴建物跡炉 2 第90号竪穴建物跡、第8号特殊土坑 第95号竪穴建物跡遠景
- 図版 4 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(1) 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(2) 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況(1)
- 図版 5 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑土層断面(1)
  - 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑土層断面(2)
  - 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況 (2)
  - 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況 (3)
  - 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑遺物出土状況(4)
  - 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況 (5)
- 図版 6 第92号竪穴建物跡 第93・94号竪穴建物跡、第10・11号特殊土坑 第17号特殊土坑
- 図版 7 第19号特殊土坑 第38号溝 (1) 第38号溝 (2)
- 図版 8 第38・41号溝 第41号溝 第40号溝 (1)
- 図版 9 第40号溝(2) 第40号溝遺物出土状況 第48号溝
- 図版10 第30·31次調査区 第30次調査区 第31次調査区
- 図版11 第 $62 \sim 65$ 号建物跡(1) 第 $62 \sim 65$ 号建物跡(2) 第72号溝
- 図版12 第62号建物跡 第62号建物跡 P 1 第62号建物跡 P 5 第62号建物跡 P 11 第62号建物跡 P 12 (1) 第62号建物跡 P 12 (2) 第62号建物跡 P 15 第72号溝土層断面
- 図版13 第13次調査区 第23次調査A区 第23次調査B区
- 図版14 第24次調査区 第25次調査区 第26次調査A区
- 図版15 第26次調查B区 第26次調查D区 第26次調查E区
- 図版16 第26次調査F区(南から) 第26次調査F区(北から) 第26次調査G区
- 図版17 第27次調查A区 第27次調查B区 第19次調查現地説明会
- 図版18 第21図2 (SJ79) 第21図3 (SJ79) 第21図8 (SJ79) 第21図16 (SJ79)
  - 第21図21 (SJ79) 第21図23 (SJ79) 第21図24 (SJ79) 第21図26 (SJ79)
  - 第21図30 (S J 79) 第21図31 (S J 79) 第21図33 (S J 79) 第21図36 (S J 79)
  - 第22図39 (SJ79) 第22図43 (SJ79) 第22図44 (SJ79) 第22図45 (SJ79)
  - 第22図57 (SJ79)
- 図版19 第22図59 (SJ79) 第22図60 (SJ79) 第22図60 (SJ79) 墨書 第22図64 (SJ79)
  - 第23図69 (SJ79) 第23図77 (SJ79) 第23図87 (SJ79) 第24図90 (SJ79)
  - 第25回95 (SJ79) 第27回8 (SJ85) 第32回12 (SJ87) 第32回13 (SJ87)
  - 第32図17 (SJ87) 第32図18 (SJ87)

```
図版20
      第32図19 (SJ87) 第32図21 (SJ87) 第32図23 (SJ87) 第38図3 (SJ90)
      第38図15 (SJ90) 第38図16 (SJ90) 第40図7 (SJ92) 第40図9 (SJ93)
      第46図 5 (SJ95·SX23) 第46図 6 (SJ95·SX23) 第46図 8 (SJ95·SX23)
      第46図9 (SJ95・SX23) 第46図12 (SJ95・SX23) 第46図13 (SJ95・SX23)
      第46図14 (SJ95·SX23)
図版21 第46図14 (SJ95·SX23) 内面 第46図15 (SJ95·SX23)
      第46図15 (SJ95·SX23) 内面
                                第46図16 (SJ95·SX23)
      第46図16 (SJ95・SX23) 内面
                                第46図17 (S J 95 · S X 23)
      第46図17 (SJ95・SX23) 内面 第46図19 (SJ95・SX23)
      第46図19 (SJ95・SX23) 内面
                                第46図20 (SJ95・SX23) 第46図22 (SJ95・SX23)
      第46図27 (S J 95 · S X 23)
                            第46図28 (SJ95・SX23) 第46図29 (SJ95・SX23)
      第46図31 (S J 95 · S X 23)
                            第46図37 (SJ95·SX23) 第46図39 (SJ95·SX23)
      第47図42 (S J 95 · S X 23)
図版22 第47図45 (SJ95·SX23)
                            第47図48 (S J 95 · S X 23)
                                                  第47図54 (S J 95 · S X 23)
      第47図60 (S J 95 · S X 23)
                            第47図63 (S J 95 · S X 23)
                                                  第47図68 (SJ95·SX23)
      第47図70 (S J 95 · S X 23)
                            第47図72 (SJ95·SX23) 第47図76 (SJ95·SX23)
      第47図80 (S J 95 · S X 23)
                            第47図81 (S J 95 · S X 23)
                                                  第48図85 (SJ95·SX23)
      第48図87 (SJ95・SX23)
                            第48図88 (SJ95・SX23) 第48図90 (SJ95・SX23)
      第48図91 (S J 95 · S X 23)
                            第48図95 (S J 95 · S X 23)
                                                  第48図97 (SJ95·SX23)
図版23 第48図101 (SJ95・SX23) 第48図103 (SJ95・SX23)
                                                   第48図104 (S J 95・S X 23)
      第48図113 (SJ95·SX23) 第48図114 (SJ95·SX23)
                                                    第48図116 (SJ95·SX23)
      第48図117 (SJ95・SX23) 第48図120 (SJ95・SX23)
                                                    第48図125 (S J 95 · S X 23)
      第49図126 (S J 95 · S X 23)
                             第49図127 (SJ95·SX23) 第49図143 (SJ95·SX23)
      第49図147 (S J 95 · S X 23)
                             第49図149 (S J 95 · S X 23)
      第49図151 (SJ95・SX23) 内面 第49図153 (SJ95・SX23)
      第49図153 (SJ95・SX23) 内面 第49図155 (SJ95・SX23)
図版24 第49図156 (SJ95·SX23)
                             第49図158 (SJ95·SX23) 第49図159 (SJ95·SX23)
      第49図163 (SJ95・SX23)
                             第49図166 (SJ95·SX23)
      第49図166 (SJ95・SX23) 内面 第49図167 (SJ95・SX23) 第49図168 (SJ95・SX23)
      第50図178 (SJ95·SX23)
                             第50図184 (S J 95 · S X 23)
                                                    第50図201 (S J 95 · S X 23)
      第50図202 (S J 95 · S X 23)
                             第50図203 (S J 95 · S X 23)
                                                    第50図204 (S J 95 · S X 23)
      第50図210 (SJ95·SX23)
                             第50図211 (S J 95 · S X 23)
                                                    第51図213 (S J 95 · S X 23)
      第51図225 (SJ95·SX23)
図版25 第51図228 (SJ95·SX23)
                             第51図229 (S J 95 · S X 23)
                                                    第51図252 (S J 95 · S X 23)
      第52図257 (S J 95 · S X 23)
                             第52図272 (S J 95 · S X 23)
                                                    第52図273 (S J 95 · S X 23)
      第52図274 (SJ95·SX23)
                             第52図275 (S J 95 · S X 23)
                                                    第52図282 (S J 95 · S X 23)
      第52図284 (S J 95 · S X 23)
                             第53図286 (S J 95 · S X 23)
                                                    第53図287 (SJ95·SX23)
      第53図289 (SJ95·SX23)
                             第53図290 (S J 95 · S X 23)
図版26 第53図297 (SJ95·SX23)
                             第53図300 (S J 95 · S X 23)
                                                    第53図301 (S J 95 · S X 23)
      第53図302 (S J 95 · S X 23)
                             第53図303 (S J 95 · S X 23)
                                                    第53図304 (S J 95 · S X 23)
      第53図305 (SJ95·SX23)
                             第53図309 (S J 95 · S X 23)
                                                    第53図310 (S J 95 · S X 23)
      第53図311 (SJ95·SX23) 第53図312 (SJ95·SX23)
                                                    第54図314 (S J 95 · S X 23)
```

```
図版27 第54図319 (SJ95・SX23) 第54図320 (SJ95・SX23)
                                                 第54図321 (S J 95 · S X 23)
      第54図322 (SJ95·SX23)
                           第54図328 (S J 95 · S X 23) 第54図329 (S J 95 · S X 23)
      第54図329 (SJ95・SX23) 内面 第54図330 (SJ95・SX23)
      第54図330 (SJ95・SX23) 内面 第55図341 (SJ95・SX23) 第55図342 (SJ95・SX23)
      第55図343 (SJ95·SX23)
                           第55図349 (SJ95·SX23) 第55図350 (SJ95·SX23)
      第55図352 (S J 95 · S X 23)
図版28
     第55図359 (SJ95·SX23)
                           第55図360 (SJ95·SX23)
                                                 第55図361 (SJ95·SX23)
      第55図362 (SJ95·SX23)
                           第55図364 (S J 95 · S X 23)
                                                 第55図366 (SJ95·SX23)
      第55図374 (SJ95·SX23)
                           第55図378 (SJ95·SX23)
                                                 第55図380 (SJ95·SX23)
      第55図382 (S J 95 · S X 23)
                           第55図384 (S J 95 · S X 23)
                                                 第55図385 (S J 95 · S X 23)
      第56図389 (SJ95·SX23)
                           第56図390 (S J 95 · S X 23)
                                                 第56図402 (S J 95·S X 23)
      第56図403 (SJ95·SX23)
                           第56図404 (S J 95 · S X 23)
                                                 第56図405 (SJ95·SX23)
図版29 第56図406 (SJ95・SX23)
                           第56図413 (S J 95 · S X 23)
                                                 第56図414 (S J 95 · S X 23)
      第56図415 (SJ95·SX23)
                           第56図416 (S J 95 · S X 23)
                                                 第56図417 (S J 95 · S X 23)
      第57図430 (S J 95 · S X 23)
                           第57図434 (S J 95 · S X 23)
                                                 第57図437 (S J 95 · S X 23)
      第57図448 (SJ95・SX23) 第60図470 (SJ95・SX23)
                                                 第60図471 (S J 95 · S X 23)
図版30
     第60図472 (SJ95・SX23)
                           第60図478 (S J 95・S X 23)
                                                 第60図479 (S J 95 · S X 23)
      第62図503 (SJ95・SX23) 第62図506 (SJ95・SX23)
                                                 第62図507 (SJ95·SX23)
      第62図508 (SJ95·SX23)
                           第62図509 (SJ95·SX23)
図版31 第62図510 (SJ95・SX23) 第63図511 (SJ95・SX23)
                                                 第63図513 (S J 95 · S X 23)
      第63図518 (SJ95·SX23) 第65図541 (SJ95·SX23)
                                                 第65図548 (SJ95·SX23)
      第66図561 (SJ95・SX23) 第66図563 (SJ95・SX23)
                                                 第67図590 (SJ95·SX23)
図版32 第67図591 (SJ95・SX23) 第67図592 (SJ95・SX23) 第68図640 (SJ95・SX23)
      第69図1 (SJ174) 第69図4 (SJ176) 第69図10 (SJ180) 第69図12 (SJ180・SX3)
      第69図13 (S J 181) 第69図14 (S J 181) 第72図4 (S X 7) 第73図1 (S X 16)
      第73図1 (SX16) 墨書 第73図2 (SX16) 第73図3 (SX16) 第73図6 (SX16)
      第73回7 (SX17) 第73回8 (SX17) 第73回9 (SX17)
図版33 第73図14 (SX17) 第73図21 (SX17) 内面 第73図21 (SX17) 外面 第73図22 (SX17)
      第73図23 (SX17) 第73図25 (SX17) 第73図27 (SX17) 第74図1 (SX19)
      第74図1 (SX19) 内面 第74図4 (SX19) 第74図7 (SX19) 第74図12 (SX19)
      第74図13 (SX19) 第74図14 (SX19) 第75図1 (SK544) 第75図5 (SK559)
      第75図7 (SK559) 第75図8 (SK559)
図版34 第75図8 (SK559) 墨書 第75図10 (SK559) 第75図11 (SK559) 第75図12 (SK559)
      第75図16 (SK559) 第75図17 (SK559) 第78図7 (SD38) 第78図9 (SD38)
      第78図10 (SD38)
                    第78図11(SD38) 第78図25(SD38)
                                                  第78図28 (SD38)
      第79図35 (SD38)
                    第82図6 (SD39) 第82図7 (SD39) 第82図8 (SD39)
      第82図10 (SD39)
                    第82図18 (SD39)
図版35
     第82図24 (SD39)
                    第84図9 (SD40)
                                   第84図12(SD40)
                                                  第84図12 (SD40) 墨書
      第84図15 (SD40)
                    第84図19 (S D 40) 第84図22 (S D 40)
                                                  第84図23 (SD40)
      第84図24 (SD40)
                    第84図25 (SD40) 第84図26 (SD40)
                                                  第84図30 (SD40)
      第88図4 (SD41) 第88図5 (SD41) 第88図6 (SD41) 第91図12 (第19次調査B区)
      第99図3 (S J 173) 第99図4 (S J 173)
```

- 図版36 第99図5 (SJ173) 第99図6 (SJ173) 第99図7 (SJ173) 第99図8 (SJ173) 第101図1 (SX31) 第101図4 (SX32) 第101図9 (SK763) 第101図10 (SK764) 第101図12 (SK767) 第102図1 (SK769) 第102図3 (SK769) 第104図13 (SD38) 第108図8 (SD72) 第108図9 (SD72) 第108図13 (SD72) 墨書
- 図版37 第108図19 (SD72) 第110図8 (第30次調査区) 第110図12 (第30次調査区) 第119図5 (SD59) 第121図10 (SJ140) 第121図14 (SJ144) 第122図45 (第26次調査G区) 第79号竪穴建物跡出土土錘・鉄滓
- 図版38 第87号竪穴建物跡出土土錘・羽口 第87号竪穴建物跡出土鉄滓 (1) 第87号竪穴建物跡出土鉄滓 (2) 第87号竪穴建物跡炉2出土鍛造剥片 第87号竪穴建物跡炉2出土粒状滓
- 図版39 第54図331  $\sim$  340 (S J 95 · S X 23) 第67図599  $\sim$  第68図621 (S J 95 · S X 23) 第67図633  $\sim$  639 (S J 95 · S X 23)
- 図版40 第68図630  $\sim$  632 (S J 95 · S X 23) 第40号溝出土土錘・鉄滓 第62 · 64号建物跡出土鉄滓 第38号溝出土鉄滓
- 図版41 第72号溝出土土錘・羽口・鉄滓 第24次調査区出土石鏃 第25号特殊土坑出土貝 第26次調査区出土土錘
- 図版42 金属製品(1) 金属製品(2) 門金具(第68図623、SJ95·SX23)

### I 発掘調査の経過

#### 1 調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km。人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。

幡羅遺跡は、深谷市の北東部、熊谷市との境に位置する。幡羅遺跡に隣接する熊谷市西別府廃寺跡の地は、かねてより瓦が採集されることが知られており、寺院跡や窯跡の可能性が指摘されていた。しかし、長らくその詳細が明らかにされることはなく、熊谷市教育委員会によって1990年に調査されるに至り、ようやく古代寺院跡であることが明らかとなった。

また、同様に隣接する西別府祭祀遺跡は、昭和38年に大場磐雄、小沢国平らによって調査され、馬形や櫛形等の滑石製模造品や土器等が採集された。遺跡は、台地下の湧水地点周辺にあり、水霊信仰との関係が強いと考えられる。

西別府における古代寺院跡や祭祀跡の存在は、周辺に官衙遺跡の存在を想定させるものであった。しかし、その所在については、全く不明であった。平成13年1月、遺跡の北端部で開発が行なわれることが明らかとなり、事前の確認調査が実施された。この時点で、古墳の他に大型の倉庫跡が存在することが明らかとなる。立地や周辺の状況は、既に発見されていた榛沢郡家跡である中宿遺跡に似ており、幡羅郡家の正倉跡との見方が強まった。そのため市教育委員会は、事業主体者と、遺跡保存のための協議を行い、設計変更による現状保存をすることで同意した。翌13年度には、更に詳細な確認調査を実施し、2棟の正倉跡と正倉院区画溝を確認している(第1・2次調査)。

市教育委員会では、この成果を受け、遺跡の重要性 を認識し、平成14年度から保存目的の範囲内容確認調 査を開始した。調査は、休耕時に農地を借り上げ、調 査終了後は復旧する方針で行なった。平成14年度は第3次調査、15年度は第4次調査、16年度は第5~12・16・33次調査、下郷遺跡第3・4次調査、17年度は第13~15・17・18次調査、18年度は19・20次調査、19年度は21~29次調査、20年度は30~32・34次調査を実施した。今回の報告分は、この内、実務官衙域に当たる第19・31次調査区の一部と第30次調査区、遺跡南部に当たる第13・23~27次調査区、遺跡南西部に当たる第20・22・28次調査区、下郷遺跡第3・4次調査区についてである。

### 2 調査方法

幡羅遺跡では、平成14年度に作成した、航空測量による地形図に基づいて区割りを行なっている(第1図)。範囲は南北600m、東西700mである。この範囲内に、 $100\times100$ mの大グリッドを設定し、内部を $5\times5$ mの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に $1\sim400$ と呼称した。

### 3 調査の経過

今回報告するものの調査経過について、年度毎に説明する。

平成17年度:第13次調査

第13次調査区は、遺跡中央部の状況を確認する目的 で設定した。確認された主な遺構は、竪穴建物跡 3 棟 である。

平成18年度:第19次調査

実務官衙域の状況及び郡庁の確認を目的として調査 区を設定した。郡庁の確認には至らなかったものの、 掘立柱塀による区画と溝による区画が東西に並んで確 認された。塀による区画内には、四面庇建物を中心に 掘立柱建物が配置されている。建物の配置や竪穴建物 の分布状況も併せて、施設の性格には館の可能性が最 も高いと思われるが、継続性はないものである。

また、溝による区画施設は、内部に掘立柱建物や塀、 鍛冶工房等があり、工房を含む曹司と考えられる。

平成19年度:第23~27次調査

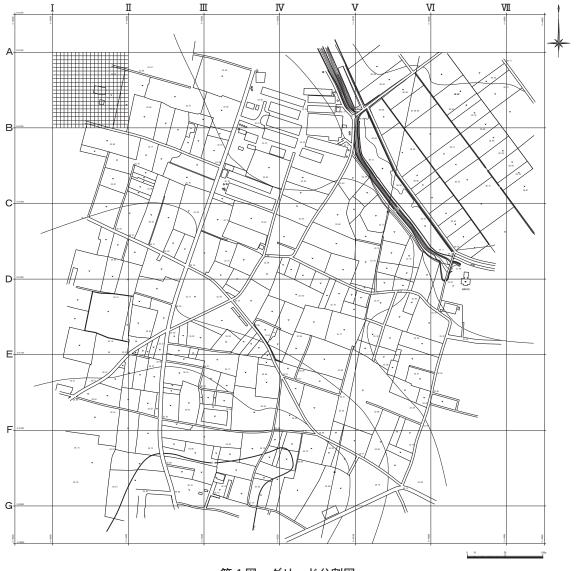
第23次調査区は、実務官衙域周辺の状況を確認する 目的で設定した。確認された主な遺構は溝2条で、9 世紀後半以降の方形区画に伴うものである。

第24~27次調査区は、遺跡南部の状況を明らかに する目的で設定した。いずれの調査区からも、掘立柱 建物跡は確認されなかった。第24次調査で確認された 主な遺構は、竪穴建物跡2棟、円形周溝遺構1基、溝 4条である。第25次調査で確認された主な遺構は、溝 5条である。第26次調査で確認された主な遺構は、竪 穴建物跡10棟、特殊土坑1基である。第27次調査区で 確認された主な遺構は、竪穴建物跡11棟である。

平成20年度:第30·31次調査

第30次調査区は、実務官衙域の状況及び郡庁の確認 を目的として調査区を設定した。郡庁は確認されな かったが、大型のものを含む建物跡4棟等が確認され た。

第31次調査区は、第30次調査区で確認された掘立柱 建物群の性格を明らかにする目的で設定した。確認さ れた主な遺構は、建物跡 3 棟、竪穴建物跡 8 棟、溝 3 条、二重溝と土塁による方形区画である。



第1図 グリッド分割図

#### 遺跡の環境 Π

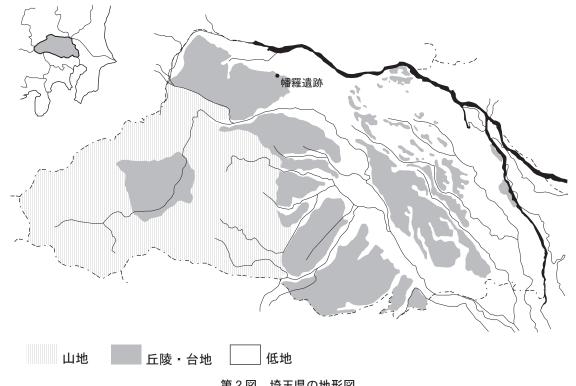
### 地理的環境

深谷市の地形は、JR高崎線付近を境として、南に 櫛挽台地、北に妻沼低地が広がる。櫛挽台地は、荒川 によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積 台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利 根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び 利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は、構造的には北西側の武蔵野面に比定さ れる櫛挽面(櫛挽段丘)と南東側の立川面に比定され る寄居面(御稜威ヶ原段丘)とで段丘状に形成されて いる。櫛挽面はほぼJR高崎線沿いの崖線で比高差 5~10mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面 は高崎線より北へ1.5~1.8km程延びていて、比高差 2~5mをもって妻沼低地と接している。接線付近で の標高は、櫛挽面が40~50m、寄居面が32~36m、 妻沼低地が30~31mである。櫛挽面は標高70m付近 より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川等が北 流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅 い谷が発達したものと考えられる。末端には所謂先端 湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷 筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端 部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。 南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台 地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低 地に接する。妻沼低地は、現在ではほとんど平坦であ るが、利根川の氾濫や流路の変遷等により、自然堤防 が発達しているものと考えられる。

幡羅遺跡は、櫛挽台地の先端に位置する。周辺一帯 は畑地であり、遺跡の保存状況は非常に良好である。 北側の低地部分は、崖の切り崩しや埋め立てを伴う耕 地整理が行なわれているが、台地上は土地の改変は無 く、明治時代初期の地籍図とほとんど変わらない(第 4 図参照)。北西の西別府祭祀遺跡には、昭和40年代 頃まで湧水が豊富にあったが、台地上に工業団地が建



第2図 埼玉県の地形図

設されると、湧水が枯渇したようである。

### 2 歴史的環境

幡羅遺跡周辺には、数多くの遺跡が存在する。ここでは、郡家成立前の古墳時代後期から平安時代にかけて概観する(第3図)。

遺跡のほとんどは、低地から台地の縁辺部にかけて 分布する。古墳時代後期には、低地域に集落、台地縁 辺に古墳が築かれる場合が多い。6世紀代の集落は、 上敷免遺跡周辺や城北遺跡周辺、一本木前遺跡等で爆 発的に増加する。7世紀になると、それらの集落は規 模を縮小させるものが多く、城北遺跡は継続しない。 新屋敷東遺跡も同様に住居跡の数は減少するものの、 7世紀後半或いは8世紀代と推定される大型倉庫跡が 確認されており、特筆される。

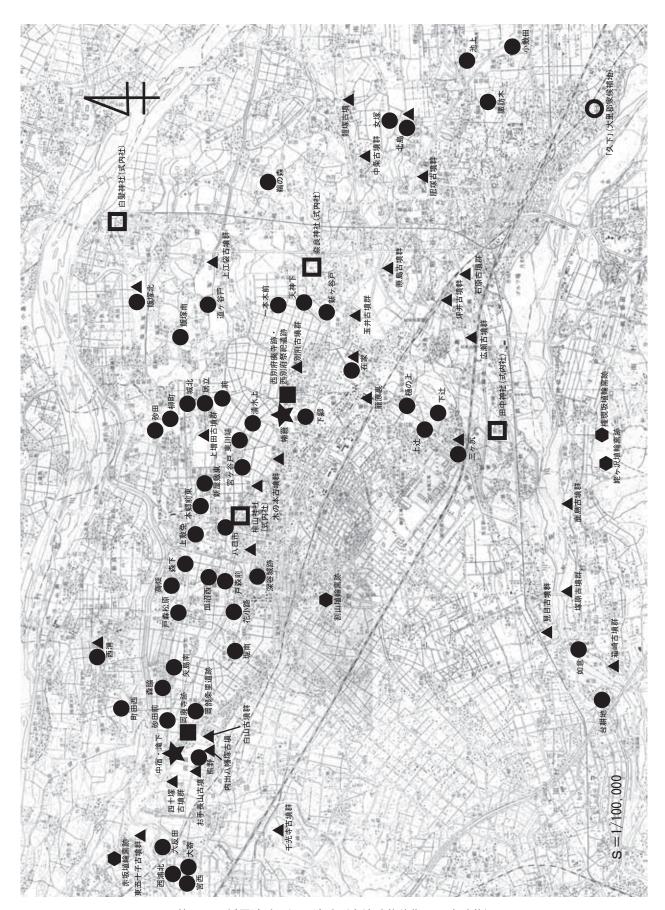
一方、宮ヶ谷戸遺跡、東川端遺跡等、7世紀に入って規模が大きくなる集落も認められる。両遺跡は、幡羅遺跡の成立時期と重なる7世紀後半に入ってから住居数は増加し、関連性が考えられる。西別府祭祀遺跡では、遅くともその頃から、湧水点における祭祀が行なわれるようになる。出土品は石製模造品や墨書土器等で、木製品は今のところ確認されていない。祭祀は11世紀頃まで継続するとされる。また、西別府廃寺跡は8世紀初頭に造営されたと考えられ、基壇建物跡や区画溝、多量の瓦等が出土している。寺院は9世紀後半頃までは確実に機能していたと考えられ、その後は集落化が進む。

次に郡家跡についてみていく。幡羅遺跡は7世紀後半に、それまで墓域であった台地縁辺に出現する。官衙域の南に広がる下郷遺跡は、その周辺に広がる官衙に関連する集落跡で、出現は幡羅遺跡と同時期である。幡羅遺跡が郡家として整備される7世紀末から8世紀になると、住居跡の数が増加する。榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡も同様に7世紀後半、それまでの墓域に出現する。熊野遺跡は初期評家の機能を有していたと考えられている。幡羅郡の東の埼玉郡家跡についてはまだ

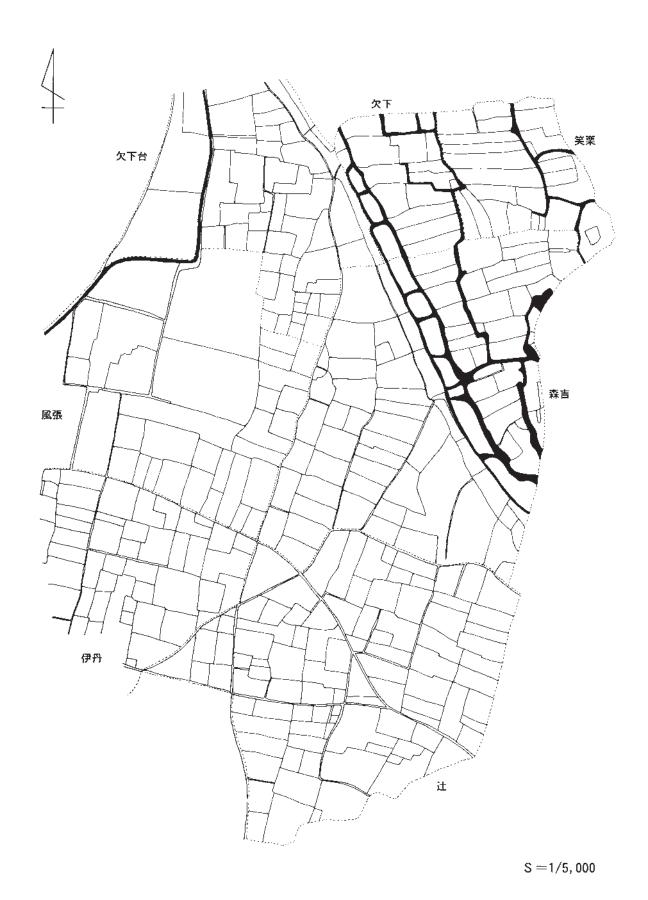
確認されていないが、整然と並ぶ掘立柱建物跡が出土した池上遺跡、出拳木簡が出土した小敷田遺跡、律令期の祭祀跡や9~10世紀の居宅跡が確認された諏訪木遺跡の周辺に想定される。東山道武蔵路のルートは、この付近に推定される。これらの遺跡群のやや北西に位置する大集落である北島遺跡からは、東山道武蔵路から分岐するとみられる道路跡が確認されている。また、幡羅遺跡と熊野遺跡からも道路跡が確認されており、これらを結ぶルートは伝路であった可能性がある。このルートが旧中山道と一部重なっている点は注目すべきであろう。

9世紀以降になると、集落は分散化する傾向があり、 小規模な集落が数多く認められる。台地縁辺部に深谷 城跡、花小路遺跡、堀南遺跡等の集落が進出するのも この頃である。深谷城跡からは掘立柱建物跡や多量の 土器が出土し、灰釉陶器も含まれる。花小路遺跡は、 庇を持つ建物跡や、柱掘方の規模が大きい掘立柱建物 跡が確認されている。また、飯塚北遺跡、北島遺跡、 諏訪木遺跡等で、方一町程度の方形区画施設跡がみら れるようになる。幡羅遺跡においても、ほぼ同規模の 方形区画施設が9世紀後半或いは10世紀頃出現する。 内部の建物跡が未確認のため、施設の性格は不明だが、 それらの遺跡との関係から館の可能性が考えられる。

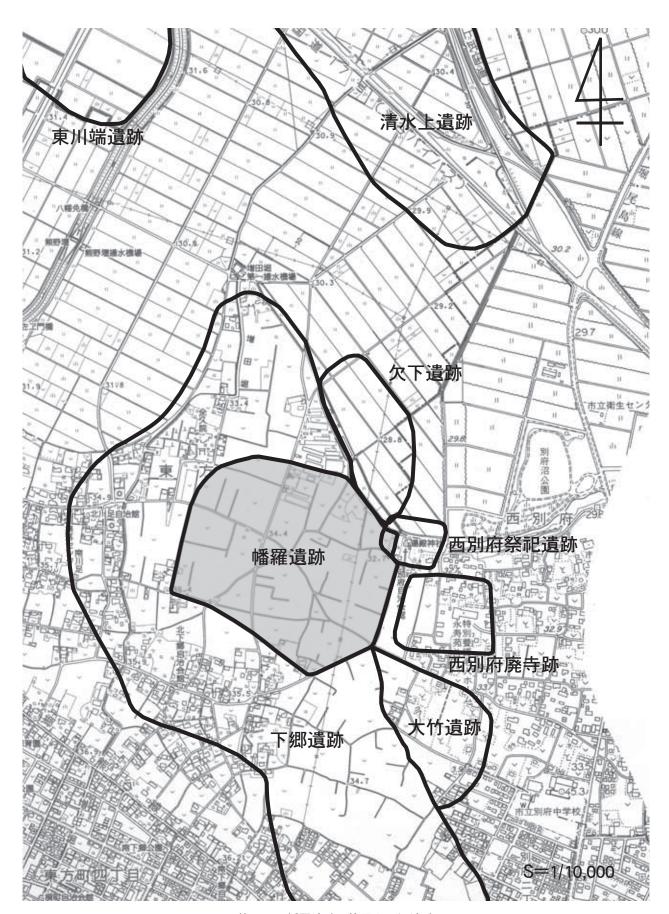
後期古墳は、東は別府古墳群から西は楡山神社付近まで、幾つかのまとまりをもちながら分布している。この地域の古墳群においては、現在のところ、前方後円墳等傑出した古墳は確認されていない。終末期古墳については、幡羅遺跡の南方約2kmにある籠原裏遺跡で、径20m未満の円墳群が確認されている。ここからは、鉄製鞘尻金具、銅製双脚金物等が出土しており、古墳群中の幾つかは、八角形墳とする見解もある。また、同じく南東約5kmにある広瀬古墳群中には、上円下方墳といわれる宮塚古墳(径約24m)がある。一方、榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡周辺では、6世紀後半から7世紀にかけての首長墓とみられる4基の古墳があり、その変遷が推定されている。



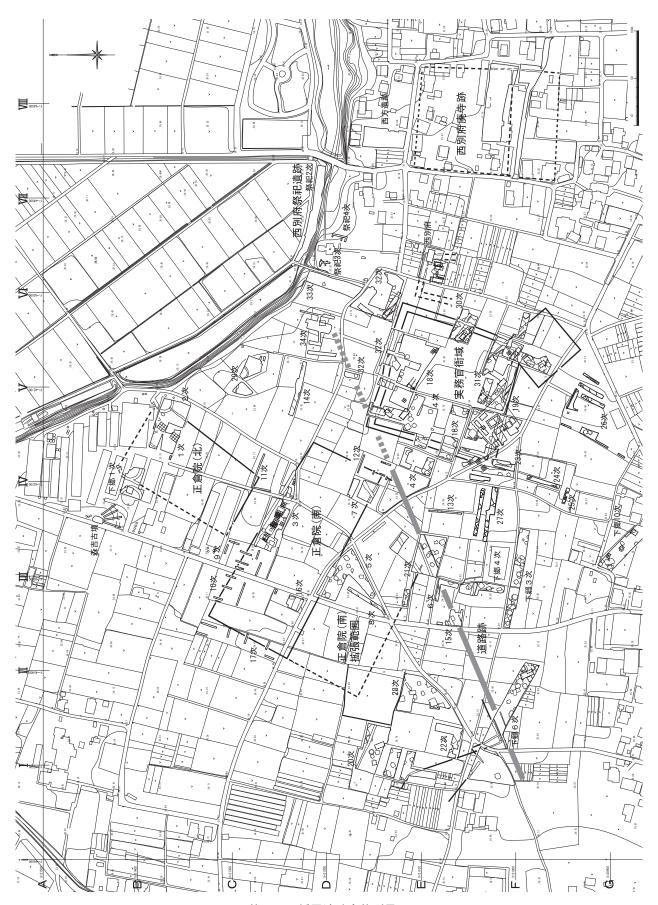
第3図 幡羅遺跡周辺の遺跡(古墳時代後期~平安時代)



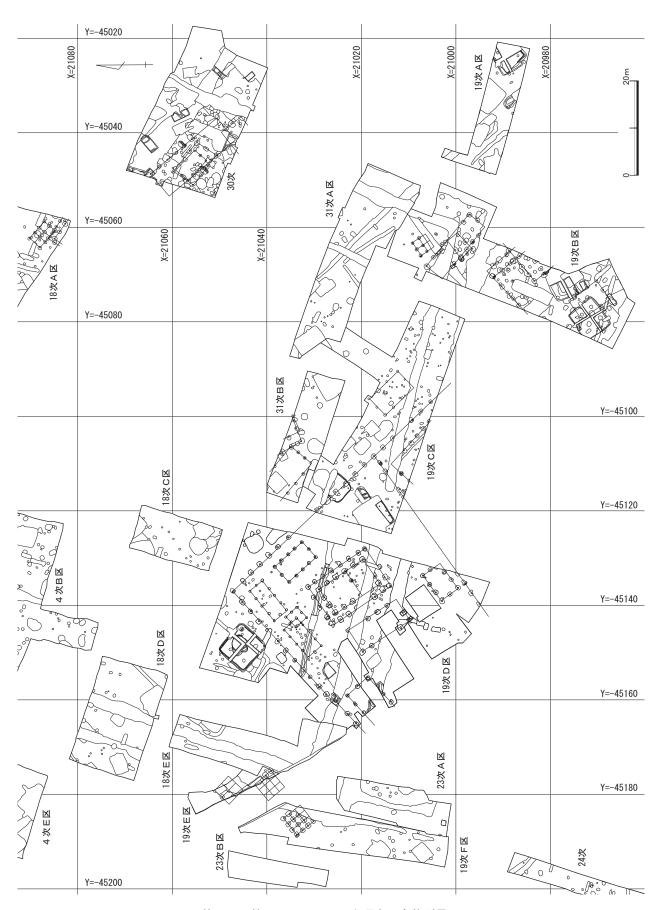
第4図 幡羅遺跡周辺の地籍図(明治時代の地籍図をもとに作成)



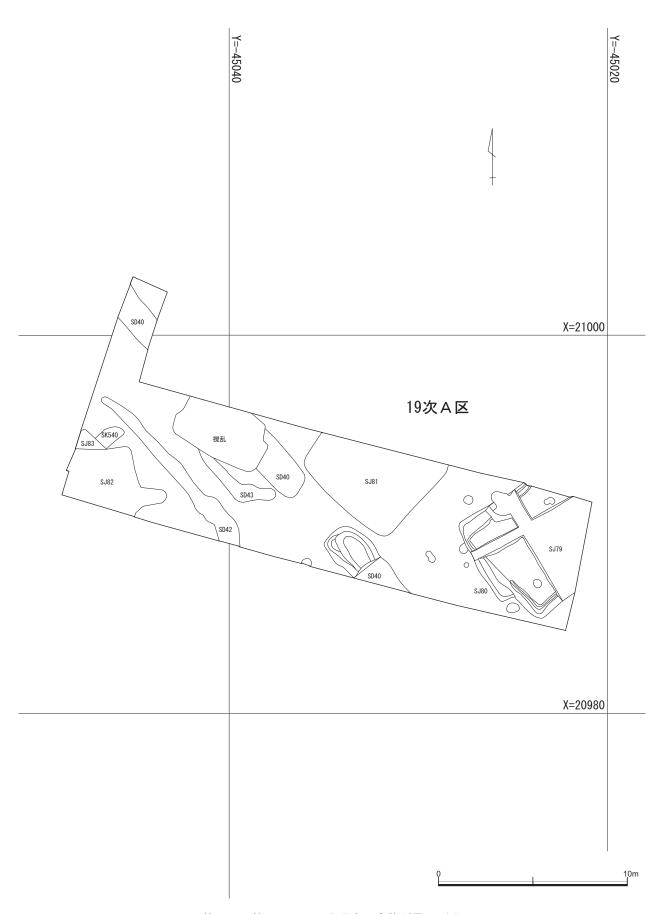
第5図 幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡



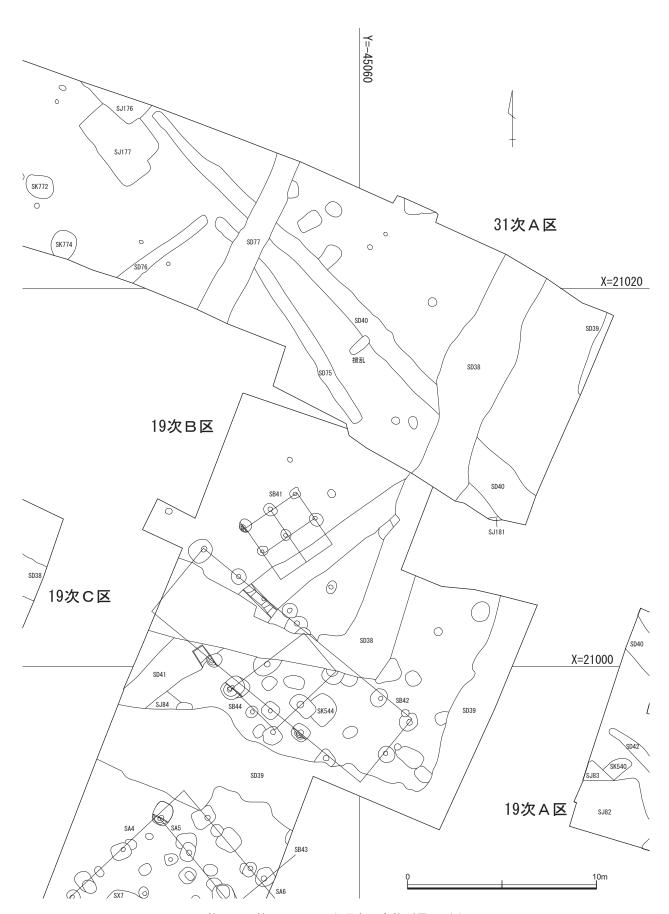
第6図 幡羅遺跡全体測量図



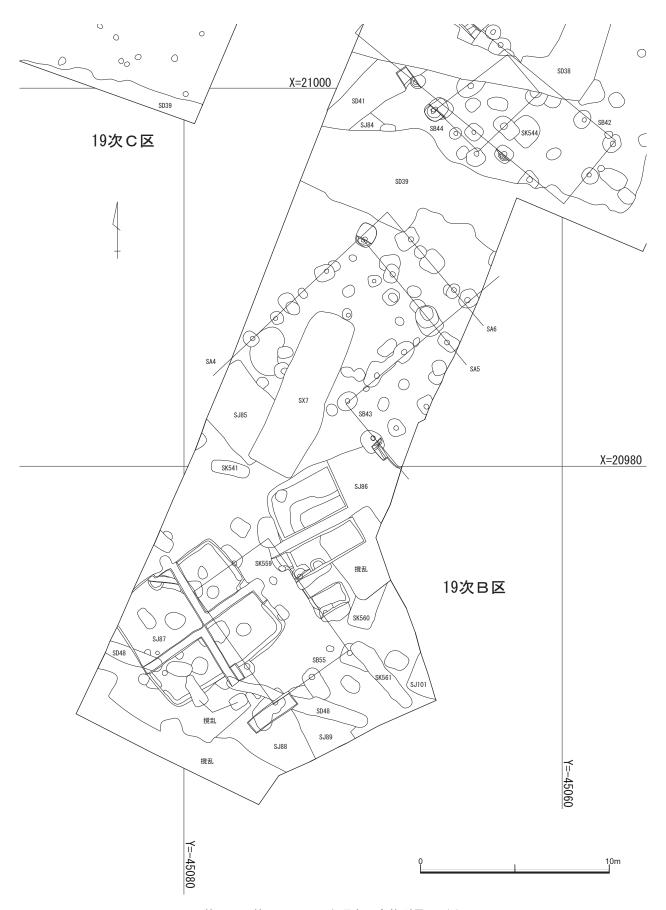
第7図 第19·23·30·31次調査区全体測量図



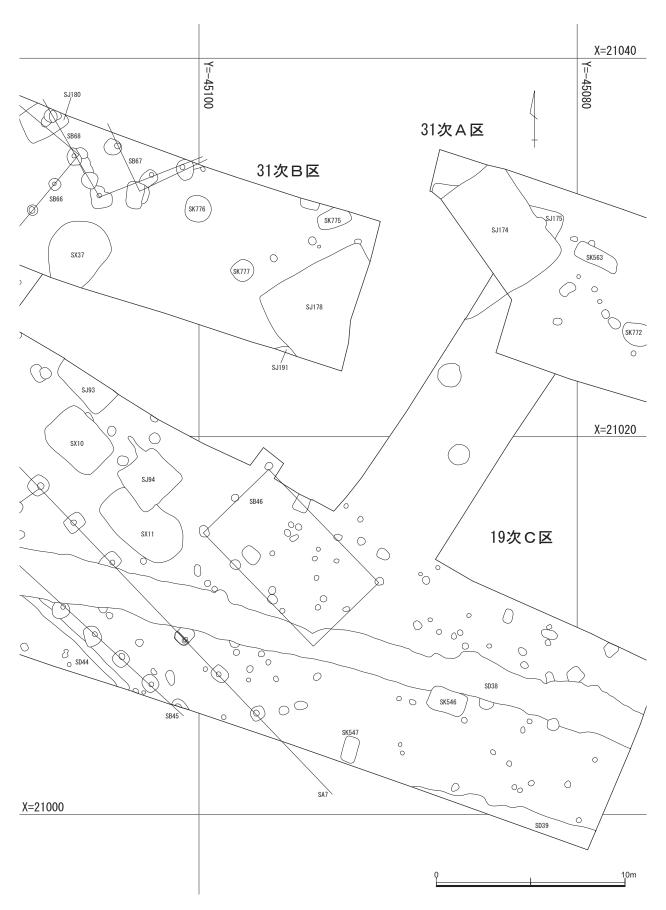
第8図 第19·23·31次調査区全体測量図 (1)



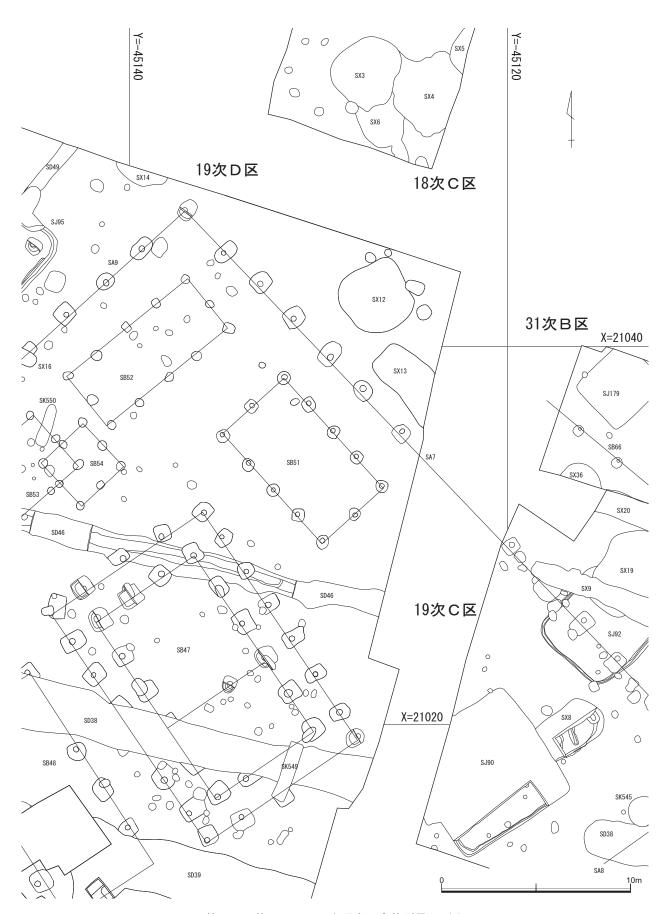
第9図 第19·23·31次調査区全体測量図(2)



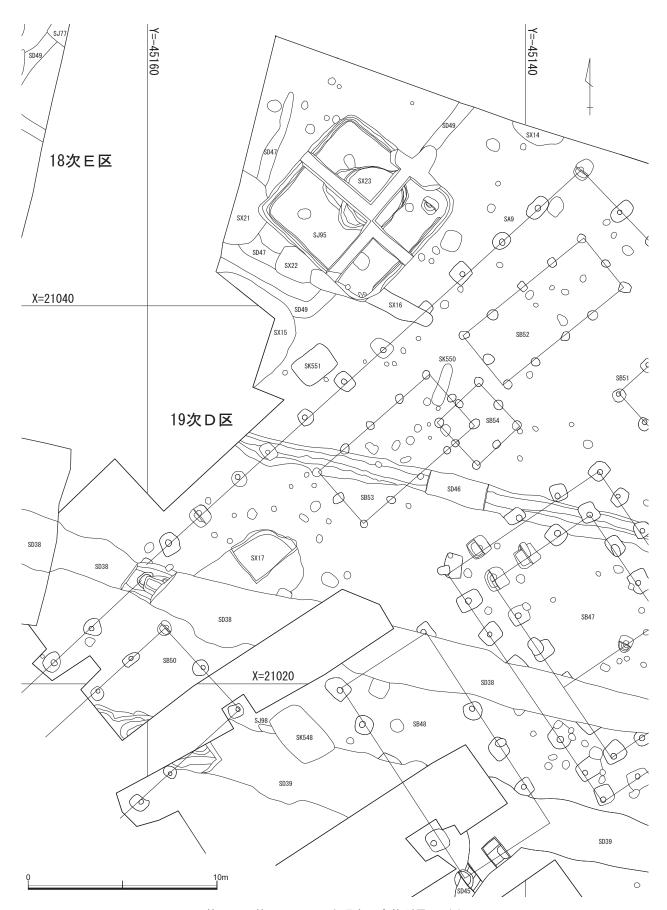
第10図 第19·23·31次調査区全体測量図 (3)



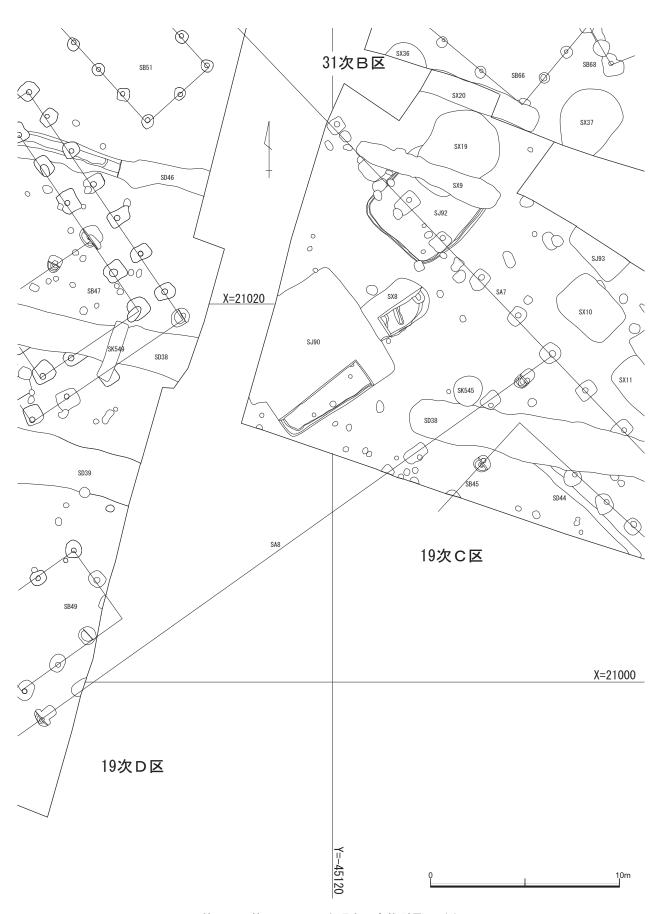
第11図 第19·23·31次調査区全体測量図(4)



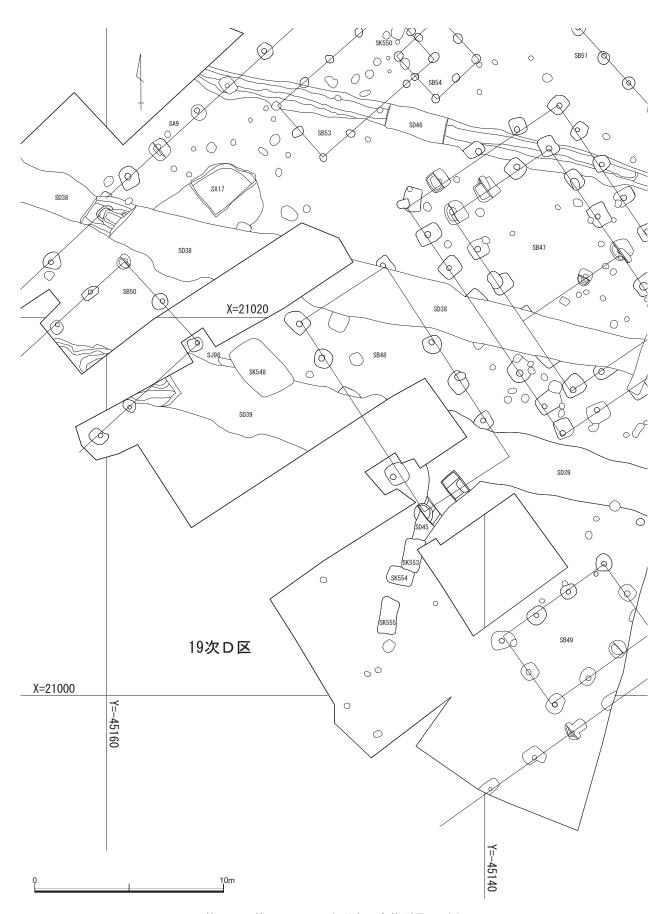
第12図 第19·23·31次調査区全体測量図(5)



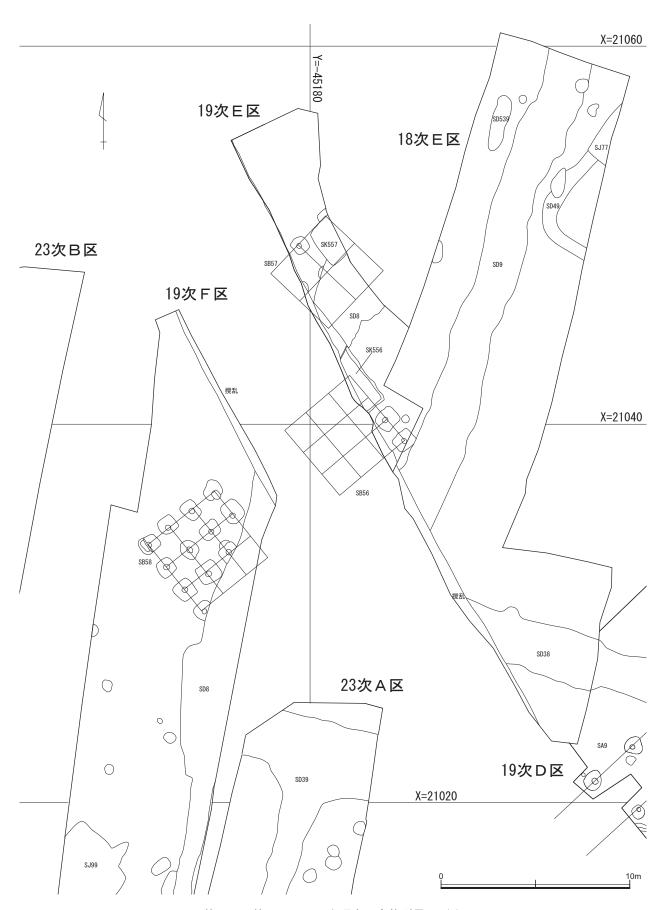
第13図 第19·23·31次調査区全体測量図 (6)



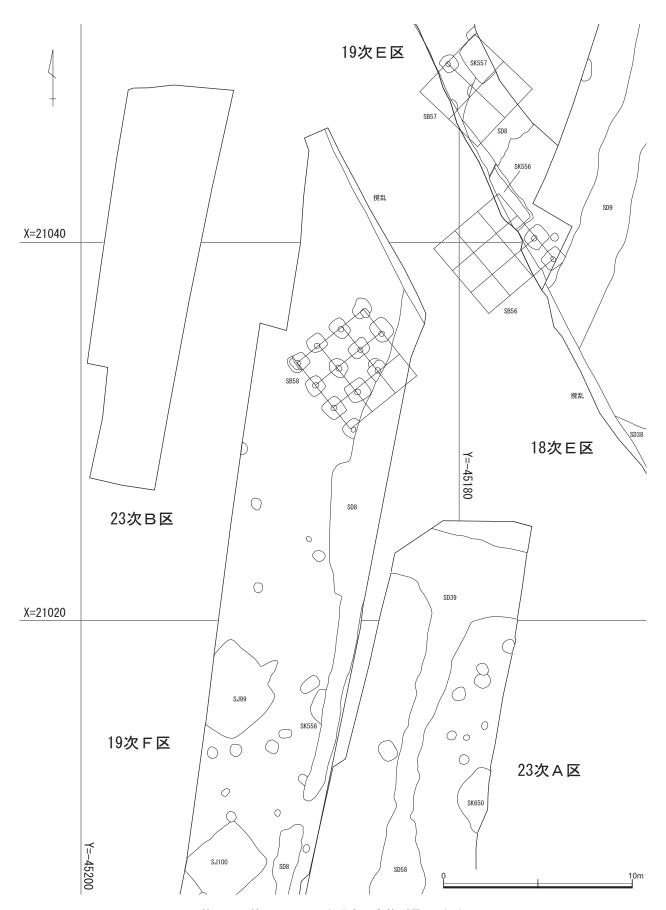
第14図 第19・23・31次調査区全体測量図 (7)



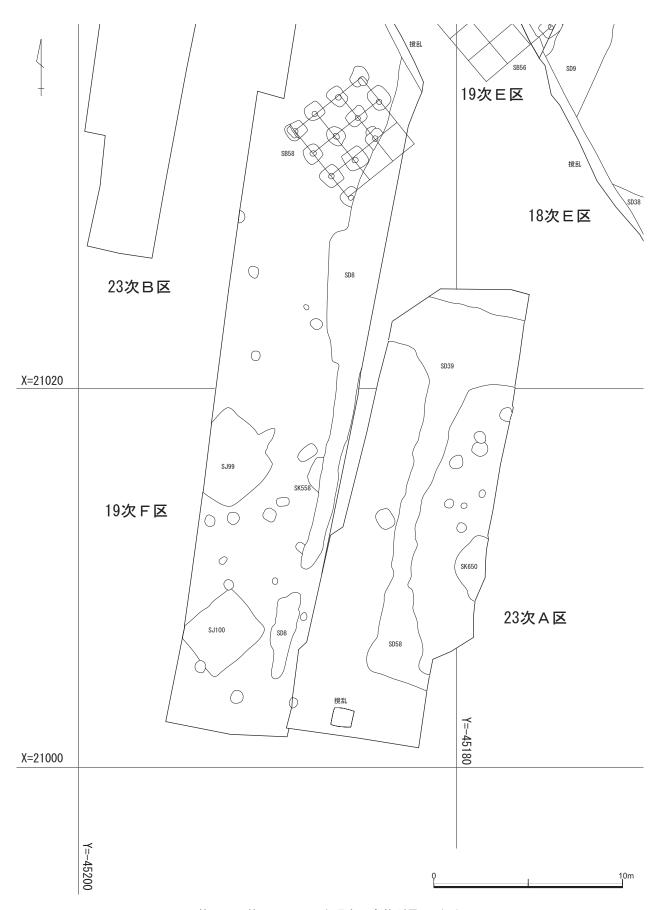
第15図 第19·23·31次調査区全体測量図(8)



第16図 第19·23·31次調査区全体測量図 (9)



第17図 第19・23・31次調査区全体測量図(10)



第18図 第19·23·31次調査区全体測量図(11)

## 皿 実務官衙域の調査

## 1 第19·31次調查区

### a 概要

第19次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南東部のE-IV-164~F-V-126グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡20棟、掘立柱塀跡6基、竪穴建物跡22棟、特殊土坑16基、土坑2基、溝8条、二重溝と土塁による区画等である。

調査区周辺の標高は約34mで、確認面までの深さは 北西側が浅く、第19次調査区C~F区や第31次調査区 A・B区は約30cm、南東側の第19次調査区A・B区 は約50cmを測る。

第31次調査区は、第19次調査区の北側隣接部E-IV-257~E-V-370グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡 3 棟、竪穴建物跡 9 棟、土坑 2 基、溝 3 条、二重溝と土塁による区画等である。

この内、掘立柱建物跡と掘立柱塀跡については、『幡 羅遺跡IV』で報告した。ここでは、それ以外の成果に ついて報告したい。

## b 竪穴建物跡

**第79号竪穴建物跡** (第19 ~ 26図、第 2 ~ 4 表)

第19次調査A区に位置し、第80号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺約6 mを測る。主軸方位はN-32° - Wである。

床面はやや凹凸があり、確認面から70cmの深さを 測る。壁はやや斜めに立ち上がる。カマドは北西壁ほ ぼ中央に構築される。

覆土に鉄滓や扁平な礫をやや多く含んでいたため、 鍛冶工房の可能性も考え、覆土の水洗を行なったとこ ろ、鍛造剥片が微量に検出された。しかし、その量は 極めて少なく、付近に鍛冶工房がある可能性を示唆するものと思われる。

図示できた遺物は、第21図  $1 \sim$  第26図115である。  $1 \sim 44$ は土師器で、 $1 \cdot 2$  は模倣坏、もしくはその系統であろうか。  $3 \sim 9$  は有段口縁坏、 $10 \sim 24$ は北武蔵型坏、 $25 \cdot 26$ は暗文系無文坏、 $27 \sim 37$ は暗文坏、 $38 \sim 41$ は暗文皿、42は無文皿である。43は皿形であるが、底部に焼成前の孔がみられる。甑であろうか。44は輪状把手をもつ蓋である。 $45 \sim 94$ は須恵器である。 $45 \cdot 56 \sim 58$ は高台坏、 $46 \sim 55$ は坏、 $59 \sim 76$ は蓋、77は円面硯、78は椀である。60は内面に墨書がある。墨痕により、文字の下半は不明瞭だが、「乎」と思われる。79は瓶、 $80 \cdot 81$ は長頸瓶、82は短頸壷、 $83 \sim 94$ は甕である。 $95 \sim 109$ は土師器で、 $95 \sim 107$ は甕、 $108 \cdot 109$ は台付甕である。 $110 \cdot 111$ は土錘、 $112 \sim 115$ は鉄滓である。

遺物が若干新しいものも混じるが、遺構の時期は7 世紀末頃と推定される。

#### 第80号竪穴建物跡 (第19~20図)

第19次調査A区に位置し、第79号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4.8mを測る。主軸方位はN-30° -Wである。

床面は確認面から40cmの深さで、壁はやや斜めに 立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

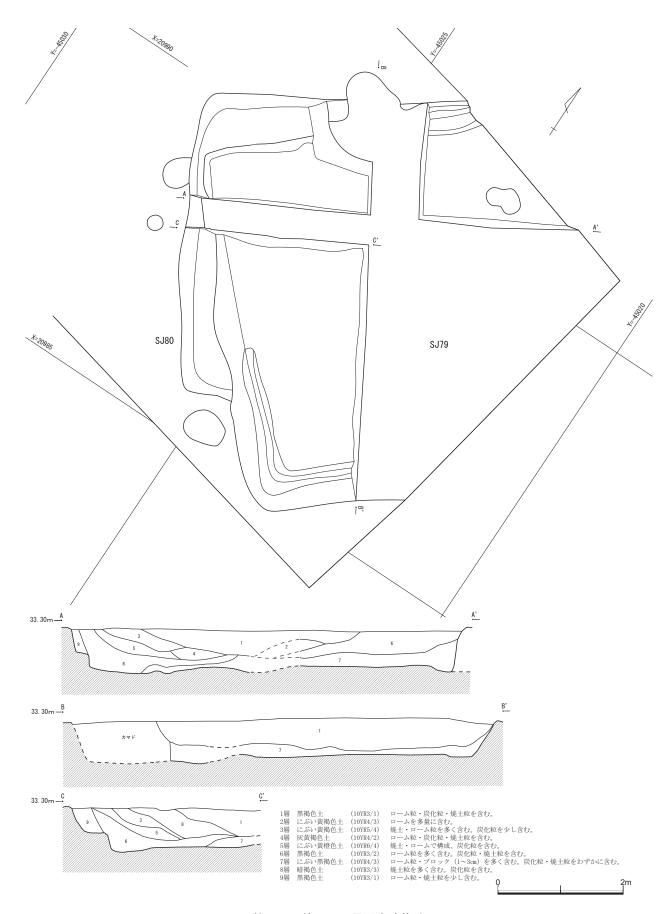
図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第81号竪穴建物跡(第8図、第27図1、第5表)

第19次調査A区に位置する。平面形態は方形で、一辺6 mを測る。主軸方位は $N-40^{\circ}$  - Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第27図1の有段口縁坏である。

第82号竪穴建物跡(第8図、第27図2~7、第5表) 第19次調査A区に位置する。平面形態は方形で、主



第19図 第79·80号竪穴建物跡



第20図 第79·80号竪穴建物跡遺物出土状況

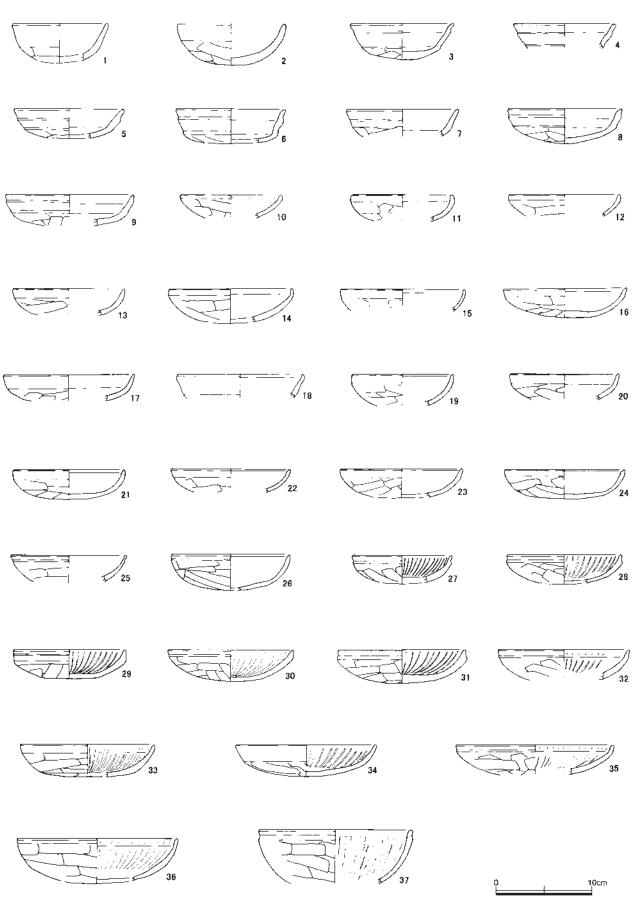
軸方位は $N-87^{\circ}-E$ である。カマドは東壁に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第27図  $2\sim7$  である。 2 は北武 蔵型坏、 $3\sim7$  は須恵器で、 $3\sim5$  は坏、 $6\cdot7$  は蓋 である。

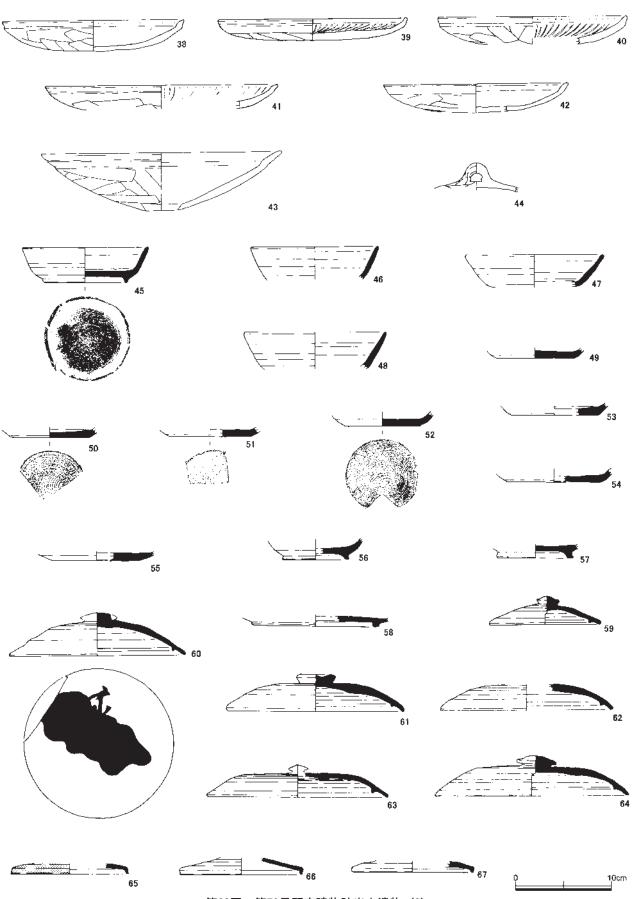
#### 第83号竪穴建物跡(第8図)

第19次調査A区に位置し、第540号土坑を切り、第82号竪穴建物跡に切られる。主軸方位は $N-48^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

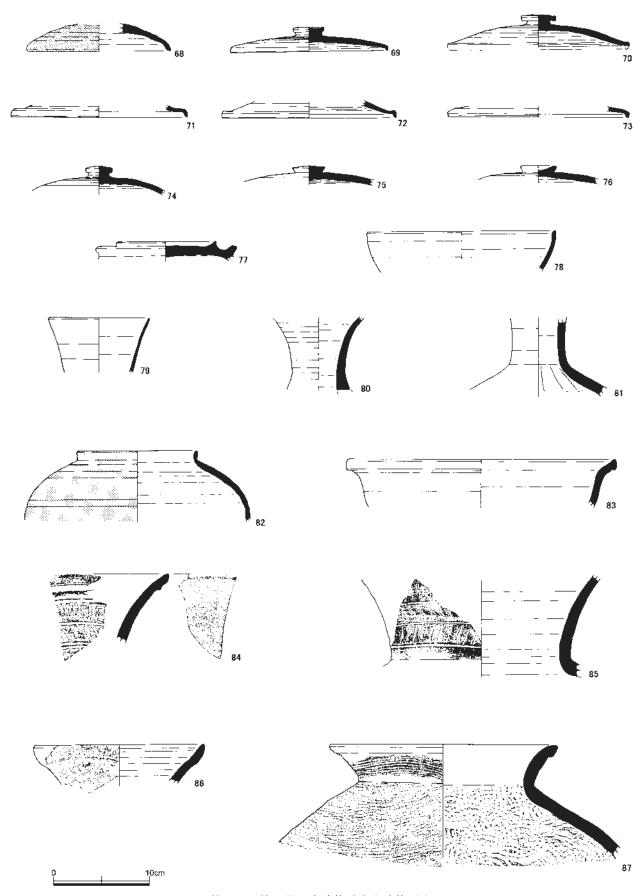
図示できる遺物は出土しなかった。



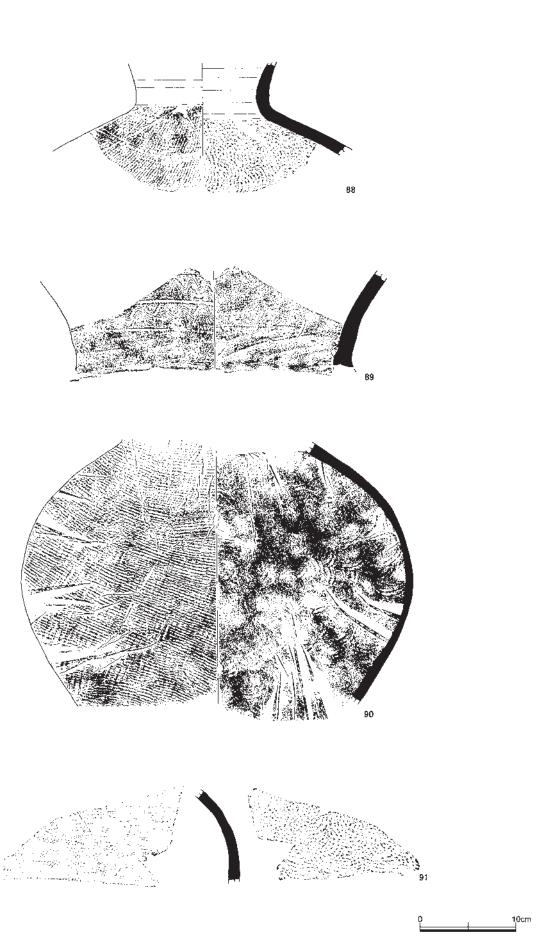
第21図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (1)



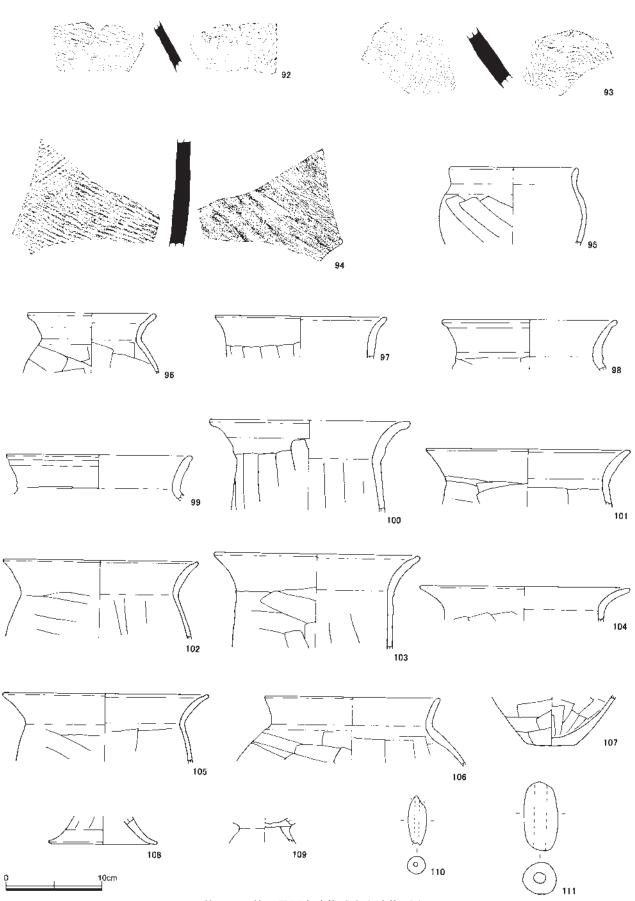
第22図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (2)



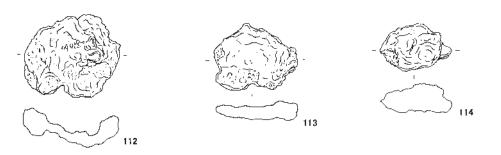
第23図 第79号竪穴建物跡出土遺物(3)



第24図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (4)



第25図 第79号竪穴建物跡出土遺物(5)



第26図 第79号竪穴建物跡出土遺物 (6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(10.0)	(4. 2)		АВСЕ	普	橙	35%	
2	Н	坏	(11. 2)	4. 3		ABCEH	普	橙	50%	
3	Н	坏	10.8	3. 8		ACEH	普	灰褐	75%	
4	Н	坏	(10. 6)			ABCE	普	橙	20%	
5	Н	坏	(11. 4)	(3. 1)		ACEH	良	橙	25%	
6	Н	坏	(11. 4)	(3. 6)		ACE	普	灰褐	25%	
7	Н	坏	(11. 7)			ABCE	普	橙	15%	
8	Н	坏	12. 0	3. 7		ACEH	良	橙	50%	
9	Н	坏	(13. 4)			ACE	普	にぶい橙	20%	
10	Н	坏	(10. 6)			ACE	普	橙	15%	
11	Н	坏	(10. 4)			ACE	普	橙	20%	
12	Н	坏	(11.6)			ACE	普	橙	15%	
13	Н	坏	(11.6)			ACE	普	灰褐	20%	
14	Н	坏	(12. 7)	(3. 6)		ACE	普	橙	20%	
15	Н	坏	(13. 0)			ACE	普	にぶい赤褐	15%	
16	Н	坏	13. 0	3. 0		АВСЕ	普	橙	80%	
17	Н	坏	(14. 0)			ACE	普	暗褐	20%	
18	Н	坏	(13. 2)			ACE	普	にぶい橙	15%	
19	Н	坏	(10. 6)			ACEI	良	赤褐	20%	
20	Н	坏	(11. 3)			ACE	良	赤褐	25%	
21	Н	坏	(11. 8)	3. 1		ACE	良	橙	75%	
22	Н	坏	(12. 6)			ACE	良	赤褐	15%	
23	Н	坏	12.8	(3. 1)		ACE	良	赤褐	60%	
24	Н	坏	12. 6	3. 1		ABCE	普	橙	50%	
25	Н	坏	(12. 2)			ACEF	良	にぶい橙	20%	
26	Н	坏	(12. 4)	3. 8		ACE	良	赤褐	40%	
27	Н	坏	(10. 3)	(3. 0)		ABCDE	普	赤褐	20%	
28	Н	坏	(12. 0)	(3. 1)		ACE	普	赤褐	25%	
29	Н	坏	(11. 8)	3. 1		ACEH	良	赤褐	40%	
30	Н	坏	13. 0	3. 4		ABCE	普	灰褐	100%	
31	Н	坏	13. 4	3. 6		ACEH	良	橙	50%	
32	Н	坏	(13. 6)			ACE	普	橙	15%	
33	Н	坏	(14. 3)	3. 4		ACDEH	良	赤褐	35%	
34	Н	坏	(14. 8)	3. 3		ACE	良	橙	25%	
35	Н	坏	(18. 5)			ACE	普	灰褐	20%	
36	Н	坏	16.8	(4. 8)		ACE	普	にぶい赤褐	45%	
37	Н	坏	(16. 0)			ACDE	良	にぶい橙	20%	
38	Н	Ш	(19. 1)	3. 2		АВСЕ	華	暗褐	25%	

第2表 第79号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
39	Н	Ш	(18. 0)	2. 3		ABCEI	普	橙	45%	
40	Н	Ш	(19. 8)			ABCDE	普	橙	20%	
41	Н	Ш	(24. 3)			ABCE	普	にぶい橙	15%	
42	Н	ш	(19. 3)	(3. 0)		ACE	良	橙	20%	
43	Н	甑	25. 6	6. 1		ACEI	良	橙	90%	
44	Н	蓋				ACDE	普	橙	25%	
45	S	高台坏	(13. 1)	3. 7	8. 5	A C	不良	灰褐	60%	
46	S	坏	(13. 3)			АСН	良	灰	15%	
47	S	坏	(14. 3)			A C D	普	灰	10%	
48	S	坏	(14. 8)			АСН	良	青灰	15%	
49	S	坏	(110)		(8. 0)	АВСДН	普	灰	20%	
50	S	坏			(8. 0)	ACGH	普	灰	20%	
51	S	坏			(8. 3)	ACGH	普	灰	10%	
52	S	坏			7. 8	ACGH	良	灰	30%	
53	S	坏			(8. 8)	ACGH	不良	灰褐	10%	
54	S	坏			(8. 8)	ABCDH	普	灰	15%	
55					1	ł		1		
56	S	545			(9. 2)	ACGH	普	灰	20%	
	S	高台坏			(6. 9)	A C G	普	灰	20%	
57	S	高台坏			7. 9	ACGH	良	灰	30%	
58	S	高台坏	(44 =)	0.0	(12. 5)	АВСН	不良	灰褐	15%	
59	S	蓋	(11. 5)	3. 0		ACDH	良	青灰	40%	
60	S	蓋	18. 5	4. 5		ACFH	普	灰	85%	内面に「乎」の墨書と墨卵
61	S	蓋	(18. 5)	3. 8		АСН	普	灰	30%	
62	S	蓋	(18. 0)			АСН	不良	青灰	20%	
63	S	蓋	(19. 0)	(3. 4)		ACFH	良	灰	40%	
64	S	蓋	22. 0	4. 2		ACFH	普	灰褐	90%	
65	S	蓋	(12. 4)			A C	良	灰	10%	外面に自然釉
66	S	蓋	(12. 8)			A C	良	灰	10%	
67	S	蓋	(12. 6)			A C G	普	青灰	10%	
68	S	蓋	(14. 9)			A C	良	灰	25%	外面に自然釉
69	S	蓋	16. 5	2. 5		ACGH	普	灰	55%	
70	S	蓋	(18. 5)	(3. 7)		ACGH	普	灰	40%	
71	S	蓋	(8. 4)			A C G	普	灰	10%	
72	s	蓋	(18. 1)			A C G	普	灰	10%	
73	S	蓋	(18. 9)			ACGH	良	青灰	15%	
74	S	蓋				A C G	普	灰	30%	
75	S	蓋				ACDI	普	灰	25%	
76	s	蓋				ABCI	不良	灰	15%	
77	s	円面硯	14. 8			ACGH	普	灰褐	40%	
78	s	椀	(19. 8)			ACGH	普	灰	10%	
79	S	瓶	(10. 6)			АСН	良	灰	5 %	
80	S	長頸瓶				ACGH	普	青灰	10%	
81	S	長頸瓶				ACGH	良	灰	10%	
82	S	短頸壺	(12. 6)			ACHI	良	灰褐	5%	外面に自然釉
83	S	<b>選</b>	(28. 0)			ACGH	普	灰	0 /0	VI PUI C II WATE
84	S	套	(20.0)			ACH	良	灰灰		
85	S	1				ł		1		
		甕	(17 9)			ACH	良並	灰		
86	S	甕	(17. 8) 23. 5			ACH	普普	青灰 橙	30%	

第3表 第79号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存		備考
88	S	甕				ACFH	普	青灰	10%		
89	S	甕				ACFH	普	青灰	5 %		
90	S	甕				ACFH	良	青灰	20%		
91	S	甕				ACFH	普	灰			
92	S	甕				ACFH	普	橙			
93	S	甕				АСН	良	青灰			
94	S	甕				ACFH	良	青灰			
95	Н	甕	13. 2			ACE	普	にぶい橙	20%		
96	Н	甕	(13. 3)			ABCEH	普	にぶい赤褐	15%		
97	Н	甕	(17. 8)			АВСЕН	普	にぶい橙	5 %		
98	Н	甕	(18. 0)			АВСЕ	普	橙	10%		
99	Н	甕	(19. 5)			ABCEI	普	橙	5 %		
100	Н	甕	(21. 0)			ACEI	普	橙	10%		
101	Н	甕	(21. 0)			ABCE	普	にぶい橙	15%		
102	Н	甕	(20. 5)			ACEI	普	橙	15%		
103	Н	甕	(21. 2)			АВСЕ	普	橙	15%		
104	Н	甕	(21. 9)			ABCDE	普	橙	5 %		
105	Н	甕	(21. 6)			ABCE	普	橙	15%		
106	Н	甕	(18. 2)			ABCE	良	橙	15%		
107	Н	甕			5. 6	ACEH	普	にぶい橙	10%		
108	Н	台付甕			(11. 0)	ABCE	普	橙	5 %		
109	Н	台付甕				ABCEI	普	赤褐	5 %		
110		土錘		幅 1.9	厚 1.8	ACEI	普	にぶい橙	90%	重さ	15.56g
111		土錘	長 7.3	幅 3.6	厚 3.4	ABCEI	普	赤褐	100%	重さ	85. 33 g
112		鉄滓	長 8.8	幅10.1	厚 2.9					重さ	239.83 g
113		鉄滓	長 6.7	幅 8.6	厚 1.9					重さ	146.52g
114		鉄滓	長 4.9	幅 7.5	厚 3.0					重さ	106.96g
115		鉄滓	長 4.1	幅 4.9	厚 1.9					重さ	39.10g

第 4 表 第79号竪穴建物跡出土遺物観察表 (3)

#### 第84号竪穴建物跡 (第9図)

第19次調査 B 区に位置し、第39・41号溝に切られる。 主軸方位は $N-49^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど 行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

**第85号竪穴建物跡** (第10図、第27図 8 ~ 12、第 5 表)

第19次調査B区に位置し、第7号特殊土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸 $5\,\mathrm{m}$ 、短軸 $3.3\mathrm{m}$ を測る。主軸方位は $\mathrm{N}-47^\circ$   $-\mathrm{E}$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第27図8~12である。8・10・ 11はロクロ土師器で、8は小皿、10は高台坏、11は高 台椀である。9・12は須恵器で、9は蓋、12は甕、10 はロクロ土師器高台坏、13は土錘である。

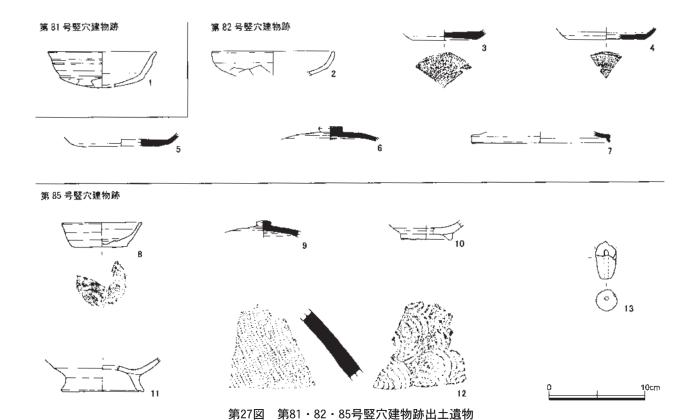
遺構の時期は、11世紀前半頃と推定される。

#### 第86号竪穴建物跡 (第28~29図、第6表)

第19次調査 B 区 に 位置 し、第43・55 号 建物 跡、第 559 号 土坑 に 切られる。 平面 形態 は 方形 で、 一辺 約 7 m を 測る。 主軸 方位 は N  $-61^\circ$  - E である。

床面は中央がやや高くなり、確認面から $50\sim65$ cm の深さを測る。壁は上部がやや斜めに立ち上がる。カマドは北東壁でわずかに確認された。

図示できた遺物は、第29図  $1 \sim 13$ である。  $1 \sim 6$  は土師器で、1 は有段口縁坏、2 は北武蔵型坏、 $3 \sim 6$  は暗文坏である。  $7 \sim 12$  は須恵器で、 $7 \sim 10$  は蓋、 $11 \sim 12$  は甕、13 は銅製金具、14 は鉄滓である。



番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	ſ	<b>満</b> 考
1	SJ 81	Н	坏	(11. 5)	(3. 8)		АВСЕ	普	橙	20%		
2	SJ 82	Н	坏	(12. 9)			АСЕ	普	暗褐	10%		
3		S	坏			(6.7)	ACG	普	灰	10%		
4		s	坏			(7. 9)	ACG	良	灰	10%		
5		s	坏			(8.0)	ACG	普	灰	10%		
6		s	蓋				ACDGH	良	灰	50%		
7		s	蓋	(14. 4)			ACG	普	灰	5 %		
8	SJ 85	R	小皿	(8. 3)	2. 6	5. 4	АВСЕНІ	普	にぶい橙	50%		
9		s	蓋				ACFH	良	青灰	20%		
10		R	高台坏			(5. 2)	АСЕНІ	普	にぶい橙	15%		
11		R	高台椀			(8. 5)	АВСЕНІ	普	橙	20%		
12		s	甕				АСН	普	青灰			
13			土錘		幅 2.2	厚 2.2	A C	普	赤褐	45%	重さ	15.66g

第5表 第81·82·85号竪穴建物跡出土遺物観察表

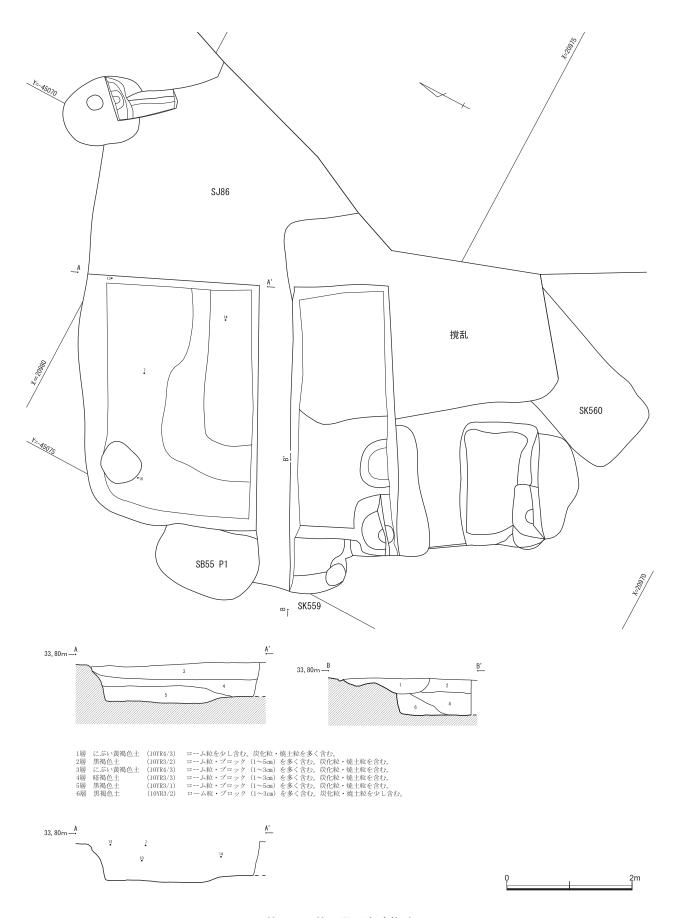
遺物が若干新しいものも混じるが、遺構の時期は7世紀末頃と推定される。

#### **第87号竪穴建物跡** (第30 ~ 35図、第7~8表)

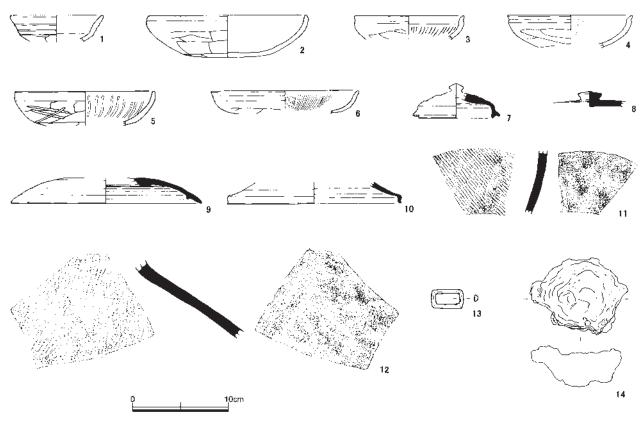
第19次調査B区に位置し、第55号建物跡を切り、第48号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸約7m、短軸6.6mを測る。主軸方位はN-34°-Wである。

床面は中央付近が低く、確認面から15~40cmの深さを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは北西及び北東壁のそれぞれほぼ中央で確認された。壁溝は幅20cm程度で、断続的に確認された。

覆土には鉄滓を多量に含み、鍛造剥片も多量に採取された。鍛冶工房と考えられ、鍛冶炉が3基確認された。炉1は長軸1.2m、短軸0.6mの楕円形で、炉2・



第28図 第86号竪穴建物跡



第29図 第86号竪穴建物跡出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(9. 9)			ACE	良	橙	20%	
2	Н	坏	(16. 8)	4. 4		ABCEI	普	橙	30%	
3	Н	坏	(11. 5)			АВСЕ	普	橙	15%	
4	Н	坏	(13. 0)			ACE	良	橙	20%	
5	Н	坏	(14. 8)			АВСЕ	普	赤褐	25%	
6	Н	坏	(15. 1)			АВСЕН	普	橙	15%	
7	S	蓋	(9. 1)			A C	良	青灰	25%	
8	S	蓋				ACG	普	灰	10%	
9	S	蓋	(20.0)			ACFH	普	灰	20%	
10	S	蓋	(18. 3)			ACG	普	灰	15%	
11	s	甕				A C	良	灰		
12	s	甕				ACFH	普	灰		
13		銅製金具	長 3.3	幅 2.0	厚 0.3					重さ 11.20g
14		鉄滓	長 8.1	幅 9.5	厚 3.7					重さ 385g

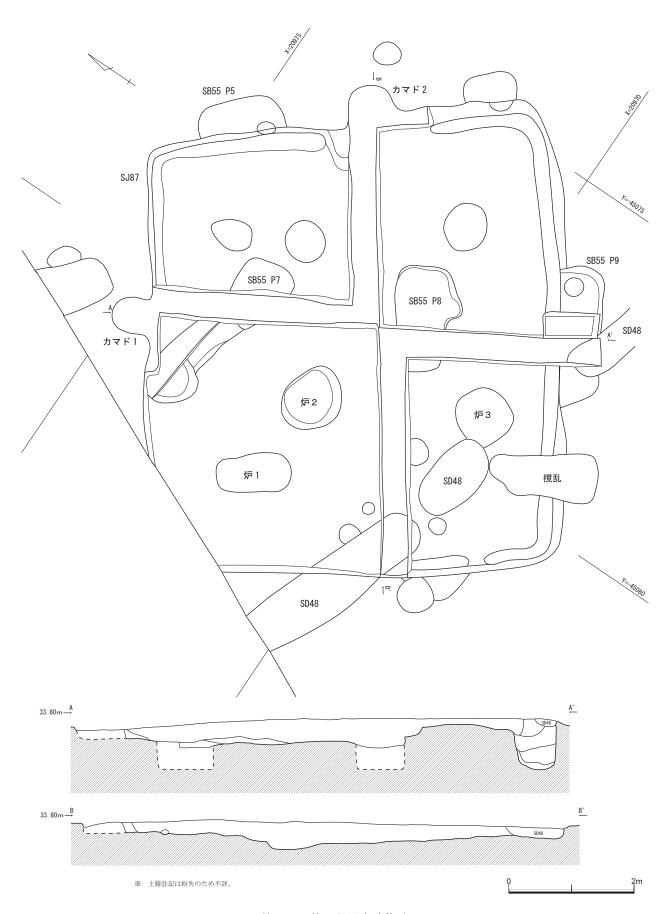
第6表 第86号竪穴建物跡出土遺物観察表

#### 3は長径約1mの不整円形である。

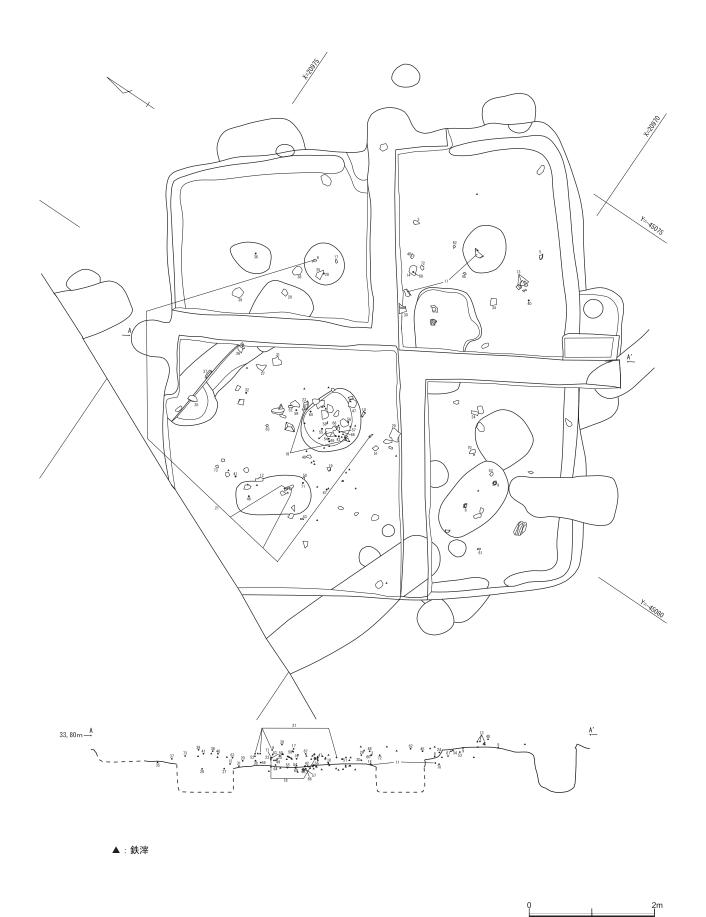
図示できた遺物は、第32図  $1 \sim$  第35図73である。  $1 \sim 11$ は土師器で、  $1 \sim 3$  は北武蔵型坏、  $4 \sim 6$  は暗文坏、 7 は北武蔵型皿である。  $8 \cdot 9$  は高台坏、10は高坏の脚部、11は甕である。  $12 \sim 31$ は須恵器で、  $12 \sim 16$ は蓋、 $17 \sim 19$ は坏、20は脚付盤、21は長頸瓶、

 $22 \cdot 24 \sim 31$ は甕である。23は甑と思われる。 $32 \cdot 33$ は土錘である。 $34 \sim 71$ は鍛冶関連の遺物で、 $34 \sim 40$ は扁平な礫、41は刀子、42は鉄釘、43は棒状鉄製品、 $44 \cdot 45$ は羽口である。 $46 \sim 52$ は椀形滓、 $53 \sim 73$ は鉄滓である。

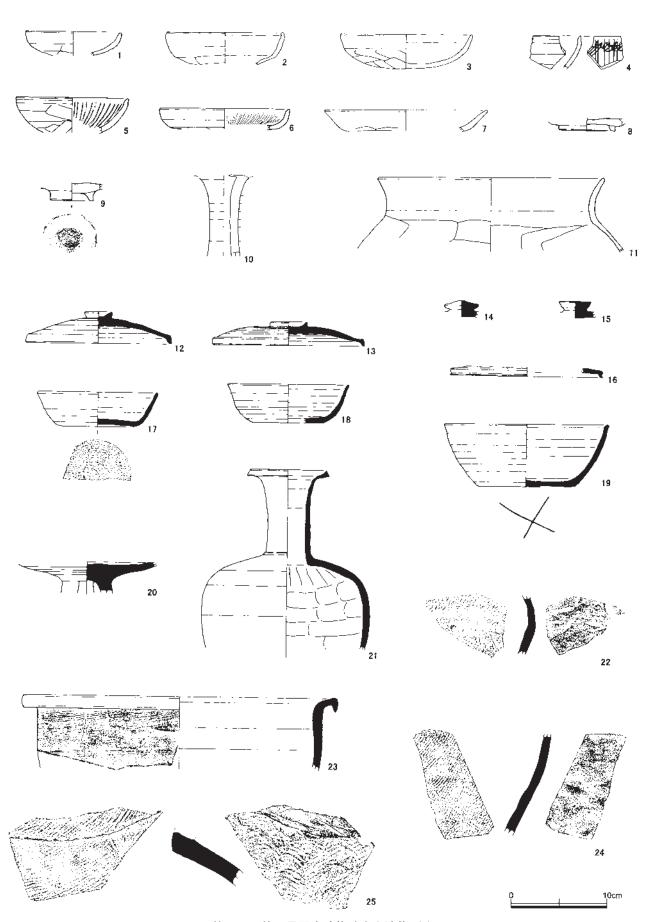
遺構の時期は、8世紀後半と推定される。



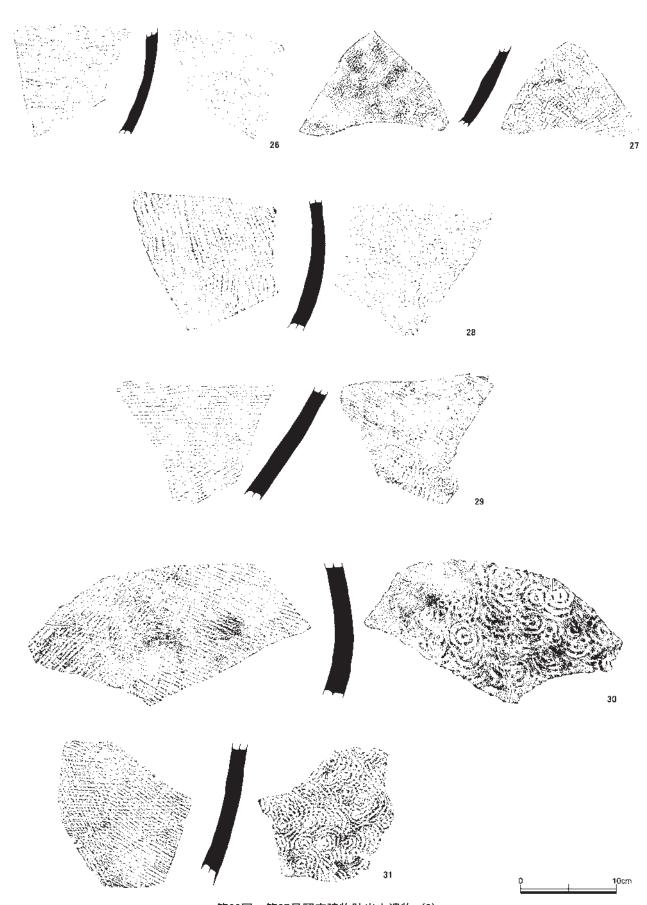
第30図 第87号竪穴建物跡



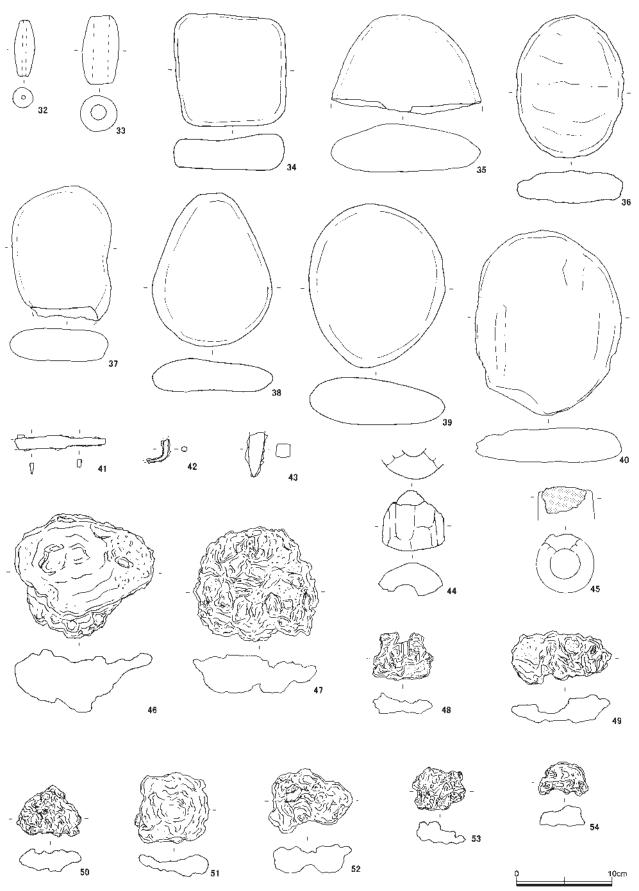
第31図 第87号竪穴建物跡遺物出土状況



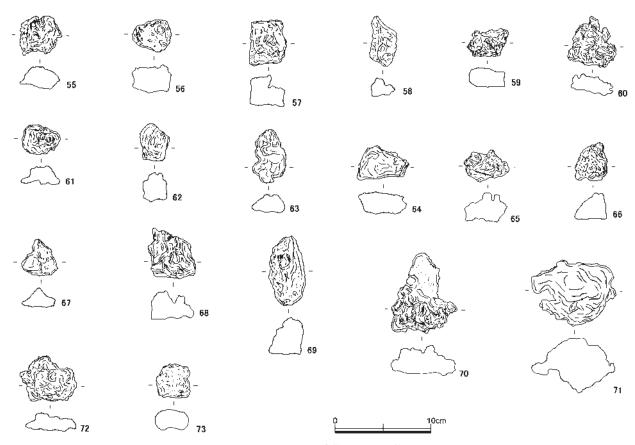
第32図 第87号竪穴建物跡出土遺物(1)



第33図 第87号竪穴建物跡出土遺物(2)



第34図 第87号竪穴建物跡出土遺物(3)



第35図 第87号竪穴建物跡出土遺物(4)

#### 第88号竪穴建物跡 (第10・36図、第9表)

第19次調査 B 区に位置し、第89号竪穴建物跡を切り、 第48号溝に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は  $N-36^{\circ}$  - Wである。カマドは北西壁やや北寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図 $1\sim4$ である。 $1\sim3$ は 須恵器で、 $1\cdot2$ は坏、3は甕である。4は土師器甕 である。

遺構の時期は8世紀と推定される。

#### 第89号竪穴建物跡(第10図)

第19次調査B区に位置し、第55号建物跡、第88号竪 穴建物跡、第48号溝に切られる。平面形態は方形で、 主軸方位は $N-60^{\circ}-E$ である。カマドは北東壁に構 築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第90号竪穴建物跡** (第37 ~ 38図、第10表)

第19次調査 C 区に位置し、第8号特殊土坑を切る。 平面形態は方形で、一辺6.8mを測る。南西壁には0.7mの張り出し部が確認された。主軸方位はN-34° -Wである。

床面はほぼ平坦で、確認面からの深さは30cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは確認されなかったが、北西壁やや南寄りに構築されると推定される。壁溝は幅 $10\sim20$ cm、床面からの深さ5cmを測る。

図示できた遺物は、第38図  $1 \sim 23$ である。  $1 \sim 8$ は土師器で、1は暗文系無文坏、 $2 \sim 7$ は暗文坏、8は暗文皿である。  $9 \sim 19$ は須恵器で、 $9 \cdot 10$ は蓋、11は坏、 $12 \cdot 13$ は盤である。14は大型の蓋であろう。 $15 \cdot 16$ は長頸瓶、 $17 \sim 19$ は甕である。 $20 \sim 23$ は土師器甕である。

遺構の時期は7世紀末頃と推定される。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存		備考
1	Н	坏	(10. 0)			АВСЕ	普	橙	10%		
2	Н	坏	(12. 3)			АВСЕ	良	にぶい赤褐	25%		
3	Н	坏	(13. 9)	3. 5		ACE	普	にぶい赤褐	30%		
4	Н	坏				ACE	普	赤褐			
5	Н	坏	(11.8)			ABCEI	普	橙	25%		
6	Н	坏	(13. 6)			ABCEI	普	暗褐	15%		
7	Н		(17. 0)			ABCEI	普	赤褐	10%		
8	Н	高台坏			5. 8	ACEI	普	にぶい橙	30%		
9	Н	高台坏			4.4	АВСЕ	普	黄橙	30%		
10	Н	高坏				ABCEI	良	赤褐	25%		
11	Н	甕	23. 8			АВСЕН	普	橙	15%		
12	S	蓋	(15. 2)	3. 3		A C G	華	灰	40%		
13	S	蓋	15. 8	2. 5		ACDGH	華	灰	80%		
14	S	蓋				ACFH	普	灰	5 %		
15	S	蓋				A C G	不良	灰	5 %		
16	S	蓋	(16. 0)			A C	良	青灰	5%		
17	S	坏	(10. 6)	3. 6	(8. 0)	A C G H	良	灰	40%		
18	S	坏	(12. 6)	4. 0	7. 3	ACGH	良	青灰	45%		
19	S	坏	(17. 2)	6. 5	10.3	ACGH	良	青灰	50%		
20	S	脚付盤	(11. 4)	0. 0	10. 5	1	普	青灰	25%		
21	ł	i	8 N			ACFHI		1			
22	S	長頸瓶	8. 0			ACFH	良	青灰	50%		
	S		(22.0)			ACH	華	灰	1007		
23	S	甑	(33. 0)			ACGHI	普	灰	10%		
24	S	甕				ACGH	良	青灰			
25	S	甕				ACFH	良	青灰			
26	S	甕				ACFH	良	青灰			
27	S	甕				A C	普	灰	=		
28	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %		
29	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %		
30	S	甕				ACFH	普	青灰	10%		
31	S	甕				ACFH	普	青灰	5 %		
32		土錘	長 5.9	幅 2.2	厚 2.1	ACEI	良	赤褐	100%	重さ	30.02 g
33		土錘	長 7.3	幅 3.9	厚 3.8	ACEI	華	にぶい橙	100%	重さ	107.94 g
34		扁平礫	長11.8	幅11.5	厚13.9					重さ	1030.07 g
35		扁平礫	長10.5	幅15.7	厚 5.1					重さ	1090.53 g
36		扁平礫	長15.2	幅11.1	厚 3.4					重さ	826. 82 g
37		扁平礫	長14.2	幅10.4	厚 3.4					重さ	$956.62\mathrm{g}$
38		扁平礫	長16.3	幅12.6	厚 3.3					重さ	1106.45 g
39		扁平礫	長17.4	幅14.2	厚 5.0					重さ	1814.73 g
40		扁平礫	長19.6	幅15.3	厚 3.7					重さ	1769.00 g
41		刀子		幅 1.2	厚 0.4					重さ	14.88 g
42		鉄釘		幅 0.5	厚 0.5					重さ	$2.36\mathrm{g}$
43		棒状鉄製品		幅 1.5	厚 1.4					重さ	34.91 g
44		羽口								重さ	$57.46\mathrm{g}$
45		羽口								重さ	$20.62\mathrm{g}$
46		椀形滓	長13.1	幅14.5	厚 5.4					重さ	1110.69 g
47		椀形滓	長21.1	幅13.0	厚 4.0					重さ	691.91 g
48		椀形滓	長 5.1	幅 6.2	厚 1.0					重さ	45.44 g
49		椀形滓	長 5.3	幅10.3	厚 2.6					重さ	133.86 g

第7表 第87号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存		備	考
50		椀形滓	長 5. 2	幅 6.7	厚 2.2					重さ	69. 79	g
51		椀形滓	長 7.5	幅 7.3	厚 2.0					重さ	133. 33	} g
52		椀形滓	長 6.4	幅 8.4	厚 3.0					重さ	182. 27	7 g
53		鉄滓	長 4.2	幅 5.6	厚 2.5					重さ	52. 29	g
54		鉄滓	長 3.4	幅 4.1	厚 2.1					重さ	41. 29	g
55		鉄滓	長 4.1	幅 4.3	厚 2.2					重さ	47.05	g
56		鉄滓	長 3.3	幅 4.1	厚 2.7					重さ	57. 46	g
57		鉄滓	長 3.9	幅 3.2	厚 2.7					重さ	90. 20	g
58		鉄滓	長 5.3	幅 2.5	厚 1.9					重さ	28.76	g
59		鉄滓	長 2.9	幅 3.8	厚 1.9					重さ	30.01	g
60		鉄滓	長 5.2	幅 5.0	厚 1.7					重さ	43.89	g
61		鉄滓	長 3.1	幅 4.2	厚 1.9					重さ	24. 56	g
62		鉄滓	長 4.0	幅 2.5	厚 3.0					重さ	43. 51	g
63		鉄滓	長 5.7	幅 3.5	厚 1.9					重さ	36. 11	g
64		鉄滓	長 3.6	幅 5.1	厚 2.3					重さ	61.45	g
65		鉄滓	長 3.5	幅 4.4	厚 3.0					重さ	19.82	g
66		鉄滓	長 3.9	幅 3.2	厚 2.7					重さ	41.06	g
67		鉄滓	長 3.8	幅 3.8	厚 1.9					重さ	29.97	g
68		鉄滓	長 5.5	幅 4.4	厚 3.0					重さ	84. 72	g
69		鉄滓	長 7.3	幅 3.8	厚 3.8					重さ	111. 26	i g
70		鉄滓	長 8.4	幅 6.8	厚 2.9					重さ	146. 18	3 g
71		鉄滓	長 6.7	幅 8.7	厚 5.8					重さ	229. 85	j g
72		鉄滓	長 4.5	幅 5.2	厚 1.5					重さ	47.66	g
73		鉄滓	長 3.6	幅 3.5	厚 2.2					重さ	31. 72	g

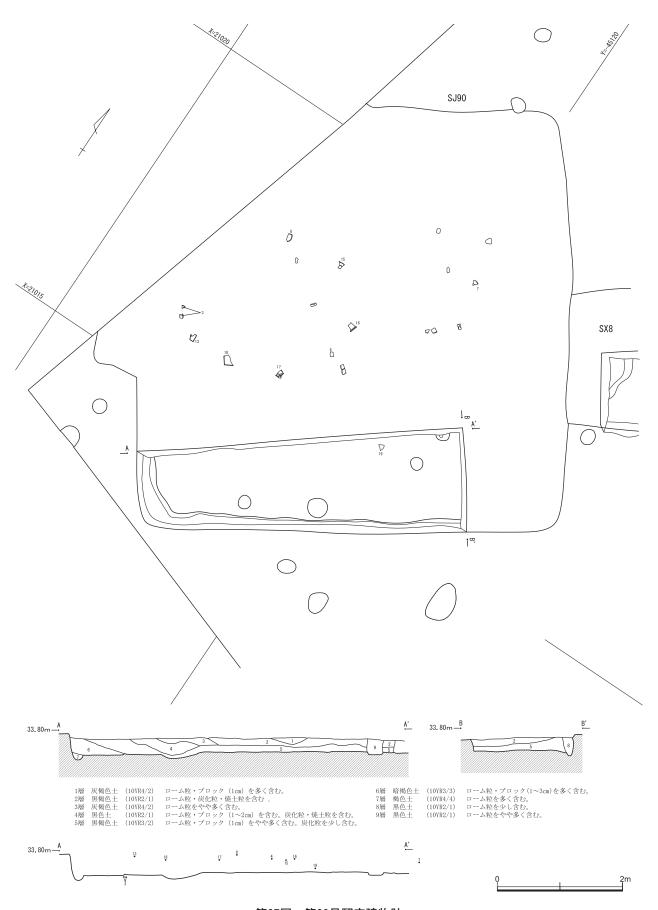
第8表 第87号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)



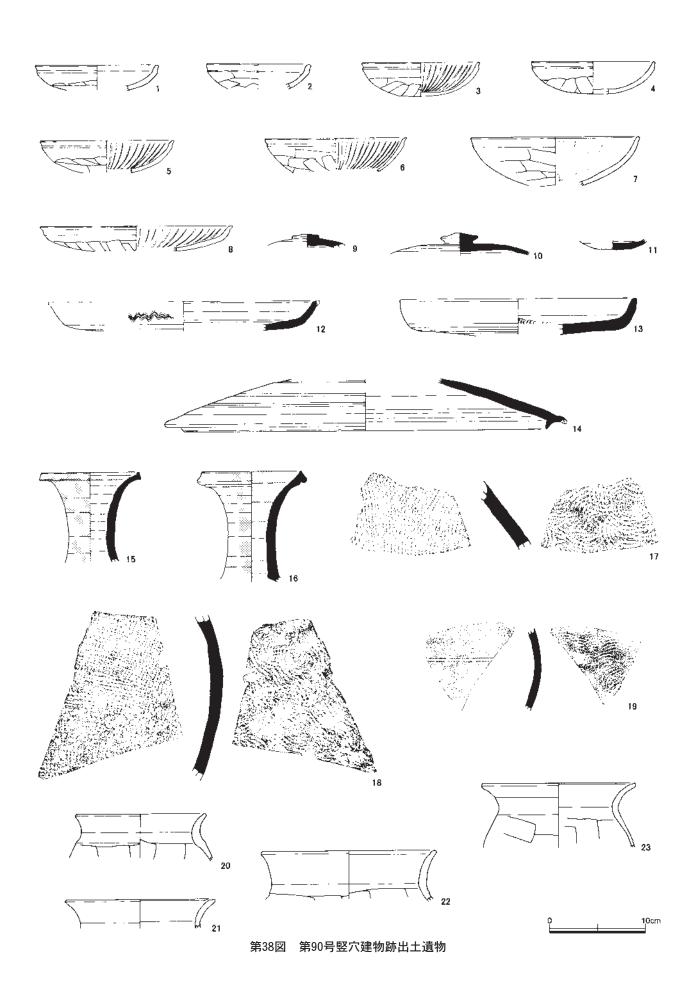
第36図 第88号竪穴建物跡出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色 調	残存	備考
1	S	坏	(12. 1)			ACFH	普	灰	15%	
2	S	坏			(7. 0)	ABCFH	不良	にぶい橙	10%	
3	S	甕				ACFH	良	青灰		
4	Н	甕	(11. 9)			ACE	普	灰褐		

第9表 第88号竪穴建物跡出土遺物観察表



第37図 第90号竪穴建物跡



-44 -

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(13. 0)			ABCEI	普	橙	20%	
2	Н	坏	(10. 4)			ACEI	普	橙	20%	
3	Н	坏	(12. 3)	3. 5		ABCE	普	橙	45%	
4	Н	坏	(12. 8)	3. 4		ACEHI	普	橙	25%	
5	Н	坏	(14. 1)			ACEI	普	赤褐	25%	
6	Н	坏	(14. 9)			ACE	普	橙	25%	
7	Н	坏	(17. 7)			ABCEI	普	灰褐	20%	
8	Н	ш	(20. 3)			ABCEI	普	赤褐	25%	
9	S	蓋				A C	不良	灰	10%	
10	S	蓋				ACFH	良	青灰	20%	
11	S	坏				A C	普	灰	25%	
12	S	盤	(28. 6)			АСН	良	褐	5 %	
13	S	盤	(24. 8)			ABCFH	普	青灰	10%	
14	S	蓋	(41. 9)			ACFH	普	灰	10%	
15	s	長頸瓶	(10. 4)			A C	良	灰	25%	内外面に自然釉
16	S	長頸瓶	10. 4			A C	良	灰	30%	内外面に自然釉
17	S	甕				ACFH	普	灰		
18	S	甕				ACFH	普	灰	5 %	
19	S	甕				АСН	良	青灰		
20	Н	甕	(13. 6)			АВСЕ	普	橙	10%	
21	Н	甕	(15. 9)			ABCEH	普	橙	10%	
22	Н	甕	(18. 4)			ABCEH	普	橙	10%	
23	Н	甕	(16. 1)			ABCEHI	普	橙	10%	

第10表 第90号竪穴建物跡出土遺物観察表

#### 第91号竪穴建物跡

第18号特殊土坑に変更したため、欠番とした。

**第92号竪穴建物跡** (第39図、第40図 1 ~ 7、第11表)

第19次調査 C 区に位置し、第7号塀跡、第9・19号特殊土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺5 mを測る。主軸方位はN-46° -E である。

掘り込みは浅く、確認面からの深さは  $5\,\mathrm{cm}$ である。 床面はほぼ平坦で、幅 $20\sim25\,\mathrm{cm}$ 、床面からの深さ  $5\,\mathrm{cm}$ 程度の壁溝がほぼ全周する。

図示できた遺物は、第40図 $1\sim7$ である。全て土師器で、1は有段口縁坏、 $2\cdot3$ は暗文坏、4は蓋、5は甕、6は台付甕、7は甑である。

遺構の時期は、切り合い等から7世紀後半と推定される。

第93号竪穴建物跡 (第11図、第40図8・9、第11表)

第19次調査 C 区に位置する。平面形態は方形で、一辺3.3mを測る。主軸方位はN-49° -Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

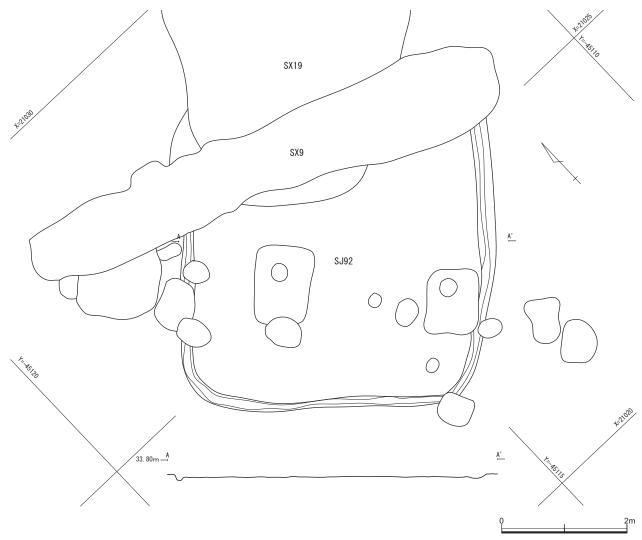
図示できた遺物は、第40図8・9である。共に土師 器坏で、8は有段口縁坏である。

遺構の時期は7世紀後半と推定される。

第94号竪穴建物跡 (第11図、第40図10  $\sim$  14、第11表) 第19次調査  $\subset$  区に位置し、第11号特殊土坑を切る。 平面形態は方形で、一辺2.5mを測る。主軸方位は  $N-41^\circ$  - Wである。カマドは北西壁やや北寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第40図 $10 \sim 14$ である。10は北 武蔵型坏、 $11 \sim 13$ は須恵器で、11は蓋、12は坏、13は瓶である。14は鉄滓である。

遺構の時期は7世紀末頃と推定される。



第39図 第92号竪穴建物跡

# 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(第 $41 \sim 68$ 図、第 $12 \sim 25$ 表)

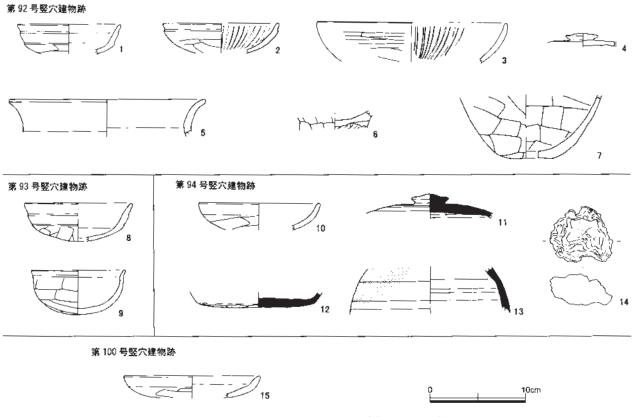
第19次調査D区に位置し、第9号塀跡北隅の区画外に、塀に沿って構築される。第21・22号特殊土坑、第47号溝を切り、第16号特殊土坑に切られる。中央ややカマド寄りの床面には第23号特殊土坑が重複するが、覆土の堆積状況は一体であり、竪穴建物廃絶後に連続して、土取り等を目的に床下を掘削したものと考えられる。

竪穴建物は、平面形態が方形で、長軸7.8m、短軸7.5 mを測る。主軸方位は $N-42^\circ-E$ である。床面は北側がやや深くなり、確認面からの深さは $40\sim70$ cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは北東

壁やや南寄りに構築される。貯蔵穴は北東隅に構築され、一辺80  $\sim$  90cmの不整方形を呈する。床面からの深さは40cmである。主柱穴は4本確認された。直径 $45\sim80$ cmを測る。壁溝は北東隅及び南東隅を除いて巡る。幅 $10\sim25$ cm、床面からの深さ $5\sim10$ cmを測る。

特殊土坑は、平面形態が不整円形で、長径3.8m、短径3.3mを測る。北から東側にかけては急角度に掘り込まれ、一部オーバーハングしている。西から南側の掘り込みは緩やかである。床面から最深部までの深さは70cmを測る。

図示できた遺物は、第46図1~第68図644である。1~340は土師器で、1~3 は模倣坏、4~54は有段



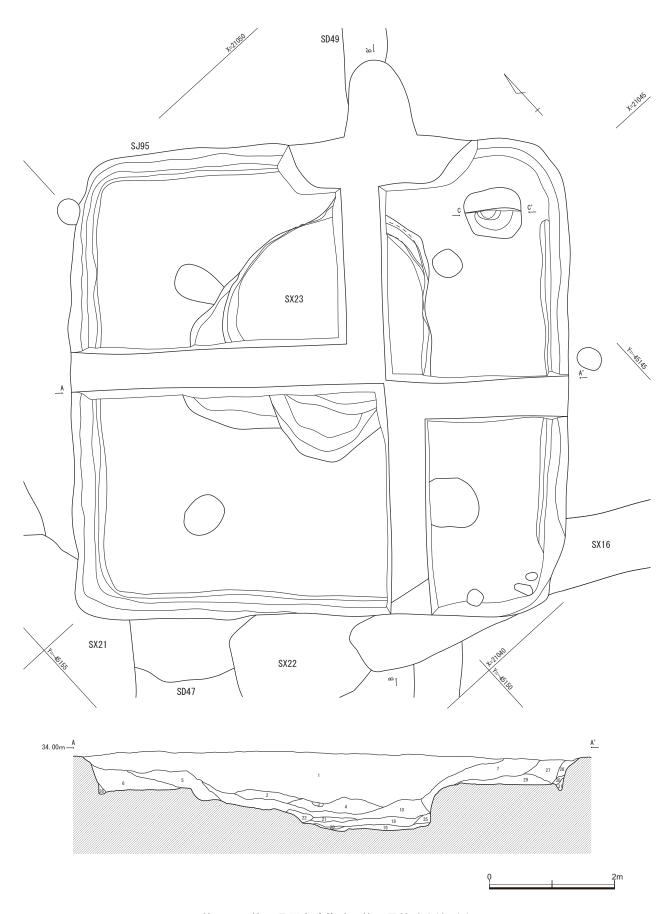
第40図 第92 ~ 94·100号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ 92	Н	坏	(10. 9)			ACE	普	暗褐	20%	
2		Н	坏	(12. 1)			ABCEI	普	暗褐	15%	
3		Н	坏	(20. 0)			ACE	良	赤褐	10%	
4		Н	蓋				ABCEI	普	橙	15%	
5		Н	甕	(20. 7)			АВСЕ	普	橙	5 %	
6		Н	台付甕				ABCEI	普	橙	10%	
7		Н	甑			4. 3	АВСЕН	良	橙	30%	
8	SJ 93	Н	坏	(11. 2)	4. 0		ACEI	普	暗褐	25%	
9		Н	坏	9. 9	4. 8		АВСЕ	普	橙	50%	
10	SJ 94	Н	坏	(12. 7)			АВСЕН	普	橙	20%	
11		S	蓋				ACFH	良	灰	25%	
12		S	坏			(12. 0)	ACDFH	普	灰	25%	
13		S	瓶				АСН	良	灰	5 %	外面に自然釉
14			鉄滓	長 5.3	幅 6.5	厚 3.2					重さ 124.92g
15	SJ 100	Н	Ш	(14. 2)			АСЕ	普	暗褐	15%	

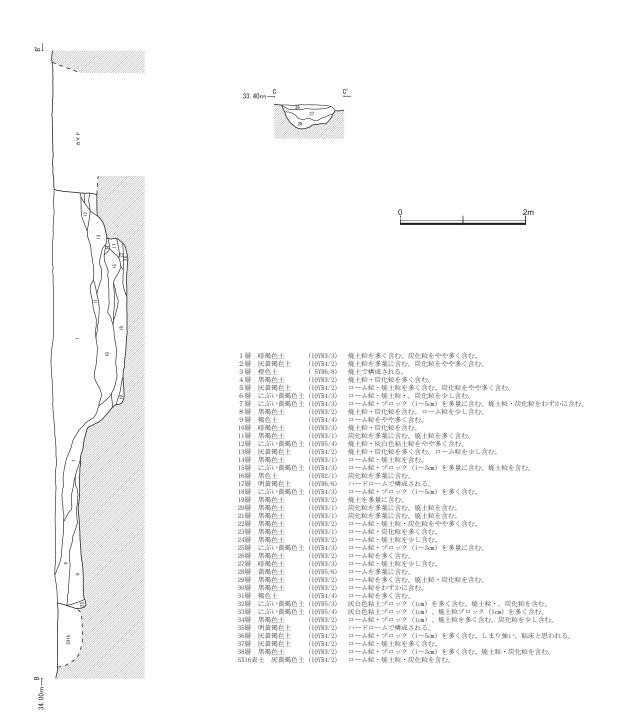
第11表 第92~94·100号竪穴建物跡出土遺物観察表

口縁坏、 $55\sim57$ は続比企型坏、 $58\sim81$ は北武蔵型坏、 $82\sim284$ は暗文坏である。 $150\sim153$ は「 $\times$ 」等の線刻が施される。 $285\sim287$ は暗文系無文坏、288はミガキが施された椀、 $289\cdot290$ は鉢、 $291\sim326$ は暗文

皿、327は皿、328は脚付盤である。329は托と考えられ、暗文が施される。 $330 \sim 332$ は蓋と思われる。 $333 \sim 340$ は「 $\times$ 」等の線刻が施された坏である。 $341 \sim 468$ は須恵器で、 $341 \sim 343$ は坏H蓋、 $344 \sim 347$ は坏H、



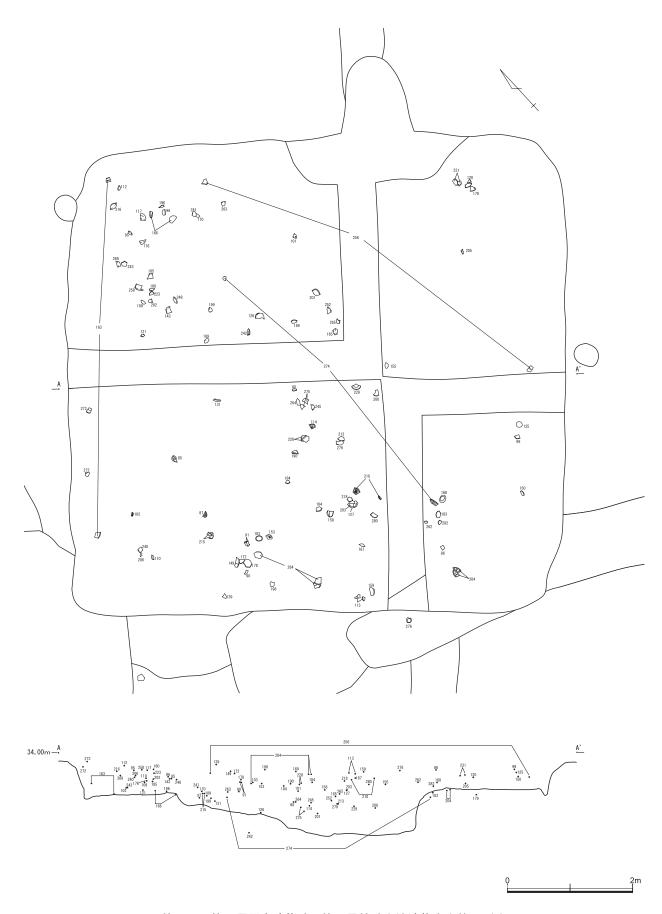
第41図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(1)



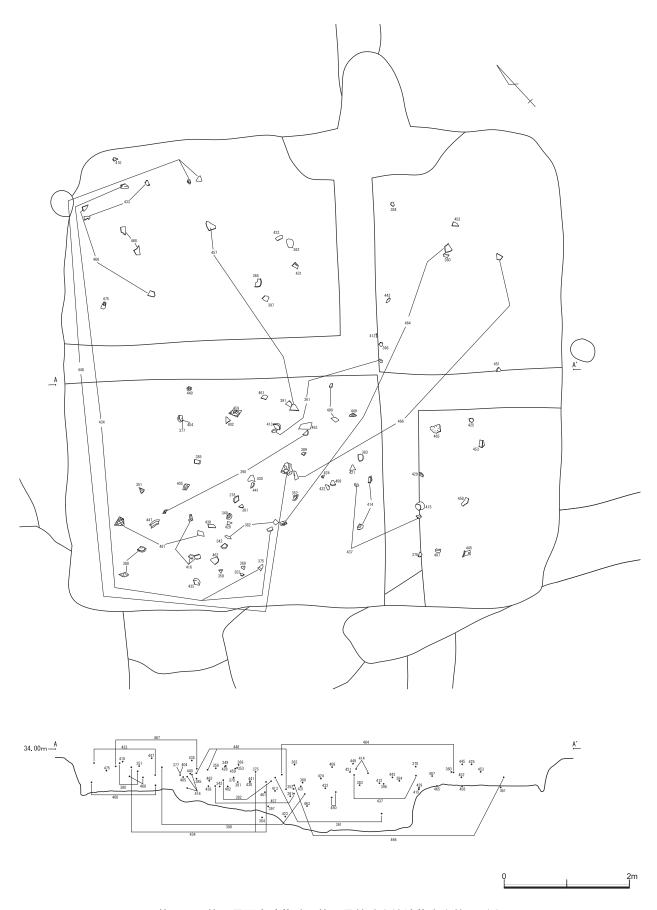
第42図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(2)

 $348 \sim 399$ は蓋、 $400 \sim 412 \cdot 426 \sim 429$ は坏、 $413 \sim 425$ は高台坏である。430は大型の蓋である。 $431 \sim 438$ は盤、 $439 \sim 441$ は脚付盤である。442は円面硯であるう。 $443 \sim 445 \cdot 456$ は瓶、 $446 \sim 455 \cdot 457 \sim 468$ は甕である。 $469 \sim 598$ は土師器で、 $469 \sim 589$ は甕、 $590 \sim 598$ は台付甕である。 $599 \sim 620$ は土錘、621は土玉である。622は鉄鏃、623は鉄製門金具、 $624 \sim 425$ 

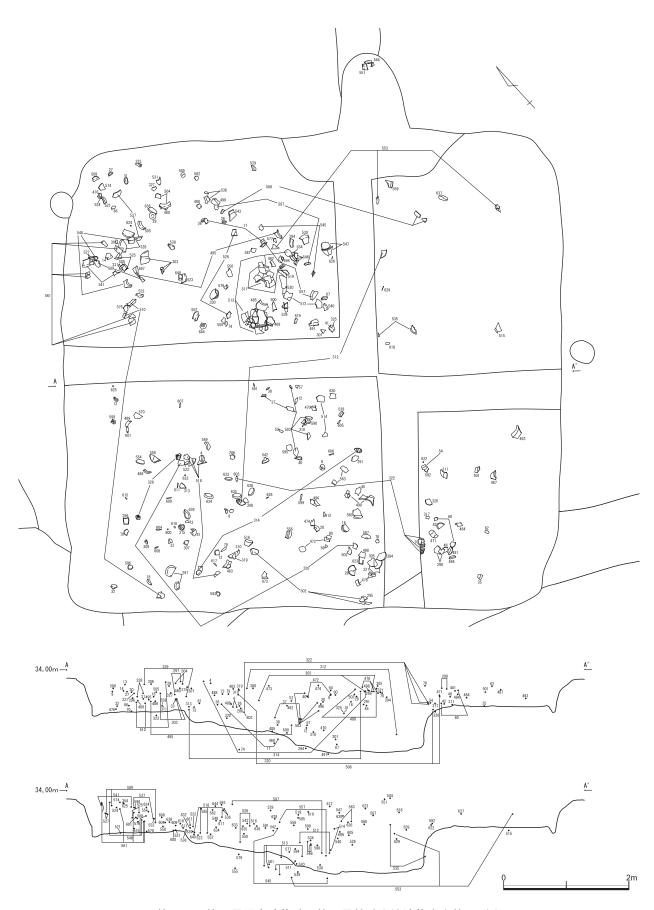
627は鉄釘、 $628 \cdot 629$ は棒状鉄製品、 $630 \sim 632$ は鉄滓、 $633 \sim 639$ は編物石である。640は人面線刻土製品である。円柱状で、上端が平たい形態から、土製支脚の可能性が高い。眉、目、鼻、鼻孔が表現され、漆喰状のもので白く塗られている。「竃神」を表現したものと思われる。 $641 \sim 644$ は混入したものと思われ、 $641 \sim 643$ は須恵器坏、644はロクロ土師器高台坏である。



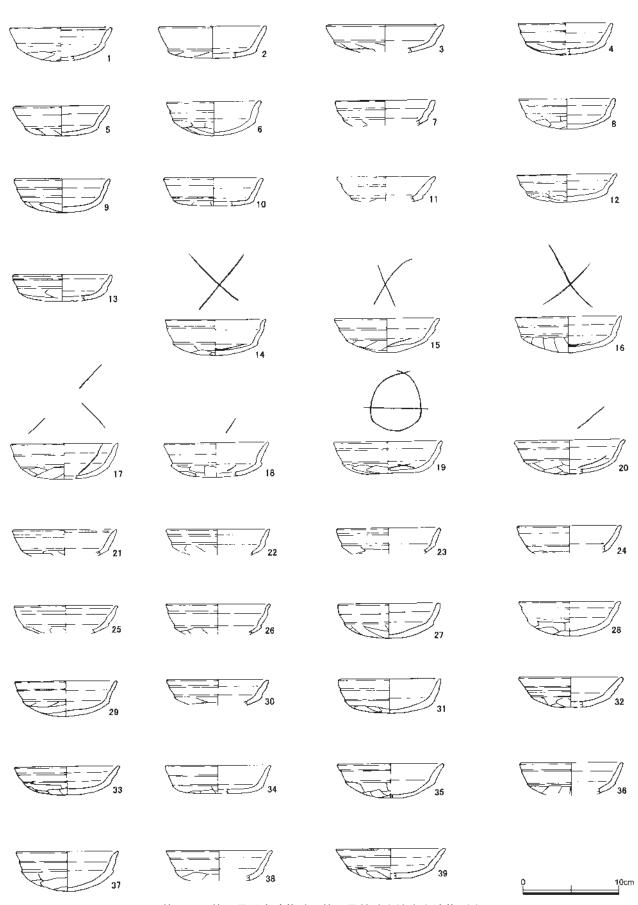
第43図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況(1)



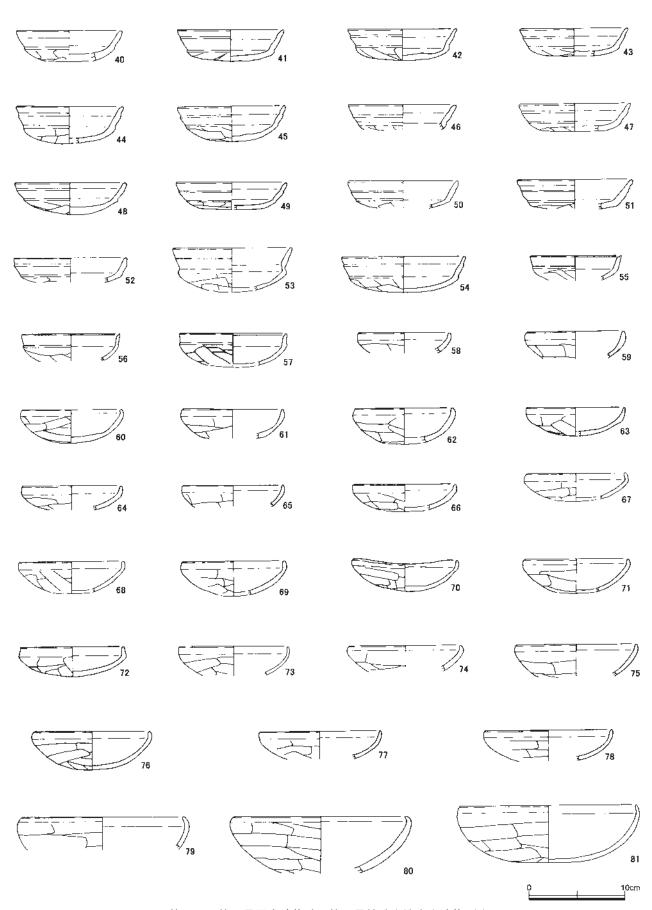
第44図 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑遺物出土状況(2)



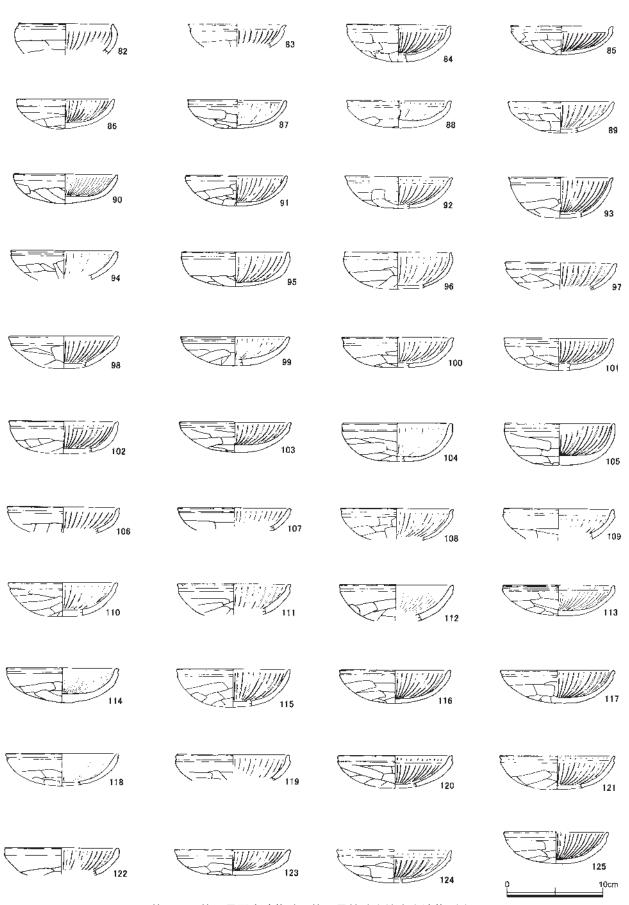
第45図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑遺物出土状況 (3)



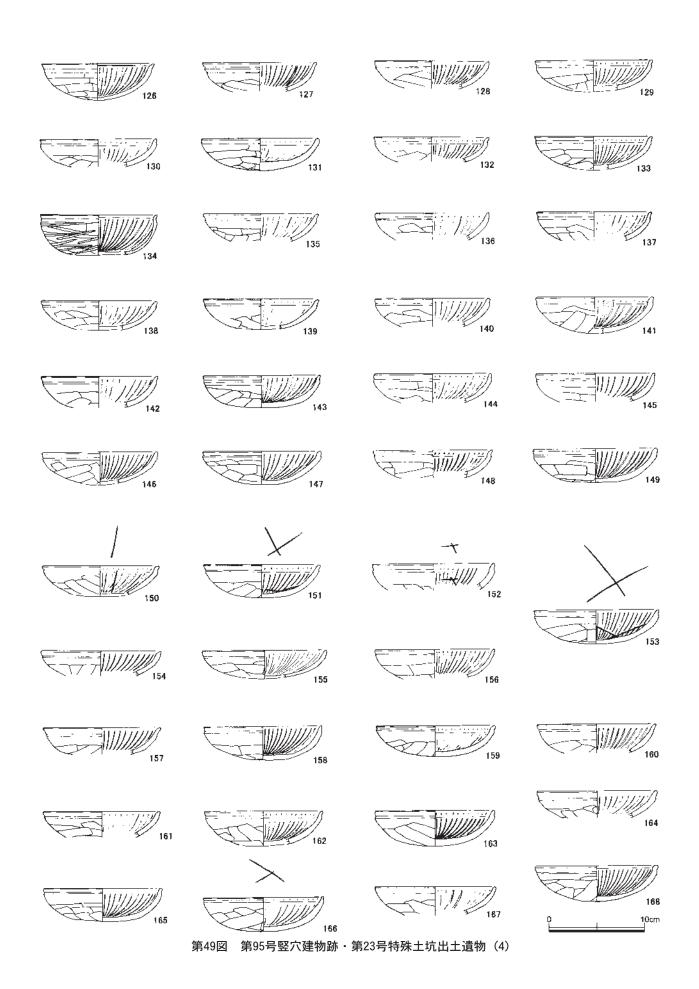
第46図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(1)

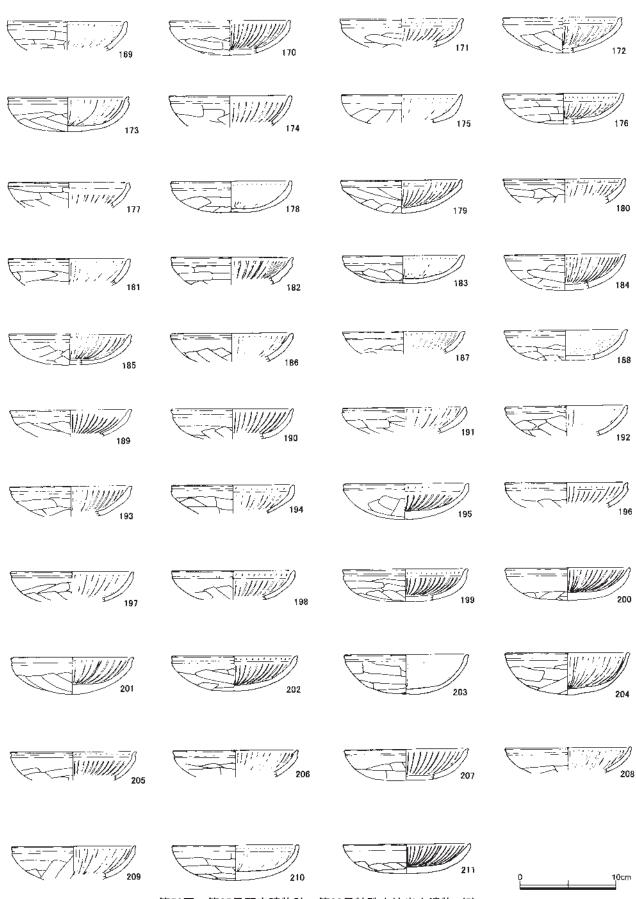


第47図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(2)

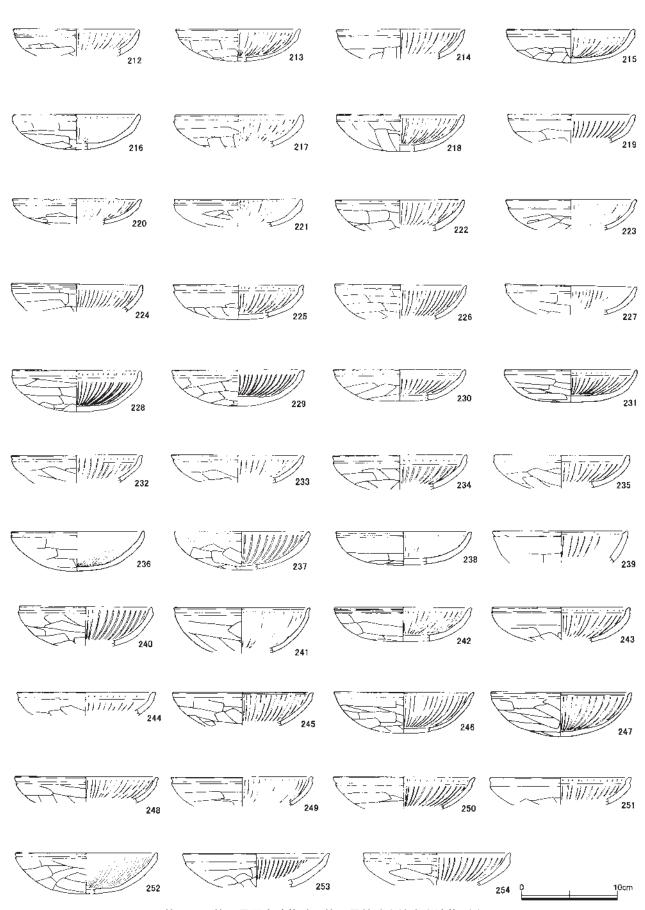


第48図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(3)

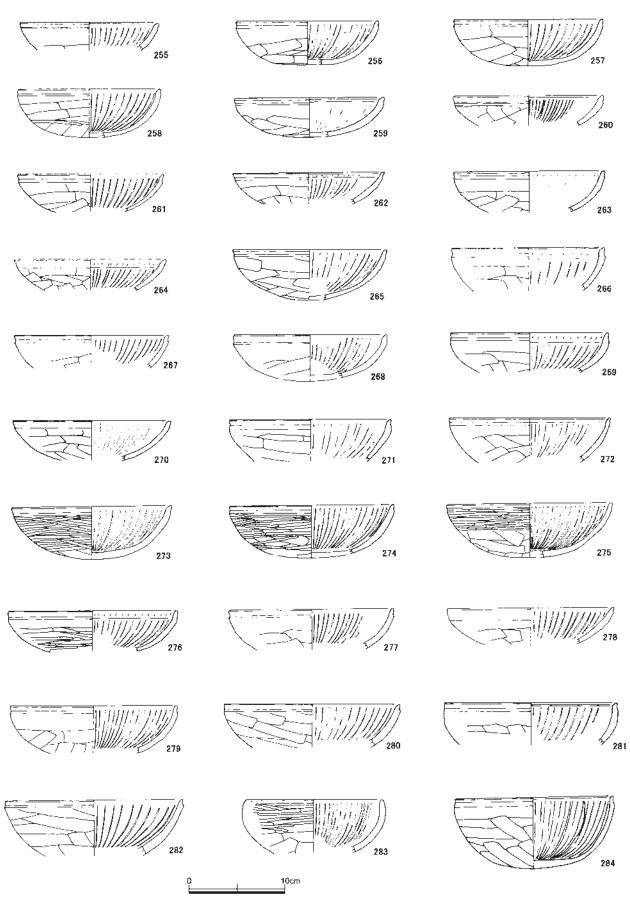




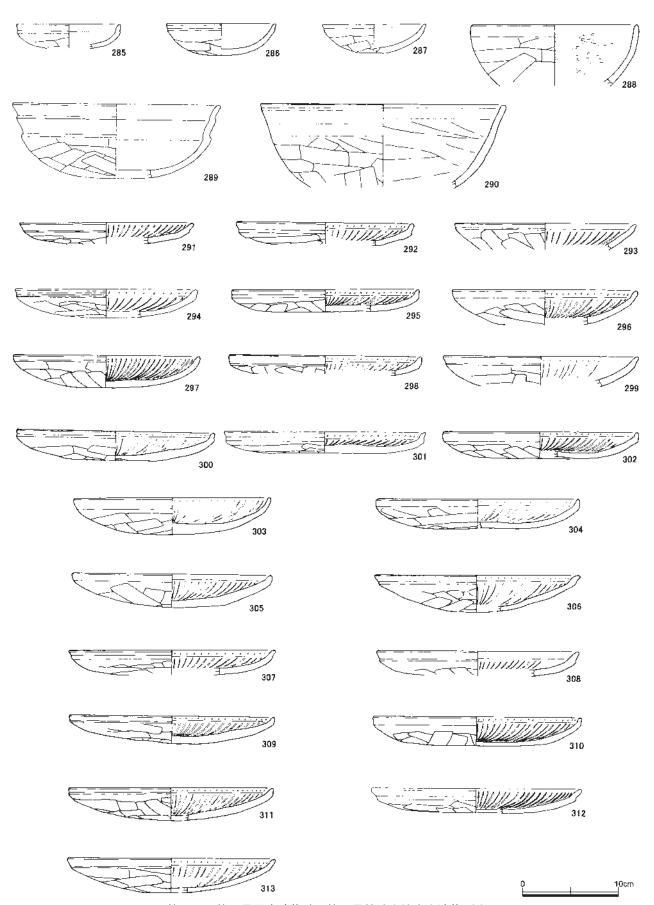
第50図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(5)



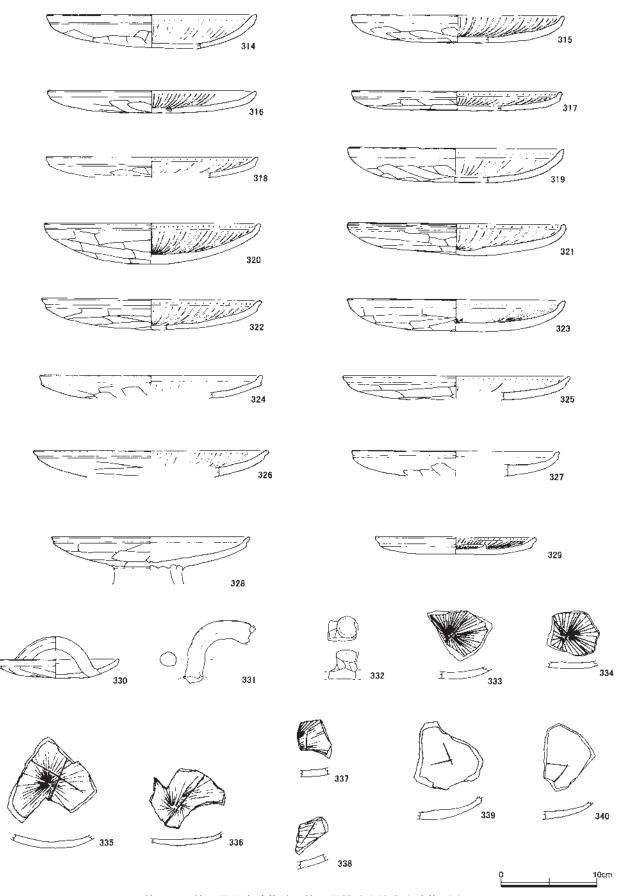
第51図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物 (6)



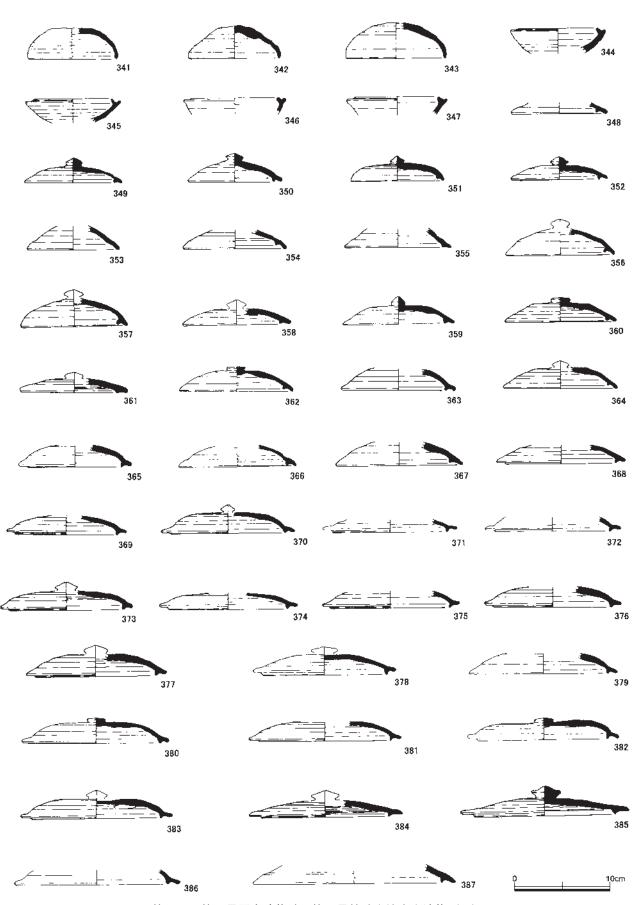
第52図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(7)



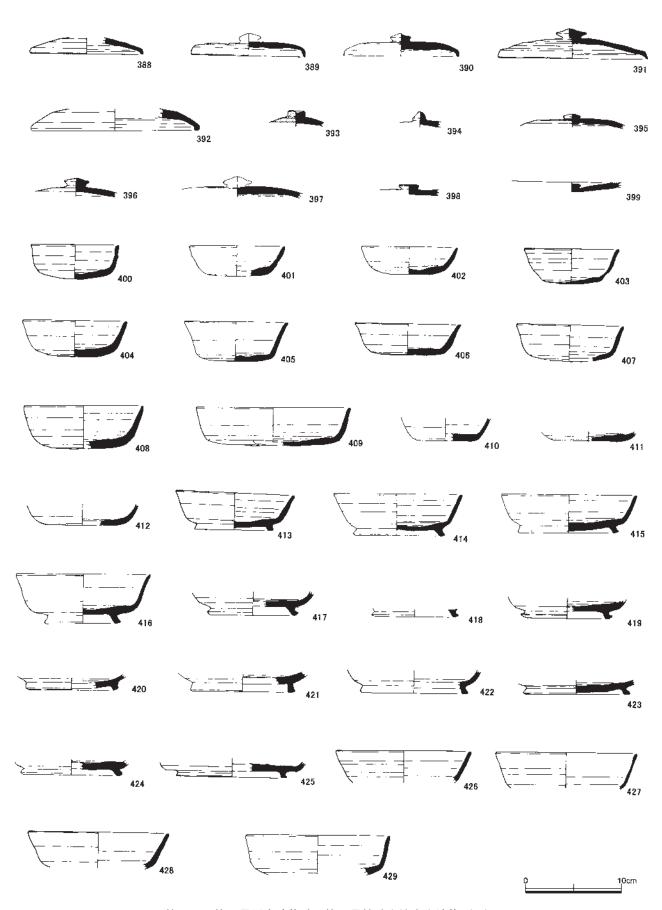
第53図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(8)



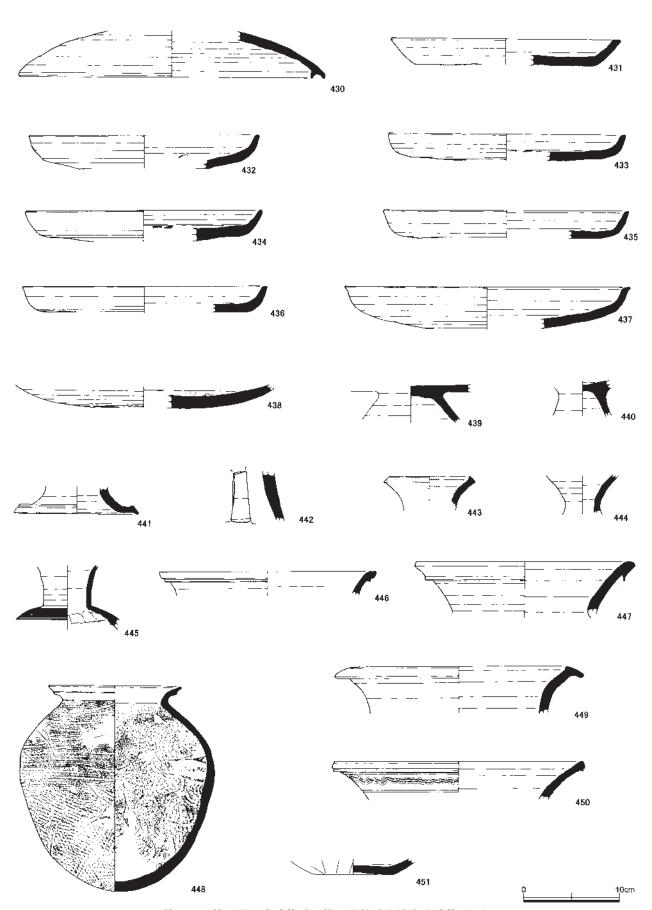
第54図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(9)



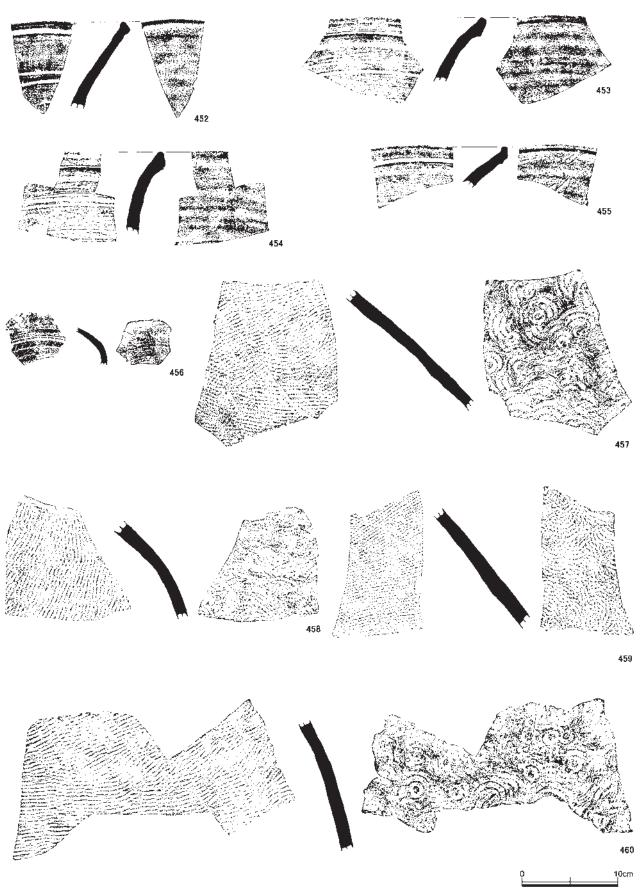
第55図 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑出土遺物(10)



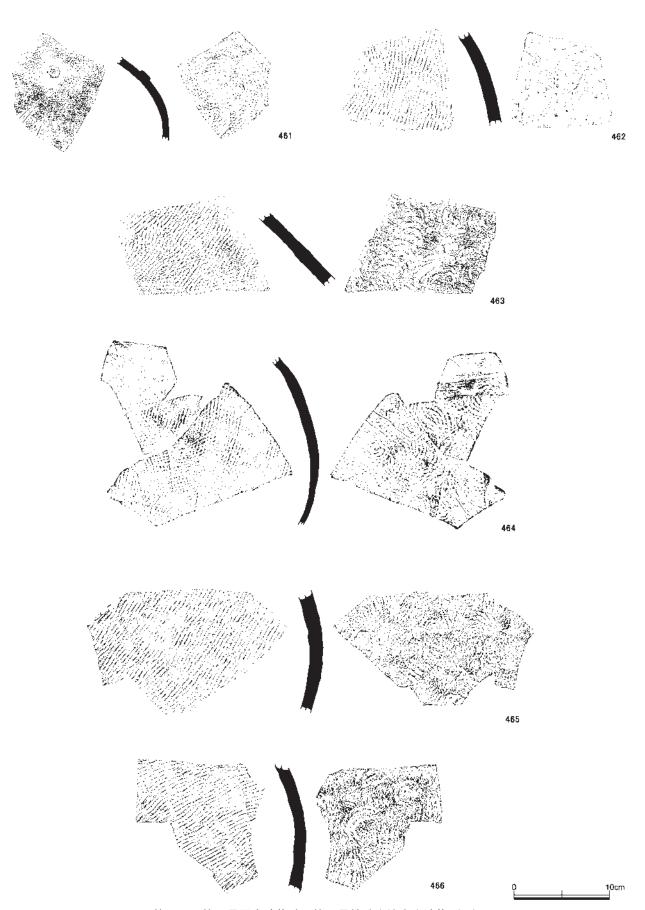
第56図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(11)



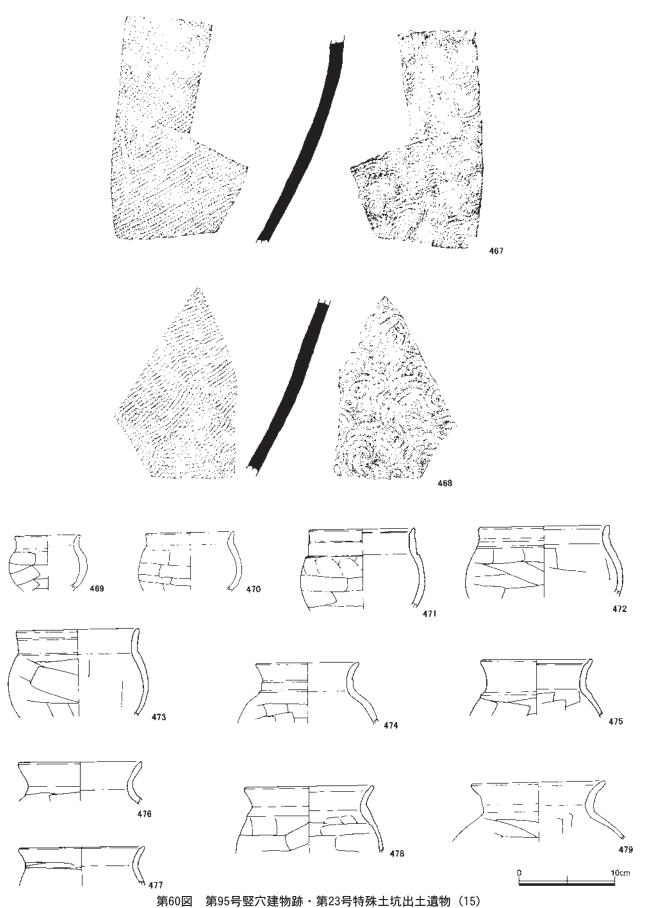
第57図 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑出土遺物(12)



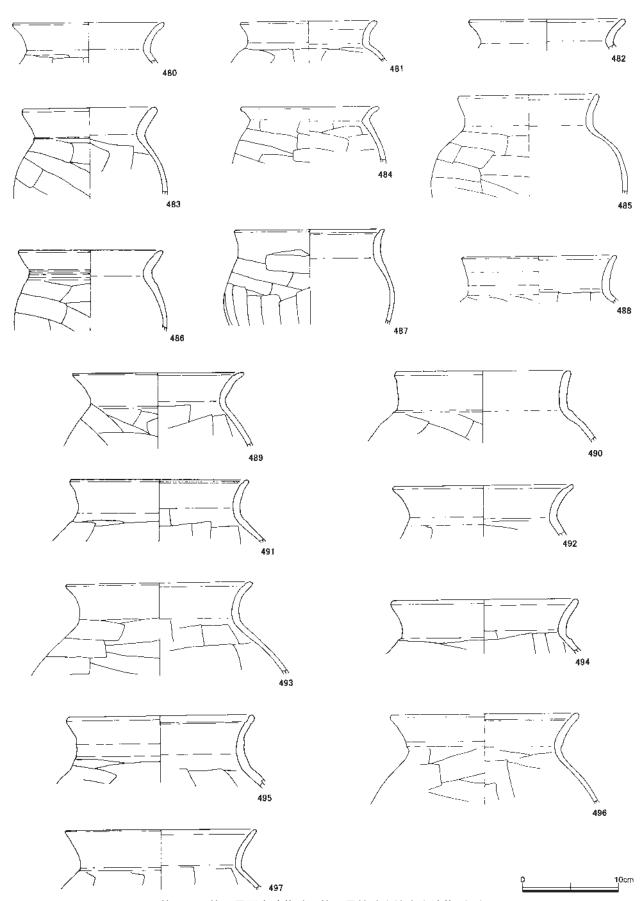
第58図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(13)



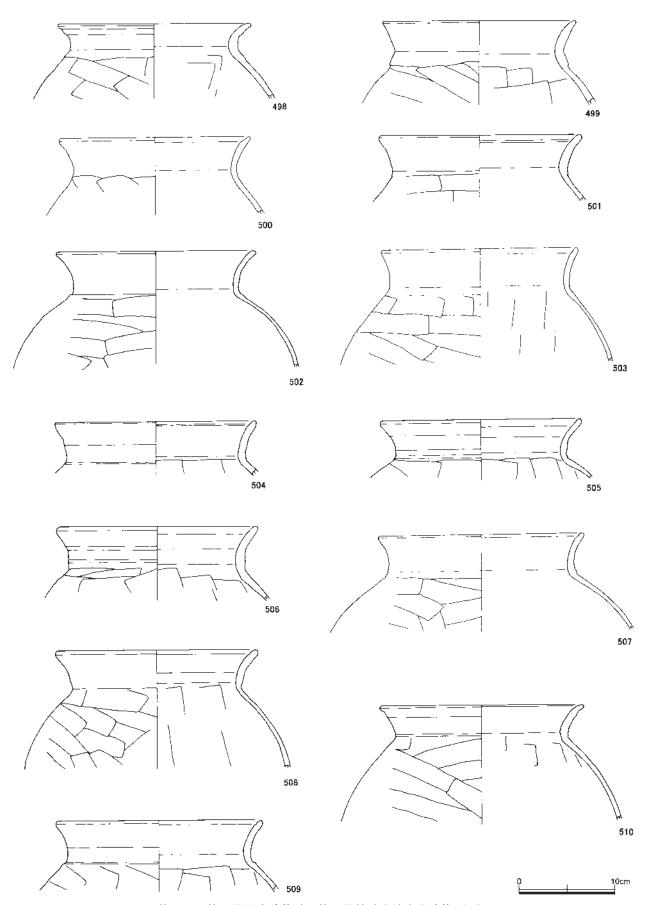
第59図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(14)



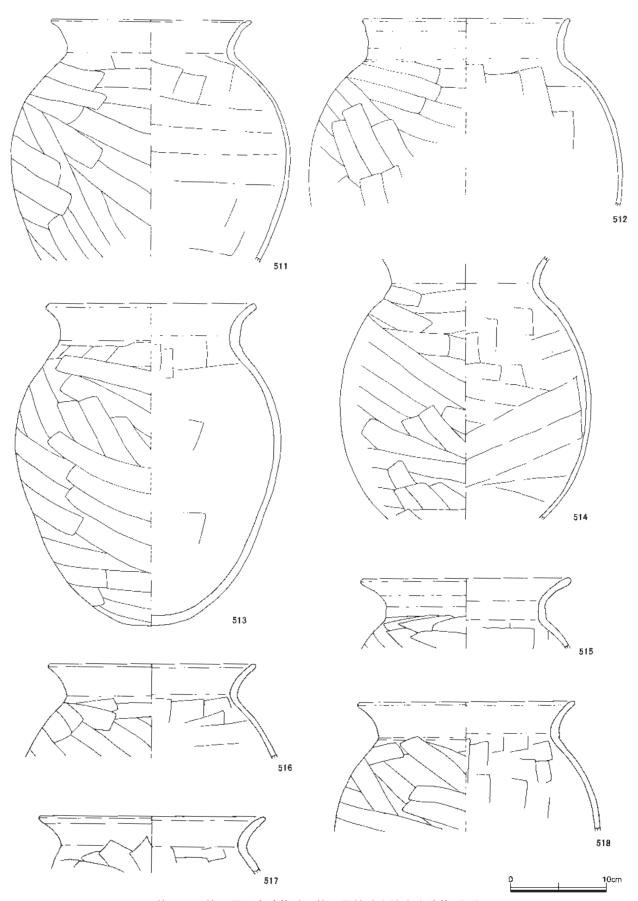
Alecel Alecel Trivial Alecel Mark Talent Mark



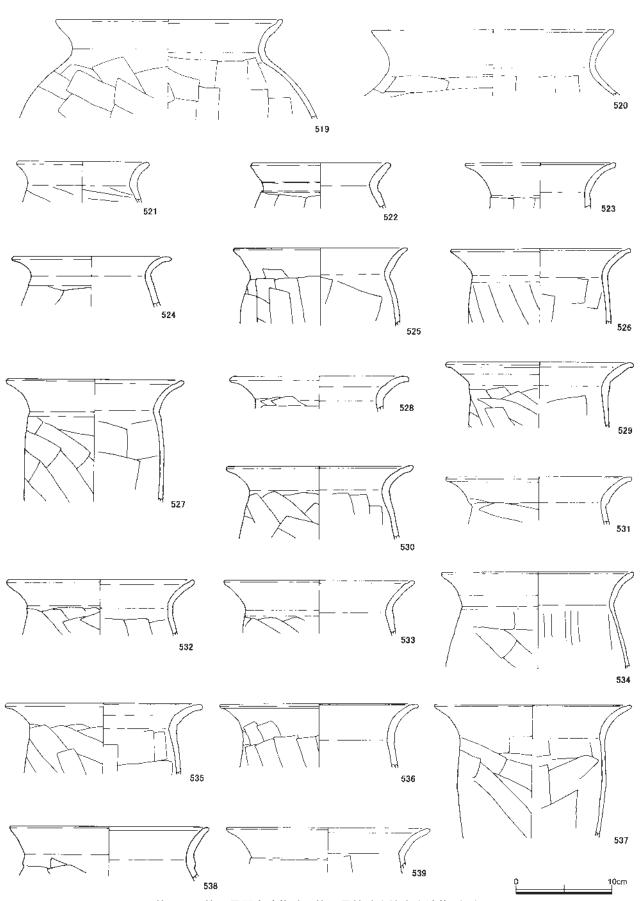
第61図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(16)



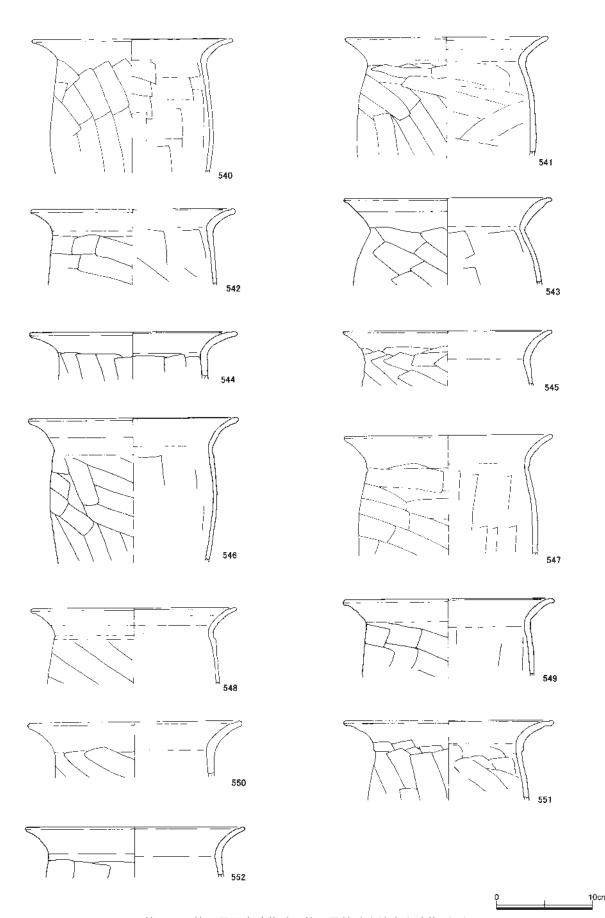
第62図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(17)



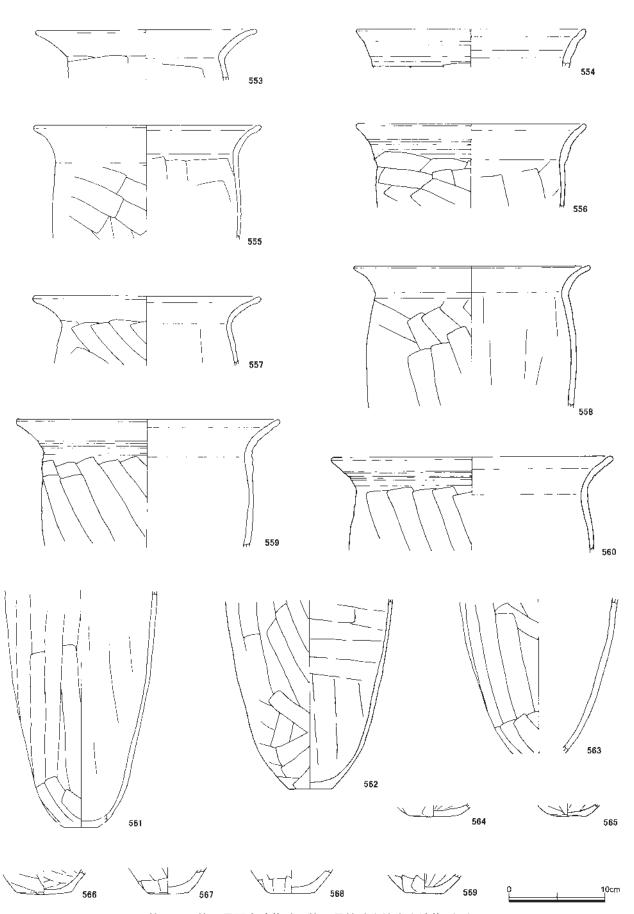
第63図 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑出土遺物(18)



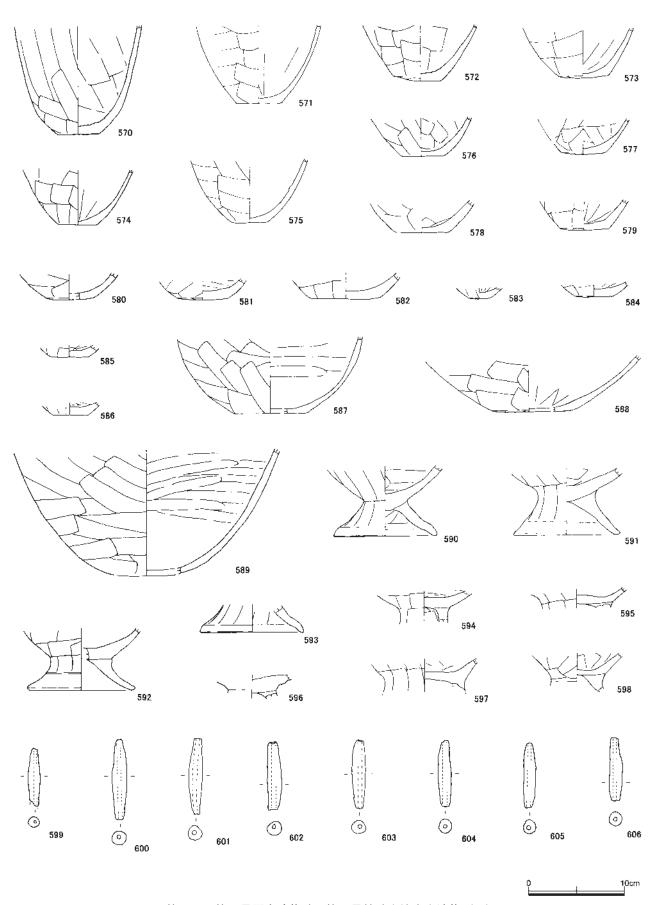
第64図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(19)



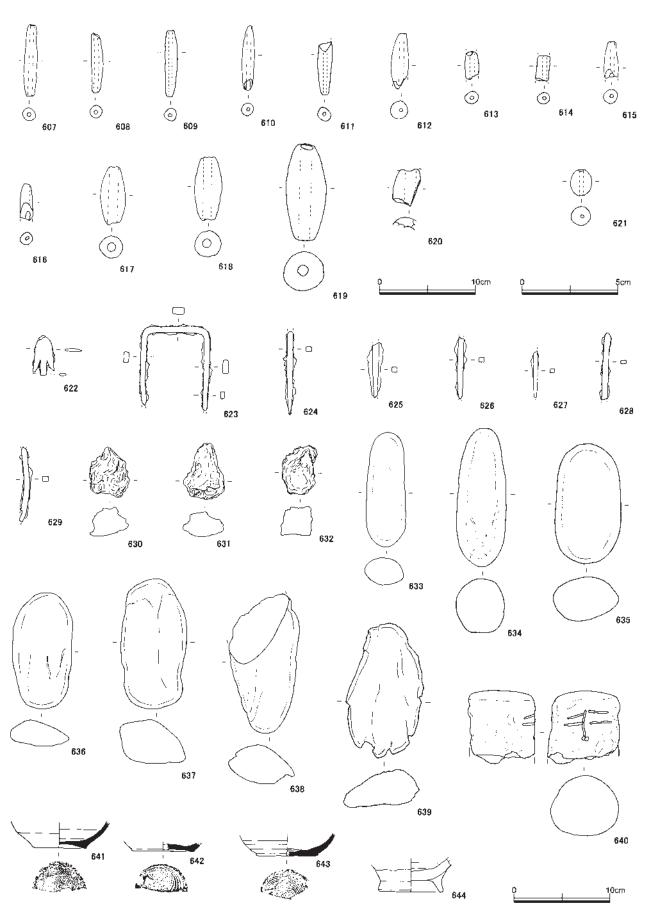
第65図 第95号竪穴建物跡·第23号特殊土坑出土遺物(20)



第66図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(21)



第67図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(22)



第68図 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物(23)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(10.6)	(3. 5)		АВСН	普	灰褐	20%	
2	Н	坏	(11. 2)	(3. 4)		ACE	普	暗褐	25%	
3	Н	坏	(12. 2)			ABCD	良	橙	25%	
4	Н	坏	(9.9)	3. 3		АВСН	良	橙	40%	
5	Н	坏	10.0	3. 1		ABCDE	普	にぶい橙	50%	
6	Н	坏	9.8	3. 6		ACE	普	にぶい橙	85%	
7	Н	坏	(10. 3)			A C	普	灰褐	20%	
8	Н	坏	10.0	3. 2		ACE	普	橙	90%	
9	Н	坏	(10.0)	3. 6		A C	普	にぶい橙	50%	
10	Н	坏	(10.4)	(3. 0)		ABCE	普	橙	25%	
11	Н	坏	(10. 2)			ABCEH	普	橙	20%	
12	Н	坏	10. 5	3. 0		ABCE	良	にぶい橙	90%	
13	Н	坏	10. 4	(2. 9)		ACE	普	灰褐	50%	
14	Н	坏	(10. 5)	3. 8		ABCE	良	橙	60%	  内面に「×」の線刻
15	Н	坏	(10. 9)	3. 6		A C	普	黒褐	30%	内面に「×」の線刻
16	Н	坏	11. 1	3. 8		ACEH	良	橙	75%	内面に「×」の線刻
17	Н	坏	11. 2	(3. 7)		ABCE	普	黒褐	60%	内面に「×」の線刻
18	Н	坏坏	(10. 9)	(3. 6)		ACE	普	灰褐	30%	内面に線刻
19		坏	11. 3	3. 4		ABCE	普		75%	内面に線刻
20	Н							にぶい橙		
	Н	坏	11. 5	3. 5		ABCEI	良	橙	50%	内面に線刻
21	Н	坏	(11. 0)			ACE	普	にぶい橙	20%	
22	H	坏	10. 8			ACE	普	にぶい橙	50%	
23	Н	坏	(10. 8)			ACE	普	にぶい橙	20%	
24	Н	坏	(10. 8)			ACE	普	にぶい橙	20%	
25	Н	坏	(10.8)			ACE	普	灰褐	20%	
26	Н	坏	(10.8)			ABCE	普	にぶい橙	20%	
27	Н	坏	10.6	3. 7		ABCEH	良	橙	50%	
28	Н	坏	10.6	3. 6		ABCE	普	灰褐	80%	
29	Н	坏	10. 7	3. 8		ACE	良	橙	95%	
30	Н	坏	(10. 6)			ABCE	普	橙	20%	
31	Н	坏	(10. 6)	3. 6		ACE	良	橙	45%	
32	Н	坏	(10.7)	3. 2		ACE	普	黒褐	25%	
33	Н	坏	(11. 0)	3. 0		ACEH	普	にぶい橙	25%	
34	Н	坏	(11. 0)	3. 0		ACE	普	にぶい橙	25%	
35	Н	坏	(11. 1)	3. 6		ABCDE	良	橙	30%	
36	Н	坏	(10.6)			ABCE	普	にぶい橙	20%	
37	Н	坏	10.8	4. 2		ABCDE	良	橙	50%	
38	Н	坏	(11.0)			ABCDE	普	橙	25%	
39	Н	坏	(11.4)	3. 2		ACEH	良	赤褐	45%	
40	Н	坏	(11. 0)	(3. 3)		ACE	普	灰褐	20%	
41	Н	坏	(11. 0)	3. 3		АВСЕ	良	にぶい橙	50%	
42	Н	坏	11. 4	3. 3		ACE	普	にぶい橙	50%	
43	Н	坏	(11. 2)	2. 9		АВСЕ	普	橙	20%	
44	Н	坏	(11. 2)	3. 9		A C	普	灰褐	20%	
45	Н	坏	(11. 0)	3. 7		АВСЕ	普	暗褐	50%	
46	Н	坏	(11. 3)			ABCI	普	黒褐	20%	
47	Н	坏	(11. 6)	2. 9		ABCDE	普	橙	20%	
48	Н	坏	11. 7	3. 4		ABCE	普	灰褐	60%	
49	Н	坏	(11. 5)	2. 9		ABCE	普	黒褐	20%	

第12表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
50	Н	坏	(11.4)			АВСЕН	不良	灰褐	20%	
51	Н	坏	(12. 0)			АВСЕ	普	赤褐	20%	
52	Н	坏	(11. 8)			ACE	良	黒褐	20%	
53	Н	坏	(12. 4)	(4.7)		ACE	普	にぶい橙	25%	
54	Н	坏	(12. 9)	3. 8		ABCEI	良	橙	40%	
55	Н	坏	(9.5)			АВСН	良	橙	15%	内外面赤彩
56	Н	坏	(10. 3)			АВСН	良	赤褐	25%	内外面赤彩
57	Н	坏	(11. 1)	(3. 6)		АВСН	良	橙	25%	内外面赤彩
58	Н	坏	(9.6)			ACEI	普	橙	20%	
59	Н	坏	(10. 0)			ACI	普	橙	20%	
60	Н	坏	10. 4	3. 5		ACEI	良	橙	70%	
61	Н	坏	(10. 4)	0.0		ABCDE	普	にぶい橙	25%	
62	Н	坏	(10. 2)	(3. 8)		ACD	普	橙	25%	
63	Н	坏	10. 1	3. 0		ACE	普	橙	50%	
64	H	坏	(10. 4)	5. 0		ACE	普	橙	25%	
						1		ł		
65 ee	H	坏	(10. 4)	(9, 0)		A C	普	橙	20%	
66	H	坏	(10. 7)	(2. 9)		ACE	普	にぶい橙	20%	
67	H	坏	(10. 3)	(2. 9)		ABCEI	普	橙	25%	
68	Н	坏	11. 0	(3. 4)		ACEHI	普	橙	45%	
69	Н	坏	(10.7)	(3. 7)		ACEI	普	にぶい橙	25%	
70	Н	坏	(11. 0)	3. 8		ACEHI	普	橙	45%	
71	Н	坏	(11. 0)	(3. 6)		ACEHI	普	橙	25%	
72	Н	坏	(11.0)	3. 1		ACEHI	普	橙	70%	
73	Н	坏	(11. 4)			ACEI	普	橙	20%	
74	Н	坏	(11.6)			ACEHI	普	橙	20%	
75	Н	坏	(12. 6)			ACEI	普	橙	20%	
76	Н	坏	(12. 1)	4. 1		ACEHI	普	橙	45%	
77	Н	坏	(12. 7)			ACEI	普	橙	20%	
78	Н	坏	(13. 4)			ACEI	普	にぶい橙	20%	
79	Н	坏	(17. 0)			ACEI	普	橙	15%	
80	Н	坏	18. 2			ACEI	普	橙	35%	
81	Н	坏	(18. 6)	6. 0		ACEI	普	橙	30%	
82	Н	坏	(10.0)			АВСЕ	普	橙	20%	
83	Н	坏	(10.0)			ACEI	良	赤褐	20%	
84	Н	坏	(11. 0)	4. 0		ACE	普	赤褐	25%	
85	Н	坏	(10. 8)	3. 0		АСЕН	良	橙	50%	
86	Н	坏	(10. 1)	3. 2		ACE	普	橙	25%	
87	Н	坏	10. 3	3. 0		АВСЕН	良	赤褐	70%	
88	Н	坏	(11. 0)	2. 9		ABCE	普	橙	55%	
89	Н	坏	(11. 0)	(3. 3)		ACDE	普	橙	25%	
90	H	坏	(11. 0)	3. 1		ACEH	不良	橙橙	45%	
91	H	坏	10. 7	3. 2		ABCEH	良	橙	80%	
92	Н	坏坏	(11. 2)	3. 4		ACE	普	赤褐	30%	
93			1	i		i		i		
	H	坏	(10. 9)	(4. 3)		ABCEI	普	橙	30%	
94	H	坏	(11. 2)	9.7		ABCE	普	橙	25%	
95	H	坏	(11. 2)	3. 7		ABCEI	普	赤褐	40%	
96	Н	坏	(11. 2)	(3. 9)		АВСЕ	普	橙	25%	
97	Н	坏	11.6			ABCDEH	普	橙	40%	
98	Н	坏	(11. 5)	(3. 4)		АВСЕ	良	橙	20%	

第13表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(2)

	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
99	Н	坏	(11. 3)	3. 0		ABCDE	普	橙	25%		
100	Н	坏	(11.6)	3. 2		ACE	普	黒褐	25%		
101	Н	坏	11.4	3. 4		АВСЕ	普	橙	50%		
102	Н	坏	(11. 5)	(3. 4)		АВСЕ	普	赤褐	30%		
103	Н	坏	11.6	3. 7		АВСЕН	普	にぶい橙	95%		
104	Н	坏	11. 4	4. 0		ACE	普	橙	50%		
105	Н	坏	(11. 5)	4. 4		ACE	普	橙	40%		
106	Н	坏	(11. 8)			ACE	普	橙	20%		
107	Н	坏	(11. 8)			ACEI	普	赤褐	20%		
108	Н	坏	(12. 0)			ABCEI	普	にぶい赤褐	20%		
109	Н	坏	(11. 4)			ACE	普	赤褐	20%		
110	Н	坏	(11. 4)	(3. 6)		ACEI	良	橙	25%		
111	Н	坏	(11. 4)	(0.0)		ABCE	普	白橙	15%		
112	Н	坏	(12. 0)			ACE	普	にぶい橙	25%		
113	H	坏	11. 7	3. 2		ABCEI	普	にぶい橙	50%		
								1			
114	Н	坏	(11. 8)	3. 6		ABCEHI	普	橙	50%		
115	Н	坏	(11. 8)	(4. 0)		ABCE	普	橙	30%		
116	H	坏	(11. 6)	3. 5		ACEI	普	赤褐	50%		
117	Н	坏	11. 8	3. 5		ABCDE	良	橙	60%		
118	Н	坏	(12. 0)	(3. 9)		ABCE	良	橙	20%		
119	Н	坏	(11. 8)			ABCE	普	灰褐	15%		
120	Н	坏	(12. 0)	(3. 5)		ABCEI	普	赤褐	45%		
121	Н	坏	(12. 0)	(3. 5)		ABCEHI	良	橙	40%		
122	Н	坏	(11. 9)			АВСЕ	普	にぶい赤褐	15%		
123	Н	坏	(12. 1)	2. 7		АВСЕ	良	赤褐	25%		
124	Н	坏	(11. 9)	3. 4		ABCEI	良	橙	30%		
125	Н	坏	10. 9	3. 4		АВСЕ	良	橙	100%		
126	Н	坏	(11. 9)	3. 9		ACE	良	橙	45%		
127	Н	坏	12.0			АВСЕ	良	橙	45%		
128	Н	坏	(11. 8)			ACEI	普	にぶい橙	20%		
129	Н	坏	(12. 2)	(3. 3)		ABCEI	普	橙	25%		
130	Н	坏	(12. 2)			ABCEI	普	橙	20%		
131	Н	坏	(12. 2)	3. 3		ABCEHI	普	橙	40%		
132	Н	坏	(12. 0)			ACE	普	橙	20%		
133	Н	坏	(12. 2)	(3. 6)		ABCEI	普	橙	20%		
134	Н	坏	(12. 3)	(4. 3)		АВСЕ	良	橙	30%		
135	Н	坏	(12. 0)			АСЕ	普	にぶい橙	20%		
136	Н	坏	(11. 8)			АСЕН	普	橙	20%		
137	Н	坏	(12. 0)			ABCEI	普	橙	25%		
138	Н	坏	(12. 2)	(3. 1)		АВСЕ	普	橙	20%		
139	Н	坏	(12. 0)	(3. 2)		ABCE	普	橙	25%		
140	Н	坏	(11. 8)	(0. 2)		ABCEH	普	にぶい橙	20%		
141	Н	坏	(12. 2)	3. 8		ABCEI	普	橙	30%		
142		坏	(12. 2)	9.0		ACDE	普	橙	20%		
143	Н		i .	3. 4		i i		橙橙	40%		
	H	坏	(12. 2)	ə. 4		ABCDE	普				
144	Н	坏	(12. 2)			ABCE	普	橙	20%		
145	H	坏	(12. 3)	/O =:		ABCEH	普	橙	15%		
146	Н	坏	(12. 0)	(3.5)		ABCEHI	普	にぶい橙	30%		

第14表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表 (3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
148	Н	坏	(12. 4)			ACEI	普	橙	25%	
149	Н	坏	(12. 8)	3. 6		ACEI	普	橙	50%	
150	Н	坏	(12. 2)	(3. 2)		АВСЕ	良	橙	25%	内面に線刻
151	Н	坏	(12. 2)	3. 5		ACE	普	赤褐	25%	内面に「×」の線刻
152	Н	坏	(12. 6)			ACE	良	橙	10%	内面に「×」の線刻
153	Н	坏	(13. 0)	3. 6		АВСЕ	良	赤褐	50%	内面に「×」の線刻
154	Н	坏	(12. 6)			ABCE	普	灰褐	20%	
155	Н	坏	13. 0	(3. 0)		ABCEI	良	橙	40%	
156	Н	坏	12. 5			ABCE	良	橙	55%	
157	Н	坏	(12. 4)			ACE	良	赤褐	25%	
158	Н	坏	(12. 4)	3. 6		ABCEI	良	橙	50%	
159	Н	坏	12. 4	3. 2		ABCE	普	暗褐	60%	
160	Н	坏	(12. 4)	9 <b></b>		ABCE	普	橙	25%	
161	Н	坏	(12. 2)			ACEI	普	橙	25%	
162	Н	坏	(12. 2)	(3. 7)		ACE	普	橙	25%	
163	Н	坏	12. 4	3. 7		ABCE	普	にぶい赤褐	50%	
164	Н	坏	(12. 4)	9. 1		ABCE	普	橙	25%	
165	Н	坏坏	(12. 4)	3. 5		ABCE	普	橙	30%	
							普			由売は「V」の領却
166	Н	坏	12. 5	3. 6		ABCE		橙	100%	内面に「×」の線刻
167	Н	坏	(12. 6)	9.0		ABCDE	良	橙	30%	
168	Н	坏	12. 8	3. 8		ABCEI	普	赤褐	95%	
169	Н	坏	(12. 5)	(0.0)		ACE	普	橙	20%	
170	Н	坏	(12. 6)	(3. 6)		ACE	普	にぶい橙	35%	
171	Н	坏	(12. 8)			ABCE	普	橙	25%	
172	Н	坏	(12. 4)	(3. 7)		АВСЕ	普	黒褐	35%	
173	Н	坏	(12. 6)	3. 6		ACE	良	橙	40%	
174	Н	坏	(12. 6)			ACE	不良	灰褐	20%	
175	Н	坏	(12. 6)			ACEI	普	橙	25%	
176	Н	坏	(12. 5)	3. 2		ACEI	良	橙	25%	内面に墨痕
177	Н	坏	(12. 6)			АВСЕ	普	橙	20%	
178	Н	坏	12. 6	3. 3		ABCEHI	普	橙	70%	
179	Н	坏	(12. 6)	3. 4		ABCEI	良	橙	40%	
180	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	橙	20%	
181	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	赤褐	30%	
182	Н	坏	(12. 7)			ABCEI	普	橙	20%	
183	Н	坏	(12. 6)	2. 9		ABCEI	普	にぶい橙	35%	
184	Н	坏	12. 6	(3. 8)		ABCEI	普	橙	40%	
185	Н	坏	(12. 8)	3. 2		АВСЕН	普	赤褐	25%	
186	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	橙	25%	
187	Н	坏	(12. 7)			АВСЕ	普	橙	20%	
188	Н	坏	(12. 8)	(3. 2)		ABCEI	普	橙	25%	
189	Н	坏	(12. 8)			ACE	普	灰褐	20%	
190	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	暗褐	30%	
191	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	橙	30%	
192	Н	坏	(12. 7)			ABCE	普	橙	30%	
193	Н	坏	(12. 6)			ABCEI	普	橙	25%	
194	Н	坏	(12. 9)			ABCDE	普	橙	20%	
195	Н	坏	(13. 0)	3. 8		ABCE	普	橙	40%	
196	H	坏	(12. 8)	0.0		ABCE	普	灰褐	15%	

第15表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
197	Н	坏	(12. 9)			ABCEI	普	にぶい橙	25%	
198	Н	坏	(12. 8)			ACEI	普	暗褐	25%	
199	Н	坏	(13. 0)	(3. 4)		ACE	普	にぶい橙	30%	
200	Н	坏	(12. 8)	3. 4		ABCDEI	普	橙	40%	
201	Н	坏	12.8	3. 9		АВСЕН	良	橙	80%	
202	Н	坏	13. 0	3. 8		ABCEI	普	赤褐	80%	
203	Н	坏	13. 0	4. 2		ACE	普	橙	65%	
204	Н	坏	13. 0	4. 5		ABCEI	良	橙	75%	
205	Н	坏	(13. 2)			ABCDE	良	橙	15%	
206	Н	坏	(13. 0)			ABCE	普	にぶい橙	15%	
207	Н	坏	(12. 8)	(3. 3)		ABCE	良	橙	25%	
208	Н	坏	(13. 2)	(0.0)		ABCE	普	橙	25%	
209	Н	坏	(13. 0)			ACE	普	にぶい橙	25%	
210	Н	坏	13. 2	3. 8		ABCE	良良	橙	75%	
211			13. 3	3. 1		ABCE		橙橙	50%	
	H	坏		<b>3.</b> 1			普			
212	H	坏	(13. 3)	0.0		ACDE	普	橙	20%	
213	H	坏	(12. 9)	3. 3		ABCDE	普	赤褐	45%	
214	Н	坏	(13. 4)			ACE	普	にぶい橙	20%	
215	Н	坏	(13. 4)	3. 6		ABCE	良	橙	40%	
216	Н	坏	(13. 4)	3. 7		ABCEH	普	にぶい橙	35%	
217	Н	坏	(13. 4)			ACE	普	にぶい赤褐	15%	
218	Н	坏	(13. 4)	3. 9		ACE	普	にぶい橙	20%	
219	Н	坏	(13. 4)			АВСЕ	普	橙	20%	
220	Н	坏	(13. 6)			ABCD	普	にぶい橙	15%	
221	Н	坏	(13. 3)			АВСЕ	普	暗褐	15%	
222	Н	坏	(13. 4)			ABCEI	不良	黄橙	15%	
223	Н	坏	(13. 6)			ABCE	普	橙	20%	
224	Н	坏	(13. 8)			ABCE	普	灰褐	15%	
225	Н	坏	13. 6	(3. 7)		ABCE	普	橙	45%	
226	Н	坏	(13. 8)			ACDE	良	橙	20%	
227	Н	坏	(13. 8)			ABCDEI	不良	橙	35%	
228	Н	坏	(13. 5)	4. 5		ABCDEI	良	赤褐	50%	
229	Н	坏	13.8	3. 9		ACDEH	良	橙	50%	
230	Н	坏	(13. 8)	(3. 4)		ABCE	普	赤褐	25%	
231	Н	坏	(13. 8)	3. 5		АВСЕН	普	橙	40%	
232	Н	坏	(13. 8)			ABCE	普	灰褐	15%	
233	Н	坏	(13. 8)			ABCDE	普	橙	20%	
234	Н	坏	(14. 0)			ACE	普	橙	25%	
235		坏	(14. 0)			ABCEI		にぶい橙	20%	
	H		-	4.9	<u> </u> 		普	1		
236 $237$	Н	坏坏	(14. 0)	4. 2		ABCE	普並	にぶい橙	30%	
	H	坏	(14. 0)	(4. 1)		ABCE	普	灰褐	40%	
238	Н	坏	(14. 2)	(3. 5)		ABCE	普	橙	20%	
239	H	坏	(14. 0)			ABCE	普	橙	10%	
240	Н	坏	(14. 0)			ABCEH	普	にぶい赤褐	30%	
241	Н	坏	(14. 3)			АВСЕ	普	にぶい橙	25%	
242	Н	坏	(14. 4)	(3. 6)		ABCE	普	橙	35%	
243	Н	坏	(14. 4)			АСЕН	普	暗褐	15%	
244	Н	坏	(14. 4)			ACE	普	橙	10%	
245	Н	坏	(14. 8)			ACDEH	普	黄橙	30%	

第16表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
246	Н	坏	(14. 7)	(4. 4)		АВСЕН	普	橙	40%	
247	Н	坏	(14. 6)	4. 7		ABCDE	普	にぶい橙	35%	
248	Н	坏	(15. 0)			ACE	普	橙	20%	
249	Н	坏	(14. 8)			ACE	良	橙	15%	
250	Н	坏	(14. 8)			ACE	良	暗褐	20%	
251	Н	坏	(14. 8)			АВСЕН	普	橙	15%	
252	Н	坏	(15. 0)	4. 3		ABCE	普	橙	45%	
253	Н	坏	(15. 4)			ABCDE	普	黄橙	15%	
254	Н	坏	(15. 4)			ACE	普	橙	15%	
255	Н	坏	(14. 5)			АВСЕ	華	橙	10%	
256	Н	坏	(14. 8)	4. 6		ACE	華	橙	40%	
257	Н	坏	(15. 6)	4. 9		ACE	普	橙	45%	
258	Н	坏	(15. 0)	5. 1		ABCE	普	橙	30%	
259	Н	坏	(15. 6)	4. 1		ABCE	普	橙	35%	
260	H	坏	(15. 5)	1. 1		ABCE	普	橙	10%	
261	Н	坏	(15. 4)			ACE	普	灰褐	20%	
262	Н	坏坏	(15. 4)			ABCE	良	赤褐	35%	
263	Н	坏坏	(15. 8)			ABCE	良良	が 他 橙	55% 25%	
$\frac{263}{264}$	Н	坏	(16. 0)					黄橙	30%	
				(7.4)		ABCDE	良			
265	Н	坏	(16. 0)	(7. 4)		ACE	華	橙	25%	
266	Н	坏	(16. 0)			ACE	普	橙	15%	
267	H	坏	(16. 2)	(4.0)	İ	ACE	普	橙	10%	
268	Н	坏	(15. 8)	(4. 9)		ACE	普	灰褐	20%	
269	Н	坏	(14. 0)			ABCEI	普	赤褐	15%	
270	Н	坏	(16. 5)			АВСЕ	普	黄橙	20%	
271	Н	坏	(16. 8)			ABCDE	普	橙	20%	
272	Н	坏	(16. 8)			ABCEI	普	橙	30%	
273	Н	坏	(16. 8)	5. 6		ABCEI	良	橙	45%	
274	Н	坏	17. 0	(5. 6)		ABCEI	良	橙	45%	
275	Н	坏	17. 4	5. 7		ACEI	良	赤褐	50%	
276	Н	坏	(17. 7)			ABCE	普	赤褐	20%	
277	Н	坏	(17. 1)			ABCE	普	橙	15%	
278	Н	坏	(17. 4)			АВСЕ	普	橙	15%	
279	Н	坏	(17. 5)			АВСЕ	普	橙	25%	
280	Н	坏	(18. 4)			ACE	良	赤褐	20%	
281	Н	坏	(18. 0)			АВСЕ	普	にぶい赤褐	10%	
282	Н	坏	(18. 8)			АВСЕН	普	橙	30%	
283	Н	坏	(14. 3)			ABCEI	華	橙	20%	
284	Н	坏	16.6	7. 5		ACE	良	白橙	90%	
285	Н	坏	(10.8)			ABCDE	普	橙	15%	
286	Н	坏	(11.4)	3. 3		АВСЕ	普	橙	50%	
287	Н	坏	10.8	3. 0		ABCDE	華	橙	75%	
288	Н	椀	(17. 2)			АВСЕ	華	橙	30%	
289	Н	鉢	21.6	(7. 8)		ACE	普	橙	35%	
290	Н	鉢	(25. 5)			АВСЕ	普	橙	20%	
291	Н	Ш	(18. 3)			АВСЕ	普	暗褐	15%	
292	Н	Ш	(18. 4)			АВСЕ	普	橙	10%	
293	Н	Ш	(18. 9)			АВСЕ	普	灰褐	10%	
294	Н	Ш	(19. 0)	(3. 0)		АВСЕ	華	橙	15%	

第17表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
295	Н	Ш	(19. 6)	2. 3		АВСЕ	普	暗褐	15%	
296	Н	ш	(19. 3)			ACE	普	灰褐	15%	
297	Н	Ш	19. 6	3. 4		АВСЕ	普	にぶい橙	100%	
298	Н	ш	(20. 0)			АВСЕ	普	赤褐	10%	
299	Н		(20. 4)			АВСЕ	普	灰褐	10%	
300	Н	Ш	(20. 8)	3. 1		АВСЕ	普	黒褐	50%	
301	Н	Ш	(21. 0)	2. 2		ABCDE	良	橙	40%	
302	Н	Ш.	20. 3	2. 8		ABCE	普	橙	35%	
303	Н	Ш.	(20. 5)	3. 8		ABCE	普	暗褐	50%	
304	Н		(21. 1)	3. 1		ABCE	普	橙	50%	
305	Н	ш	20. 9	3. 5		ACE	普	橙	70%	
306	Н		(21. 4)	(4. 0)		ACE	普	橙	30%	
307	Н		(21. 8)	(1.0)		ACE	普	黒褐	15%	
308	Н		(21. 0)			ACE	普	暗褐	10%	
309	Н		(21. 5)	2. 9		ABCE	普	にぶい橙	40%	
310	H		(21. 8)	3. 0		ACEH	良	にぶい赤褐	40%	
311			(20. 6)			ACEH		i	40%	
312	Н	<u>M</u>   m		3. 4			普自	橙にない橙	70%	
	H	<u>II</u>	(22. 0)	2. 6		ABCE	良	にぶい橙		
313	H		(21. 8)	3. 6		ABCE	普	にぶい橙	15%	
314	H		22. 0	(3. 6)		ACEI	普	橙	70%	
315	H		(22. 2)	2. 9		ACE	普	暗褐	20%	
316	H		(21. 8)	2. 3		ACEI	普	橙	15%	
317	H		(22. 0)	2. 0		ACE	普	暗褐	20%	
318	Н		(22. 0)			ABCEI	普	橙	15%	
319	Н		(22. 4)	3. 6		ABCE	普	にぶい赤褐	40%	
320	Н		22. 6	4. 3		АВСЕ	普	橙	70%	
321	Н		22. 6	3. 3		ACEI	普	橙	80%	
322	Н		23. 0	3. 2		ACE	普	にぶい橙	50%	
323	Н		(22. 8)	3. 3		ACE	普	橙	30%	
324	Н		(23. 4)			ABCE	普	赤褐	10%	
325	Н		(23. 7)			ACEI	普	橙	20%	
326	Н	Ш	(24. 6)			ABCEI	普	灰褐	15%	
327	Н	Ш	(21. 6)			ACEI	普	橙	10%	
328	Н	脚付盤	20.8			ABCEH	普	にぶい橙	75%	
329	Н	托	(16. 8)	1. 8		ABCEI	普	橙	60%	
330	Н	蓋	13. 2			ACE	普	暗褐	85%	
331	Н	蓋				ABCDEH	普	暗褐	10%	
332	Н	蓋				ABCDE	普	橙	5 %	
333	Н	坏				ACE	普	橙	10%	内面に「×」の線刻
334	Н	坏				АВСЕ	普	赤褐	10%	内面に「×」の線刻
335	Н	坏				АВСЕ	普	橙	20%	内面に「×」の線刻
336	Н	坏				ABCE	普	橙	10%	内面に線刻
337	Н	坏				ABCEI	普	にぶい赤褐	5 %	内面に線刻
338	Н	坏				ABCDE	普	赤褐	5 %	内面に線刻
339	Н	坏				ACE	普	黒褐	20%	内面に「×」の線刻
340	Н	坏				ACE	普	灰褐	15%	内面に「×」の線刻
341	S	蓋	(9. 4)	(3. 2)		A C	良	灰	30%	
342	S	蓋	9. 4	3. 4		A C	良	灰	60%	
343	S	蓋	(10. 4)	(3. 8)		A C	普	灰	40%	

第18表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表 (7)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
344	S	坏	(9. 9)			A C	良	灰	10%	
345	s	坏	(10.0)			A C	良	灰	20%	
346	s	坏	(10. 5)			A C	普	灰	15%	
347	s	坏	(10.6)			A C	普	灰	15%	
348	s	蓋	(10.0)			ACDH	良	青灰	15%	
349	s	蓋	10. 2	2. 6		ACFH	良	青灰	65%	
350	S	蓋	(9.7)	3. 0		ACFH	良	青灰	40%	
351	S	蓋	(9. 6)	2. 6		АСН	良	青灰	25%	
352	S	蓋	(9. 9)	2. 4		АСН	良	青灰	35%	
353	S	蓋	(9. 5)	2. 1		A C	良	黒褐	25%	
354	s	蓋	(10. 8)			АСН	良	青灰	15%	
355	s	蓋	(10. 9)			ACFH	普	灰	40%	
356	S	蓋	(11. 3)	(3. 8)		ABCHI	不良	にぶい橙	15%	
	-	ł	1					ł		
357	S	蓋	(11. 0)	(3. 9)		ABCHI	不良	灰褐	30%	
358	S	蓋	(11. 1)	(2. 6)		ACFH	普	灰	25%	
359	S	蓋	11. 7	2. 9		ACFH	良	青灰	80%	
360	S	蓋	(11. 6)	2. 5		ACFH	普	灰	40%	
361	S	蓋	11. 2	(2. 1)		ACFH	普	灰	40%	
362	S	蓋	(11. 8)	2. 6		ACFH	普	灰	40%	
363	S	蓋	(11. 9)			ACFH	良	青灰	25%	
364	S	蓋	11. 9	(2. 9)		ACFH	普	灰	80%	
365	S	蓋	(11.7)			ACFH	良	青灰	15%	
366	S	蓋	(12. 3)			ABCDFH	不良	灰褐	35%	
367	S	蓋	(13. 2)			ACFH	良	青灰	15%	
368	S	蓋	(13. 4)			ACFH	普	灰	15%	
369	S	蓋	(12. 5)			ACFH	普	灰	15%	
370	S	蓋	(13. 9)	(3. 0)		ACFH	良	灰	20%	
371	S	蓋	(13. 8)			ACFH	不良	灰	10%	
372	s	蓋	(14. 0)			ACFH	普	灰	10%	
373	s	蓋	(13. 8)	(3. 0)		ACFH	普	灰	20%	
374	S	蓋	(14. 4)			АСН	普	灰	40%	
375	s	蓋	(14. 2)			ACFH	普	灰	15%	
376	s	蓋	(14. 1)			ACFH	普	灰	15%	
377	s	蓋	(14. 6)	(3. 3)		ACFH	普	灰	25%	
378	s	蓋	(14. 8)	3. 0		ACFH	普	灰	30%	
379	s	蓋	(15. 4)			ACFH	普	灰	15%	
380	s	蓋	15. 3	2. 7		ACDFH	普	灰	100%	
381	s	蓋	(15. 3)			ACFH	普	灰	30%	
382	S	蓋	15. 6	2. 3		ACFH	普	灰	75%	
383	S	蓋	(15. 6)	(3. 0)		ACFH	普	灰	40%	
384	S	蓋	(16. 2)	(3. 3)		ABCFH	不良	灰褐	40%	
385	S	蓋	17. 5	3. 1		ACDH	普	灰	45%	
386	s	蓋	(17. 2)	3.1		ACFH	普	灰	10%	
387	s	蓋	(21. 2)			A C H	良	青灰	10%	
388	S	蓋	(11. 8)		[ 	A C H	不良	灰褐	10%	
389	S	蓋	11. 9	(2.4)		ACFH	普	灰褐	90%	
390	1	蓋蓋	12. 0					i	95%	
	S			2. 4		ACFH	普白	灰褐		
391	S	蓋	(15. 7)	3. 1		ACFH	良	青灰	50%	口组用品设力好型
392	S	蓋	(17. 4)			A C	良	灰	10%	口縁外面に自然釉

第19表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(8)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
393	S	蓋				A C	良	灰	20%	外面に自然釉
394	S	蓋				A C	良	青灰	10%	
395	S	蓋				ACFH	普	灰	15%	
396	S	蓋				ACFH	不良	灰褐	15%	
397	s	蓋				ACFH	良	灰	40%	
398	s	蓋				ACFH	良	灰	15%	
399	S	蓋				ACFH	良	青灰	50%	
400	S	坏	(9. 1)	3. 6	(7. 6)	АСН	良	灰褐	25%	
401	S	坏	(9.9)	(3. 1)	(6.7)	ACFH	普	灰	25%	
402	s	坏	(10. 1)	2. 9	7. 1	ACFH	普	灰	45%	
403	s	坏	(9. 9)	3. 7	6. 2	ACFH	良	灰	50%	
404	S	坏	10. 9	3. 8	7. 5	ACFH	不良	灰褐	60%	
405	S	坏	10. 9	4. 1	7. 2	ABCFH	普	灰	50%	
406	S	坏	(11. 1)	3. 3	(7. 8)	ACFH	普	灰	40%	
407	S	坏	(11. 2)	(3. 8)	(8. 8)	АВСГН	普	灰褐	30%	
408	S	坏	(12. 6)	(4. 5)	(9. 1)	ACFH	良	青灰	25%	
409	S	坏	(16. 2)	(4. 0)	(13. 8)	ACDFH	普	灰	25%	
410	S	坏	(10. 2)	(4.0)	5. 8	ACFH	良	青灰	25%	
411	S	坏坏			(7. 3)	1		青灰	20%	
						ACFH	良並			
412	S	坏 克力权	10.4	4.0	(7. 0)	ACFH	普	灰	20%	
413	S	高台坏	12. 4	4. 0	7. 5	ABCFH	不良	にぶい橙	100%	
414	S	高台坏	13. 4	4. 4	8. 9	ACFH	良	青灰	85%	
415	S	高台坏	14. 3	4. 1	9. 7	ACFH	普	灰	80%	
416	S	高台坏	14. 2	5. 2	7. 3	ACFH	普	灰	95%	
417	S	高台坏			8. 5	ACFH	普	灰	20%	
418	S	高台坏			(8. 1)	АСН	良	青灰	5 %	
419	S	高台坏			(8. 2)	ACFH	普	灰	20%	
420	S	高台坏			8. 9	A C	普	灰	20%	
421	S	高台坏			(10. 0)	ACFH	普	灰	15%	
422	S	高台坏			(10. 6)	ACEH	不良	灰褐	10%	
423	S	高台坏			(10. 2)	ACFH	普	灰	30%	
424	S	高台坏			(10. 0)	ACFH	普	灰	15%	
425	S	高台坏			(11. 2)	ABCFH	普	灰褐	15%	
426	S	坏	(14. 2)			ACFH	普	青灰	15%	
427	S	坏	(14. 8)			ACFH	普	灰	15%	
428	S	坏	(14. 8)			ACFH	不良	灰褐	20%	
429	S	坏	(15. 1)			ACFH	普	灰	20%	
430	S	蓋	(32. 2)			ACFH	普	灰	25%	
431	S	盤	(13. 4)		(18. 9)	ACDH	良	灰褐	15%	
432	S	盤	(24. 2)		(21. 7)	ACFH	普	灰	15%	
433	S	盤	(24. 4)		(23. 2)	АВСН	普	灰	15%	
434	S	盤	(24. 9)		(22. 4)	ACFH	普	灰	30%	
435	S	盤	(25. 8)		(22. 2)	ACFH	良	青灰	15%	
436	S	盤	(25. 6)		(23. 0)	АСН	普	灰	15%	
437	S	盤	(30. 1)		(26. 4)	ACFH	普	灰褐	20%	
438	S	盤	,/			ACFH	普	灰	25%	
439	S	脚付盤				ACFH	良	青灰	25%	
440	s	脚付盤				ACFH	良	灰	15%	
441	S	脚付盤			(13. 0)	ACFH	良	灰褐	10%	

第20表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表 (9)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
442	S	円面硯				АСН	普	灰	5%	
443	S	瓶	(8. 4)			A C	良	灰	5%	内外面に自然釉
444	s	瓶				АВСН	普	灰	10%	
445	s	瓶				АСН	普	灰褐	20%	
446	s	甕	(22. 8)			ACFH	良	青灰		
447	s	甕	(22. 6)			ACFH	良	橙		
448	S	甕	(14. 0)	21. 8		АСН	良	青灰	50%	
449	S	甕	(22. 6)			ACFH	普	青灰		
450	S	甕	(26. 0)			ACFH	普	青灰		
451	S	甕	(====,		(8. 0)	АСН	普	灰		
452	S	甕			(3.0)	A C	良	灰褐		外面に自然釉
453	S	甕				ACFH	良	青灰		) I III (C II ) WAIII
454	S	甕				ACFH	良	青灰		
455	S	甕				ACFH	良	青灰		
456	S	瓶				A C	普	灰		外面に自然釉
457	S	甕				A C F H		i	5 %	7ト回に自然和
458						ł	良	青灰		
458	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
	S	甕				ACFH	良	青灰	5%	
460	S	甕				ACFH	良	灰	10%	M T) a H H VS-la
461	S	甕				ACH	普	青灰	5%	外面に円形浮文
462	S	甕				ACFH	良	灰	5%	
463	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
464	S	甕				ACFH	普	灰	10%	
465	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
466	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
467	S	甕				ACDH	普	灰	5 %	
468	S	甕				ACFH	普	灰	5 %	
469	Н	甕	(6. 7)			ACE	普	橙	30%	
470	Н	甕	9. 2			ABCDE	普	橙	50%	
471	Н	甕	11.0			АВСЕ	普	橙	35%	
472	Н	甕	13. 6			АВСЕ	普	橙	25%	
473	Н	甕	(12. 8)			ACE	普	黒褐	15%	
474	Н	甕	(10. 6)			ACE	普	灰褐	10%	
475	Н	甕	(11. 4)			АВСЕ	普	にぶい橙	10%	
476	Н	甕	(12. 8)			ACE	普	橙	10%	
477	Н	甕	(13. 1)			АВСЕ	普	にぶい橙	10%	
478	Н	甕	13. 2			ACEI	普	橙	30%	
479	Н	甕	(13. 9)			ABCE	良	橙	15%	
480	Н	甕	(15. 9)			ABCE	普	赤褐	5%	
481	Н	甕	(14. 0)			АВСЕН	普	赤褐	10%	
482	Н	甕	(16. 2)			ABCEI	普	暗褐	10%	
483	Н	甕	(14. 0)			АВСЕ	普	橙	20%	
484	Н	甕	(14. 2)			ACEI	普	橙	10%	
485	Н	甕	(14. 4)			АВСЕН	普	にぶい橙	25%	
486	H	養	(15. 0)			ABCEI	普	にぶい橙	20%	
487	Н	甕	(15. 6)			ACDEH	普	橙	20%	
488	Н	甕	(16. 0)			ABCE	普	橙 橙	10%	
						i	1	位   橙		
489 490	H H	甕	(18. 0) 18. 0			A C E H I A B C E H	普	位   橙	10% 15%	

第21表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(10)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
491	Н	甕	(18. 6)			ACEH	普	にぶい橙	10%		
492	Н	甕	(18. 8)			ABCDE	普	橙	10%		
493	Н	甕	(19. 5)			АСЕН	普	橙	15%		
494	Н	甕	(19. 7)			АВСЕ	普	にぶい橙	5%		
495	Н	甕	(19. 3)			АВСЕ	普	にぶい赤褐	10%		
496	Н	甕	(19. 4)			ACEH	普	赤褐	10%		
497	Н	甕	(20. 0)			ACEH	良	橙	10%		
498	Н	甕	(20. 0)			ABCEH	普	橙	10%		
499	Н	甕	(20. 0)			ABCEH	良	橙	10%		
500	Н	甕	(20. 0)			ABCEH	普	橙	15%		
501	Н	甕	(20. 8)			ABCEH	普	橙	10%		
502	Н	甕	(20. 8)			ABCEH	良	赤褐	10%		
503	Н	甕	20. 3			ACEH	普	橙	25%		
504	Н	甕	21. 1			ABCE	良	にぶい橙	15%		
505	Н	甕	(20. 8)			ABCE	良	橙	10%		
506			20. 6			ABCEH		· 位 橙	25%		
507	Н	甕	(21. 3)			i	良普	· 位 · 橙	25% 15%		
	H	甕				ABCE	ł				
508	H	甕	20. 7			ABCEH	普	橙	15%		
509	Н	甕	21. 4			ABCEH	普	橙	15%		
510	H	甕	21. 1			ABCEH	良	橙	20%		
511	H	甕	20. 4			ABCEFHI	普	にぶい橙	30%		
512	H	甕	(21. 4)			ABCEH	普	橙	20%		
513	Н	甕	(21. 5)			ACEHI	普	橙	75%		
514	Н	甕				ABCEHI	普	橙	20%		
515	Н	甕	(21. 6)			ABCE	普	にぶい橙	5%		
516	Н	甕	(21. 6)			ACE	普	暗褐	10%		
517	Н	甕	(23. 6)			ABCE	普	橙	5%		
518	Н	甕	22. 3			ABCEH	普	橙	25%		
519	Н	甕	(23. 6)			ABCEH	良	橙	15%		
520	Н	甕	(25. 3)			ABCE	普	にぶい橙	15%		
521	Н	甕	(13. 6)			ABCEI	普	赤褐	15%		
522	Н	甕	(14. 4)			ABCE	普	橙	10%		
523	Н	甕	(15. 6)			ABCEH	良	橙	5 %		
524	Н	甕	(16. 2)			ACEI	普	橙	5 %		
525	Н	甕	(18. 0)			ACE	普	橙	15%		
526	Н	甕	(18. 6)			ACE	普	橙	15%		
527	Н	甕	(18. 4)			ABCEH	普	にぶい橙	20%		
528	Н	甕	(17. 6)			ABCEH	普	橙	5 %		
529	Н	甕	(18. 8)			ACEHI	良	橙	5 %		
530	Н	甕	(19. 5)			ABCEH	普	橙	5 %		
531	Н	甕	(19. 4)			ACEI	普	橙	5 %		
532	Н	甕	(19. 4)			ACE	良	赤褐	5 %		
533	Н	甕	(19. 6)			ACEH	普	にぶい橙	10%		
534	Н	甕	(19. 8)			АВСЕН	普	橙	5 %		
535	Н	甕	(20. 2)			АВСЕН	普	赤褐	15%		
536	Н	甕	20. 6			АВСЕН	普	橙	15%		
537	Н	甕	(20. 4)			АВСЕН	普	にぶい橙	15%		
538	Н	甕	(20. 7)			ABCDE	普	橙	5 %		
539	Н	甕	(21. 0)			ABCEI	普	橙	5 %		

第22表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(11)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
540	Н	甕	(21. 0)			АВСЕ	普	橙	20%	
541	Н	甕	20.8			АВСЕН	普	橙	25%	
542	Н	甕	(21. 0)			ABCE	普	橙	5 %	
543	Н	甕	(21. 4)			ABCEI	普	橙	5 %	
544	Н	甕	(21. 6)			ABCDEH	普	にぶい橙	10%	
545	Н	甕	21.8			АСЕН	普	橙	15%	
546	Н	甕	(21. 8)			ABCDEH	普	にぶい橙	15%	
547	Н	甕	(21.7)			АВСЕН	良	橙	20%	
548	Н	甕	21. 0			АВСЕН	普	橙	15%	
549	Н	甕	(21. 6)			АВСЕН	普	にぶい橙	5 %	
550	Н	甕	(22. 0)			АВСЕН	普	にぶい橙	5 %	
551	Н	甕	(20. 8)			АВСЕН	普	橙	5 %	
552	Н	甕	(23. 0)			АСЕН	普	にぶい橙	5 %	
553	Н	甕	23. 0			ABCE	普	橙	20%	
554	Н	甕	(24. 0)			ABCE	普	橙	5 %	
555	H	甕	(23. 4)			ABCDEH	普	にぶい橙	10%	
556	Н	甕	(23.4) $(23.9)$			ABCEH	普	にぶい橙	5%	
557	Н	甕	(23. 6)			ABCEH	普	橙	10%	
558	H	甕	(24. 6)			ABCE	普	橙	10%	
559			(27. 5)			ABCEH		橙	10%	
	Н	甕	-				普			
560 561	H	甕	(29. 1)			ABCEH	普	橙にない土畑	5 %	
561	Н	甕			1 4 -	ABCDEH	普	にぶい赤褐	30%	
562	Н	甕			4. 5	ABC	普	赤褐	15%	
563	Н	甕				ACEH	普	橙	25%	
564	Н	甕			5. 0	ABCE	普	にぶい橙		
565	Н	甕			3. 8	ABCEH	普	橙		
566	Н	甕			5. 8	ABCE	普	橙		
567	Н	甕			4. 4	ABCE	普	にぶい橙		
568	Н	甕			5. 0	ABCE	普	にぶい赤褐		
569	Н	甕			4. 0	ACE	普	にぶい橙		
570	Н	甕			(4. 3)	ACEH	普	橙	15%	
571	Н	甕			4. 6	ABCE	普	橙	10%	
572	Н	甕			5. 0	ABCEH	普	橙	10%	
573	Н	甕			5. 3	ABCE	普	橙	5 %	
574	Н	甕			(4. 0)	ACE	普	橙	5 %	
575	Н	甕			3. 8	ABCE	普	灰褐	5 %	
576	Н	甕			4. 4	ACE	普	橙	5 %	
577	Н	甕			4. 6	ACE	普	橙	5 %	
578	Н	甕			5. 5	АВСЕ	普	にぶい橙	5 %	
579	Н	甕			5. 1	ACEH	普	にぶい橙	5 %	
580	Н	甕			5. 0	ABCEH	普	橙	5 %	
581	Н	甕			5. 2	АВСЕН	普	赤褐	5 %	
582	Н	甕			7. 2	ACEH	普	にぶい橙	5 %	
583	Н	甕			2. 0	ACE	普	黒褐		
584	Н	甕			3. 8	ABCEI	普	にぶい橙	5 %	
585	Н	甕			4.0	АВСЕ	普	橙		
586	Н	甕			3. 5	АВСЕ	普	橙		
587	Н	甕			(7. 6)	АВСЕ	良	橙	10%	
588	Н	甕			(8.0)	ABCE	普	橙	10%	

第23表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(12)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存		備考
589	Н	甕				АСЕНІ	普	にぶい橙	10%		
590	Н	台付甕			(10. 8)	АВСЕ	普	橙	15%		
591	Н	台付甕			(10. 8)	АСЕНІ	普	橙	15%		
592	Н	台付甕			(11. 0)	АВСЕ	良	赤褐	10%		
593	Н	台付甕			10.8	АСН	普	橙	5 %		
594	Н	台付甕				АСЕН	普	橙	5%		
595	Н	台付甕				АСЕН	普	にぶい橙	5%		
596	Н	台付甕				АВСЕ	普	橙	5%		
597	Н	台付甕				АВСЕ	普	にぶい橙	10%		
598	Н	台付甕				АСЕН	普	橙	10%		
599		土錘		幅 1.2	厚 1.1	АВСЕ	普	橙	90%	重さ	7.99g
600		土錘	長 8.6	幅 1.6	厚 1.4	АВСЕ	普	にぶい橙	100%	重さ	16.68 g
601		土錘	長 8. 2	幅 1.4	厚 1.6	ABCE	普	橙	100%	重さ	17. 18 g
602		土錘	長 7.3	幅 1.5	厚 1. 4	ABCE	普	にぶい橙	100%	重さ	15. 54 g
603		土錘	長 7.3	幅 1.4	厚 1. 5	ABCE	普	橙	100%	重さ	16. 55 g
604		土錘	長 7.1	幅 1.3	厚 1. 5	ABCE	普	にぶい橙	100%	重さ	11. 51 g
605			長 6.9	i i	厚 1. 5	ABCE	普	橙	95%	重さ	11. 51 g 12. 05 g
606		土錘	i	幅 1.3	1	ABCE	普	橙橙	90%	1	12. 03 g 12. 74 g
		土錘	長 6.7	幅 1.3	厚 1.5		1			1	12. 74 g 13. 59 g
607		土錘	長 7.7	幅 1.4	厚 1.4	ABCE	普	橙	100%	重さ	
608		土錘	長 6.3	幅 1.3	厚 1.4	ABCE	普	灰褐	95%	重さ	10.36 g
609		土錘	長 7.1	幅 1.3	厚 1.3	ABCE	普	橙	100%	重さ	11. 36 g
610		土錘	長 6.9	幅 1.2	厚 1.3	ABCE	普	橙	95%	重さ	9.96 g
611		土錘		幅 1.4	厚 1.4	АВСЕ	普	橙	70%	重さ	10.52 g
612		土錘		幅 1.8	厚 1.9	АВСЕН	普	にぶい橙	60%	重さ	16.95 g
613		土錘		幅 1.4	厚 1.3	АВСЕ	普	にぶい橙	30%	重さ	5.08 g
614		土錘		幅 1.3	厚 1.2	АВСЕ	普	橙	30%	重さ	4. 45 g
615		土錘		幅 1.5	厚 1.5	АВСЕ	普	灰褐	50%	重さ	6.69 g
616		土錘		幅 1.4	厚 1.4	АВСЕ	普	橙	40%	重さ	5.67 g
617		土錘	長 6.2	幅 2.6	厚 2.4	ACE	普	赤褐	95%	重さ	$28.94\mathrm{g}$
618		土錘	長 6.2	幅 2.8	厚 2.7	АСЕН	普	にぶい橙	95%	重さ	$45.43\mathrm{g}$
619		土錘	長10.3	幅 4.2	厚 4.1	АВСЕН	普	にぶい橙	100%	重さ	158.48 g
620		土錘				АВСЕН	華	赤褐	15%	重さ	$12.26\mathrm{g}$
621		土玉	長 1.4	幅 1.1	厚 1.0	ACE	普	橙	100%	重さ	1.49 g
622		鉄鏃	長 4.2	幅 1.1	厚 0.3					重さ	$5.04\mathrm{g}$
623		閂金具	長 9.0	幅 7.2	厚 0.6					重さ	59.30g
624		鉄釘		幅 0.6	厚 0.5					重さ	9.63 g
625		鉄釘		幅 0.6	厚 0.6					重さ	9.57 g
626		鉄釘		幅 0.6	厚 0.5					重さ	9.82 g
627		鉄釘		幅 0.5	厚 0.4					重さ	1.89 g
628		棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.4					重さ	7.12 g
629		棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.5					重さ	8.03 g
630		鉄滓	長 5.1	幅 4.1	厚 2.7					重さ	84.98 g
631		鉄滓	長 5. 9	幅 4.2	厚 2.6					重さ	69.84 g
632		鉄滓	長 5.0	幅 3.3	厚 2. 4					重さ	91. 21 g
633		編物石	長12.1	幅 4.0	厚 2. 8	石材 砂岩				重さ	234. 83 g
634		編物石	長14.7	幅 5. 2	厚 5.7	石材 砂岩				重さ	695. 70 g
635			長12.7	幅 6.9	厚 4.6	石材 砂岩				重さ	642. 51 g
		編物石	ŀ			1					
636 637		編物石 編物石	長12.3 長13.7	幅 6.2 幅 6.9	厚 2.7 厚 4.6	石材 砂岩 石材 砂岩				重さ	309. 49 g 611. 51 g

第24表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(13)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
638		編物石		幅7.0	厚4.0	石材 砂岩				重さ 487.19g
639		編物石	長14.1	幅8.0	厚3.6	石材 砂岩				重さ 587.62g
640		土製支脚		幅7.3	厚6.3	АВС	普	橙	30%	人面線刻、外面が白色に塗られる。
641	S	坏			5. 5	ABCEI	不良	灰	30%	
642	S	坏			6. 4	ACE	不良	灰褐	15%	
643	S	坏			(6.4)	ACE	不良	灰	20%	
644	R	高台坏			6. 4	ABCEI	普	橙	20%	

第25表 第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑出土遺物観察表(14)

遺構の時期は7世紀後半~7世紀末頃と推定される。

#### 第96号竪穴建物跡

第21号特殊土坑に変更したため、欠番とした。

#### 第97号竪穴建物跡

第22号特殊土坑に変更したため、欠番とした。

#### 第98号竪穴建物跡 (第13図)

第19次調査D区に位置し、カマド先端部のみ確認された。第39号溝、第548号土坑に切られる。主軸方位は $N-56^{\circ}$  - Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第99号竪穴建物跡 (第17図)

第19次調査F区に位置する。平面形態は方形で、一辺約4mを測る。主軸方位は $N-44^\circ$  — Eである。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第100号竪穴建物跡** (第18図、第39図15、第11表)

第19次調査F区に位置する。平面形態は方形で、長軸3.7m、短軸3.1mを測る。主軸方位はN-50°-Eである。カマドは確認面においては確認できなかった。 掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第39図15の土師器皿1点のみである。

#### 第101号竪穴建物跡(第10図)

第19次調査B区に位置する。平面形態は方形で、主軸方位は $N-18^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第174号竪穴建物跡(第11図、第69図  $1 \sim 3$ 、第26表) 第31次調査A区に位置し、第175号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺6.2mを測る。主軸方位はN-55° -Eである。カマドは北東壁やや南寄りに

図示できた遺物は、第69図 $1\sim3$ である。1は有段口縁坏、2は北武蔵型坏、3は須恵器甕である。

構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### 第175号竪穴建物跡(第11図)

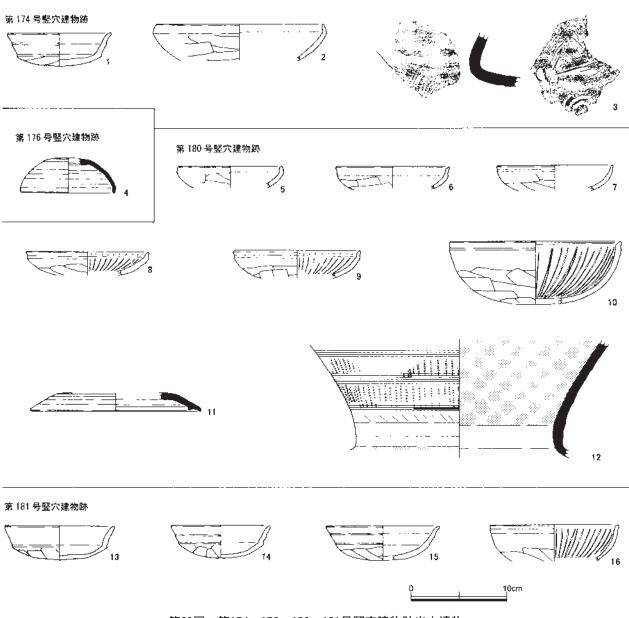
第31次調査A区に位置し、第174号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺約7 mを測ると思われる。主軸方位はN-14° -E である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第176号竪穴建物跡** (第9図、第69図4、第26表)

第31次調査A区に位置し、第177号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、主軸方位は $N-52^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第69図4の須恵器坏H蓋である。 遺構の時期は、7世紀後半と推定される。



第69図 第174·176·180·181号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ 174	Н	坏	(10. 9)	3. 6		АВСЕ	普	灰褐	50%	
2		Н	坏	(17. 6)			ACE	普	橙	20%	
3		S	甕				ACFH	普	灰		
4	SJ 176	S	蓋	(9. 9)	3. 7		A C	良	灰	45%	
5	SJ 180	Н	坏	(10. 9)			ABCEI	普	橙	10%	
6		Н	坏	(11. 8)			ACE	普	赤褐	15%	
7		Н	坏	(12. 1)			ACDE	普	橙	20%	
8		Н	坏	(12. 9)			АСЕН	普	橙	20%	
9		Н	坏	(13. 2)			АВСЕ	普	橙	15%	
10		Н	坏	(17. 8)	(6.7)		АВСЕ	良	橙	30%	
11		S	蓋	(17. 9)			АСНІ	普	灰	15%	
12		S	甕				A C	良	灰	5 %	内外面に自然釉、SX3-273・274と接合

第26表 第174・176・180号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
13	SJ 181	Н	坏	11. 4	3. 6		АВСЕ	良	橙	60%		
14		Н	坏	(10. 4)	3. 5		АВСЕ	良	橙	50%		
15		Н	坏	(11. 9)	3. 6		ACE	普	暗褐	25%		
16		Н	坏	(13. 5)			АСЕ	良	橙	15%		

第27表 第181号竪穴建物跡出土遺物観察表

#### 第177号竪穴建物跡(第9図)

第31次調査A区に位置し、第176号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、南東壁が1m張り出す。 長軸3.6m、短軸2.8mを測る。主軸方位はN-51°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第178号竪穴建物跡(第11図)

第31次調査B区に位置し、第191号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺6 mを測る。主軸方位は N-60° - E である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第179号竪穴建物跡(第12図)

第31次調査 B 区 に 位置する。 平面 形態 は 方形で、 一辺 3.5 m を 測る。 主軸 方位 は N -46° -E である。 掘り下げ はほとんど 行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第180号竪穴建物跡 (第11図、第69図  $6 \sim 12$ 、第26表) 第31次調査B区に位置し、第 $66 \cdot 68$ 号建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸2.3m、短軸1.8mを測る。主軸方位はN-62° -Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第69図  $5 \sim 12$ である。5 は北 武蔵型坏、 $6 \cdot 7$  は暗文系無文坏、 $8 \sim 10$  は暗文坏 である。 $11 \cdot 12$  は須恵器で、11 は蓋、12 は甕である。 12 は $SX3-273 \cdot 274$  と接合した。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

**第181号竪穴建物跡** (第9図、第69図13~16、第27表)

第31次調査A区に位置し、第40号溝に切られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第69図13~16である。全て土師器で、13は模倣坏、14・15は有段口縁坏、16は暗文坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### 第191号竪穴建物跡(第11図)

第31次調査B区に位置し、第178号竪穴建物跡に切られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

### c 特殊土坑

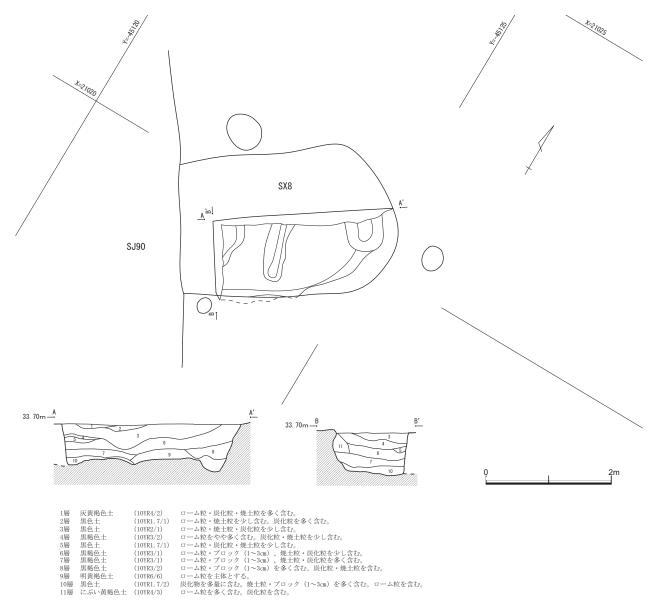
第7号特殊土坑(第10図、第72図  $1 \sim 7$ 、第28・29表) 第19次調査B区に位置し、第85号竪穴建物跡を切る。 平面形態は長方形を呈し、長軸8.6m、短軸2.7mを測る。主軸方位は $N-23^\circ$  — Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第72図 $1\sim7$ である。 $1\sim6$ はロクロ土師器で、 $1\cdot2$ は坏、3は椀、 $4\sim6$ は内面黒色処理されたロクロ土師器で、 $4\cdot5$ は高台椀、6は椀、7は須恵器甕である。

遺構の時期は、10世紀後半と推定される。

#### 第8号特殊土坑 (第70図)

第19次調査C区の第7号塀跡による区画内に位置 し、第90号竪穴建物跡に切られる。平面形態は楕円形 を呈し、長径3.4m、短径2.2mを測る。主軸方位はN-



第70図 第8号特殊土坑

55° − E である。

図示できる遺物は出土しなかった。 遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### **第9号特殊土坑**(第14図、第72図8~10、第29·30表)

第19次調査C区に位置し、第7号塀跡、第92号竪穴建物跡、第19号特殊土坑を切る。第20号特殊土坑と平行する。平面形態は溝状を呈し、長軸8m、短軸1.4mを測る。主軸方位はN-70°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

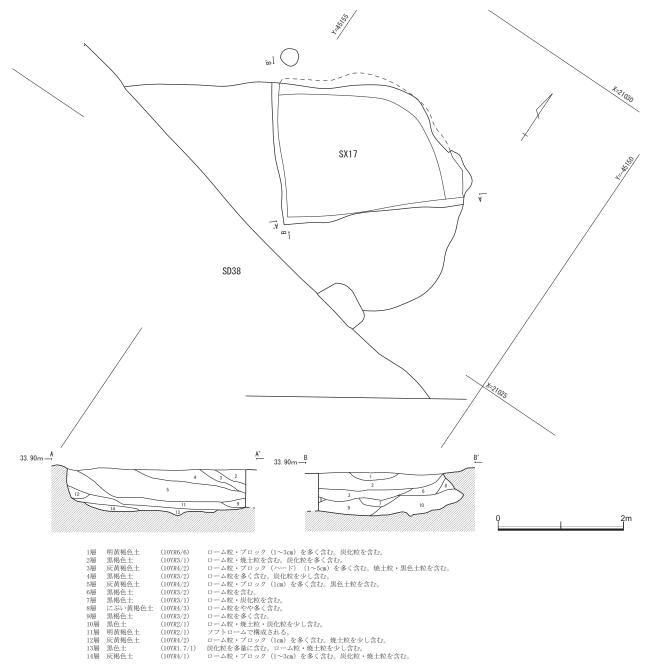
図示できた遺物は、第72図8~10である。8は有

段口縁坏、9はロクロ土師器坏、10は須恵器甕である。 遺構の時期は、10世紀後半と推定される。

### **第10号特殊土坑** (第11図、第72図11 ~ 13、第30表)

図示できた遺物は、第72図 $11\sim13$ である。11は北 武蔵型坏、12は暗文坏、13は鉄釘である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。



第71図 第17号特殊土坑

### **第11号特殊土坑**(第11図、第72図14、第30表)

図示できた遺物は、第72図14の台付甕である。 遺構の時期は7世紀後半と推定される。

### **第12号特殊土坑** (第12図、第72図15 ~ 19、第30表)

第19次調査D区の第7号塀跡による区画外に位置する。平面形態は不整円形を呈し、直径約4mを測る。 掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第72図 $15\sim19$ である。全て土師器で、15は有段口縁坏、16は北武蔵型坏、 $17\sim19$ は暗文坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### **第13号特殊土坑** (第12図、第72図20 ~ 24、第30表)

第19次調査D区の第7号塀跡による区画外に、塀に沿って位置する。平面形態は長方形を呈し、長軸4m以上、短軸2.1mを測る。主軸方位はN-44°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第72図 $20 \sim 24$ である。 $20 \sim 22$ は須恵器蓋、23は土師器皿、24は甕である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

#### 第14号特殊土坑 (第13図)

第19次調査D区に位置し、第7・9号塀跡による区 画外に位置する。平面形態は不整円形を呈し、直径約 3mを測る。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第15号特殊土坑 (第13図、第72図25・26、第30表)

第19次調査D区の第9号塀跡による区画外に位置する。平面形態は不整円形を呈し、直径約5.5mを測る。 掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第72図25・26の暗文坏である。 26は内面に「×」の線刻が施される。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### 第16号特殊土坑 (第13図、第73図 $1 \sim 6$ 、第30表)

第19次調査D区に位置し、第9号塀跡、第95号竪穴建物跡、第22号特殊土坑、第47号溝を切る。平面形態は溝状を呈し、長軸6.8m、短軸1.1mを測る。第95号竪穴建物跡との重複部分により、確認面からの掘り込みの深さは40cmを測る。主軸方位はN-67°-Wである。

図示できた遺物は、第73図 $1\sim6$ である。1は須恵器坏で、内面に「鼎」の墨書が認められる。「縣」と考えられる。2は須恵器高台坏、3は須恵器坏、 $4\sim6$ はロクロ土師器で、 $4\cdot5$ は坏、6は高台椀である。6は内面に墨痕が認められる。

遺構の時期は、10世紀前半と推定される。

#### **第17号特殊土坑** (第71図、第73図 7 ~ 32、第30表)

第19次調査D区の第9号塀跡による区画内に、塀に沿って位置し、第38号溝に切られる。平面形態は楕円形を呈し、長径5.3m以上、短径3.6mを測る。主軸方位は $N-56^{\circ}$  — Eである。

図示できた遺物は、第73図 7  $\sim$  32である。 7  $\sim$  21は土師器で、7  $\sim$  16は有段口縁坏、17  $\sim$  19は暗文坏である。20は坏で、内面に「 $\times$ 」の線刻が施される。21は畿内産土師器の暗文坏である。22  $\sim$  28は須恵器で、22  $\sim$  23は坏H蓋、24  $\sim$  26は坏H、27は蓋、28は椀である。29  $\sim$  32は土師器甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### 第18号特殊土坑

第174号竪穴建物跡に変更したため、欠番とした。

#### **第19号特殊土坑** (第14図、第74図 1 ~ 17、第31表)

第19次調査C区の第7号塀跡による区画外に位置し、第92号竪穴建物跡を切り、第9号特殊土坑に切られる。平面形態は不整楕円形を呈し、長径4.8m、短径3.9mを測る。主軸方位はN-46°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

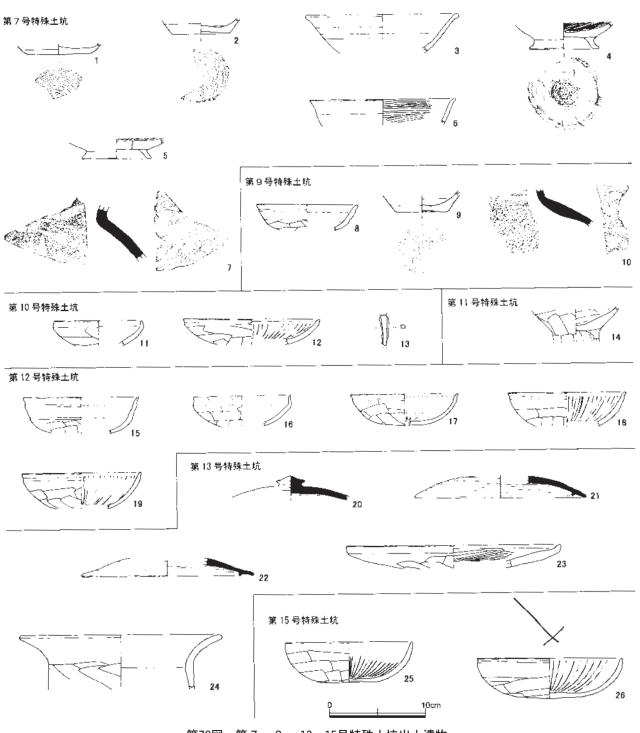
図示できた遺物は、第74図 $1\sim17$ である。 $1\sim11$ は土師器で、1は有段口縁坏、2は北武蔵型坏、3は暗文系無文坏、 $4\sim9$ は暗文坏、 $10\cdot11$ は暗文皿である。1は内面に「 $\times$ 」の線刻が施される。 $12\sim14$ は須恵器蓋、 $15\cdot16$ は土師器甕、17は須恵器瓶である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### **第20号特殊土坑** (第14図、第74図18 ~ 20、第31表)

第19次調査C区、第31次調査B区に位置し、第66号建物跡を切り、第9号特殊土坑と平行する。平面形態は溝状を呈し、長軸6.5m以上、短軸1.4mを測る。主軸方位はN-70°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

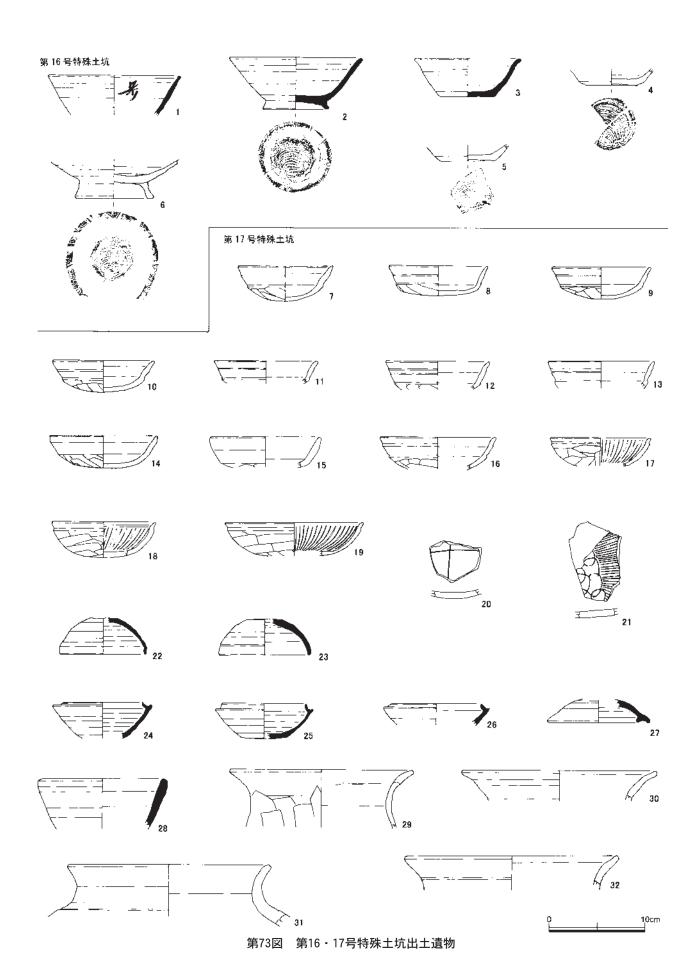
図示できた遺物は、第74図18 ~ 20である。18・19 は暗文坏、20は棒状鉄製品である。



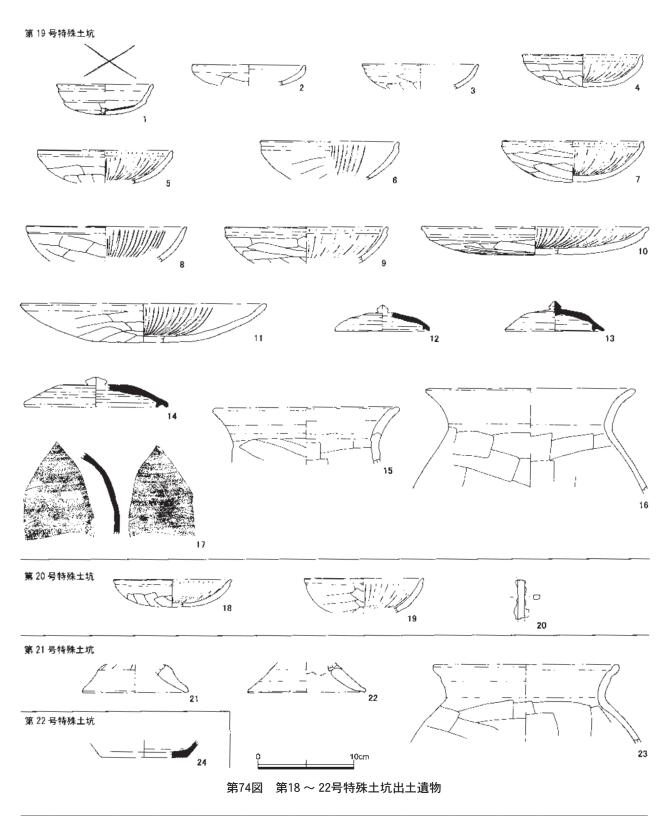
第72図 第7・9~13・15号特殊土坑出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
72図 1	SX 7	R	坏			(6. 4)	АВСЕ	普	橙	15%	
2		R	坏			6. 0	АВСЕ	普	黄橙	25%	
3		R	椀	(16. 0)			АВСЕН	不良	橙	10%	
4		R	高台椀			7. 0	АВСЕ	普	橙	25%	内面黒色処理
5		R	高台椀			(7. 3)	АВСЕ	普	橙	15%	内面黒色処理

第28表 特殊土坑出土遺物観察表 (1)



-96-



番	号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
72図	6	SX7	R	椀	(15. 3)			ABCEI	普	橙	5 %	内面黒色処理
	7		S	甕				ACFH	普	灰		
	8	SX 9	Н	坏	(10. 6)			АСЕ	普	暗褐	15%	内面黒色処理
	9		R	坏			5. 2	ABCEI	普	橙	25%	

第29表 特殊土坑出土遺物観察表 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
72図 10	SX 9	S	甕				ACFH	良	灰		外面に自然釉
11	SX10	Н	坏	(9. 2)			ACE	普	橙	15%	
12		Н	坏	(14. 2)			ABCE	普	橙	20%	
13			鉄釘		幅0.9	厚0.3					重さ 2.34g
14	SX11	Н	台付甕				АСЕН	普	にぶい橙	5 %	
15	SX12	Н	坏	(12. 2)			АСЕ	普	灰褐	15%	
16		Н	坏	(10. 1)			ACEH	良	橙	35%	
17		Н	坏	(11. 2)	3. 3		ABCE	良	橙	30%	
18		Н	坏	(12. 3)			ABCE	普	橙	25%	
19		Н	坏	(12. 5)			АВСЕН	普	橙	20%	
20	SX13	S	蓋				АВСН	不良	灰橙	20%	
21		S	蓋	(17. 8)			A C	良	灰	15%	
22		S	蓋	(18. 0)			A C	良	灰	10%	
23		Н		(22. 4)			ACE	普	灰褐	10%	
24		Н	甕	(21. 0)			ABCEH	普	橙	5 %	
25	SX15	Н	坏	(13. 4)	4. 3		ABC	普	橙	20%	
26	52110	Н	坏	(15. 4)	4. 3		ABCE	普	橙	30%	  内面に「×」の線亥
73図 1	SX16	S	坏	(13. 8)	4. 0		A C	普	灰	30%	内面に「肌」の墨書
2	02110	S	高台坏	(13. 7)	5. 5	6. 6	A C E	不良	灰	50%	11四に   州口 公室員
3		S	坏	(11. 1)	4. 0	5. 7	ACE	不良	黒褐	60%	
4			坏坏	(11. 1)	4.0	5. 5	ACE		にぶい橙	25%	
5		R	坏坏			(5. 6)		不良 普	を	20%	
		R	•				ABCE				
6	077177	R	高台椀	(0, 0)	9.7	7. 9	ACEH	普	にぶい橙	30%	
7	SX17	H	坏	(9. 9)	3. 7		ACE	普	灰褐	30%	
8		H	坏	(10. 4)	3. 2		ACE	普	灰褐	60%	
9		H	坏	10. 3	3. 4		ABCE	普	にぶい橙	85%	
10		H	坏	(10. 7)	3. 4		ACDE	普	橙	25%	
11		Н	坏	(10. 9)			ABCE	普	橙	20%	
12		Н	坏	(10. 9)			ACE	普	黒褐	15%	
13		Н	坏	(11. 1)			ACE	普	橙	15%	
14		Н	坏	(11. 4)	3. 4		ACEH	良	赤褐	40%	
15		Н	坏	(11. 4)			ACE	普	橙	15%	
16		Н	坏	(12. 1)			ACEH	普	にぶい橙	20%	
17		Н	坏	(10. 4)			ABCE	普	橙	25%	
18		Н	坏	(10.8)	3. 4		ABCE	普	黒褐	25%	
19		Н	坏	(14. 4)			ABCE	普	橙	25%	
20		Н	坏				ACE	普	にぶい橙	10%	内面に「×」の線刻
21		Н	坏				A C	良	橙	10%	畿内産土師器
22		S	蓋	(9. 1)	3. 8		A C	良	灰	40%	
23		S	蓋	(9. 4)	3. 8		A C	普	灰	45%	
24		S	坏	(10. 5)			A C	良	青灰	20%	
25		S	坏	10. 4	3. 7		A C	良	青灰	50%	
26		S	坏	(11. 2)			АВС	不良	灰褐	25%	
27		S	蓋	(10. 4)			АСН	普	灰	35%	
28		S	椀	(12. 8)			АСН	良	青灰	10%	
29		Н	甕	(19. 0)			АВСЕН	普	にぶい橙	10%	
30		Н	甕	(20. 1)			ABCEH	普	にぶい橙	5 %	
31		Н	甕	(21. 0)			АВСЕН	普	橙	5 %	
32		Н	甕	(22. 3)			ACEH	普	橙	5 %	

第30表 特殊土坑出土遺物観察表 (3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
74図 1	SX19	Н	坏	10. 1	3. 2		ABCDE	良	橙	80%	内面に「×」の線刻
2		Н	坏	(11.8)			ACE	普	にぶい橙	10%	
3		Н	坏	(12. 1)			ABCEI	普	橙	15%	
4		Н	坏	12.6	3. 4		АВСЕ	普	橙	75%	
5		Н	坏	(14. 1)			АВСЕ	普	橙	20%	
6		Н	坏	(14. 4)			АВСЕН	普	橙	15%	
7		Н	坏	(14. 7)	4. 3		АВСЕН	普	橙	50%	
8		Н	坏	(16. 8)			АВСЕ	良	赤褐	15%	
9		Н	坏	(17. 0)			ACE	普	橙	20%	
10		Н	Ш	(22.8)	3. 0		ACDE	普	にぶい橙	25%	
11		Н	Ш	(25. 9)	4. 1		ACDE	普	灰褐	25%	
12		S	蓋	(9.9)	(2.8)		ACFH	良	灰	45%	
13		S	蓋	10. 2	3. 2		ACFH	良	灰褐	100%	
14		S	蓋	(14. 9)	(3. 2)		ACDH	普	灰	45%	
15		Н	甕	(19. 0)			АВСН	普	橙	15%	
16		Н	甕	(21. 4)			АВСЕН	普	橙	20%	
17		S	瓶				A C	良	灰	5 %	外面に自然釉
18	SX20	Н	坏	(12. 4)	2. 9		АВСЕ	普	にぶい赤褐	25%	
19		Н	坏	(12. 5)			ACE	普	橙	20%	
20			棒状鉄製品		幅 0.7	厚 0.5					重さ 7.34g
21	SX21	Н	台付甕			(11. 0)	АСЕ	普	にぶい橙	5%	
22		Н	台付甕			(12. 3)	АВСЕ	普	にぶい橙	5%	
23		Н	甕	(19. 3)			АВСЕН	普	橙	10%	
24	SX22	S	坏			(8. 9)	A C G	普	灰	10%	

第31表 特殊土坑出土遺物観察表(4)

#### **第21号特殊土坑** (第13図、第74図21 ~ 23、第31表)

第19次調査D区に位置し、第49号溝を切り、第95号 竪穴建物跡に切られる。平面形態は円形を呈し、直径 約4mを測る。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第74図 $21 \sim 23$ である。全て土師器で、 $21 \cdot 22$ は台付甕、23は甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### **第22号特殊土坑** (第13図、第74図24、第31表)

第19次調査D区に位置し、第49号溝を切り、第95号 竪穴建物跡、第16号特殊土坑に切られる。平面形態は 楕円形で、短径約1.8mを測る。

図示できた遺物は、第74図24の須恵器坏である。

#### 第23号特殊土坑

第95号竪穴建物跡と一体のため、竪穴建物跡の項で述べた。

### 第36号特殊土坑 (第12図)

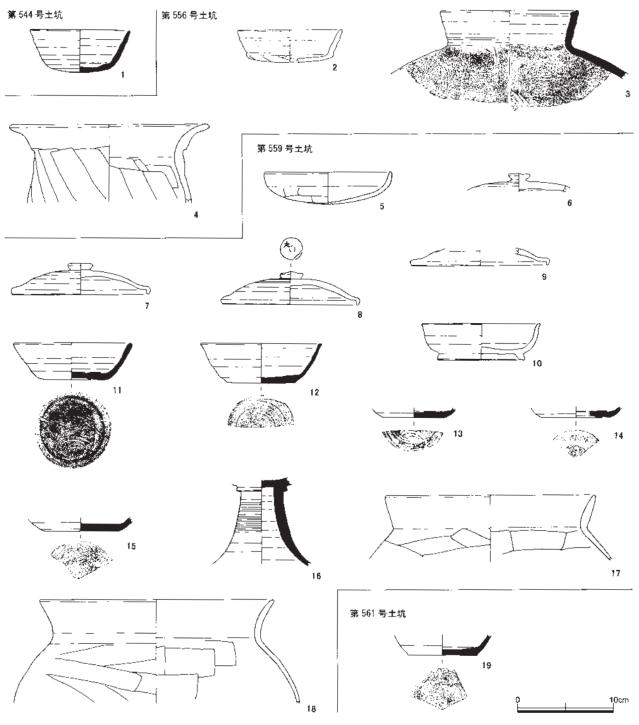
第31次調査B区に位置する。平面形態は円形を呈し、 直径約2.4mを測る。掘り下げはほとんど行なわなかっ た。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第37号特殊土坑 (第11図)

第31次調査B区に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約4m、短径3mを測る。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。



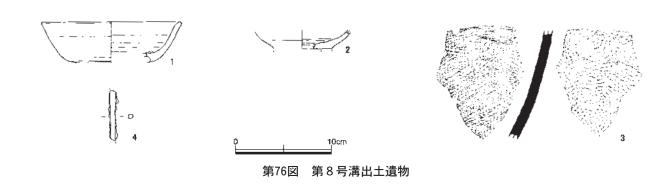
第75図 第544・556・559・561号土坑出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
75図 1	SK544	S	坏	(10. 5)	4. 5		ACDH	普	灰	50%		
2	SK556	Н	坏	(10. 3)	3. 4		АВСЕН	普	暗褐	25%		
3		S	甕	(14. 3)			АСН	普	青灰	15%		
4		Н	甕	(20. 8)			ACE	普	橙	15%		
5	SK559	Н	坏	13. 2	3. 4		АСЕ	普	橙	50%		

第32表 土坑出土遺物観察表(1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
75図 6	SK559	Н	蓋				АВСЕ	普	にぶい赤褐	10%	
7		Н	蓋	14. 5	3. 3		АВСЕ	普	橙	75%	
8		Н	蓋	(14. 3)	3. 5		АВСЕ	普	橙	80%	摘みに「大」の墨書
9		Н	蓋	(14. 3)			АВСЕ	普	橙	15%	
10		Н	高台坏	(12. 3)	3. 9	9. 1	АВСЕ	普	橙	60%	
11		S	坏	(12. 4)	3. 9		АСН	普	灰	50%	
12		S	坏	(12. 7)	4. 2	7. 3	A C G H	普	灰	30%	
13		S	坏			(6. 4)	ACGH	普	灰	10%	
14		S	坏			(7. 2)	ABCG	普	灰	10%	
15		S	坏			(7.8)	ACGH	普	灰	15%	
16		S	高坏				ACGH	良	青灰	20%	
17		Н	甕	22. 1			АВСЕН	普	赤褐	15%	
18		Н	甕	(24. 8)			АСЕН	普	赤褐	15%	
19	SK561	S	坏			(7. 2)	A C G	良	灰	15%	

第33表 土坑出土遺物観察表(2)



番	号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
	1	R	椀	(14. 6)			ABCFHI	良	橙	20%	
	2	R	高台椀				АВСНІ	良	橙	5 %	
	3	S	甕				ACFH	良	青灰		
	4		棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.4					重さ 3.55g

第34表 第8号溝出土遺物観察表

# d 土坑

20基確認された。この内、古代のものと思われるものの一部について述べたい。

## 第544号土坑 (第 9 図、第75図 1 、第32表)

第19次調査 B 区に位置し、第44号建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺1.4mを測る。主軸方位は $N-50^\circ$  - Wである。位置関係から、第42号建物跡に伴う可能性がある。掘り下げはほとんど行なわ

なかった。

図示できた遺物は、第75図1の須恵器坏である。

第559号土坑(第28図、第75図 5  $\sim$  18、第32・33表)

第19次調査B区に位置し、第86号竪穴建物跡を切り、 第55号建物跡に切られる。東西1.4mを測る。底面は 凹凸があり、確認面からの深さは最深部が25cmであ る。

図示できた遺物は、第75図  $5 \sim 18$ である。5 は坏、 $6 \sim 9$  は土師質の蓋である。8 は摘みに「大」の墨書

が認められる。10は土師質の高台坏である。 $11 \sim 15$ は須恵器で、 $11 \sim 15$ は坏、16は高坏である。 $17 \cdot 18$ は土師器甕である。

遺構の時期は、8世紀後半と推定される。

## e 溝

#### 第8号溝 (第17・18・76図、第34表)

第19次調査E・F区で確認された。二重溝と土塁による方形区画の南辺区画外溝で、第57・58号建物跡、第556・558号土坑を切る。幅 $0.8\sim3.6$ mを測り、主軸方位はN-15°ーEである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第76図 $1\sim4$ である。 $1\cdot2$ は ロクロ土師器で、1は椀、2は高台椀である。3は須 恵器甕、4は棒状鉄製品である。

溝の埋没時期は、これまでの調査等から、11世紀前 半と推定される。

第38号溝 (第9・11・13・15・16・77 ~ 79図、第35 ~ 37表)

第19次調査B・C・D・E区、第31次調査A区で確認された。二重溝と土塁による方形区画の東辺及び南辺区画内溝で、第42・44~48号建物跡、第 $7\cdot9$ 号塀跡、第7号特殊土坑、第 $40\cdot41\cdot44$ 号溝を切り、第 $546\cdot549$ 号土坑に切られる。幅 $1.5\sim3.5$ mを測り、主軸方位は $N-20^\circ-E$ である。一部掘り下げたところ、底面は凹凸があり、壁は斜めに立ち上がる。確認面までの深さは $55\sim75$ cmを測る。

図示できた遺物は、第78図1~第79図44である。1 は続比企型坏、2・3は北武蔵型坏、4は暗文皿、5・6は皿、7は坏で内面に煤が付着する。8~34はロクロ土師器で、8~23は高台椀、24~27は椀である。25は「七」の墨書が認められる。28~34は坏である。35~41は須恵器で、35・36は蓋、37は坏、38は高台坏、39は長頸瓶、40・41は甕である。42は台付甕、43は土錘、44は鉄釘である。 溝の埋没時期は、これまでの調査等から、11世紀前 半と推定される。

#### 第39号溝 (第9~18·80~82図、第38~40表)

第19次調査B・C・D区で確認された。二重溝と土塁による方形区画の東辺及び南辺区画外溝で、第42・48・50号建物跡、第4・6・9号塀跡、第84・98号竪穴建物跡を切り、第548号土坑に切られる。また、第45・58号溝は第39号溝から延びる。幅2.1~3.6mを測り、主軸方位は $N-20^\circ$  — Eである。一部掘り下げたところ、底面には凹凸があるとみられ、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは65~85cmを測る。

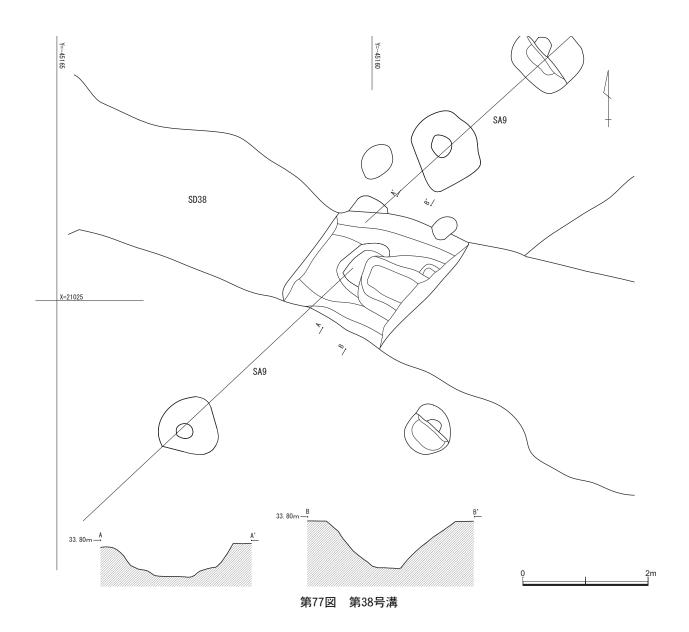
図示できた遺物は、第82図  $1 \sim 28$ である。  $1 \sim 5$ は土師器で、1は有段口縁坏、2は坏、 $3 \sim 5$ は暗文坏である。 $6 \sim 17$ はロクロ土師器で、 $6 \sim 9 \cdot 11$ は小皿、10は坏、 $12 \sim 16$ は高台椀、17は椀である。 $18 \sim 26$ は須恵器で、18は坏H、 $19 \sim 22$ は蓋、23は坏、24は高台坏、25は瓶、26は甕である。27は土師器甕、28は鉄滓である。

溝の埋没時期は、これまでの調査等から、11世紀前 半と推定される。

### 第40号溝 (第8・9・83~86図、第41・42表)

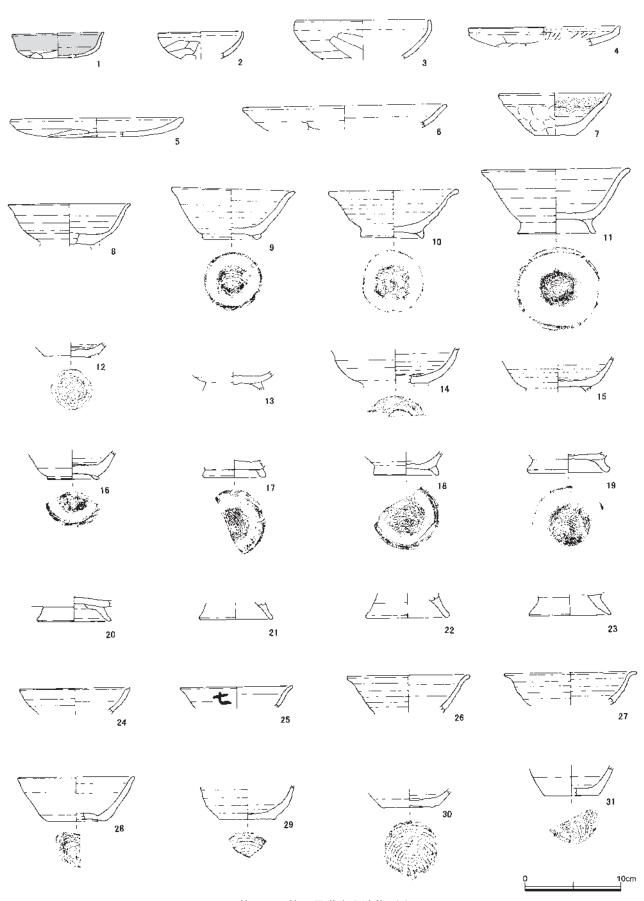
第19次調査A区、第31次調査A区で確認された。第
181号竪穴建物跡を切り、第38・77号溝に切られる。
第41号溝と共に方形区画を成す北辺区画溝と考えられる。ただし、第41号溝との交差部分から溝が狭くなり、
更に北西へと延びる。幅は1.8mを測り、幅狭となる
北西部は1mである。主軸方位はN-42°-Wである。
第41号溝との交差部分から測って約30mの場所が開放しており、中心と考えると、区画の大きさは一辺約60mと推定される。開放部は2.8mである。一部掘り下げたところ、上半が広がる逆台形の掘方で、確認面からの深さは60cmを測る。

図示できた遺物は、第84図  $1 \sim$  第86図59である。  $1 \sim 6$  は土師器坏、 $7 \sim 11$ は土師器暗文坏、12は土師質の蓋である。12は摘みに「一」の墨書が認めら

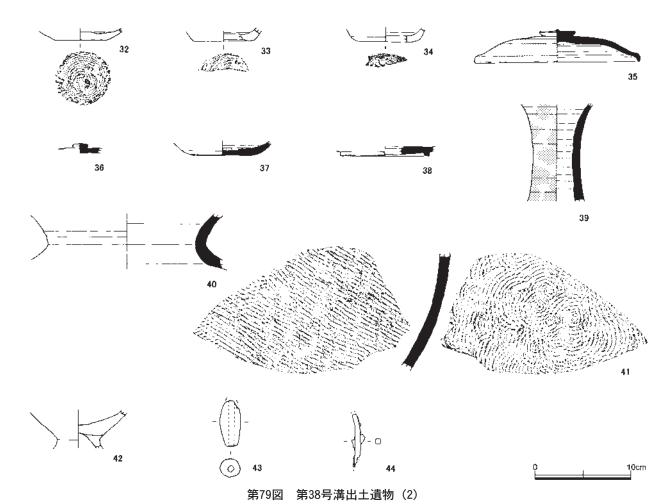


番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(9. 6)	2. 6		АВСН	良	橙	20%	内外面赤彩
2	Н	坏	(8. 8)			ACDE	普	橙	15%	
3	Н	坏	(14. 1)			ACEH	普	橙	20%	
4	Н	Ш	(15. 8)			АВСЕ	普	橙	10%	
5	Н	Ш	(18. 0)			ABCEH	普	にぶい橙	15%	
6	Н	ш	(21. 3)			ABCI	普	橙	10%	
7	Н	坏	11. 5	4. 4	4. 0	ACEI	普	橙	75%	内面に煤
8	R	高台椀	(13. 0)			АВСЕ	普	橙	25%	
9	R	高台椀	(12. 8)	5. 4	5. 6	ABCE	普	黄橙	70%	
10	R	高台椀	13. 4	5. 0	6. 4	ABCE	普	橙	80%	
11	R	高台椀	(15. 5)	6. 9	8. 0	ACEI	普	橙	60%	
12	R	高台椀				ABCFH	普	橙	10%	
13	R	高台椀				ABCEH	普	橙	15%	
14	R	高台椀				ACFHI	普	橙	10%	

第35表 第38号溝出土遺物観察表 (1)



第78図 第38号溝出土遺物(1)

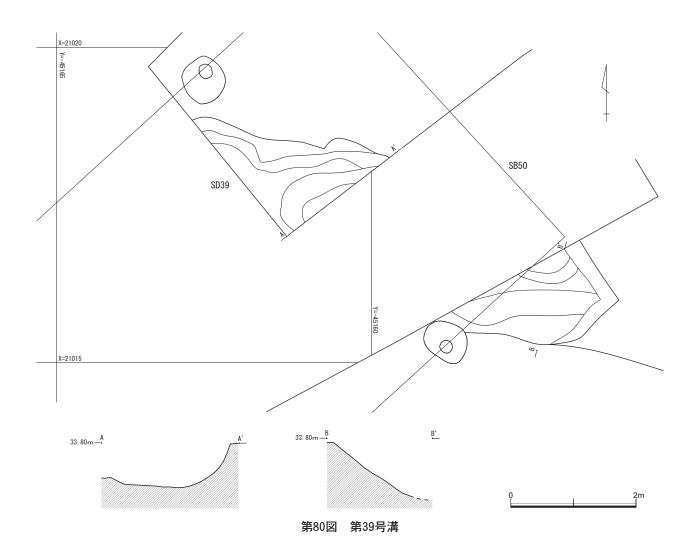


番号 口径 種別 器種 器高 底径 胎土 焼成 色調 残存 備 考 15 高台椀 АВСЕ 普 橙 25%R 16 R 高台椀 5. 2 АВСЕН 普 橙 20%6.2 АВСЕ 普 橙 17 R 高台椀 15% АСЕ 20% 18 R 高台椀 6.6 普 橙 19 R 高台椀 (8.0)АСЕ 普 黄橙 20%20高台椀 7.5 АВСЕН 良 橙 25%R 21 高台椀 (6.4)АВСЕ 普 にぶい橙 5% R 高台椀 橙 22R (8.5)АВСІ 普 5% 高台椀 23 АСЕ 普 橙 20%R 8.4 24 椀 (11.6)АСЕН 普 橙 10% R 25R 椀 (11.8)АСЕ 普 黄橙 10%外面に「七」の墨書 (12.6) 26 R 椀 АВСЕ 良 にぶい橙 10% 27 R 椀 (13.6)АВСЕ 普 橙 10% 28 坏 (12.3)4.7 (6.1)ABCDE 普 橙 40%R 29 坏 (5.9)АВСЕ 普 黄橙 20%R 30 R 坏 5. 3 АВСНІ 普 橙 30%5.6 25%31坏 АВСЕ 普 黄橙 R 30% 32 R 坏 5. 5 ABCEHI 普 橙 33 R 坏 (5.6)ABCDE 普 橙 15% 34 坏 (5.7)АВСЕ 普 黄橙 15%R 35 (17.2)3. 3 АС 良 30% 外面に自然釉 S 蓋 灰

第36表 第38号溝出土遺物観察表 (2)

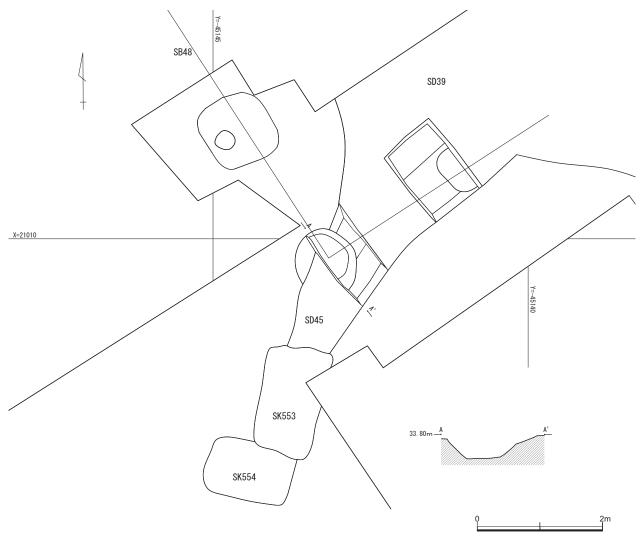
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
36	S	蓋				A C	普	灰	10%	
37	S	坏			6.0	АСН	普	灰	20%	
38	S	高台坏			(9.4)	A C	良	灰	10%	
39	S	長頸瓶				A C	良	灰	15%	外面に自然釉
40	S	甕				АСН	良	灰	5 %	
41	S	甕				ACFH	良	灰	10%	
42	Н	台付甕				АВСЕН	普	にぶい橙	10%	
43		土錘		幅12.1	厚12.0	АВСН	普	橙	90%	重さ 19.95g
44		鉄釘		幅 0.6	厚 0.5					重さ 4.91g

第37表 第38号溝出土遺物観察表 (3)



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	Н	坏	(10. 8)			ACEI	普	橙	15%	内面に墨痕	
2	Н	坏	(14. 8)			ACEI	普	にぶい橙	10%		
3	Н	坏	(10.0)			АВСЕ	普	橙	20%		
4	Н	坏	(12. 8)			АВСЕ	普	橙	20%		
5	Н	坏	(13. 4)			ACEI	普	橙	20%		

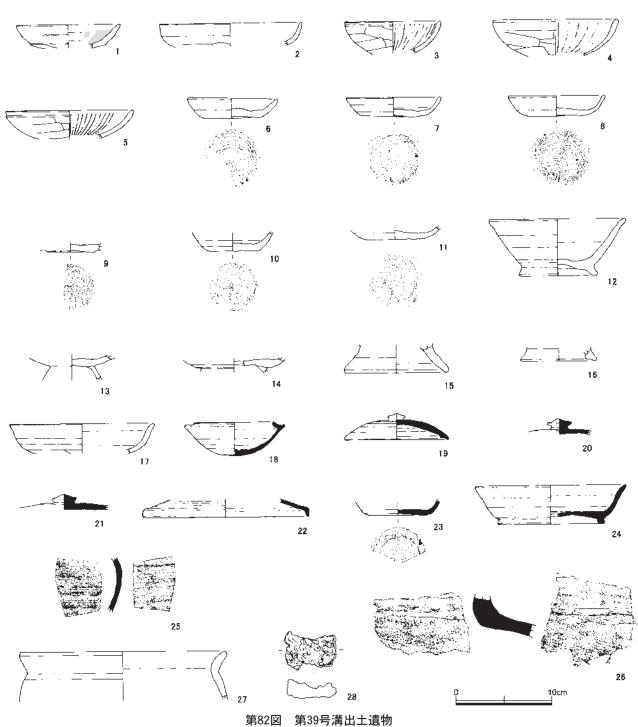
第38表 第39号溝出土遺物観察表 (1)



第81図 第39・45号溝

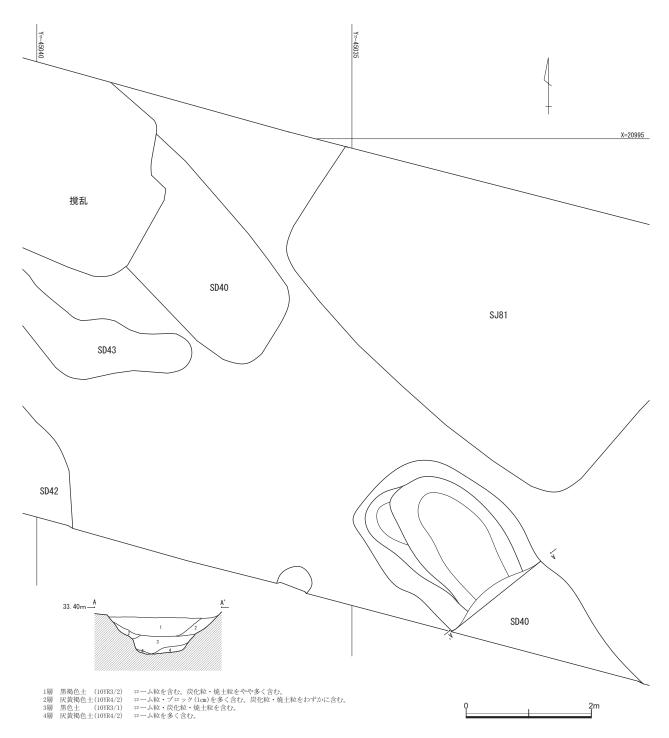
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
6	R	小皿	9. 2	2. 1	5. 2	АВСЕН	普	橙	90%	
7	R	小皿	9. 9	2. 0	5. 5	ABCEH	普	橙	95%	
8	R	小皿	10.0	2. 1	5. 6	ABCEH	普	黄橙	100%	
9	R	小皿			5. 0	ABCFHI	普	にぶい橙	20%	
10	R	坏			5. 0	ABCEI	普	橙	40%	
11	R	小皿			5. 7	ABCEI	普	黄橙	40%	
12	R	高台椀	(14. 1)	6. 0	(7.8)	ABCEI	普	にぶい橙	40%	
13	R	高台椀				АВСЕ	普	橙	25%	
14	R	高台椀				ABCEI	普	橙	10%	
15	R	高台椀			(10. 5)	ABCE	普	橙	15%	内面黒色処理
16	R	高台椀			(7.7)	АВСЕ	普	橙	5 %	
17	R	椀	(15. 2)			ABCE	普	黄橙	10%	
18	S	坏	(8. 2)	3. 5		A C	普	灰	40%	
19	S	蓋	(10.8)	(2.8)		ACFH	普	灰	30%	
20	S	蓋				ACFH	普	灰	10%	
21	S	蓋				ACFH	普	青灰	25%	

第39表 第39号溝出土遺物観察表 (2)



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
22	S	蓋	(17. 3)			A C D	普	灰	10%	
23	s	坏			(6.0)	ACDH	普	灰	20%	
24	s	高台坏	(15. 6)	4. 0	(11. 0)	ACFH	普	青灰	30%	
25	s	瓶				A C	良	灰	5 %	外面に自然釉
26	s	甕				ACFH	良	青灰		
27	Н	甕	(21. 5)			ABCEH	普	暗褐	5 %	
28		鉄滓	長 2.7	幅 5.2	厚 1.0					重さ 39.52g

第40表 第39号溝出土遺物観察表 (3)

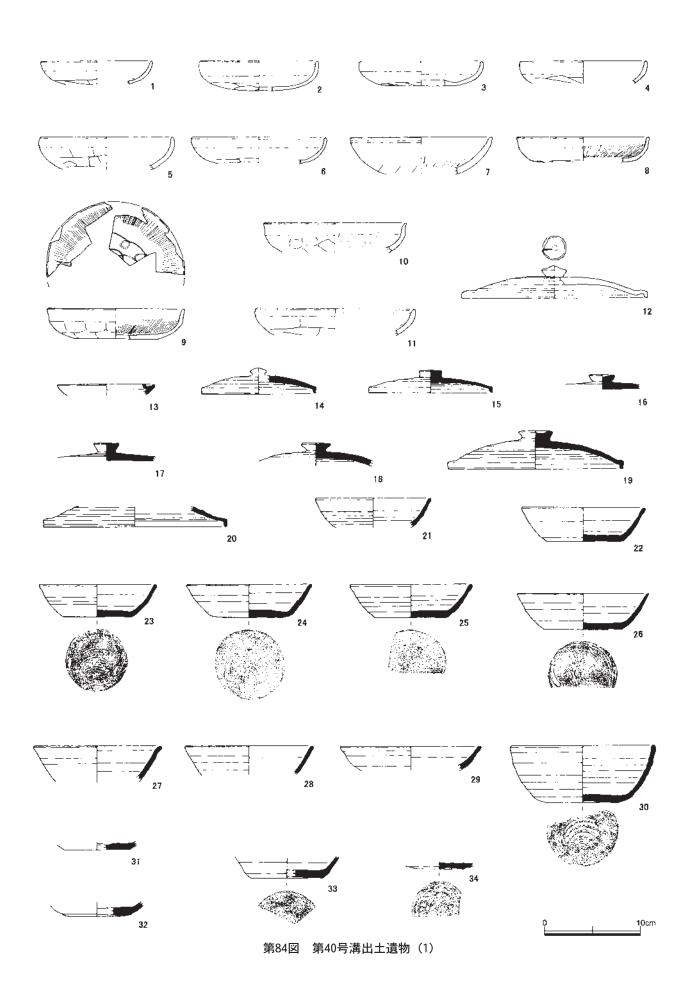


第83図 第40号溝

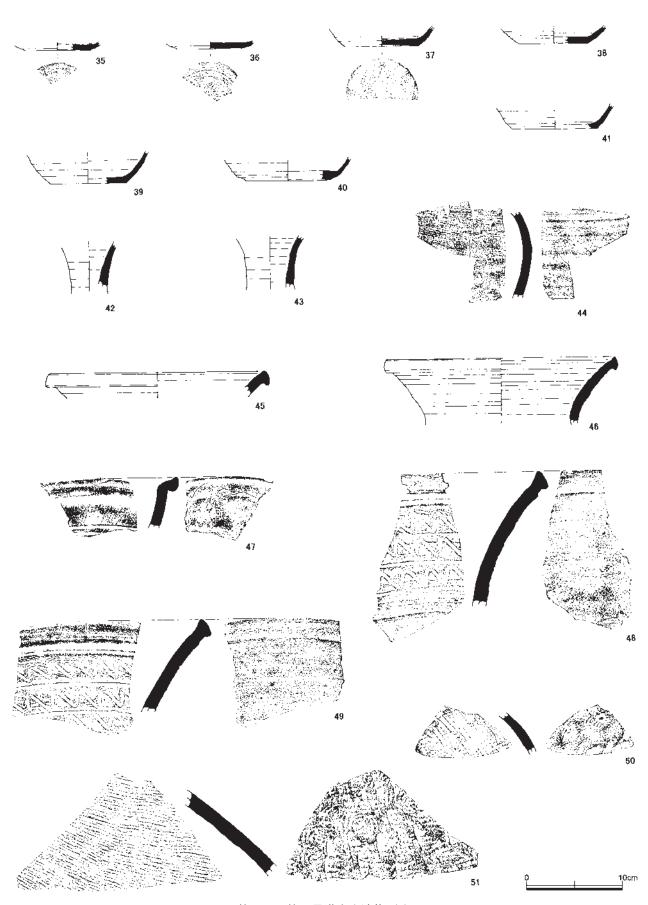
れる。13~52は須恵器で、13は坏H、14~20は蓋、 21~29・31~41は坏、30は椀、42・43は長頸瓶、44 は瓶、45~52は甕である。53は土師器甕、54は土錘、 55は刀子、56は鉄釘、57は瓦、58・59は鉄滓である。 溝の埋没時期は、8世紀後半と推定される。

### 第41号溝 (第9・87・88図、第43表)

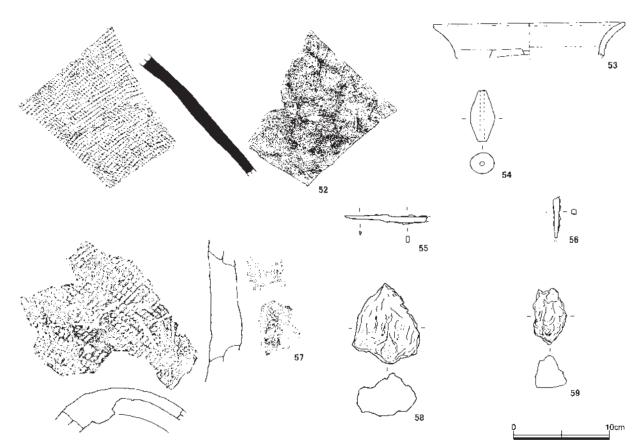
第19次調査B区で確認された。第41・42号建物跡、第84号竪穴建物跡を切り、第39号溝に切られる。第40号溝と共に方形区画を成す南辺区画溝と考えられる。幅は約2mを測り、主軸方位はN-52°-Eである。一部掘り下げたところ、掘方は上半が広がる逆台形で、



-110-



第85図 第40号溝出土遺物(2)



第86図 第40号溝出土遺物 (3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(11. 6)			ACEI	普	にぶい赤褐	10%	
2	Н	坏	(12. 3)	3. 1		ABCEI	普	橙	25%	
3	Н	坏	(12. 8)	2. 6		ACEI	普	橙	25%	
4	Н	坏	(13. 2)			ACEI	普	橙	10%	
5	Н	坏	(14. 1)			ACDE	普	にぶい橙	15%	
6	Н	坏	(14. 0)			ACI	普	橙	15%	
7	Н	坏	(14. 8)			ACEI	普	橙	20%	
8	Н	坏	(13. 8)			ACEHI	普	赤褐	20%	
9	Н	坏	(14. 6)	3. 2	(8.8)	АВСЕН	良	赤褐	40%	
10	Н	坏	(15. 0)			ACEI	普	赤褐	10%	
11	Н	坏	(16. 7)			ACEHI	普	橙	15%	
12	Н	蓋	(19. 5)	3. 5		ACEI	普	橙	25%	摘みに「一」の墨書
13	S	坏	(10. 2)			A C	良	灰	10%	
14	S	蓋	(11. 9)			ACGH	良	灰	20%	
15	S	蓋	(12. 9)	2. 4		ACGH	良	灰	45%	
16	S	蓋				ACGH	普	灰	15%	
17	S	蓋				ACGH	良	青灰	20%	
18	S	蓋				ACGH	普	灰	20%	
19	S	蓋	18. 4	4. 0		ACGH	良	青灰	75%	
20	S	蓋	(19. 2)			ACGH	普	灰	15%	
21	S	坏	(12. 0)			ACGH	良	灰	15%	
22	S	坏	12.8	3. 5	7. 8	A C G H	普	灰	50%	

第41表 第40号溝出土遺物観察表 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
23	S	坏	12. 2	3. 4	7. 0	ACGH	普	灰	70%	
24	S	坏	13. 2	3. 5	7. 0	ABCGH	普	灰	50%	
25	S	坏	(12. 7)	3. 5	(7. 6)	ACGH	普	灰	25%	
26	S	坏	(13. 8)	3. 8	8. 2	ACGH	良	青灰	45%	
27	S	坏	(13. 4)			ACGH	普	灰	15%	
28	S	坏	(13. 4)			A C	良	青灰	10%	
29	S	坏	(14. 5)			ACGH	普	灰	10%	
30	S	椀	(15. 0)	6. 0	7. 5	ACGH	良	灰	50%	
31	S	坏			(7. 0)	ACGH	良	青灰	10%	
32	S	坏			(5. 9)	ACGH	普	灰	15%	
33	S	坏			(7. 5)	ACGH	良	青灰	15%	
34	S	坏			(5. 0)	ACGH	良	青灰	15%	
35	S	坏			(6. 9)	ACGH	良	灰	10%	
36	S	坏			(6.8)	АСН	良	青灰	15%	
37	S	坏			7. 7	ACGH	普	灰白	20%	
38	S	坏			(7. 0)	ACGH	良	青灰	15%	
39	S	坏			(8.0)	ACGH	普	灰褐	15%	
40	S	坏			(8.8)	ACGH	普	灰	15%	
41	S	坏			(8. 9)	ACGH	普	青灰	10%	
42	S	長頸瓶				ACGH	良	青灰	5 %	
43	S	長頸瓶				ACGH	良	青灰	5 %	
44	S	瓶				ACGH	良	青灰	10%	
45	S	甕	(22. 6)			АСНІ	普	灰		
46	S	甕	(24. 0)			ACFH	良	青灰	5 %	
47	S	甕				ACGH	普	灰	5 %	
48	S	甕				ACFH	良	灰	5 %	
49	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
50	S	甕				A C	良	青灰		外面に自然釉
51	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
52	S	甕				ACFH	良	灰	5 %	
53	Н	甕	(20. 1)			ACEH	普	橙	5 %	
54		土錘	長 5.5	幅 2.5	厚 2.2	ABCE	普	橙	100%	重さ 24.56g
55		刀子		幅 0.6	厚 0.4					重さ 5.07g
56		鉄釘		幅 0.5	厚 0.5					重さ 2.71g
57		丸瓦				ACGH	普	橙	10%	
58		鉄滓	長 8.6	幅 6.3	厚 4.5					重さ 274.64g
59		鉄滓	長 5.7	幅 3.3	厚 3.4					重さ 67.36g

第42表 第40号溝出土遺物観察表 (2)

確認面からの深さは60cmを測る。

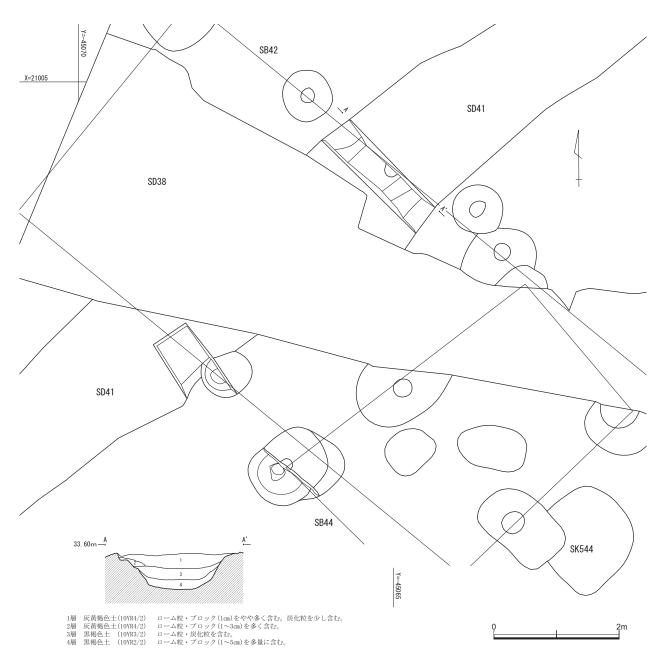
図示できた遺物は、第88図  $1 \sim 15$ である。 1 は土師器模倣坏、  $2 \cdot 3$  は土師質で、 2 は蓋、 3 は高台坏である。  $4 \sim 13$ は須恵器で、 4 は坏H蓋、 5 は蓋、  $6 \sim 8$  は坏、 9 は甑、  $10 \sim 13$ は甕である。 14は土師器甑、 15は延板状の鉄製品である。

溝の埋没時期は、8世紀後半と推定される。

### 第42号溝 (第8・89図、第44表)

第19次調査A区で確認された。幅 $0.5 \sim 1 \, \mathrm{m}$ を測り、 主軸方位は $N-45^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど 行なわなかった。

図示できた遺物は、第89図  $1\sim6$  である。 1 は土師器が、  $2\sim6$  は須恵器で、  $2\sim4$  は蓋、 5 は坏、 6 は高台坏である。 5 は内面に朱墨痕が認められる。



第87図 第41号溝

### 第43号溝 (第8図)

第19次調査A区で確認された。幅は50cmを測り、 主軸方位は $N-40^\circ$  -Wである。東半は東へ屈折する。 掘り下げはほとんど行なわなかった。

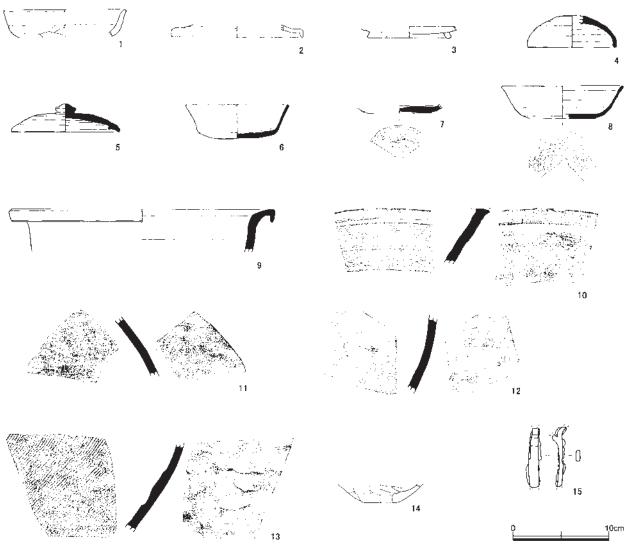
図示できる遺物は出土しなかった。

### 第44号溝 (第11図)

第19次調査C区で確認された。第45号建物跡、第38 号溝に切られる。幅は50cmを測り、主軸方位はN- 45°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。 図示できる遺物は出土しなかった。

### 第45号溝 (第81図)

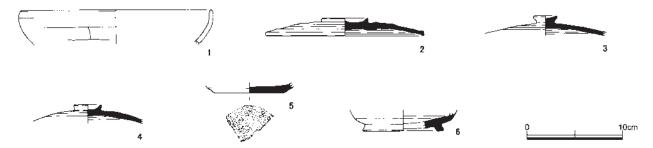
第19次調査D区で確認された。第48号建物跡を切り、第553号土坑に切られる。第39号溝から南に延びるものである。幅は1.2mを測り、主軸方位は $N-25^\circ-E$ である。掘方は逆台形で、確認面からの深さは30cmを測る。



第88図 第41号溝出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(12. 7)			АВСЕ	普	橙	10%	
2	Н	蓋	(13. 6)			ACE	普	橙	5 %	
3	Н	高台坏			8. 5	АВСЕ	普	橙	15%	
4	S	蓋	(9. 1)	3. 4		ACE	良	青灰	45%	
5	S	蓋	11. 3	3. 0		ACFH	良	青灰	70%	
6	S	坏	10. 7	3. 6	3. 4	ACFH	普	灰	85%	
7	S	坏			(6. 6)	ACG	良	青灰	10%	
8	S	坏	(12. 6)	3. 5	6.8	ACGH	普	灰	40%	
9	S	甑	(27. 6)			ACGH	普	灰		
10	S	甕				ACFH	良	青灰		
11	S	甕				ACGH	不良	灰		
12	S	甕				ACGH	不良	灰		
13	S	甕				ACGH	良	黒褐	5 %	
14	Н	甑			3. 5	АВСЕ	普	橙	5 %	
15		延板状鉄製品		幅 1.1	厚 0.4					重さ 9.48g

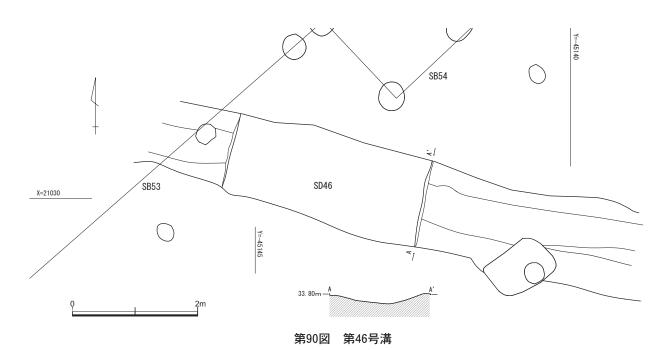
第43表 第41号溝出土遺物観察表



第89図 第42号溝出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(20.0)			АВСЕ	普	橙	5 %	
2	s	蓋	(16. 4)	1. 9		ACGH	良	青灰	35%	
3	s	蓋				ACGH	良	灰	20%	
4	s	蓋				ACGH	普	灰	20%	
5	s	坏			(7. 2)	ACGH	普	灰	15%	内面に朱墨痕
6	S	高台坏			8. 4	ACFH	良	青灰	15%	

第44表 第42号溝出土遺物観察表



図示できる遺物は出土しなかった。

近世の所産と思われる。

### 第46号溝 (第13・14・90図)

第19次調査D区で確認された。第47・53号建物跡、第9号塀跡を切る。幅は1.3mを測り、主軸方位はN-78° -Wである。掘り込みは浅く、確認面からの深さは10cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第47号溝 (第13図)

第19次調査D区で確認された。第21・22号特殊土坑 に切られる。幅は0.8mを測り、主軸方位はN-18° -Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第48号溝 (第10・30図)

第19次調査B区で確認された。第55号建物跡、第 87~89号竪穴建物跡を切る。幅は0.9mを測り、主 軸方位はN-74°-Wである。一部掘り下げたとこ ろ、確認面からの深さは10~15cmを測る。主軸方位 は9世紀後半以降のものと共通しており、該期のも のと推定される。溝の南部は攪乱を受けており不明 であるが、道路の北側溝の可能性も考えられる。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第49号溝 (第13図)

第19次調査D区で確認された。第18次D・E区から 続き、東西約20mの方形区画を成すものと思われる。 第95号竪穴建物跡、第15・16号特殊土坑に切られる。 幅は0.7mを測り、主軸方位はN-36°-Eである。

掘り下げはほとんど行なわなかった。 図示できる遺物は出土しなかった。

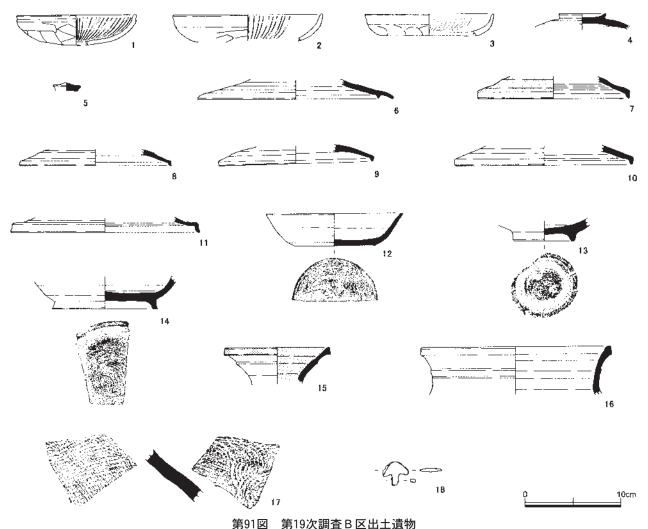
#### 第75号溝 (第9図)

第31次調査A区で確認された。第77号溝に切られる。 第76号溝と直角に並ぶ。幅は0.7mを測り、主軸方位  $\mathrm{tin} - 33^{\circ} - \mathrm{W}$ である。掘り下げはほとんど行なわな かった。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第76号溝 (第9図)

第31次調査A区で確認された。第77号溝に切られる。 第75号溝と直角に並ぶ。幅は0.7mを測り、主軸方位 はN-55°-Eである。掘り下げはほとんど行なわな かった。



図示できる遺物は出土しなかった。

幅は1.6mを測り、主軸方位は $N-25^{\circ}-E$ である。 掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

近世の所産と思われる。

### 第77号溝 (第9図)

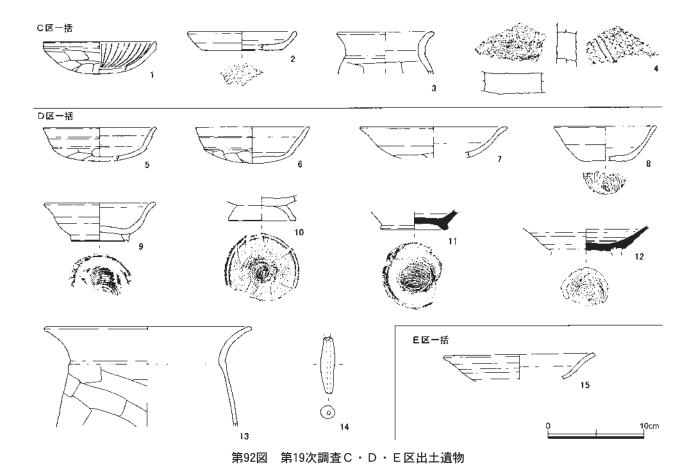
第31次調査A区で確認された。第40·75号溝を切る。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	坏	(12. 5)	3. 2		ABCEI	良	橙	30%	
2	Н	坏	(15. 7)			ACE	良	橙	10%	
3	Н	坏	(13. 5)	2. 4		ABCEI	良	赤褐	15%	
4	S	蓋				АВСН	良	灰	10%	
5	S	蓋				ACE	良	青灰	5 %	
6	S	蓋	(20. 6)			ACFH	良	青灰	5 %	
7	S	蓋	(15. 8)			A C	普	灰	5 %	外面に自然釉
8	S	蓋	(16. 0)			АСН	良	青灰	5 %	
9	S	蓋	(16. 2)			АСН	普	灰	10%	
10	S	蓋	(18. 5)			ACG	普	灰	5 %	
11	S	蓋	(19. 9)			ACG	普	灰	5 %	
12	S	坏	(14. 4)	3. 4	8. 5	ACGH	良	青灰	45%	
13	S	高台椀			6. 2	ACE	不良	灰褐	20%	
14	S	高台椀			(11. 0)	ACG	良	灰	25%	底面に「×」の線刻
15	S	瓶	(11. 0)			A C	良	灰	5 %	内外面に自然釉
16	S	甕	(19. 8)			ACFH	良	青灰	5 %	
17	S	甕				ACFH	良	灰		
18		鉄鏃	長 2.6	幅 2.5	厚 0.4					重さ 2.73g

第45表 第19次調查B区出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	C区	Н	坏	(11.8)	(3. 4)		АСЕ	良	橙	25%	
2		R	小皿	(11. 2)	2. 0	(7.8)	ABCDEH	普	黄橙	25%	
3		Н	甕	(10.0)			АСН	普	橙	5 %	
4			平瓦				ACFH	普	灰		
5	D区	Н	坏	(11. 8)	(3. 5)		АСЕ	普	黒褐	40%	内面に油煙
6		Н	坏	(12. 0)	3. 9		ACE	普	黒褐	40%	
7		Н	Ш	(15. 2)			ABCDEH	普	橙	20%	
8		R	坏	(10.6)	3. 7	4. 6	АВСЕН	良	橙	30%	
9		R	高台椀	(11.6)	4. 0	6. 0	АВСЕНІ	普	にぶい橙	35%	
10		R	高台椀			6. 9	АВСЕ	良	橙	20%	
11		S	高台坏			6. 5	АСН	不良	灰	25%	
12		S	高台坏				ACFH	普	灰	20%	
13		Н	甕	(21. 6)			АВСЕН	普	にぶい赤褐	20%	
14			土錘		幅 1.5	厚 1.4	ACE	普	橙	90%	重さ 11.07g
15	E区	R	坏	(15. 7)			A C E	普	橙	15%	

第46表 第19次調査C·D·E区出土遺物観察表



# 2 第30次調査区

# a 概要

第30次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡東部のE-V-131~E-V-236グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡4棟、竪穴建物跡3棟、特殊土坑4基、土坑8基、溝2条、二重溝と土塁による区画等である。8×2間の大型掘立柱建物跡等が確認された。同位置で3棟の建物が重複しており、8世紀代を通して何らかの実務的機能を持っていたと考えられる。新しい段階の2棟は小規模な建物であることが特徴的である。

調査区周辺の標高は約33.3mで、確認面までの深さは南西部が浅く約30cm、北及び東に向かって深くなり深さは約60cmを測る。

## b 建物跡

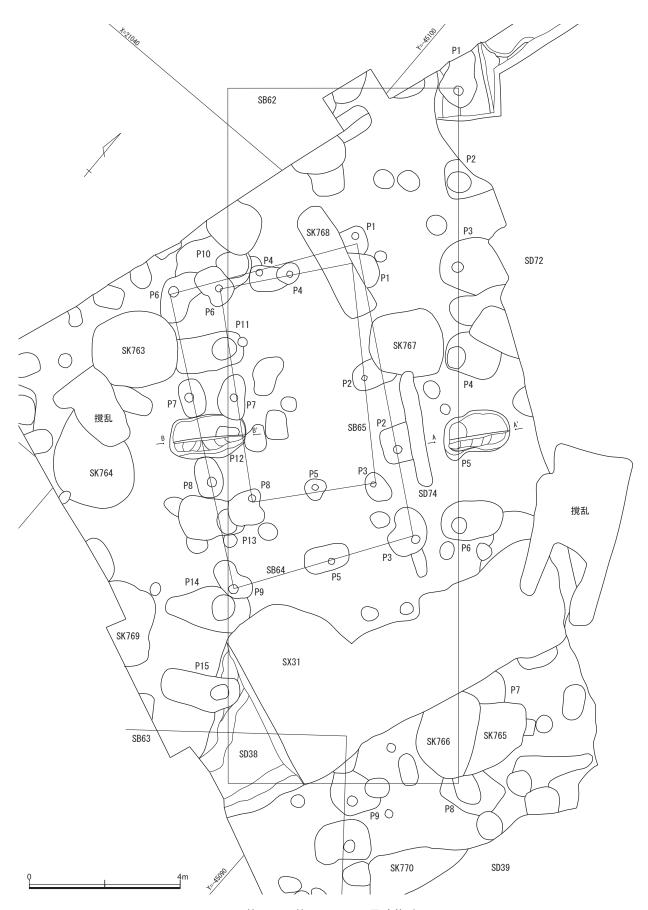
第62号建物跡 (第94・95・97図、第47表)

調査区南西部に位置し、第 $64 \cdot 65$ 号建物跡、第31号特殊土坑、第 $763 \cdot 765 \cdot 766$ 号土坑、第 $38 \cdot 72$ 号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行 8 間 (18.45m) ×梁行 2 間 (6.1m)、柱間は桁行が北西から2.4m -2.25m -2.25m -2.25m -2.25m -2.25m -2.4m、梁行が約 3mを測る。主軸方位はN-41° -Wで、地形に沿っている。

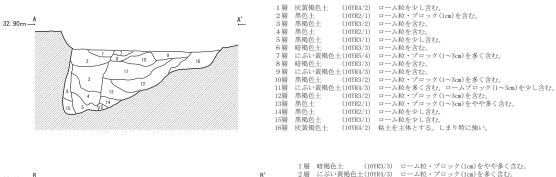
柱の掘方は、長軸 $1.5 \sim 2.2 \text{m}$ 、短軸 $0.9 \sim 1.4 \text{m}$  の隅丸長方形を基本とする。ただし、妻側の中間柱は長方形とならず、やや外側にずれる。柱は掘方の中で、建物の中心寄りに据えられる。掘方は、建物の中心寄りに向かって斜めに掘られ、確認面からの深さは $0.7 \sim 0.9 \text{m}$ を測る。いずれも、外側から落とし込むように柱が据えられたとみられる。柱は柱痕跡を残すものと抜き取られるものがある。柱痕跡か

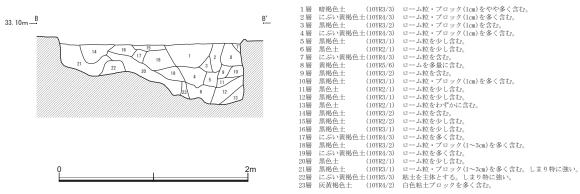


第93図 第30次調査区全体測量図



第94図 第62·64·65号建物跡





第95図 第62号建物跡土層断面

ら、柱の直径は約25~30cmと推定される。

図示できた遺物は、第97図 $1\sim4$ である。1は有段口縁坏、2は須恵器甕、 $3\cdot4$ は鉄滓である。

### **第63号建物跡** (第96図)

調査区南西部に位置し、第62号建物跡を切り、第31号特殊土坑、第38・39号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行2間以上(6 m以上)×梁行2間(5.4 m)、柱間は桁行が約3 m、梁行が2.7mを測る。主軸方位は $N-51^\circ$  — Eである。

柱の掘方は、長軸1.2~1.4m、短軸1mの隅丸長 方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、 柱の直径は約30cmと推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第64号建物跡 (第94・97図、第47表)

調査区南西部に位置し、第62号建物跡を切り、第65 号建物跡、第763・767・768号土坑、第74号溝に切ら れる。側柱式掘立柱建物跡で、平面形態はやや歪んで いる。桁行3間(7.9m)×梁行2間(5.1m)、柱間 は桁行が北から2. 7m-2.4m-2.8m、梁行が北側で 西から2.4m-2.7mを測る。主軸方位は $N-53^{\circ}-W$ である。

柱の掘方は、一辺0.7~1.2mの隅丸長方形を基本とする。四隅の柱はL字形を呈する。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約20cmと推定される。

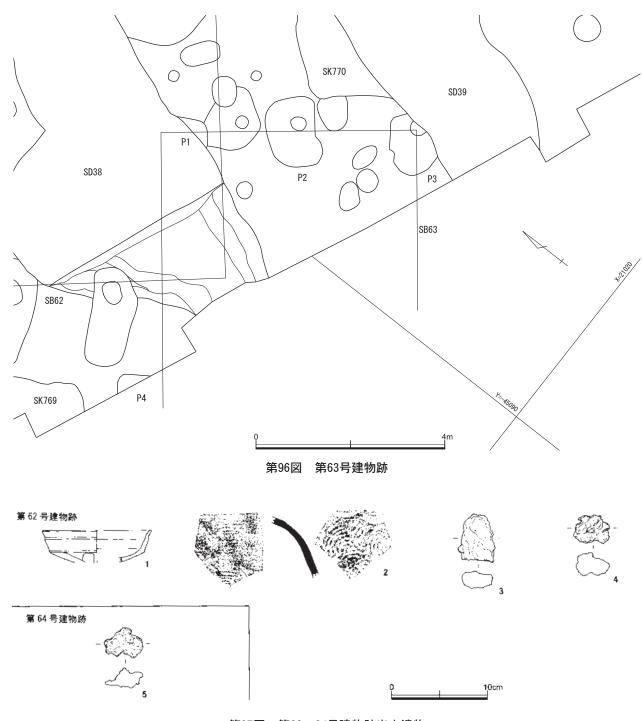
図示できた遺物は、第97図5の鉄滓である。

#### 第65号建物跡 (第94図)

調査区南西部に位置し、第62・64号建物跡を切り、第767・768号土坑に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、平面形態はやや歪んでいる。桁行 2 間(5.7m)×梁行 2 間(3.3m)、柱間は桁行が北から2.9m-2.8m、梁行が南側で西から1.7m-1.6mを測る。主軸方位は N-49° -Wである。

柱の掘方は、一辺 $0.6 \sim 1 \,\mathrm{m}$ の隅丸長方形または楕円形を基本とする。妻側の中間柱はやや小振りの円形を呈する。柱は柱痕跡を残し、柱痕跡から、柱の直径は約 $20\,\mathrm{cm}$ と推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。



第97図 第62・64号建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SB62	Н	坏	(11. 4)			АСЕН	普	橙	20%	
2		S	甕				ACFH	良	青灰		
3			鉄滓	長 4.7	幅 3.9	厚 1.8					重さ 43.03g
4			鉄滓	長 2.8	幅 3.6	厚 2.3					重さ 14.56g
5	SB64		鉄滓	長 2.8	幅 4.0	厚 2.0					重さ 13.92g

第47表 第62·64号建物跡出土遺物観察表

### 竪穴建物跡

#### 第171号竪穴建物跡 (第93・99図、第48表)

調査区北西部に位置し、第38号溝に切られる。平 面形態は方形で、一辺3.9mを測る。主軸方位はN-39°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。 図示できた遺物は、第99図1~2である。1は暗文 坏、2は土錘である。

#### 第172号竪穴建物跡(第93図)

調査区北東部に位置し、第39・72号溝に切られる。 平面形態は方形で、一辺4.5mを測る。主軸方位はN-

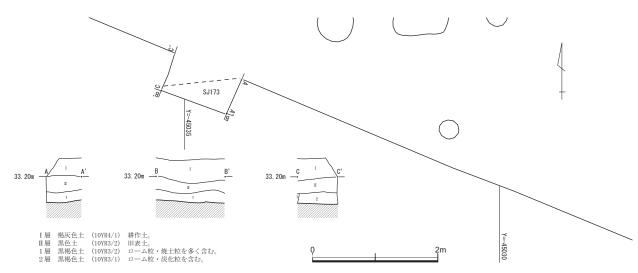
27°-Wである。掘り下げはほとんど行なわかった。 図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第173号竪穴建物跡(第98・99図、第48表)

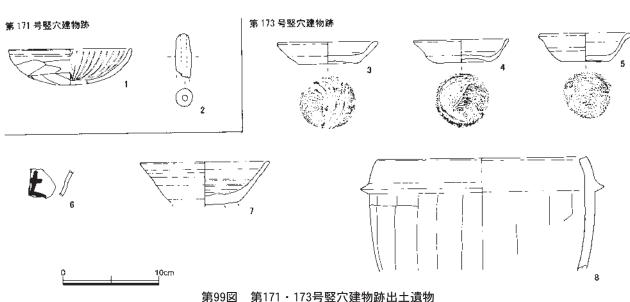
調査区南部に位置する。掘り込みは確認されなかっ たが、遺物の出土と調査区壁の土層断面から判断した。 掘り込みの深さは15cmを測る。

図示できた遺物は、第99図3~8である。3~5は ロクロ土師器小皿、7はロクロ土師器高台坏、8は羽 釜である。6は土師器坏で、「土」の墨書が認められる。

遺構の時期は、11世紀前半と推定される。

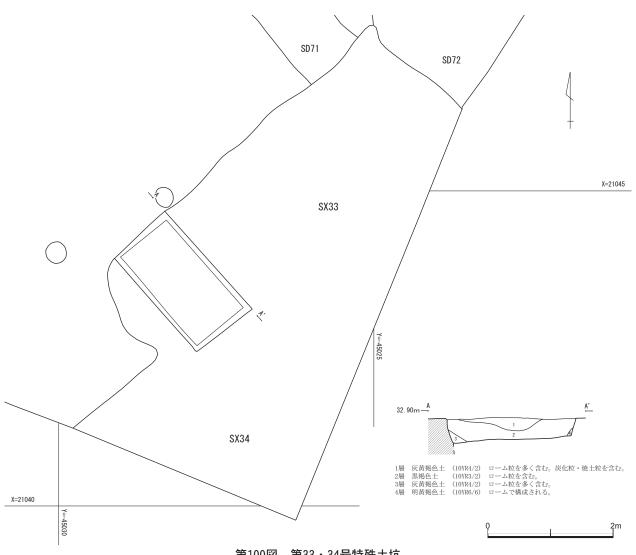


第98図 第173号竪穴建物跡



番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ171	Н	坏	(12. 8)	3. 8		ACEI	良	赤褐	40%	
2			土錘		幅 1.7	厚 1.9	АВСЕ	良	赤褐	60%	重さ 12.32g
3	SJ173	R	小皿	10. 4	2. 3	6. 2	АСЕН	普	橙	100%	
4		R	小皿	9.8	2. 4	5. 7	АВСІ	良	橙	100%	
5		R	小皿	9. 4	3. 0	5. 0	ABCEI	良	にぶい橙	80%	
6		Н	坏				АВСЕ	普	橙	5 %	外面に「土」の墨書
7		R	高台坏	(13. 4)			ABCFH	普	橙	70%	
8		Н	羽釜	(21. 8)			АВСЕН	普	赤褐	15%	

第48表 第171·173号竪穴建物跡出土遺物観察表



第100図 第33·34号特殊土坑

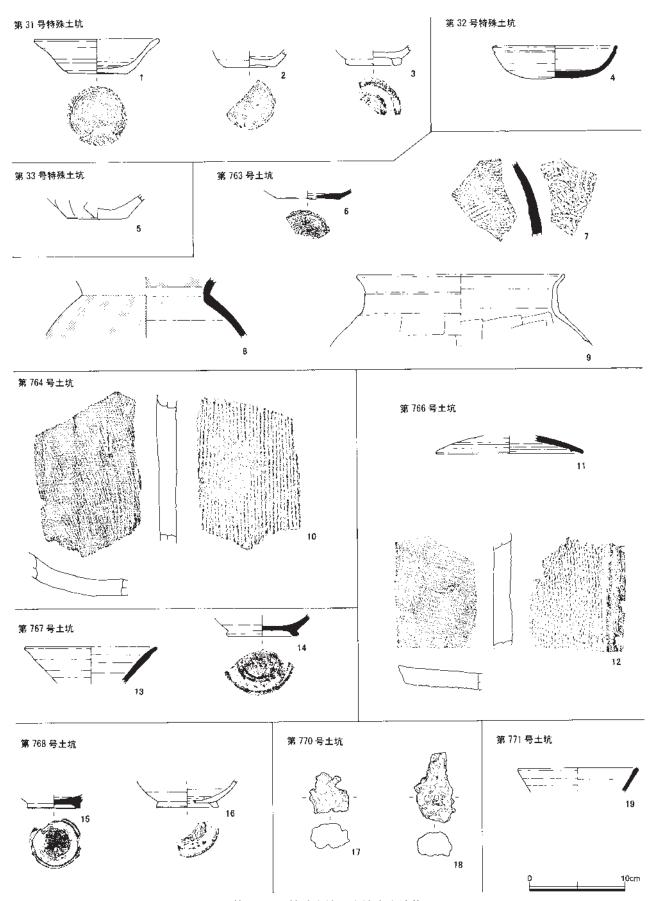
# 特殊土坑

#### 第31号特殊土坑 (第101・103図、第49表)

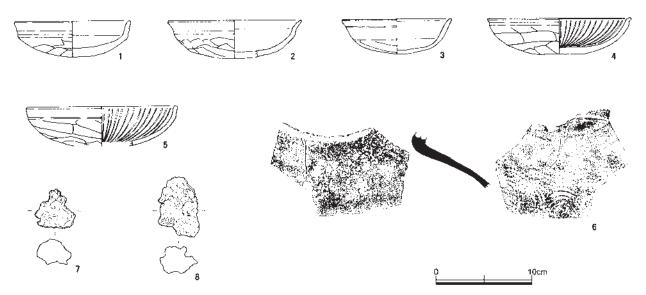
調査区南部に位置する。土層断面から、第38号溝の 張り出し部であると思われるが、特殊土坑として扱っ

た。第62号建物跡を切る。確認面からの深さは60cm を測る。

図示できた遺物は、第101図1~3である。ロクロ 土師器で、1・2は坏、3は高台坏である。



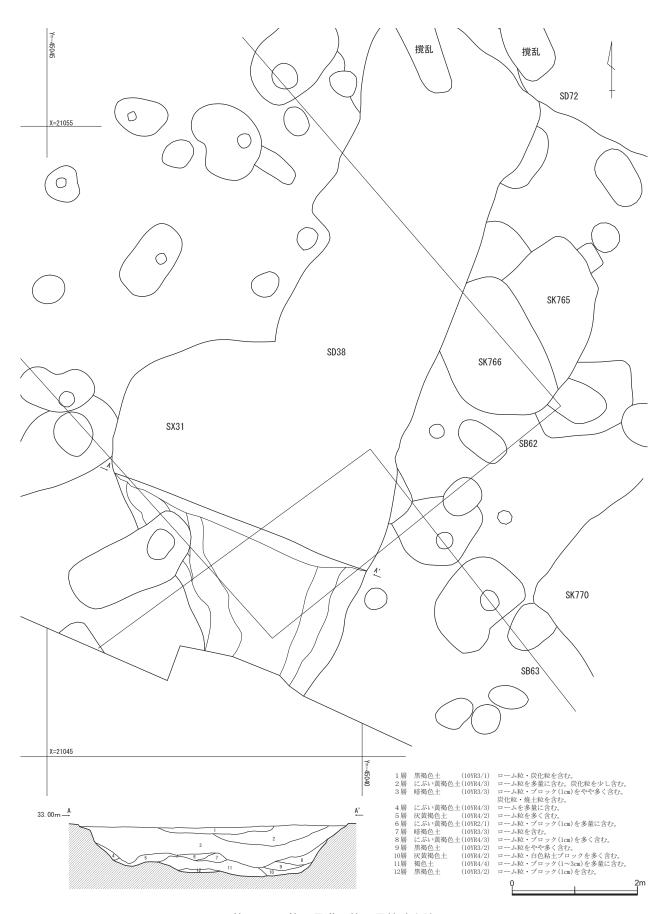
第101図 特殊土坑・土坑出土遺物



第102図 第769号土坑出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
101図 1	SX31	R	坏	13. 0	3. 6	6. 1	АСЕН	良	橙	70%	
2		R	坏			5. 2	АСЕН	普	黄橙	40%	
3		R	高台坏			(4. 5)	АВСЕ	普	灰褐	15%	
4	SX32	S	坏	12. 8	3. 4	10. 0	ACFH	普	灰	80%	土師器模倣か
5	SX33	Н	甕			6. 2	АСЕ	普	黒褐	10%	
6	SK763	S	坏			(6. 2)	АСН	良	青灰	15%	
7		S	甕				ACFH	良	青灰		
8		S	甕				A C G	良	灰		
9		Н	甕	(21. 6)			АСЕНІ	普	にぶい橙	15%	
10	SK764		平瓦				АВСГН	普	褐	20%	
11	SK766	S	蓋	(15. 2)			ACFH	普	灰	15%	
12			平瓦				ACFH	良	灰	15%	
13	SK767	S	坏	(13. 7)			АСЕ	不良	灰	15%	
14		S	高台坏			(6. 9)	ACFH	良	青灰	15%	
15	SK768	S	高台坏			5. 5	АСН	不良	灰	20%	
16		R	高台坏			(6. 5)	АВСН	良	橙	15%	
17	SK770		鉄滓	長 4.3	幅 4.1	厚 3.0					重さ 49.94g
18			鉄滓	長 8.0	幅 3.6	厚 3.5					重さ 63.63g
19	SK771	S	坏	(12. 4)			ACGH	普	灰	10%	
102図 1	SK769	Н	坏	(12. 0)	3. 8		АВСЕ	普	橙	80%	
2		Н	坏	(13. 8)	(4. 0)		АВСЕ	普	にぶい橙	30%	
3		Н	坏	11. 2	3. 7		АВСЕ	普	橙	55%	
4		Н	坏	(14. 8)	3. 8		ACE	普	橙	50%	
5		Н	坏	(15. 6)			АВСЕ	普	橙	35%	
6		S	甕				ACDH	普	灰	5%	
7			鉄滓	長 4.1	幅 3.6	厚 2.7					重さ 30.62g
8			鉄滓	長 6.4	幅 4.0	厚 2.8					重さ 86.39g

第49表 特殊土坑・土坑出土遺物観察表



第103図 第38号溝、第31号特殊土坑

#### 第32号特殊土坑 (第101・106図、第49表)

調査区北部に位置し、第72号溝に切られる。底面は 凹凸があり、確認面からの深さは1.1mを測る。

図示できた遺物は、第101図4の須恵器坏である。

#### 第33号特殊土坑 (第100·101図、第49表)

調査区南東部に位置し、第73号溝を切り、第72号溝に切られる。また、第34号特殊土坑と重複する。長軸6.1m、確認面からの深さは40cm以上を測る。

図示できた遺物は、第101図5の土師器甕である。

#### 第34号特殊土坑 (第100図)

調査区南東部に位置し、第33号特殊土坑と重複する。 図示できる遺物は出土しなかった。

### e 土坑

古代のものと思われる土坑は 8 基、第 $763 \sim 767$ ・ $769 \sim 771$ 号土坑である。平面形態は楕円形が多い。切り合い関係は、掘立柱建物跡を切り、第 $38 \cdot 39 \cdot 72$ 号溝に切られている。なお第770号土坑は、竪穴建物跡の可能性もある。

### f 溝

#### 第38号溝 (第93・103・104図、第50表)

調査区中央部を縦断する。二重溝と土塁による方形区画の東辺区画内溝で、第 $62 \cdot 63$ 号建物跡、第171号竪穴建物跡、第766号土坑を切る。また、第31号特殊土坑はこの溝の張り出し部と思われる。幅 $2 \sim 3$  mを測り、主軸方位は $N-20^\circ-E$ である。一部掘り下げたところ、壁は斜めに立ち上がり、確認面までの深さは80cmを測る。

図示できた遺物は、第104図 $1 \sim 25$ である。 $1 \sim 3$ は須恵器坏、 $4 \sim 7 \cdot 9$ はロクロ土師器坏、8は土師器甕である。18は環状鉄製品が2点付着したもの、 $19 \sim 25$ は鉄滓である。

溝の埋没時期は、これまでの調査等から、11世紀前 半と推定される。

#### 第39号溝 (第93・104図、第51表)

調査区中央部を縦断する。二重溝と土塁による方形区画の東辺区画外溝で、第63号建物跡、第770号土坑、第72号溝を切る。幅 $2\sim3.5$ mを測り、主軸方位は $N-20^\circ-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第104図26·27で、26は須恵器甕、 27は土錘である。

溝の埋没時期は、これまでの調査等から、11世紀前 半と推定される。

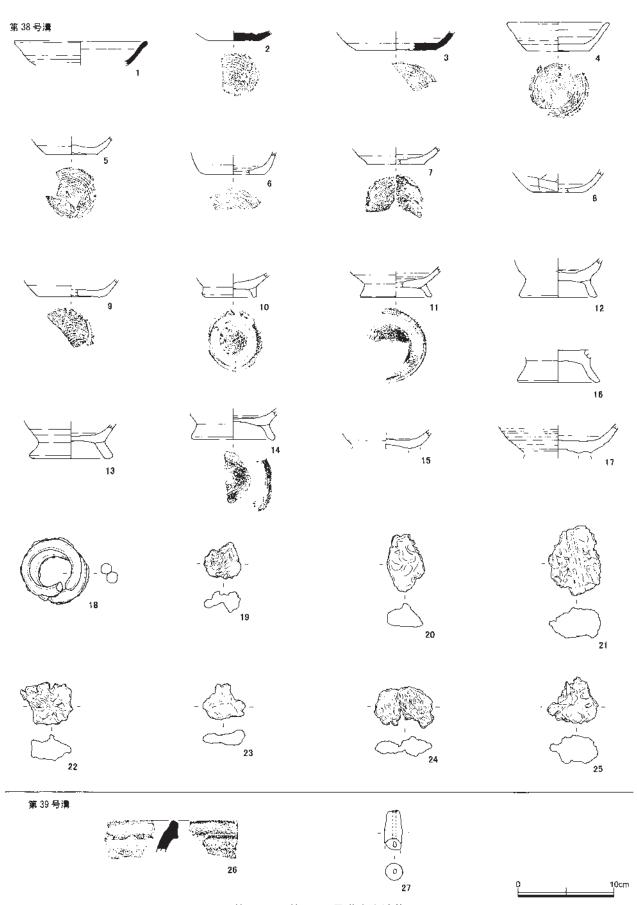
#### 第72号溝 (第93・105 ~ 109図、第52・53表)

調査区を横断する。第62号建物跡、第172号竪穴建物跡、第 $32 \cdot 33$ 号特殊土坑、第771号土坑、第73号溝を切り、第39号溝に切られる。幅 $2 \sim 5.5$ mを測り、西に向かって幅広になる。主軸方位は $N-55^\circ-W$ である。一部掘り下げたところ、底面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは $0.5 \sim 1$  mを測る。調査区北西隅では、壁がオーバーハングしている箇所が認められ、溝はこれを切っていると思われる。

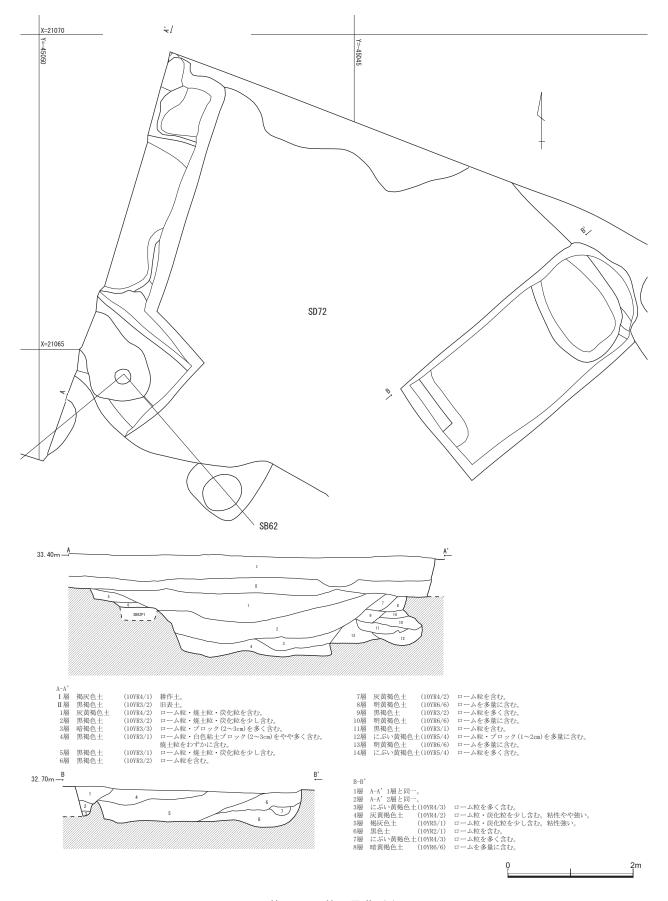
図示できた遺物は、第108図 $1 \sim$ 第109図34である。1 は暗文皿、2 は土師質の坏、 $3 \sim 13 \cdot 15 \cdot 16 \cdot 18 \cdot 20 \cdot 21$ は須恵器で、 $3 \sim 7$ 、 $10 \sim 13$ は坏、 $8 \cdot 9$  は高台坏、15は高坏、16は短頸壷、 $18 \sim 21$ は甕である。13は〔五万呂ヵ〕の墨書が認められる。14はロクロ土師器高台坏、 $17 \cdot 19$ は土師器甕、22は丸瓦、 $23 \sim 25$ は土錘である。26は鉄釘、 $27 \cdot 28$ は鉄鏃、 $29 \cdot 30$ は羽口、 $31 \sim 34$ は鉄滓である。

#### 第73号溝 (第93・107図)

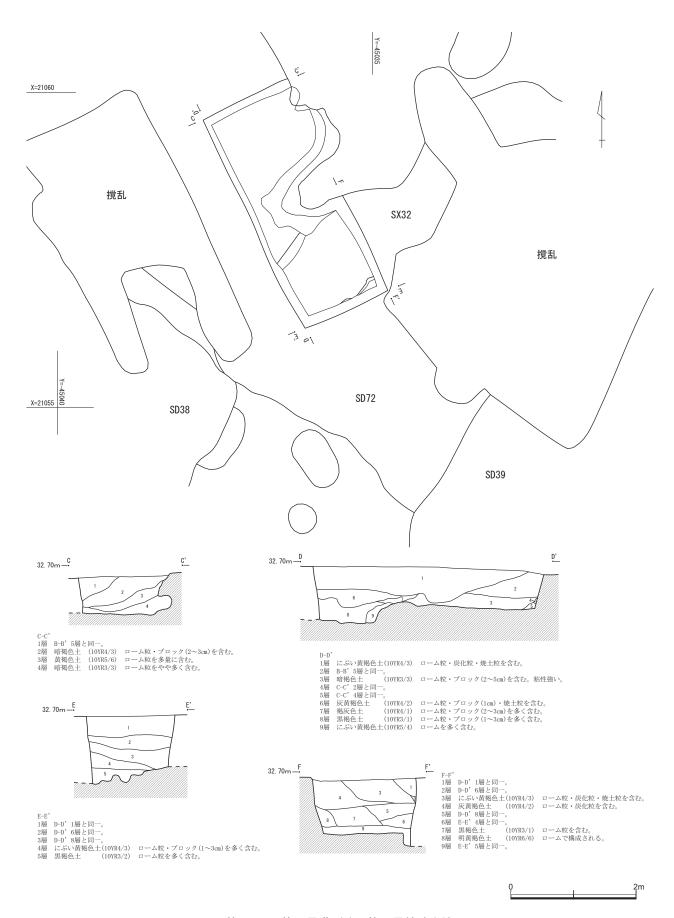
調査区東部に位置し、第771号土坑を切り、第33号特殊土坑、第72号溝に切られる。幅1.1mを測り、主軸方位はN-43° -Wである。一部掘り下げたところ、



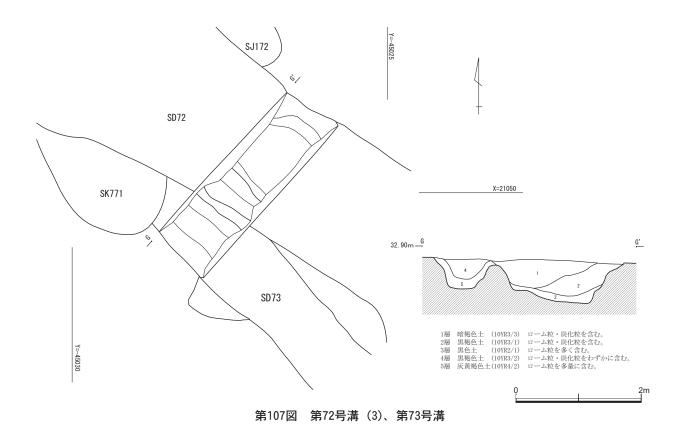
第104図 第38·39号溝出土遺物



第105図 第72号溝(1)

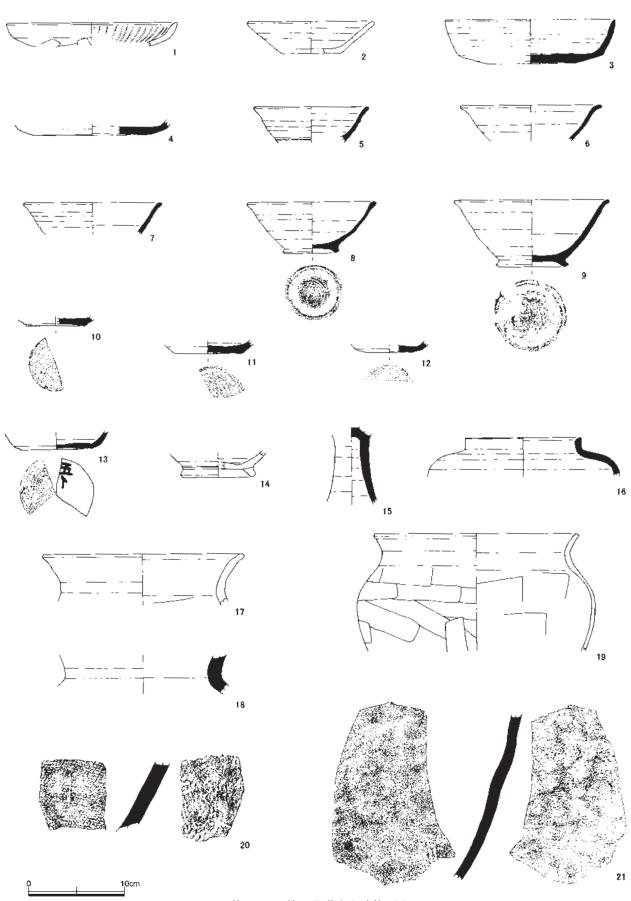


第106図 第72号溝 (2)、第32号特殊土坑

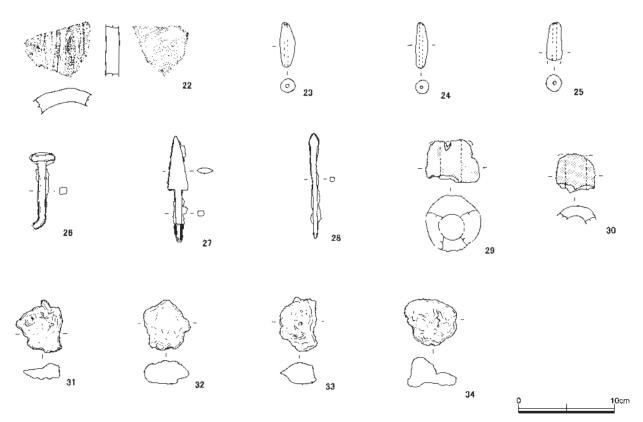


番号 種別 器種 口径 器高 底径 胎土 焼成 色調 残存 備 考 坏 (13.8)灰 15% АСН 普 S 2 S 坏 5.0 ACFH 普 灰 20% 3 灰白 S 坏 (8.5)АСН 普 15% (10.4)灰褐 50% 4 R 坏 3.0 6.4 АВСЕН 普 5 坏 5. 4 АСНІ 普 にぶい橙 50% R 6 R 坏 (6.0)АВСЕ 普 橙 20%7 坏 6.0 ACDH 普 にぶい橙 20% R 8 Η 甕 5.4 АВСЕН 普 橙 5% 9 坏 (5.2)АСЕ 普 黄橙 20%R 20% 10 R 高台椀 5.0 АВСЕ 良 橙 7.3 11 R 高台椀 АВСЕ 普 橙 20%高台椀 7.8 普 黄橙 20% 12 R АВСЕ 30% 13 R 高台椀 8.0 АВСЕ 普 橙 14 R 高台椀 (8.4)АВСЕ 普 にぶい橙 15% 15 高台椀 АСЕН 普 橙 15% R 16 高台椀 (8.0)АСЕ 普 黄橙 25% R 25%17 R 高台椀 АВСЕН 普 黄橙 環状鉄製品 厚 1.1 長 6.7 幅 6.9 重さ 125.37g 18 19 鉄滓 長 3.9 幅 3.8 厚 2.3 重さ 27.24g 20長 6.2 幅 3.7 厚 2.5 重さ 64.53g 鉄滓 21 鉄滓 長 7.5 幅 5.4 厚 3.3 重さ 140.85g 22 鉄滓 長 4.5 幅 4.2 厚 2.7 重さ 66.70g 長 3.8 幅 4.5 厚 1.6 重さ 29.88g 23 鉄滓 厚 2.1 24 鉄滓 長 4.3 幅 5.9 重さ 47.57g 25 鉄滓 長 5.0 幅 5.1 厚 3.0 重さ 45.68g

第50表 第38号溝出土遺物観察表



第108図 第72号溝出土遺物(1)



第109図 第72号溝出土遺物(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
26	S	甕				ACFH	良	黒褐		
27		土錘		幅 1.8	厚 1.8	АВСЕН	普	橙	50%	重さ 12.35g

第51表 第39号溝出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	Н	Ш	(17. 7)			АВСЕ	普	橙	15%	
2	Н	坏	(13. 0)	3. 4	(5. 8)	АВСЕН	普	にぶい赤褐	15%	
3	S	坏	(17. 7)	4.6	(9.0)	ACFH	良	青灰	40%	
4	S	坏			(12. 0)	АСН	良	青灰	15%	
5	S	坏	(11. 3)			ACEH	不良	灰	15%	
6	S	坏	(14. 5)			АВСDН	普	灰褐	20%	
7	S	坏	(14. 2)			АВСН	普	灰褐	15%	
8	S	高台坏	13. 0	5. 4	5. 0	ACFH	良	青灰	75%	
9	S	高台坏	(15. 8)	7. 0	6. 6	АСН	普	灰	60%	
10	S	坏			6. 1	ACFH	普	灰	20%	
11	S	坏			(6.8)	ACFH	普	青灰	15%	
12	S	坏			(4. 8)	ACGH	普	灰褐	15%	
13	S	坏			(7. 5)	ACFH	良	灰	20%	底面に〔五万呂ヵ〕の墨書
14	R	高台椀			(7. 2)	АВСЕ	普	橙	15%	
15	S	高坏				A C	良	灰	15%	
16	S	短頸壷	(12. 0)			АСН	普	灰	5 %	
17	Н	甕	(20. 8)			АВСЕ	普	橙	5 %	
18	S	甕				ACFH	普	青灰		

第52表 第72号溝出土遺物観察表 (1)

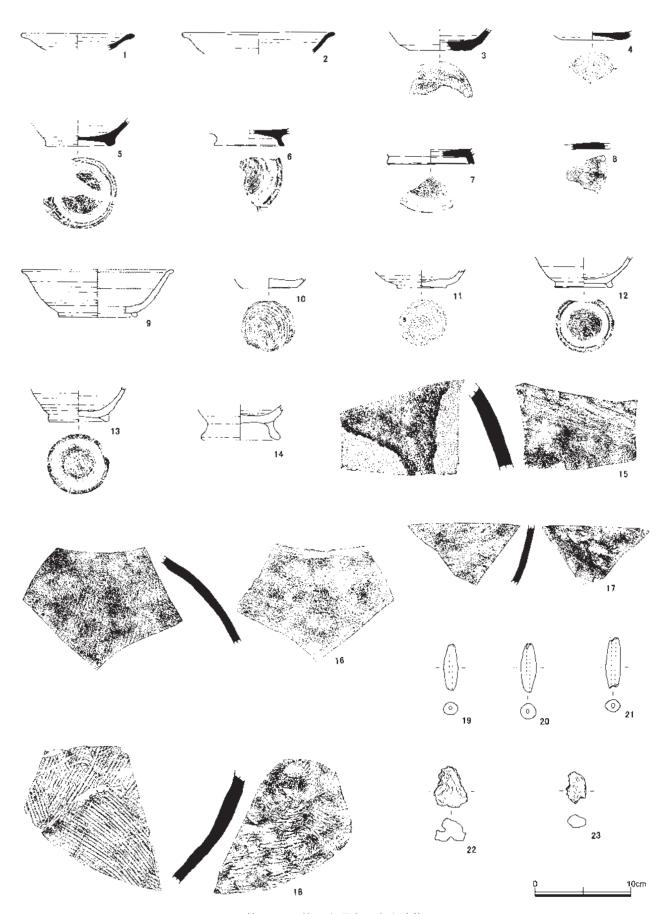
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
19	Н	甕	21.0			АВСЕ	普	黄橙	25%	
20	S	甕				АСН	普	灰		
21	S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
22		丸瓦				ACFH	良	灰	5 %	
23		土錘	長 4.7	幅 1.5	厚 1.5	АВСЕН	普	橙	100%	重さ 8.87g
24		土錘	長 4.9	幅 1.6	厚 1.5	ABCFH	普	にぶい赤褐	100%	重さ 7.42g
25		土錘		幅 1.6	厚 1.8	АСН	普	橙	60%	重さ 11.03g
26		鉄釘		幅 0.8	厚 0.7					重さ 23.59g
27		鉄鏃	長11.2	幅 1.7	厚 5.5					重さ 24.27g
28		鉄鏃	長11.0	幅 0.5	厚 0.5					重さ 12.57g
29		羽口		幅 5.5	厚 5.7					重さ 77.86g
30		羽口								重さ 22.40g
31		鉄滓	長 5.6	幅 3.8	厚 1.2					重さ 46.10g
32		鉄滓	長 5.2	幅 4.7	厚 2.5					重さ 68.83g
33		鉄滓	長 5.8	幅 3.7	厚 2.3					重さ 62.35g
34		鉄滓	長 5.0	幅 5.1	厚 3.1					重さ 81.53g

第53表 第72号溝出土遺物観察表 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	S	Ш	(10. 5)			АСН	良	青灰	15%	
2	S	坏	(15. 6)			АСН	良	青灰	10%	
3	S	坏			(6. 5)	АСН	普	灰	20%	
4	S	坏			5. 5	ACFH	良	青灰	15%	
5	S	高台坏			6. 3	АВСН	普	灰褐	25%	
6	S	高台坏			(7. 3)	ACFH	普	灰	15%	
7	S	高台坏			(9.0)	ACFH	普	灰	10%	
8	S	坏				ACGH	普	灰	10%	底面に「×」等の線刻
9	K	高台椀	(15. 7)	5. 0	(8. 0)	A C	良	灰	20%	内面に灰釉
10	R	坏			5. 8	ABCEI	普	橙	25%	
11	R	坏			5. 0	АВСЕН	良	橙	30%	
12	R	高台椀			5. 5	ACFH	良	黒	30%	内外面黒色処理
13	R	高台椀			6. 2	АВСН	普	にぶい橙	35%	
14	R	高台椀			7. 9	АВСЕ	普	橙	30%	
15	S	甕				ACFH	良	灰	5 %	外面に自然釉
16	S	甕				АСН	良	青灰	5 %	
17	S	甕				ACFH	良	青灰		
18	S	甕				АСН	良	灰	5 %	
19		土錘	長 4.9	幅 1.5	厚 1.3	АВСЕН	普	橙	100%	重さ 8.24g
20		土錘	長 5.2	幅 1.6	厚 1.7	АВСЕ	普	橙	95%	重さ 11.85g
21		土錘		幅 1.6	厚 1.3	АВСН	普	にぶい橙	90%	重さ 10.01g
22		鉄滓	長 4.5	幅 3.2	厚 2.4					重さ 31.02g
23		鉄滓	長 3.5	幅 1.9	厚 1.4					重さ 7.45g

第54表 第30次調査区出土遺物観察表

底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの図示できる遺物は出土しなかった。 深さは50cmを測る。



第110図 第30次調査区出土遺物

# Ⅳ 実務官衙域周辺の調査

### 1 第13次調査区

第13次調査区は、遺跡中央部の様相を確認する目的で、 $E-III-74\sim E-III-214$ グリッドに設けた(第113図)。調査区周辺の標高は約34.2mで、確認面までの深さは約40cmである。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡 3 棟である。いずれも掘り下げはほとんど行なわなかったが、ボーリングにより、確認面から床面までの深さは $40\sim50$ cmと推定される。遺構の主軸方位は、第59号竪穴建物跡は $N-34^\circ-W$ 、第60号竪穴建物跡は $N-47^\circ-W$ 、第61号竪穴建物跡は $N-46^\circ-W$ である。

調査区内から出土した遺物は、第117図 $1\sim4$ である。

# 2 第23次調査区

第23次調査区は、実務官衙域周辺の様相を確認する目的で、遺跡南東部の $E-IV-201\sim E-IV-345$ グリッドに設けた(第17・18図)。調査区周辺の標高は約34.4mで、確認面までの深さは約30cmである。

確認された古代の主な遺構は、二重溝と土塁による 方形区画の南辺区画溝である第39号溝とそこから延び る第58号溝である。掘り下げはほとんど行なわなかっ た。第39号溝は幅  $3\sim3.5$ m、主軸方位は $N-75^{\circ}-$ Wである。第58号溝は幅  $1\sim1.5$ m、主軸方位は $N-12^{\circ}-$ Eである。南部がL字状に屈曲する。

調査区内から出土した遺物は、第118図  $1 \sim 7$  である。  $1 \cdot 2$  は第39号溝出土、 3 は第58号溝出土である。

### 3 第24次調査区

第24次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、

 $E-W-41 \sim E-III-180$ グリッドに設けた(第114図)。調査区周辺の標高は約34.6mで、確認面までの深さは約30cmである。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡2棟(第135・136号竪穴建物跡)、円形周溝遺構(第2号円形周溝遺構)、溝2条(第59・60号溝)である。その他の溝・土坑は中世以降の可能性もある。いずれも掘り下げは行なわなかった。

#### 第135号竪穴建物跡 (第114図)

調査区南部に位置し、第2号円形周溝遺構を切り、 第61号溝に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は N-36°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第136号竪穴建物跡(第114図、第119図1・2、第57表) 調査区南部に位置する。平面形態は方形で、主軸方 位はN-25°-Wである。

図示できた遺物は第119図1・2である。1は混入 品の石鏃、2は土師器甑である。

#### 第2号円形周溝遺構(第114図)

調査区南部に位置し、第135号竪穴建物跡、第61・62号溝、第656号土坑に切られる。周溝の幅は80cmである。一部しか確認されていないが、直径約7mの円形に溝が巡ると推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

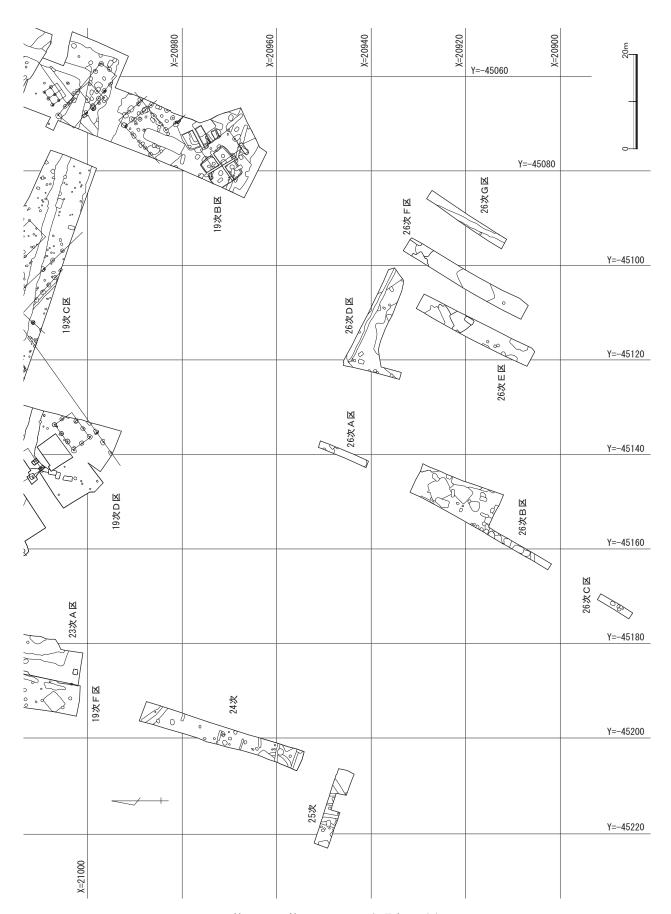
#### 第59号溝 (第114図、第119図3~6、第57表)

調査区北端部に位置する。主軸方位はN-38°-Wである。

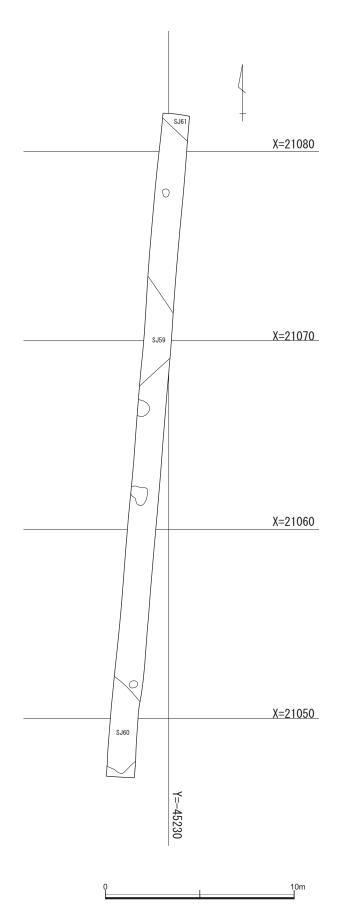
図示できた遺物は、第119図 $3\sim6$ である。3は暗文坏、 $4\sim6$ は須恵器で、4は盤、5は高坏、6は甕である。



第111図 第13·23~27次調査区(1)



第112図 第13·23~27次調査区(2)



第60号溝 (第114図、第119図7・8、第57・58表)

調査区北部に位置する。幅1 mを測り、主軸方位は  $N-46^{\circ}$  - Wである。

図示できた遺物は、第119図7・8である。7は土 師器坏、8は鉄滓である。

### 4 第25次調査区

第25次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、 $F-IV-196 \sim F-IV-219$ グリッドに設けた(第114 図)。調査区周辺の標高は約34.9mで、確認面までの深さは約60cmである。

確認された古代の主な遺構は、溝1条である。その 他の遺構は、中世以降の可能性がある。いずれも掘り 下げはほとんど行なわなかった。

#### 第63号溝 (第114図、第120図1、第59表)

調査区東部に位置する。幅1.2mを測り、主軸方位はN-62° -Eである。

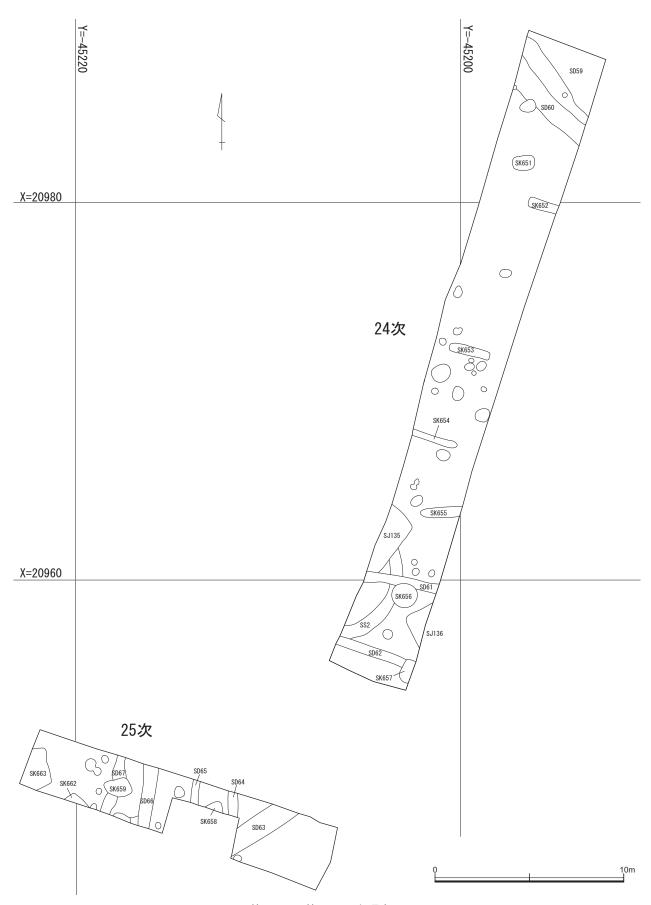
図示できた遺物は、第120図1の須恵器鉢である。

# 5 第26次調査区

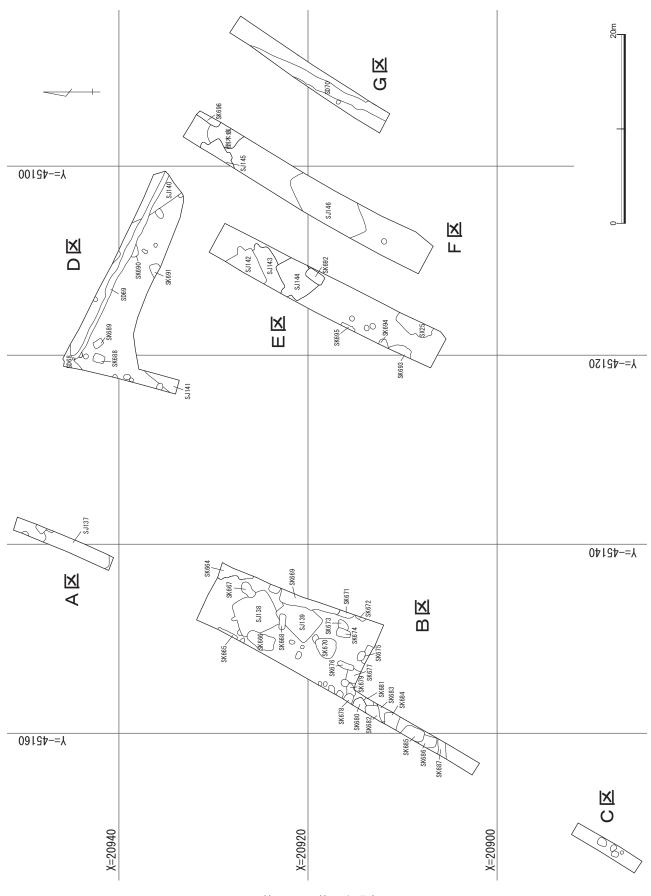
第26次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、 $F-IV-213\sim F-V-342$ グリッドに設けた(第115図)。調査区周辺の標高はA区周辺が約34.4m、G区周辺が約33.9mで、確認面までの深さは $40\sim 60$ cmである。確認面の標高は、 $A\sim E$ 区が34.0m、F区が33.8m、G区が33.1mであり、G区付近に谷が入っていたものと考えられる。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡10棟、特殊土坑1基である。また、3条の溝は時期が不明であるが、古代のものの可能性がある。いずれも掘り下げはほとんど行なわなかった。

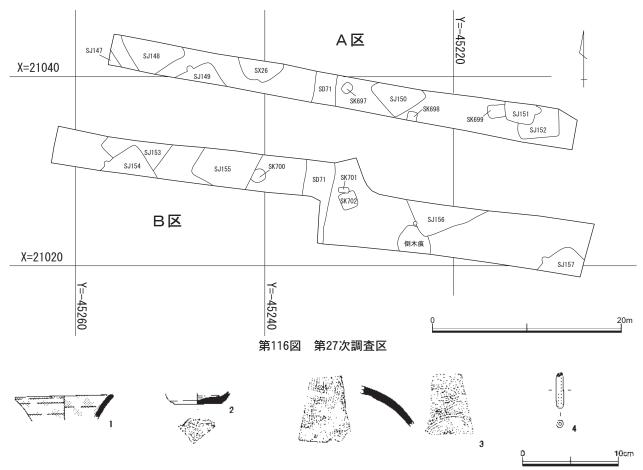
第113図 第13次調査区



第114図 第24・25次調査区



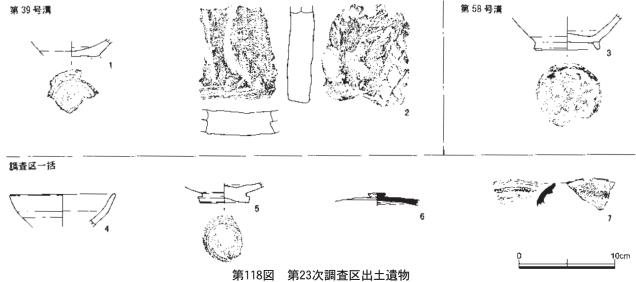
第115図 第26次調査区



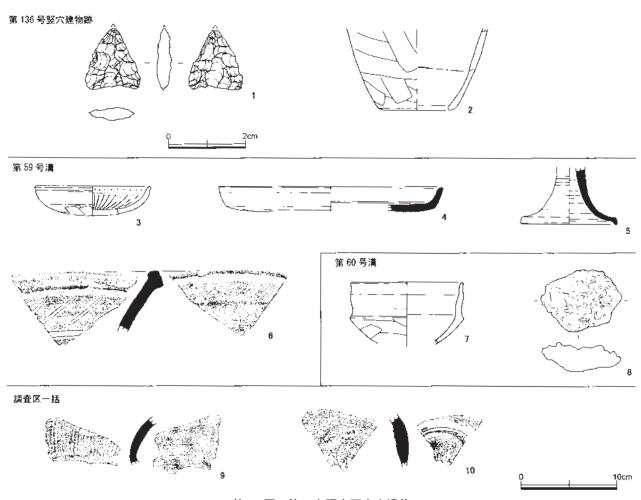
第117図 第13次調査区出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	S	瓶	(9.9)			АСН	普	灰		内外面に灰釉
2	S	坏			(4. 5)	ACGH	普	灰	15%	
3	S	甕				A C	良	灰		
4		土錘		幅 0.8	厚 0.8	A C	普	にぶい赤褐	90%	重さ 2.11g

第55表 第13次調查区出土遺物観察表



10日 3元0八個五匹日工及



第119図 第24次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	SD39	R	高台椀				АСНІ	良	橙	15%		
2			平瓦				АВСЕ	普	にぶい橙	10%		
3	SD58	R	高台椀			6. 4	АВСЕН	普	橙	25%		
4	調査区一括	R	坏	(11. 0)			АВСЕ	普	黄橙	15%		
5		R	坏			5. 2	A C D	普	灰褐	20%		
6		S	蓋				ACFH	良	青灰	20%		
7		S	甕				АСН	良	青灰			

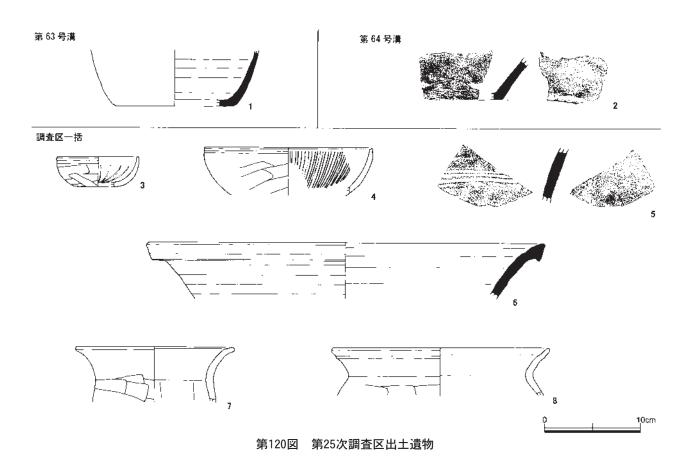
第56表 第23次調査区出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ136		石鏃	長 1.7	幅 1.2	厚 0.4	石材:黒曜石				重さ 0.60g
2		Н	甑			(7. 0)	АВСЕНІ	普	橙	5%	
3	SD59	Н	坏	(11. 9)	(3. 1)		ACE	普	橙	15%	
4		S	盤	(23. 4)			ACFH	不良	灰	5%	
5		S	高坏			9. 9	ACFH	良	青灰	25%	
6		S	甕				ACFH	普	灰		
7	SD60	Н	坏	(11. 5)			A C E	普	にぶい赤褐	20%	内面黒色処理

第57表 第24次調査区出土遺物観察表 (1)

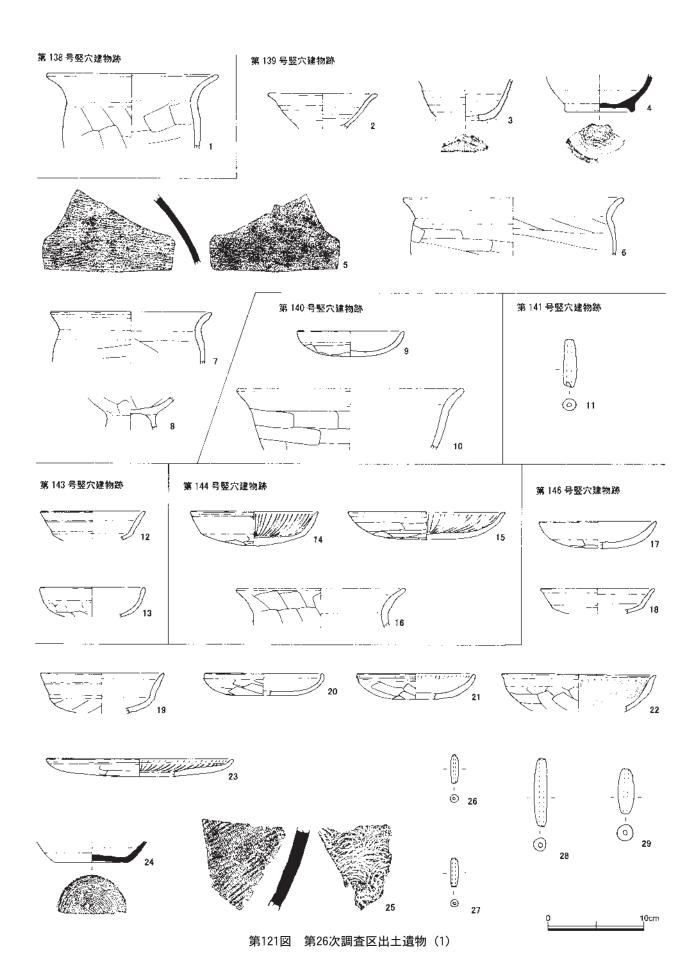
番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
8	SD60		鉄滓	長 6.5	幅 8.2	厚 3.1					重さ 154.81g
9	調査区一括	S	甕				АСН	良	青灰		
10		S	瓶				A C	良	灰		外面に自然釉

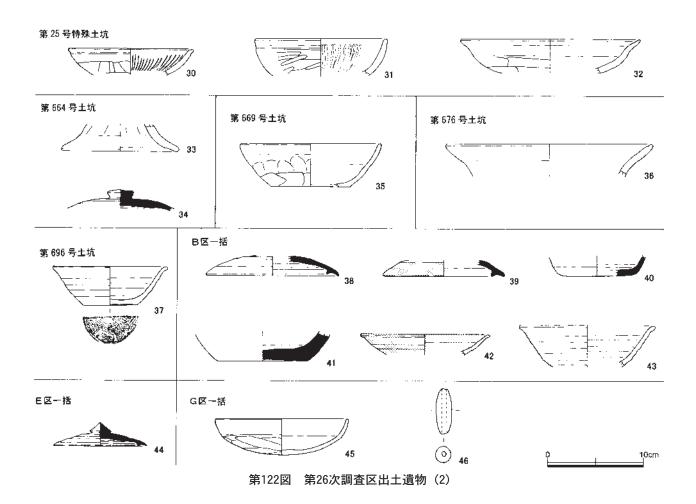
第58表 第24次調査区出土遺物観察表 (2)



番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備	考
1	SD63	S	鉢			(12. 4)	ACFH	良	青灰	10%		
2	SD64	S	甕				АСН	良	灰			
3	調査区一括	Н	坏	(8. 5)	3. 2		АВСЕ	良	橙	40%		
4		Н	坏	(17. 5)			ACEI	普	橙	15%		
5		S	甕				АСН	良	青灰			
6		S	甕	(41. 7)			ACFH	良	灰	5 %		
7		Н	甕	(16. 3)			АВСЕН	普	橙	5 %		
8		Н	甕	(22. 7)			АВСЕН	普	橙	5 %		

第59表 第25次調査区出土遺物観察表



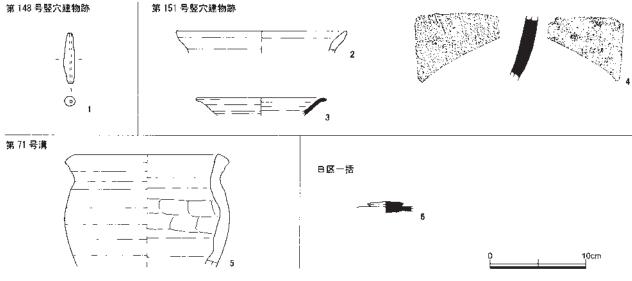


番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ138	Н	甕	(17. 7)			АСЕН	普	にぶい橙	10%	
2	SJ139	R	坏	(11. 0)			АВСЕ	普	黄橙	20%	
3		R	高台椀				ACE	不良	灰褐	15%	
4		S	高台坏			(6.7)	ACE	不良	灰	20%	
5		S	甕				ACFH	良	青灰	5 %	
6		Н	甕	(22. 8)			АВСЕ	普	暗褐	10%	
7		Н	甕	(16. 8)			ACE	普	橙	5 %	
8		Н	台付甕				АВСЕ	普	橙	10%	
9	SJ140	Н	坏	(11. 0)	2. 7		АВСЕН	普	橙	25%	
10		Н	甑	(23.5)			АВСЕН	普	橙	25%	
11	SJ141		土錘	長 5.2	幅 1.5	厚1.3	ABCEI	普	橙	90%	重さ 7.93g
12	SJ143	Н	坏	(11. 0)			ACE	不良	黒褐	20%	
13		Н	坏	(10.8)			ACI	普	にぶい橙	20%	
14	SJ144	Н	坏	13. 2	3. 6		АВСЕ	良	橙	50%	
15		Н	Ш	(16. 3)	2. 9		АВСЕ	良	橙	35%	
16		Н	甕	(17. 4)			АВСЕН	普	橙	5 %	
17	SJ146	Н	坏	(12. 1)	2. 8		ABCDEH	普	橙	30%	
18		Н	坏	(11.8)			ACE	普	にぶい橙	20%	
19		Н	坏	(12. 9)			АСЕН	普	橙	20%	
20		Н	坏	(12. 4)	2. 3		ACEI	普	橙	20%	
21		Н	坏	(12. 2)	2. 7		ACDEH	普	橙	20%	

第60表 第26次調査区出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
22	SJ146	Н	坏	(16. 0)			АВСЕ	普	橙	15%	
23		Н	Ш	(19. 5)	(1. 9)		АВСЕ	普	にぶい橙	15%	
24		S	坏			7. 2	ACFH	普	灰	20%	
25		S	甕				ACFH	良	青灰		
26			土錘	長 3.1	幅 0.9	厚 0.9	ACEH	普	橙	100%	重さ 2.02g
27			土錘	長 3.1	幅 0.9	厚 0.9	АВСЕ	普	灰褐	100%	重さ 1.92g
28			土錘	長 7.3	幅 1.4	厚 1.5	АВСЕН	普	橙	100%	重さ 13.09g
29			土錘	長 4.8	幅 1.7	厚 1.8	ABCDEH	普	橙	100%	重さ 11.79g
30	SX25	Н	坏	(13. 0)			АСЕ	良	赤褐	15%	
31		Н	坏	(13. 7)			АСЕН	普	赤褐	15%	
32		Н	Ш	(18. 6)			ACE	普	にぶい橙	20%	
33	SK664	Н	台付甕			(12. 0)	АСЕН	普	黒褐	5%	
34		S	蓋				ACFH	良	灰	25%	
35	SK669	Н	坏	(14. 5)	4. 6	(8. 3)	АСЕН	普	橙	25%	
36	SK676	Н	甕	(21. 5)			АСЕН	普	橙	5 %	
37	SK696	R	坏	(11. 9)	4. 1	5. 8	АВСЕ	普	にぶい橙	25%	
38	B区	S	蓋	(13. 8)			ACFH	良	青灰	20%	
39		S	蓋	(12.6)			A C	良	灰	10%	外面に自然釉
40		S	椀			(6. 6)	ACFH	普	灰	5 %	
41		S	甕			(9.4)	АВСГН	不良	灰		
42		K	坏	(13. 4)			A C	良	灰	10%	内外面に灰釉
43		R	椀	(14. 0)			ACE	普	灰褐	10%	
44	E区	S	蓋	(9.8)	2. 5		A C	良	灰	25%	
45	G区	Н	坏	(13. 8)	3. 8		ACE	良	橙	50%	
46			土錘	長 5.0	幅 1.7	厚 1.7	ACE	良	暗褐	100%	重さ 13.03g

第61表 第26次調査区出土遺物観察表 (2)



第123図 第27次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ148		土錘	長 5.5	幅 1.2	厚 1.1	АСЕ	普	橙	100%	重さ 5.19g
2	SJ151	Н	甕	(17. 8)			АВСЕ	普	橙		
3		S	坏	(13. 0)			ACFH	良	青灰	10%	
4		S	甕				АСН	良	青灰		
5	SD71	常滑	甕	(15. 1)			АСН	良	にぶい赤褐	15%	
6	B区	S	蓋				ACFH	普	灰	10%	

第62表 第27次調査区出土遺物観察表

#### 第137号竪穴建物跡(第115図)

A区に位置する。平面プランの状況から、 2 棟重複 している可能性がある。カマドは北東壁に構築され、 主軸方位は $N-41^\circ$  – Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第138号竪穴建物跡**(第115図、第121図 1 、第60表)

B区に位置し、第139号竪穴建物跡、第666  $\sim$  668号 土坑に切られる。平面形態は方形で、カマドは北壁ほ ぼ中央に構築される。一辺約4mを測り、主軸方位は  $N-22^\circ$  -Wである。

図示できた遺物は、第121図1の土師器甕である。

#### **第139号竪穴建物跡**(第115図、第121図2~8、第60表)

B区に位置し、第138号竪穴建物跡を切り、第668・669号土坑に切られる。平面形態は方形で、カマドは 北東壁ほぼ中央に構築される。長軸4.3m、短軸3.2m を測り、主軸方位はN-42° - E である。

図示できた遺物は、第121図2~8である。2はロクロ土師器坏、3はロクロ土師器高台椀、4は須恵器高台杯、5は須恵器甕、6・7は土師器甕、8は土師器台付甕である。

#### 第140号竪穴建物跡 (第115図、第121図9・10、第60表)

D区東端部に位置し、第69号溝に切られる。主軸方位は $N-33^{\circ}$  -Wである。

図示できた遺物は、第121図 9・10である。共に土 師器で、9は坏、10は甑である。

#### **第141号竪穴建物跡**(第115図、第121図11、第60表)

D区南端部に位置する。主軸方位はN-38°-Eである。

図示できた遺物は、第121図11の土錘である。

#### 第142号竪穴建物跡(第115図)

方位はN-63° −Eである。

E区北部に位置し、第143号竪穴建物跡を切る。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。一辺約4mを測り、主軸方位はN-63°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

# 第143号竪穴建物跡 (第115図、第121図12・13、第60表) E区北部に位置し、第142・144号竪穴建物跡に切られる。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。主軸

図示できた遺物は、第121図12・13の土師器坏である。

#### **第144号竪穴建物跡** (第115図、第121図14 ~ 16、第60表)

E区北部に位置し、第143号竪穴建物跡を切り、第692号土坑に切られる。カマドは北西壁やや南寄りに構築される。長軸4.2m、短軸3mを測り、主軸方位はN-30° -Wである。

図示できた遺物は、第121図14 ~ 16である。全て土 師器で、14は暗文坏、15は暗文皿、16は甕である。

#### 第145号竪穴建物跡(第115図)

F区北部に位置し、倒木痕を切る。カマドは北東壁に構築され、南東壁に張り出し部をもつ。主軸方位は  $N-65^{\circ}$  -Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

**第146号竪穴建物跡** (第115図、第121図17 ~ 29、第60·61表)

F区に位置する。長軸8.2m、短軸5.6mを測り、主軸方位はN-66° -Eである。

図示できた遺物は、第121図17 ~ 29である。17は模倣坏、18・19は有段口縁坏、20は北武蔵型坏、21・22は暗文坏、23は暗文皿である。24は須恵器坏、25は須恵器甕、26 ~ 29は土錘である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

**第25号特殊土坑** (第115図、第122図30 ~ 32、第61表)

E区南部に位置する。平面形態は不整形で、ハマグリとみられる貝が少量出土した。

図示できた遺物は、第122図30 ~ 32である。30・31 は暗文坏、32は皿である。

#### 第70号溝 (第115図)

G区に位置する。G区付近は谷状になっており、現地表面から確認面までの深さは約60cmを測る。溝の幅は $1\sim1.2$ m、主軸方位は $N-25^{\circ}-E$ である。

図示できる遺物は出土しなかった。

# 6 第27次調査区

第27次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、 $E-IV-229 \sim E-IV-339$ グリッドに設けた(第116 図)。調査区周辺の標高は約34.6mで、確認面までの深さは約30cmである。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡11棟、特殊土坑1基である。いずれも掘り下げはほとんど行なわなかった。

#### 第147号竪穴建物跡(第116図)

A区西端部に位置する。主軸方位はN-30°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第148号竪穴建物跡** (第116図、第123図 1 、第62表)

A区西部に位置する。一辺 5 mを測り、主軸方位は  $N-30^{\circ}$  - Wである。

図示できた遺物は、第123図1の土錘である。

#### 第149号竪穴建物跡(第116図)

A区西部に位置する。カマドは北西壁に構築される。 主軸方位は $N-30^{\circ}$  -Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第150号竪穴建物跡(第116図)

A区中央部に位置する。一辺 4 mを測り、主軸方位は  $N-38^{\circ}$  - Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### **第151号竪穴建物跡** (第116図、第123図 2 ~ 4、第62表)

A区東部に位置し、第152号竪穴建物跡、第699号土 坑を切る。カマドは東壁に構築される。一辺3mを測 り、主軸方位は東を向く。

図示できた遺物は、第123図2~4である。2は土 師器甕、3は須恵器坏、4は須恵器甕である。

#### 第152号竪穴建物跡(第116図)

A区東部に位置し、第151号竪穴建物跡に切られる。 一辺4.3mを測り、主軸方位は北を向く。 図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第153号竪穴建物跡(第116図)

B区西部に位置し、第154号竪穴建物跡に切られる。 一辺6mを測り、主軸方位はN-38°-Eである。 図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第154号竪穴建物跡(第116図)

B区西部に位置し、第153号竪穴建物跡を切る。カマドは北西壁に構築される。主軸方位はN-35°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第155号竪穴建物跡(第116図)

B区西部に位置し、第700号土坑を切る。一辺5.8m を測り、主軸方位はN−30°−Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第156号竪穴建物跡(第116図)

B区東部に位置し、倒木痕を切る。主軸方位はN-23°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。



# 第30次調査風景

第157号竪穴建物跡(第116図)

主軸方位はN-43°-Wである。

第26号特殊土坑 (第116図)

約5mを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

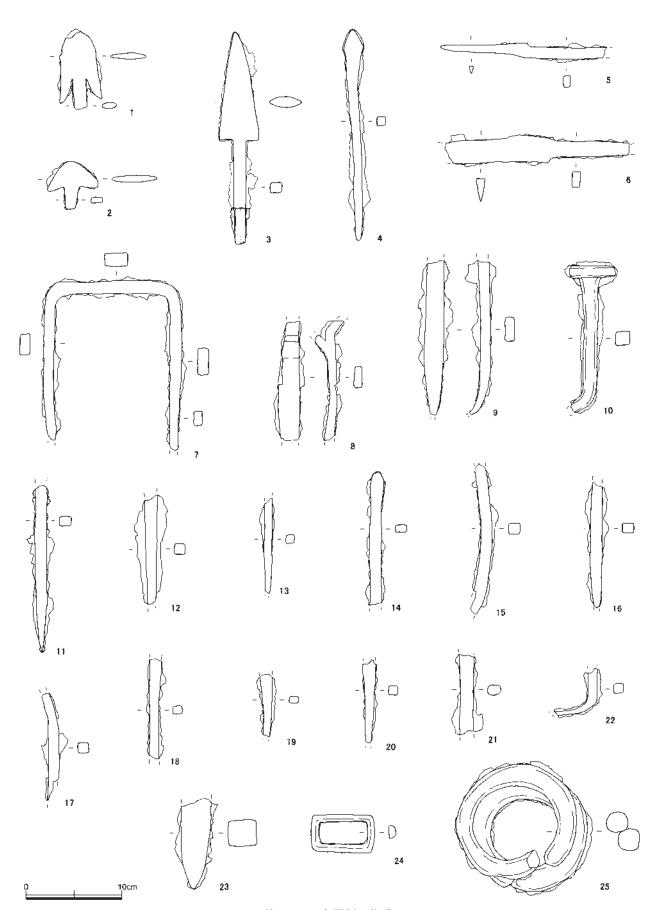
図示できる遺物は出土しなかった。

B区東端部に位置する。カマドは北西壁に構築され、

A区西部に位置する。平面形態は不整円形で、直径



第30次調査現場公開



第124図 金属製品集成

番号	種類	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
1	鉄鏃	SJ95	4. 2	1. 1	0. 3	5. 04g	第68図 622
2	鉄鏃	第19次調查B区	2. 6	2. 5	0.4	2.73g	第91図 18
3	鉄鏃	SD72	11. 2	1. 7	5. 5	24. 27g	第109図 27
4	鉄鏃	SD72	11. 0	0. 5	0. 5	12.57g	第109図 28
5	刀子	SD40		0.6	0.4	5.07g	第86図 55
6	刀子	SJ87		1. 2	0. 4	14.88g	第34図 41
7	閂金具	SJ95	9. 0	7. 2	0. 6		第68図 623
8	延板状鉄製品	SD41		1. 1	0. 4	9.48g	第88図 15
9	延板状鉄製品	SA 5		1. 0	0. 5	11.77g	
10	鉄釘	SD72		0.8	0. 7	23. 59g	第109図 26
11	鉄釘	SJ95		0. 6	0. 5	9.63g	第68図 624
12	鉄釘	SJ95		0. 6	0. 6	9.57g	第68図 625
13	鉄釘	SJ95		0. 5	0. 4	1.89g	第68図 627
14	棒状鉄製品	SJ95		0. 5	0. 4	7.12g	第68図 628
15	棒状鉄製品	SJ95		0. 5	0. 5	8.03g	第68図 629
16	鉄釘	SJ95		0.6	0. 5	9.82g	第68図 626
17	鉄釘	SD38		0.6	0. 5	4.91g	第79図 44
18	棒状鉄製品	SD8		0. 5	0.4	3.55g	第76図 4
19	鉄釘	SX10		0. 9	0. 3	2.34g	第72図 13
20	鉄釘	SD40		0. 5	0. 5	2.71g	第86図 56
21	棒状鉄製品	SX20		0. 7	0. 5	7.34g	第74図 20
22	鉄釘	SJ87		0. 5	0. 5	2.36g	第34図 42
23	棒状鉄製品	SJ87		1. 5	1.4	34. 91g	第34図 43
24	銅製金具	SJ86	3. 3	2. 0	0. 3	11. 20g	第29図 13
25	環状鉄製品	SD38	6. 7	6. 9	1.1	125. 37g	第104図 18

第63表 金属製品一覧表



2010年初日の出(幡羅遺跡から東を望む)

# V 調査のまとめ

### 1 はじめに

幡羅遺跡は、北西部の正倉域、南東部の実務官衙域 から成る。郡庁は現在のところ確認されていないが、 実務官衙域の周辺にある可能性が高いと思われる。

今回報告したのは、実務官衙域の一部とその周辺域である。実務官衙域の南方中心部にある掘立柱塀による区画施設は四面庇建物を主屋(殿)とし、館の可能性が高いと考えられる。周辺の各施設はその周囲に展開している。ここでは、実務官衙域の中でも特に、館とみられる施設を中心に考察を加えたい。

# 2 S J 95・S X 23出土土器 について

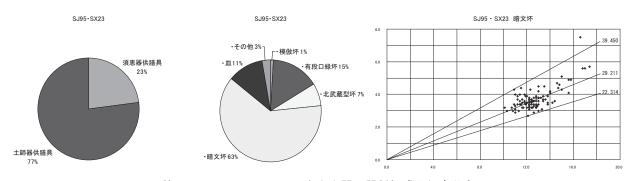
第23号特殊土坑(S X 23) は、第95号竪穴建物跡(S J 95) の廃絶後その埋没が進まないうちに掘り込まれたとみられる。つまり、両者の埋没過程は一連のもので、出土土器は両遺構で区分できない。主な器種は、土師器供膳具では模倣坏、有段口縁坏、続比企型坏、北武蔵型坏、暗文坏、暗文系無文坏、皿である。器種ごとの出土状況は暗文坏を第43図、須恵器を第44図、その他の器種を第45図に示した。

ここでは供膳具のみについて見ていく (第125図)。 器種組成では、須恵器の割合が23%、土師器が77%であり、須恵器の割合は少なくない。須恵器は坏Hが少量存在するが、坏G、無台坏、高台坏が多い。坏Gの 口径は $9.1 \sim 12.6$ cm程度、無台坏及び高台坏の口径は $12.4 \sim 16.2$ cm程度である。また盤類も多く、盤に伴うとみられる大型の蓋も存在する。同様の蓋はSJ90からも出土しており、注目される。

土師器では、暗文坏が63%と半数以上を占める。模倣坏、有段口縁坏、北武蔵型坏の割合は比較的少ない。皿は一定量存在する。暗文坏は口径10.0~18.8cm程度で、径高指数は平均29.211を測る。これをSX3・4等出土土器の分析結果に照らすと(『幡羅遺跡IV』参照)、土師器供膳具に占める模倣坏や有段口縁坏の所謂旧器種の割合と、暗文坏の径高指数から、SX4上層段階に比定される。7世紀末頃に当たると思われ、その頃には竪穴建物としての機能は失われ、遺物の投棄が行なわれたものと推定される。

# 3 四面庇建物及び付属建物 の造営計画

塀による区画施設は、大きく分けて 2 種類の主軸方位がある。東に  $46^\circ$  前後傾く  $SB50\sim54$ 、  $SA7\cdot9$ 、 SJ95と、東に  $55^\circ$  前後傾く  $SB47\sim49$ 、 SA8、 SJ90である。前者を A 群、後者を B 群とすると、 SA8 は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S は S な S は S



第125図 S J 95・S X 23出土土器の器種組成と径高分布

東の隅、そこから更に18m(60尺)南の地点を南の隅 とする。北西はSB47身舎の梁行とSB48の梁行を揃 えて基準線とし、SA8からの距離は約86尺を測る。 若干の誤差があり、完全な方形にはならないが、18m (60尺) ×25.8m (86尺)、面積約464㎡ (5160平方尺) の区域が基準である。なお、SB47と48は建物位置が 柱間で2.7mと近接し、桁行の柱の通りを揃えていな いことから、同時存在は難しいとの見解もあるが、S B48北西梁行をSB47身舎の梁行とほぼ揃えているこ と、SB48南西の桁行をSB49南西の梁行と揃えてい ること、主軸方位が一致することから、同じ計画の下 に造営された可能性が高いと思われる。ただし、柱穴 の深さがSB47は確認面から50~70cm、SB49は確 認面から60cm程であるのに対し、SB48は確認面か ら30cm程と浅い。また出土遺物は、有段口縁坏と須 恵器坏H蓋の2点であり、古手のものである。こうし たことから、SB48の存続期間は短かった可能性も残

また、B群に属するSJ90はカマドの有無が確認されていないが、存在する場合は北西壁にあると思われる。位置関係から、SB47とSJ90が同時存在しない可能性は高いと思われる。SJ90は、SB47を始めとする施設の造営時に短期間営まれたものであったことも想定できる。

# 4 掘立柱塀による区画施設 の性格

前述した通り、掘立柱塀による区画施設は大きく2 段階に細分が可能である。大規模な四面庇建物は後半に建てられ、施設はより充実したものとなる。それ以前の形態は、区画内部を仕切るSA8は存在せず、建物群は西側を中心に塀に沿って建てられる。中央部は広い空閑地である。建物は比較的小規模なものがほとんどであるが、SB50は中でも大きなものであり、柱穴の規模も一辺60~100cmの隅丸方形で比較的大きい。桁行は不明だが、梁行は5.84mを測る。SB47等 が造営される以前の主屋に位置付けられる可能性があ る

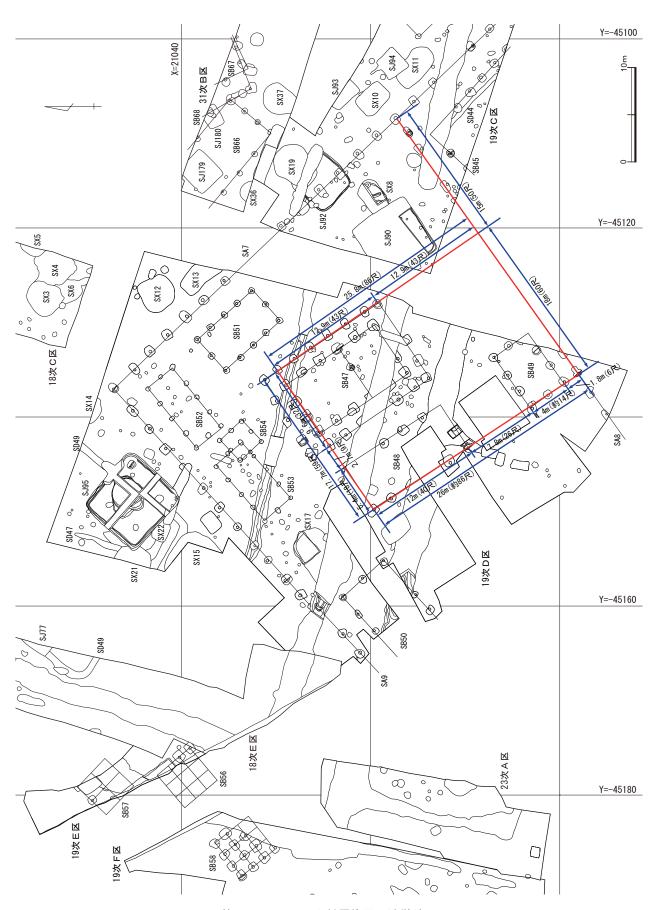
SB47等の造営段階以降は、区画施設の性格はSB47を主屋とする館と言えるものである。その前段階の施設についても、塀の外側に竪穴建物や倉庫を伴うこと、主屋とみられる大型の建物が、塀に沿う建物列の中に並ぶこと等から、館とすることのできる可能性が高いものと考えられる。そのため以後、掘立柱塀による区画施設については、館として扱うこととしたい。

# 5 実務官衙域の施設群

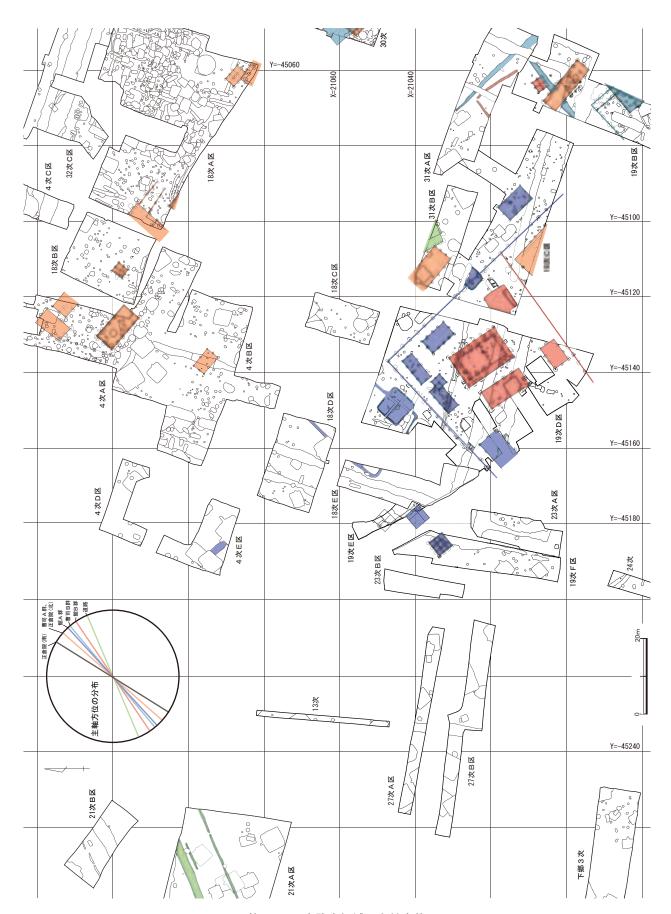
幡羅遺跡における施設群の主軸方位は、正倉院と道路、実務官衙域等で大きく異なり、地理的な条件が大きく影響していることが考えられる(『幡羅遺跡V』)。しかし、細かく見ていくと、更に多様な主軸方位のまとまりがあることが分かる。実務官衙域では、それが顕著に認められる。これを基に、造営時期や施設の相互関係について考察を加えたい(第127図)。

実務官衙域の主軸方位は、以下の4種類に区分できる。①47°前後東に傾くもの(館A群)、②56°前後東に傾くもの(館B群)、③40°前後東に傾くもの(曹司A群)、④50°前後東に傾くもの(曹司B群)であり、正倉院(北)の主軸方位は③と同一である。また、正倉院(南)と道路はそれぞれ32°、67°前後東に傾いており、①~④とは大きく異なる。

主軸方位の同一性は、その同時性を保証はしないが、同じ造営基準により造られている可能性は高いといえる。大規模な施設であれば、その可能性はより高いものと思われる。その観点から、竪穴建物の大部分は検討から除外した。出土遺物や切り合い関係により時期の明らかなものを挙げると、①館A群では19次SJ95(7世紀後半~末頃)、18・19次SD49(7世紀後半)、4次SD10(7世紀後半)、②館B群では19次SJ90(7世紀末頃)、③曹司A群では4次SB26(9世紀前半)、④曹司B群では19・31次SD40・41(8世紀後半)である。時期を特定はできないが切り合いのあるもの



第126図 SB47と付属施設の造営計画



第127図 実務官衙域の主軸方位

では、③曹司A群の30次SB64・65が④曹司B群のSB62を切る。また、②館B群の19次SB41と③曹司A群のSB42が④曹司B群のSD41に切られる。③曹司A群の31次SB66は、道路と同じ主軸方位のSB68に切られる。また、切り合いはないが、状況から①館A群のSA7・9やSB51~54は、②館B群のSA8、SB47~49に先行すると考えられる。

これらを整理すると、①館A群の主軸方位は主に7世紀後半にみられる、②館B群は主に7世紀末頃にみられることが言える。③曹司A群と④曹司B群は8世紀を通してみられる。③曹司A群のSB26は9世紀前半の廃絶と推定され、それとL字に並ぶSB24・25は同位置での建て替えであることから、同地点での主軸方位は8世紀を通して変化していないことが分かる。また、④曹司B群のSB62は③曹司A群のSB64・65に切られ、③曹司A群のSB42が④曹司B群のSD41に切られることから、③と④の先後関係が一定でないことが言える。③曹司A群は西部、④曹司B群は東部に多いことから、むしろ地形的な要因による部分が多いとも思われる。

また、道路と同じ主軸方位のものもわずかには存在するが、これを基準とする建物が極めて少ないことは特徴的である。9世紀後半になると、それまでの方位とは大きく変化し、20°前後東に傾くものとなる。そして、二重溝と土塁による区画施設が造られる。この方位は、現在の地割の方位とも一致しており、その後はこの方位が踏襲されていくものと考えられる。

#### 6 館の変遷

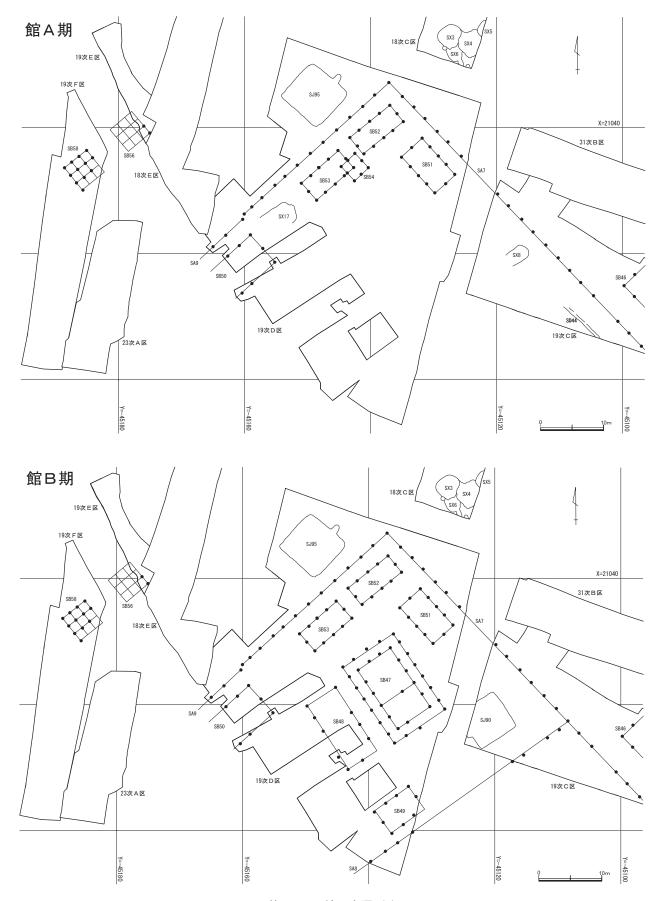
ここで再び館について考えたい。館は個々の建物にほとんど建て替えが認められず、従ってその存続期間は短いものと推定される。塀の内部からの遺物は少なく、直接遺構の時期を推定できるものはほとんどない。しかし一方、塀の外側にはSX3~6やSJ95・SX23等多量の遺物が一括して出土する遺構が存在する。館の廃絶後、その跡地には遺構がほとんど認められな

いことから、これら周辺の遺構から出土した遺物が、そのまま館の存続期間を示すものと推定される。特に S X 3・4 出土土器は、館が存続した可能性のある時期を網羅すると思われ、基準資料となる(註1)。『幡羅遺跡IV』にて分析した結果、その時間幅は7世紀第4四半期~8世紀第1四半期が推定される。

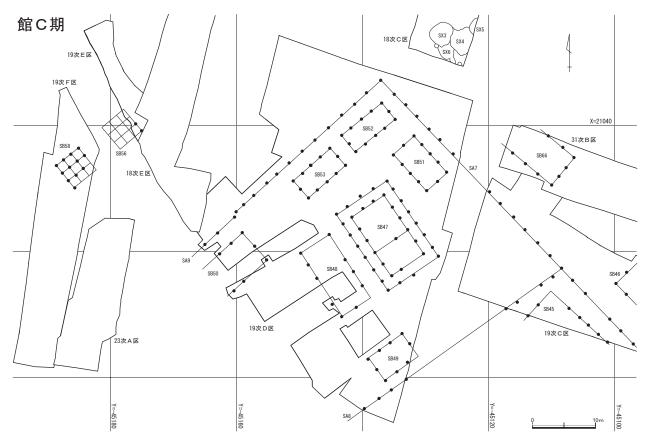
このわずかな時間幅の中で、大きく分けて2種類の主軸方位が認められることは既に述べた。またこのほかに、SB45も塀の内部に造られており施設の一部と思われるが、主軸方位が異なっている。塀の外側に造られるSB66と共に、前章で分類した③曹司A群に属しており、これを含めると館の主軸方位は3種類存在することになる。③曹司A群の主軸方位は、①館A群、②館B群より後出の可能性が高く、A~Cの3段階の変遷を推定することができる。なお、時間幅は短いため、基本的に建物は全時期を通して存続することも可能と考えた。

館A期は、掘立柱塀による大区画で、東西60m以上、南北40m以上の区画が形成される。塀に沿って4×2間を主とするやや小型の掘立柱建物群が建てられる。掘立柱建物の中では、SB50が最も大きいと思われ、桁行は不明であるが、梁行5.84m、桁行7.2m以上と大型建物である。この段階の主屋に当たると考えられる。塀の外側には一辺が8m近い大型竪穴建物のSJ95、やや離れて少なくとも2棟の総柱建物が建てられる。また、塀の内外には土取り穴とみられる特殊土坑も多数認められる。その内のSX17からは、幡羅遺跡では初となる畿内産土師器が出土した。

館B期は、A期に造られた大区画の内部を仕切るSA8が造られる。それによって隔てられた西側区画は東西約40mを測る。SA8を基準線として、間仕切りを有する四面庇建物のSB47、その前面に並ぶSB48、L字に並ぶSB49が建てられる。なお、A期に建てられた建物群については、この段階における存続は確実ではない。また、前述した通り、SB48及びSJ90については、存続期間が他より短かった可能性もある。



第128図 館の変遷(1)



第129図 館の変遷(2)

館C期は、SA8で隔てられた東側区画にSB45、 塀の外側にSB66が建てられる。なお、A期に建てられた建物、及びB期に建てられた建物の一部(SB48)については、この段階まで存続しなかった可能性もある。

#### 7 おわりに

今回は、実務官衙域のうち、館及び曹司の一部について報告した。館についてはA~C期に細分が可能で、床面積139.2㎡にも及ぶ大規模な四面庇建物はB期に建設されている。館の存続時期は、SX3・4の時期と重なり、7世紀第4四半期~8世紀第1四半期と推定される。郡家の中で正倉や道路、恐らく郡庁も整備される7世紀末頃よりやや古い時期に造営され、半世紀弱継続するが、建て替えはほとんど認められず、それ以上施設が維持されることなく廃絶する。また、廃

絶後は跡地がほとんど利用されていないのが特徴的である。建物の規模が大きいこと等を加え、幡羅遺跡における館の特殊性を物語るものかも知れない。今後、他の事例との比較検討が必要であろう。

出土遺物については、館に付属する竪穴建物跡から、カマド神を表現したものと思われる人面線刻土製品(土製支脚)を始めとして、類例の余りみられない形態の土師器蓋、盤に伴う可能性のある大型の須恵器蓋、「×」等の線刻が施された土師器坏等の特徴的な遺物が多く出土したことが特筆される。特に人面線刻土製品は全国的にも例はほとんど無く、遺物の中では幡羅遺跡を代表するものであると言える。また、幡羅遺跡では初めて畿内産土師器が出土した。残念ながら残存部はわずかで時期は特定できないが、伴出した土器や遺構の状況から、館A期(7世紀第4四半期)に当たるものと思われる。

なお、幡羅遺跡については、今後は周辺部の調査を

行なうと共に、遺跡全体の総合的なまとめを行なって いきたい。

発掘調査から報告書の刊行を行なうにあたり、埼玉 県発掘調査評価・指導委員会の須田勉氏、山中敏史氏、 佐藤信氏を始めとする多くの方々より多大なるご教示 を頂いた。感謝申し上げたい。

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力 を頂いた地権者の方々を始め、幡羅遺跡の発掘調査、 整理作業に携わり、文化財を後世に残すことにご尽力 いただいた皆様に敬意を表したい。

#### 註

(1) SX3-147で報告した土師器坏については、畿内産土師器を模倣したものとしたが、南武蔵産の盤状坏であることが明らかとなった。お詫びすると共に訂正したい。また、SX3-148については、相模産の盤状坏と考えられる。

#### 〈参考文献〉

青木克尚 2004 『下郷遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第72集

青木克尚他 2006 『幡羅遺跡 I』 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第75集

知久裕昭 2007 『幡羅遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第88集

知久裕昭 2007 『居立(第2次)/森吉古墳/下郷』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集

知久裕昭 2008 『幡羅遺跡Ⅲ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集

知久裕昭 2009 『幡羅遺跡IV』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第104集

知久裕昭 2009 『幡羅遺跡 V』 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第109集

鳥羽政之他 2001 『熊野遺跡 I』 岡部町遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第9集

鳥羽政之他 2004 『熊野遺跡Ⅲ』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集

鳥羽政之 2008 『深谷市内遺跡 X V』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第94集

富田和夫 2002 『熊野遺跡 (A・C・D区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第172集

山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房

山中敏史他 2003 『古代の官衙遺跡 I 遺構編』 奈良文化財研究所

山中敏史他 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ遺物・遺跡編』奈良文化財研究所

#### 付編 第47号建物跡出土白色物の自然科学分析

竹原弘展・藤根久 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

幡羅遺跡より出土した白色物について自然科学分析を行い、その成分を検討した。

#### 2. 試料と方法

分析試料は、幡羅遺跡の第47号建物跡柱穴抜取穴の覆土に含まれていた1~3mm程度の粒状白色物で(図版1上段左側)、実体顕微鏡下で覆土サンプルより抽出した。

分析は、光学顕微鏡観察、蛍光 X 線分析、 X 線回 折分析の 3 項目を実施した。

蛍光 X線分析には、エネルギー分散型蛍光 X線分析装置である㈱堀場製作所製分析顕微鏡 X G T-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X線管が最大50k V・1 m A O Rh 9 - ゲット、X 線 ビーム径が100  $\mu$  mまたは10  $\mu$  m、検出器は高純度 Si検出器(Xerophy)である。測定条件は、30k V、0.58m A (自動設定による)、ビーム径100  $\mu$  m、測定時間3000sに設定した。定量分析は標準試料を用いない F P (ファンダメンタル・パラメータ)法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値の誤差は大きい。

X線回折分析は、試料をメノウ乳鉢にて粉砕して、分析試料とした。分析装置は、卓上型粉末X線回折装置である理学電機(株)製MiniFlexを使用した。装置の仕様は、X線管が30kV・15mAのCuターゲット、単色化にNiフィルタが装備されている。

#### 3. 結果

光学顕微鏡観察により得られた画像を図版上段右 側に示す。試料は、無色~淡緑色透明の長柱状または 針状結晶、斜消光16°以下で多色性はなかった。

蛍光 X 線分析のスペクトルおよび F P 法による半定量分析結果を図版中段に示す。主にマグネシウム (Mg)、ケイ素(Si)、カルシウム(Ca)、鉄(Fe)が検出された。

X線回折図形を図版下段に示す。図のようなピークが得られた。

#### 4. 考察

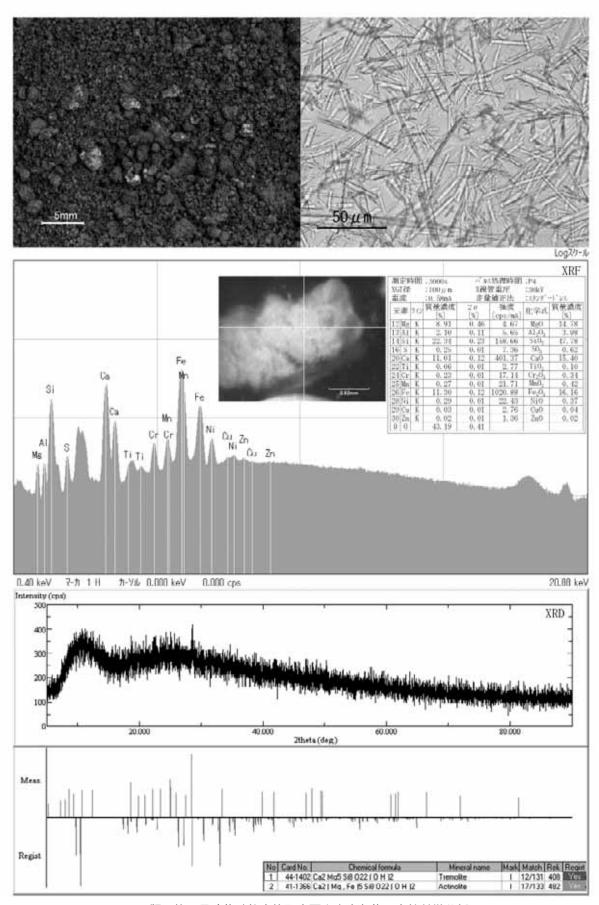
顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析の結果 と併せると、アクチノライトの可能性が高いと考えられる。

アクチノライトは角閃石の一種で、化学式は $Ca_2$  ( $Mg,Fe^{+2}$ ) $_5Si_8O_{22}(OH)_2$ で、鉄が少ないとトレモライト (透閃石、tremolite)、多くなるとフェロアクチノライト (鉄緑閃石、ferro-actinolite) となる。繊維状のアクチノライトやトレモライトは、石綿、いわゆるアスベストの一種である。

鉱物資源百科辞典(牧野,1998)によると、アクチノライト(actinolite)は別名アクチノ閃石、光線石、透緑閃石、陽起石とも呼ばれ、単斜晶系、密度は3.0~3.44、硬度は5~6で、性状は普通長い刃状結晶、まれに短くかつ強固、普通繊維状あるいは薄いカラム状集合体、しばしば放射状、また塊状、繊維状あるいは粒状である。産出は接触および広域的に変質したドロマイト(苦灰石)、マグネシウム石灰岩、および低品位超塩基性岩石中に広く産出するとされており、アクチノライトを含む岩石が風化して出来た土が覆土中に混ざっていたものと考えられる。

#### 引用文献

牧野和孝(1998)鉱物資源百科辞典,145-146,日刊工業新聞社.



図版 第47号建物跡柱穴抜取穴覆土中白色物の自然科学分析

# 写 真 図 版



第19次調查A区



第19次調査B区



第79·80号竪穴建物跡



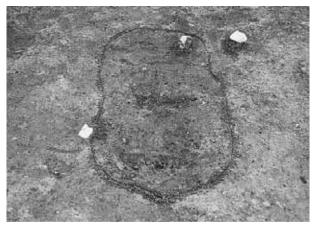
第86号竪穴建物跡、第559号土坑

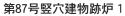


第559号土坑遺物出土状況



第87号竪穴建物跡







第87号竪穴建物跡炉2



第90号竪穴建物跡、第8号特殊土坑



第95号竪穴建物跡遠景



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(1)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑(2)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 遺物出土状況(1)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 土層断面(2)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 土層断面(1)



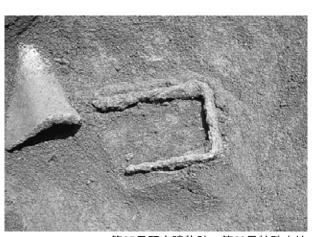
第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 遺物出土状況 (2)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 遺物出土状況(3)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 遺物出土状況(4)



第95号竪穴建物跡・第23号特殊土坑 遺物出土状況(5)



第92号竪穴建物跡



第93·94号竪穴建物跡、 第10·11号特殊土坑



第17号特殊土坑



第19号特殊土坑



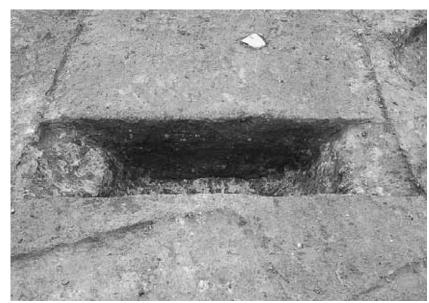
第38号溝(1)



第38号溝 (2)



第38・41号溝



第41号溝



第40号溝(1)



第40号溝 (2)



第40号溝遺物出土状況



第48号溝



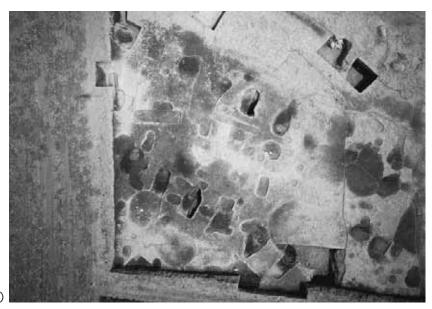
第30・31次調査区



第30次調査区



第31次調査区



第62~65号建物跡(1)



第62~65号建物跡(2)



第72号溝



第62号建物跡



第62号建物跡P1



第62号建物跡 P 5



第62号建物跡 P 11



第62号建物跡 P 12 (1)



第62号建物跡 P 12 (2)



第62号建物跡 P 15



第72号溝土層断面



第13次調査区



第23次調査A区



第23次調査B区



第24次調査区



第25次調査区



第26次調査A区



第26次調査B区



第26次調査D区



第26次調査E区



第26次調査F区(南から)



第26次調査F区(北から)



🌌 第26次調査 G 区



第27次調査A区



第27次調查B区



第19次調査現地説明会



第21図2 (S J79)



第21図3 (S J 79)



第21図8 (S J 79)



第21図16 (S J 79)



第21図21 (S J 79)



第21図23 (S J 79)



第21図24 (S J 79)



第21図26 (S J 79)



第21図30 (S J 79)



第21図31 (SJ79)



第21図33 (S J 79)



第21図36 (SJ79)



第22図39 (S J 79)



第22図43 (S J 79)



第22図44 (S J 79)



第22図45 (S J 79)



第22図57 (S J 79)



第22図59 (SJ79)



第22図60 (S J 79)



第22図60 (S J 79) 墨書



第22図64 (SJ79)



第23図69 (S J 79)



第23図77 (S J 79)



第23図87 (SJ79)



第24図90 (S J 79)



第25図95 (SJ79)



第27図8 (S J 85)



第32図12(SJ87)



第32図13 (S J 87)



第32図17 (S J 87)



第32図18 (S J87)



第32図19 (S J87)



第32図21 (S J87)



第32図23 (S J 87)



第38図3 (SJ90)



第38図15 (S J 90)



第38図16 (S J 90)



第40図7 (SJ92)



第40図9 (S J 93)



第46図5 (SJ95·SX23)



第46図6 (SJ95・SX23)



第46図8 (SJ95·SX23)



第46図9 (SJ95・SX23)



第46図12 (S J 95・S X 23)



第46図13 (S J 95・S X 23)



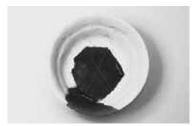
第46図14 (S J 95 · S X 23)



第46図14(SJ95·SX23)内面



第46図15 (S J 95 · S X 23)



第46図15 (S J 95 · S X 23) 内面



第46図16 (S J 95·S X 23)



第46図16 (S J 95・S X 23) 内面



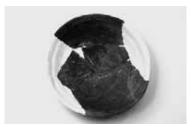
第46図17 (S J 95 · S X 23)



第46図17 (S J 95 · S X 23) 内面



第46図19 (S J 95・S X 23)



第46図19 (S J 95 · S X 23) 内面



第46図20 (S J 95 · S X 23)



第46図22 (S J 95・S X 23)



第46図27 (S J 95・S X 23)



第46図28 (S J 95 · S X 23)



第46図29 (S J 95 · S X 23)



第46図31 (S J 95 · S X 23)



第46図37 (S J 95·S X 23)



第46図39 (S J 95・S X 23)



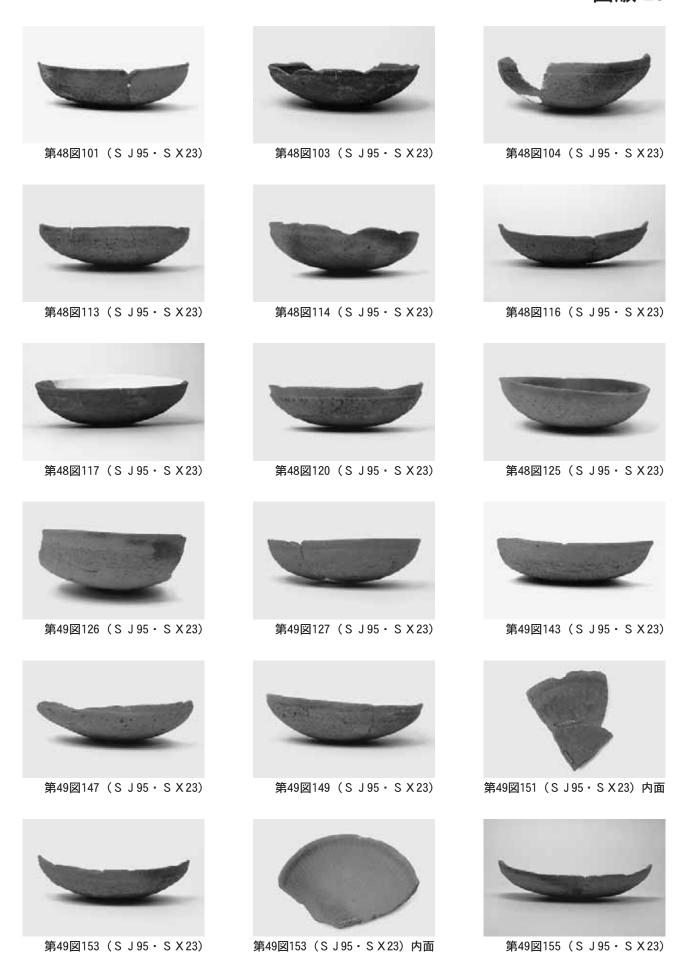
第47図42(SJ95・SX23)

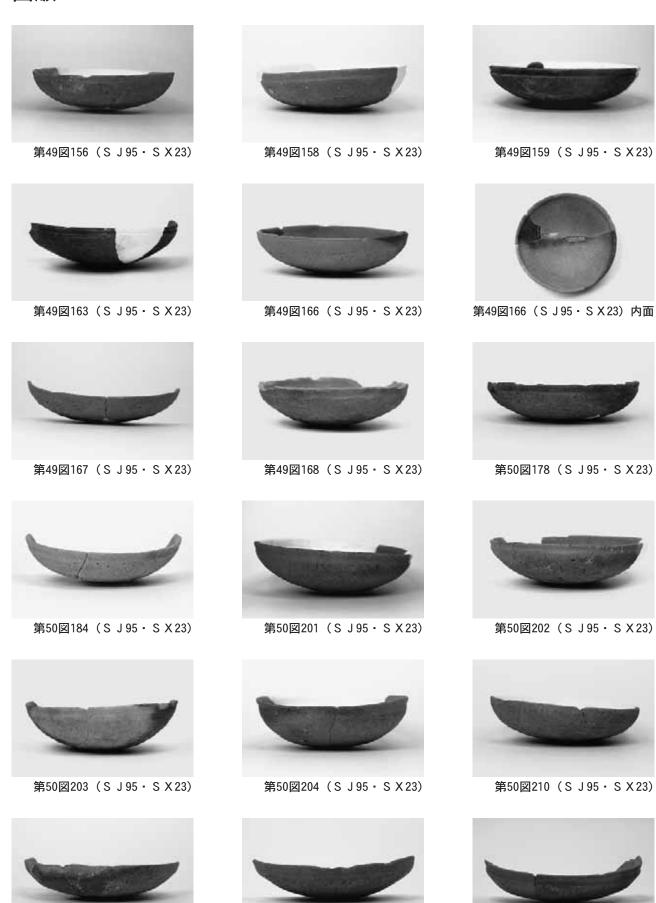


第48図95 (S J 95·S X 23)

第48図97 (S J 95 · S X 23)

第48図91 (S J 95·S X 23)





第51図213 (S J 95 · S X 23)

第51図225 (S J 95 · S X 23)

第50図211 (S J 95 · S X 23)



第51図228 (S J 95 · S X 23)



第51図229 (S J 95 · S X 23)



第51図252 (S J 95·S X 23)



第52図257 (S J 95 · S X 23)



第52図272 (S J 95 · S X 23)



第52図273 (S J 95・S X 23)



第52図274 (S J 95 · S X 23)



第52図275 (S J 95 · S X 23)



第52図282 (S J 95・S X 23)



第52図284 (S J 95 · S X 23)



第53図286 (S J 95·S X 23)



第53図287 (S J 95 · S X 23)



第53図289 (S J 95 · S X 23)



第53図290 (S J 95 · S X 23)



第53図297 (S J 95 · S X 23)



第53図300 (S J 95·S X 23)



第53図301 (S J 95・S X 23)



第53図302 (S J 95・S X 23)



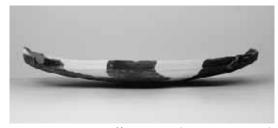
第53図303 (S J 95 · S X 23)



第53図304 (S J 95 · S X 23)



第53図305 (S J 95 · S X 23)



第53図309 (S J 95 · S X 23)



第53図310 (S J 95 · S X 23)



第53図311 (S J 95・S X 23)



第53図312 (S J 95·S X 23)



第54図314 (S J 95 · S X 23)



第54図319 (S J 95·S X 23)



第54図320 (S J 95 · S X 23)



第54図321 (S J 95・S X 23)



第54図322 (S J 95・S X 23)



第54図328 (S J 95 · S X 23)



第54図329 (S J 95 · S X 23)



第54図329 (S J 95・S X 23) 内面



第54図330 (S J 95 · S X 23)



第54図330 (S J 95 · S X 23) 内面



第55図341 (S J 95 · S X 23)



第55図342 (S J 95 · S X 23)



第55図343 (S J 95 · S X 23)



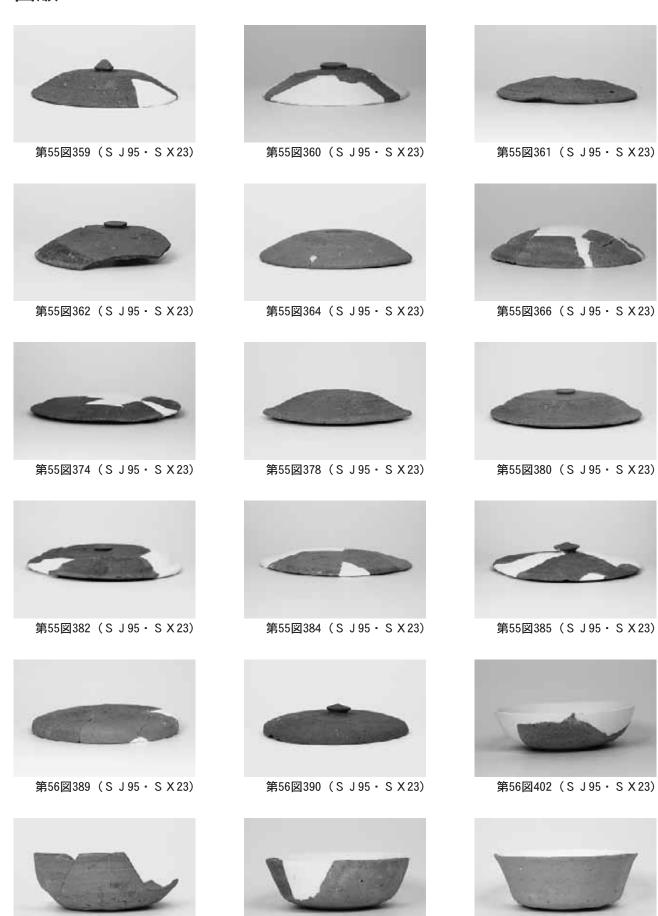
第55図349 (S J 95 · S X 23)



第55図350 (S J 95 · S X 23)



第55図352 (S J 95 · S X 23)



第56図404 (S J 95·S X 23)

第56図403 (S J 95 · S X 23)

第56図405 (S J 95 · S X 23)



第56図406 (S J 95 · S X 23)



第56図413 (S J 95 · S X 23)



第56図414 (S J 95·S X 23)



第56図415 (S J 95·S X 23)



第56図416 (S J 95・S X 23)



第56図417 (S J 95・S X 23)



第57図430 (S J 95 · S X 23)



第57図434 (S J 95 · S X 23)



第57図437 (S J 95 · S X 23)



第60図470 (S J 95 · S X 23)



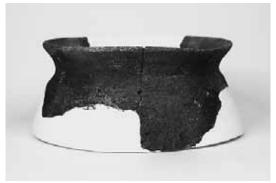
第57図448 (S J 95·S X 23)



第60図471 (S J 95 · S X 23)



第60図472 (S J 95·S X 23)



第60図478 (S J 95 · S X 23)



第60図479 (S J 95 · S X 23)



第62図503 (S J 95・S X 23)



第62図506 (S J 95 · S X 23)



第62図507 (S J 95 · S X 23)



第62図508 (S J 95 · S X 23)



第62図509 (S J 95 · S X 23)



第62図510 (S J 95·S X 23)



第63図513 (S J 95・S X 23)



第65図541 (S J 95·S X 23)



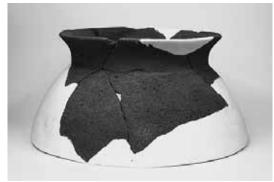
第66図561 (S J 95·S X 23)



第66図563 (S J 95·S X 23)



第63図511 (S J 95・S X 23)



第63図518 (S J 95・S X 23)

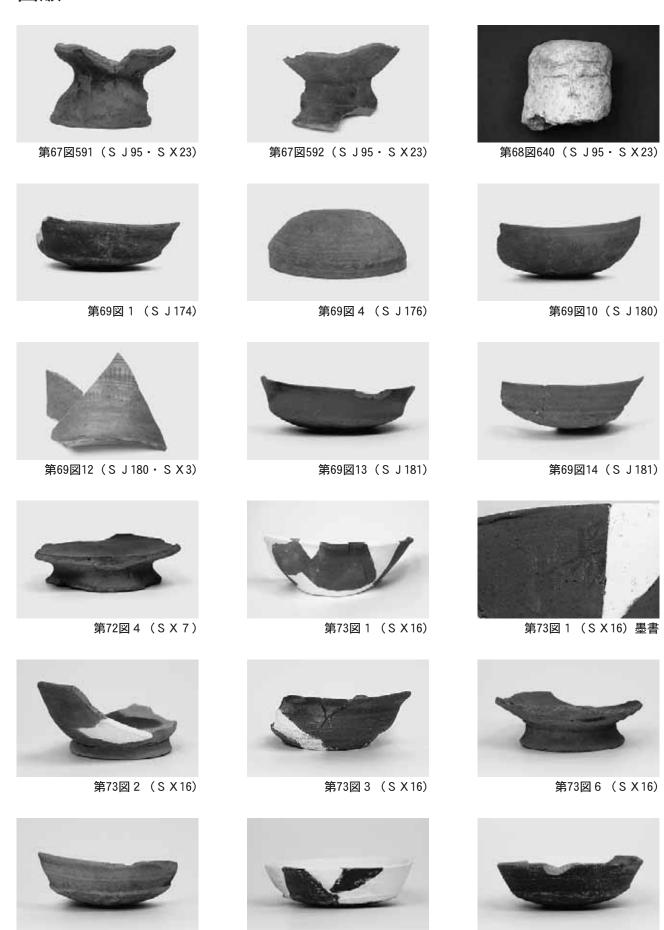


第65図548 (S J 95・S X 23)



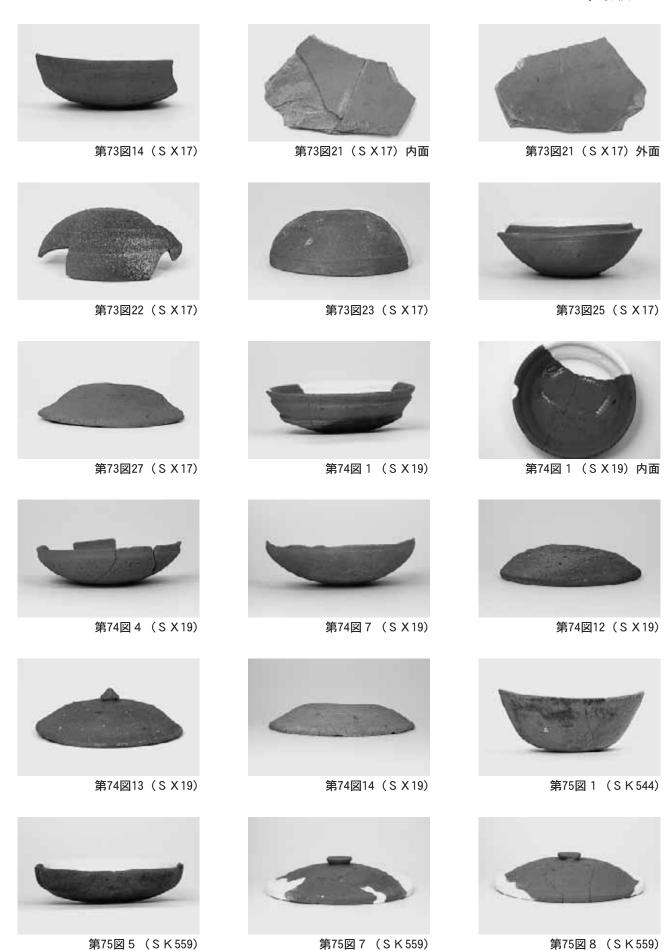
第67図590 (S J 95 · S X 23)

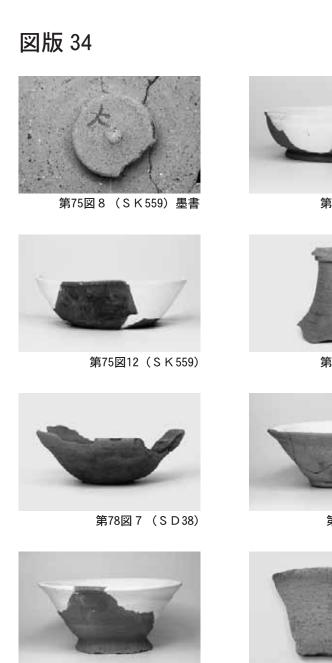
第73図7 (SX17)



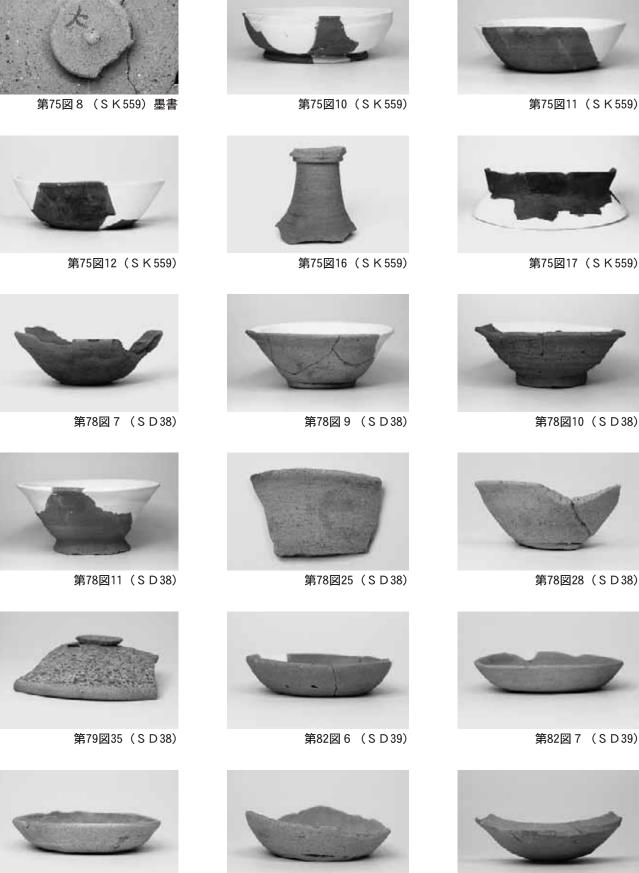
第73図8 (SX17)

第73図9 (SX17)



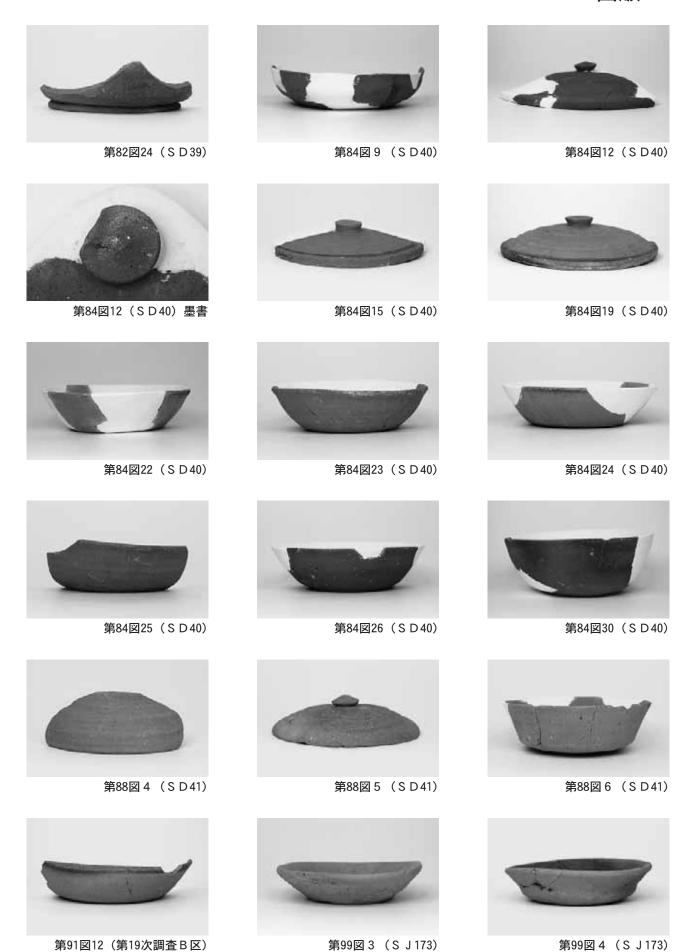


第82図8 (SD39)



第82図10 (SD39)

第82図18 (SD39)





第99図5 (SJ173)



第99図6 (SJ173)



第99図7 (S J 173)



第99図8 (S J 173)



第101図1 (SX31)



第101図4 (SX32)



第101図9 (SK763)



第101図10 (SK764)



第101図12(SK767)



第102図1 (SK769)



第102図3 (SK769)



第104図13 (SD38)



第108図8 (SD72)



第108図9 (SD72)



第108図13 (SD72) 墨書



第108図19(SD72)



第110図8 (第30次調査区)



第110図12 (第30次調査区)



第119図5 (SD59)



第121図10 (S J 140)



第121図14 (S J 144)



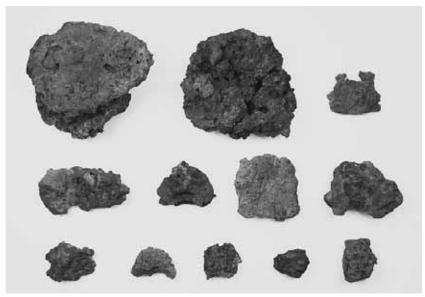
第122図45 (第26次調査G区)



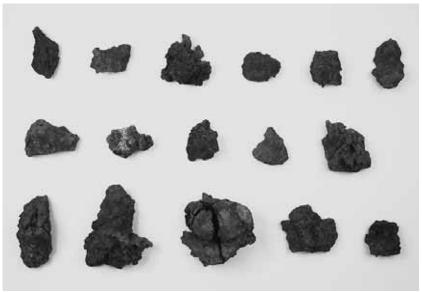
第79号竪穴建物跡出土土錘・鉄滓



第87号竪穴建物跡出土土錘・羽口



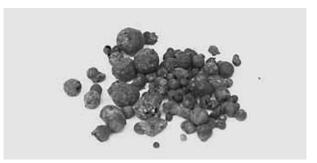
第87号竪穴建物跡出土鉄滓(1)



第87号竪穴建物跡出土鉄滓(2)



第87号竪穴建物跡炉2出土鍛造剥片



第87号竪穴建物跡炉2出土粒状滓



第54図331~340(S J 95·S X 23)



第67図599 ~第68図621 (S J 95・S X 23)



第67図633~639(S J 95·S X 23)



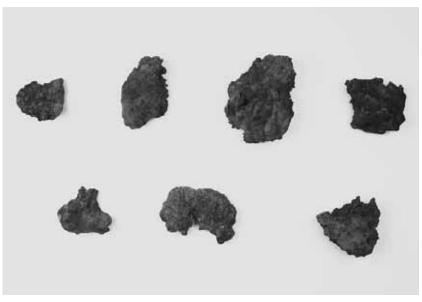
第68図630~632(S J95·S X23)



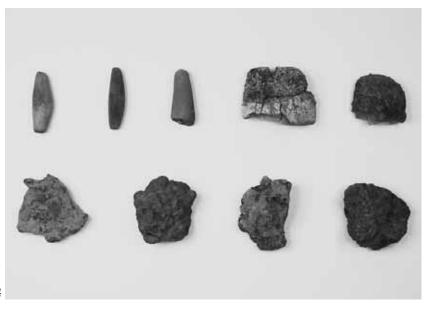
第40号溝出土土錘・鉄滓



第62・64号建物跡出土鉄滓



第38号溝出土鉄滓



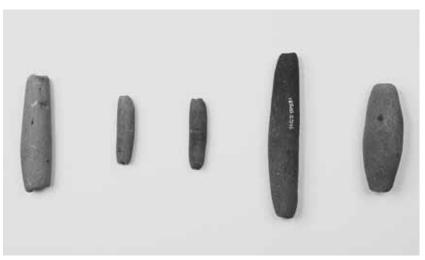
第72号溝出土土錘・羽口・鉄滓



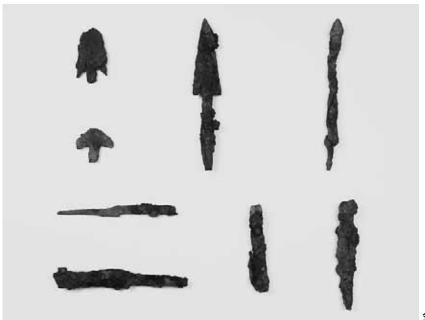
第24次調査区出土石鏃



第25号特殊土坑出土貝



第26次調査区出土土錘



金属製品(1)



金属製品(2)



門金具(第68図623、SJ95・SX23)

## 報告書抄録

ふりがな	はらいせき ろく							
書 名	幡羅遺跡 VI							
副書名	実務官衙域の調査 (3)・実務官衙域周辺の調査							
巻 次								
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第111集							
編著者名	知久裕昭							
編集機関	深谷市教育委員会							
所 在 地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな所収遺跡名	ふ り が な	遺跡番号	北 緯	東 経 (°'")	調査期間	調 査 面 積	調査	
幡 蘿 遺 跡 (13 次)	************************************	271	36 11 21	139 19 54	20050414	50 m <sup>2</sup>		
幡 羅 遺 跡 (19次)	深谷市東方 字迁3031、3034、 3035、3038、3039、 3083	271	36 11 21	139 19 54	20060411 \$ 20060818	4, 000 m²		
幡 羅 遺 跡 (23 次)	深谷市東方 李兰3083	271	36 11 21	139 19 54	20070711 \$ 20070926	280 m²		
幡 羅 遺 跡 (24次)	深谷市東方 学迁3085-4	271	36 11 21	139 19 54	20070709 \$ 20070926	180 m²		
幡 羅 遺 跡 (25次)	深谷市東方 李兰3085-6	271	36 11 21	139 19 54	20070911 \$ 20070926	50 m²	保存目的	
幡 羅 遺 跡 (26 次)	深谷市東方 李辻3108	271	36 11 21	139 19 54	20070717 \$ 20070926	500 m²		
幡 羅 遺 跡 (27 次)	深合市東方 字 <u>计</u> 3079-1, 11218 -2, -3	271	36 11 21	139 19 54	20070807 \$ 20070926	1, 000 m		
幡 羅 遺 跡 (30 次)	深谷市東方 学过3029	271	36 11 21	139 19 54	20080414 \$ 20080528	600 m²		
幡 羅 遺 跡 (31次)	深谷市東方 李兰3034、3035	271	36 11 21	139 19 54	20080423 \$ 20080530	600 m²		
所収遺跡名	種別主な時代	主な		主な遺物	特		項	
幡 羅 遺 跡	官 衙 跡 古墳時代 集 落 跡 奈良時代 平安時代	掘立柱建物 坑 共	跡 47棟 21基 12基	土須土鉄銅師恵製製製器器品品品		れる施設跡を 製品が出土		

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第111集

幡 羅 遺 跡 Ⅵ

印刷 平成22年3月25日

発 行 平成22年3月31日

発 行 埼玉県深谷市教育委員会